

# 芦屋市在住外国人意識調査報告書

平成 21 年 3 月

芦 屋 市

## ご あ い さ つ

近年、社会経済環境の変化とともに、社会の様々な分野で国際化が進み、地域における多文化共生の推進が求められています。芦屋市においても市内に在住する外国人の増加と国籍の多様化により市内在住外国人を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような背景のもと、本市では、国際化の変化に対応し、市内に在住する外国人の生活環境や行政への要望などを把握し、今後の市内在住外国人に関する様々な施策を推進するための基礎資料として、「芦屋市在住外国人意識調査」を実施しました。

現在、本市では市内在住外国人に対し、生活情報提供の一つとして英字広報紙「アシヤニューズレター」の発行や相談事業を行うなど、また、まちの活性化と世界に開かれた地域づくりを目指して、国際交流の様々な施策に取り組んでいます。

今回の調査におきまして、回答いただいた方々のご協力により、日常生活や日本語能力、市役所のサービス、そして本市のイメージなどに多くのご意見をいただき、心より厚くお礼を申し上げます。

この調査結果を参考に、本市の「国際交流」をさらに進め、市内在住外国人と地域住民がともに健全な市民生活ができる「多文化共生」を目指した地域づくりに努めていく考えでございますので、皆様の一層のご理解と、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、この調査実施につきまして、ご多忙の中、調査分析にご指導ご尽力いただきました大阪大学大学院人間科学研究科教授、平沢安政先生に対しまして、心より厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

芦屋市長 山中 健

# 目 次

I. 調査の概要	1
II. 回答者の特性	5
III. 調査結果の要約	29
IV. 調査結果の分析	43
1. 日常生活について	45
1-1. 休日の過ごし方	45
1-2. 日常のつきあいの相手	51
1-3. 日本人とのつきあい程度	55
1-4. 日本で知りたい情報	58
1-5. 日常生活の情報源	61
1-6. 日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会	65
1-7. 日常生活上の不便点や困っていること	68
1-8. 困った時の相談相手	71
1-9. 住宅に関して困っていること・困った経験	75
1-10. 仕事について困っていること・困った経験	78
1-11. 日本人に理解してほしいこと	83
1-12. 緊急時の連絡電話番号（110番・119番）認知度	85
1-13. 救急車の呼び方の認知度	87
1-14. 災害への備え	89
1-15. 芦屋市や地域に望む緊急時の対応	91
2. お子さんについて	94
2-1. 同居家族	94
2-2. 子どもの国籍	97
2-3. 小・中学生の通っている学校	100
2-4. 日本の学校、外国人学校を選んだ理由	101
2-5. 中学校卒業後の進路	103
2-6. 子どもについて不安に思うこと	103
3. 医療・保険について	106
3-1. かかったことのある病院・診療所	106
3-2. 健康診断を受ける場所	109
3-3. 日本の医療サービスに対する満足度	112
3-4. 医療サービスに対する不満点	115
3-5. 保険や年金への加入状況	118

4. 市役所のサービスについて	121
4-1. 市の窓口を利用した時の感想	121
4-2. 市の窓口に対する不満点	124
4-3. わかりやすくした方がよい案内標識	125
4-4. 市の住民サービス活動の参加経験・参加意向	128
4-5. 利用したことがある市の施設	134
4-6. 市の施設を利用するにあたっての要望	138
4-7. 外国語による情報提供の認知度	141
4-8. 外国人が利用できる市のサービスの認知度	149
5. 芦屋市のイメージについて	158
5-1. 芦屋市のイメージ	158
5-2. 芦屋市の住みやすさ評価	161
5-3. 住みやすい点・住みにくい点	166
6. 日本語の能力について	168
6-1. 日本語の能力	168
6-2. 日本語学習の場所・学習したい方法	176
7. 自由意見	179
V. 調査結果の考察	185
附. 調査票	203

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

芦屋市に在住する外国籍の人々の日常生活の実態や意識、及び市への要望等について調査し、芦屋市における国際化施策推進のための基礎資料を得ること。

## 2. 調査内容

- (1) 日常生活について
- (2) お子さんについて
- (3) 医療・保険について
- (4) 市役所のサービスについて
- (5) 芦屋市のイメージについて
- (6) 日本語の能力について

## 3. 調査の設計

- (1) 調査地域 : 芦屋市全域
- (2) 調査対象 : 市内の外国人登録者のうち、世帯主にあたる方
- (3) 標本数 : 1,143人【母集団1,796人(平成20年8月末日現在の登録者数)】
- (4) 調査方法 : 外国人登録者のうち、世帯主に対し郵送により調査票を配布、郵送により回収
- (5) 調査票形式 : 日本語(漢字には全てルビをふったもの)、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語の6か国語で作成。  
1人につき6か国語の調査票を郵送し、返送してもらった。
- (6) 調査時期 : 平成20年9月29日～10月14日
- (7) 調査分析 : 大阪大学大学院人間科学研究科教授、平沢安政
- (8) 調査機関 : 株式会社グリーンエコ

## 4. 回収結果

- (1) 発送数 : 1,143件(内、不着145件)
- (2) 回収数 : 423件(42.4%)
- (3) 集計不能票 : 0件
- (4) 有効回収数 : 423件(42.4%)

### 【有効票の回答言語内訳】

日本語	246件	58.2%
英語	95件	22.5%
中国語	37件	8.7%
韓国・朝鮮語	24件	5.7%
スペイン語	17件	4.0%
ポルトガル語	4件	0.9%

## 5. 報告書の見方

- (1) 集計結果は全て、小数点第二位を四捨五入しており、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計が 100%を超える。
- (3) 回答比率 (%) は、その質問の回答者数を基数 (N=Number of case) として算出した。
- (4) 基数の少ないものは、表やグラフは掲載したが、分析の対象からは極力外した。したがって本文中の次にあげる各々の項目については、特徴点を指摘するにとどまっている。
  - ・ 国籍別……………「その他」
  - ・ 年齢別……………「20歳未満」
  - ・ 職業別……………「公務員」※基数は0である
  - ・ 住まい別……………「学生寮」
  - ・ 同居人別……………「祖父母」「孫」「その他の親族」
  - ・ 調査票回答言語別……………「ポルトガル語」
  - ・ 日常使用言語別……………「インドネシア語」「タイ語」「タガログ語」「ネパール語」
  - ・ 日本語《聴く能力》別…「ほとんど聴き取れない」
  - ・ 日本語《会話能力》別…「ほとんど話せない」
- (5) 本文中の国籍別分析における国籍の呼び方は、調査票「F1 あなたの国籍をご記入ください。」に対する回答をもとに、次のように分類したものである。

### 【50音順】

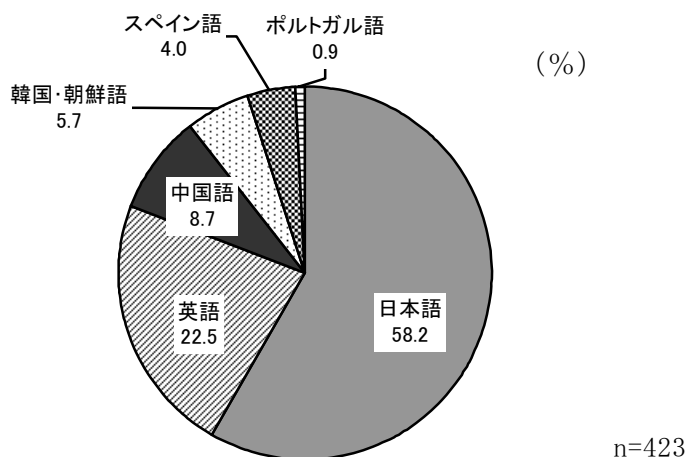
- ・ 韓国・朝鮮……………大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国
- ・ 中国\*……………台湾、中華人民共和国
  - ※中国は、集計上、「中華人民共和国とその周辺地域」と定義し、上記のようにグループ分けした。
- ・ 北米……………アメリカ合衆国、カナダ
- ・ ヨーロッパ……………イギリス、イタリア、オーストリア、オランダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、ドイツ、ノルウェー、フランス、ベルギー、ポルトガル
- ・ オセアニア……………オーストラリア、ニュージーランド
- ・ 東南アジア……………インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ラオス
- ・ 中南米……………アルゼンチン、チリ、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、メキシコ
- ・ 西・南アジア、中近東…イラン、インド、ネパール、パキスタン
- ・ その他……………エジプト、ガーナ、モロッコ、モンゴル

## Ⅱ. 回答者の特性



## 1. 調査票の回答言語

図 1



今回の調査は、「日本語」、「英語」、「中国語」、「韓国・朝鮮語」、「スペイン語」、「ポルトガル語」の6種類の調査票を作成した上で、調査対象者それぞれに全種類の調査票を送付し、いずれか回答可能な言語による調査票に記入を依頼した。

回答言語では、「日本語」が58.2%で最も高く、以下「英語」22.5%、「中国語」8.7%となっている。(図1)

国籍別では、「日本語」による回答は韓国・朝鮮の人が89.6%と高く、以下中国の人が62.6%となっている。「英語」による回答は、北米やヨーロッパなどの人が高く、中南米の人は「スペイン語」が56.3%となっている。(表1)

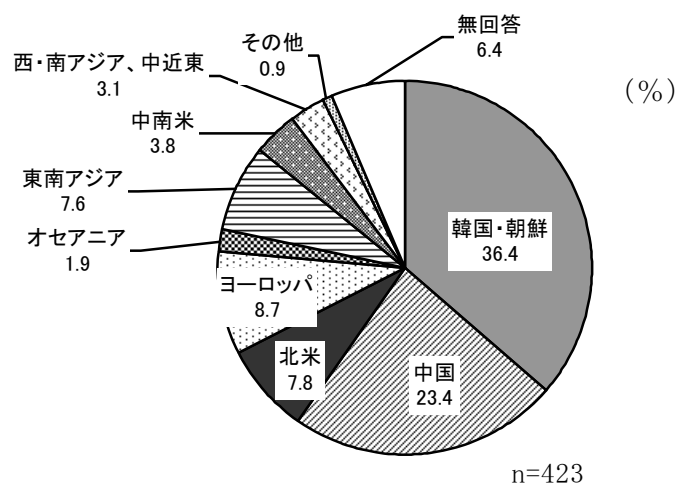
表 1 【国籍別】調査票の回答言語

調査票回答言語 \ 国籍	日本語	英語	中国語	韓国・朝鮮語	スペイン語	ポルトガル語
韓国・朝鮮 (n=154)	89.6	0.6	0.0	9.7	0.0	0.0
中国 (n=99)	62.6	1.0	36.4	0.0	0.0	0.0
北米 (n=33)	18.2	81.8	0.0	0.0	0.0	0.0
ヨーロッパ (n=37)	21.6	73.0	0.0	0.0	5.4	0.0
オセアニア (n=8)	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	34.4	65.6	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米 (n=16)	25.0	6.3	0.0	0.0	56.3	12.5
西・南アジア、中近東 (n=13)	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=4)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 2. 国籍

F1 あなたの<sup>こくせき</sup>国籍をご<sup>まにゆう</sup>記入ください。

図 2



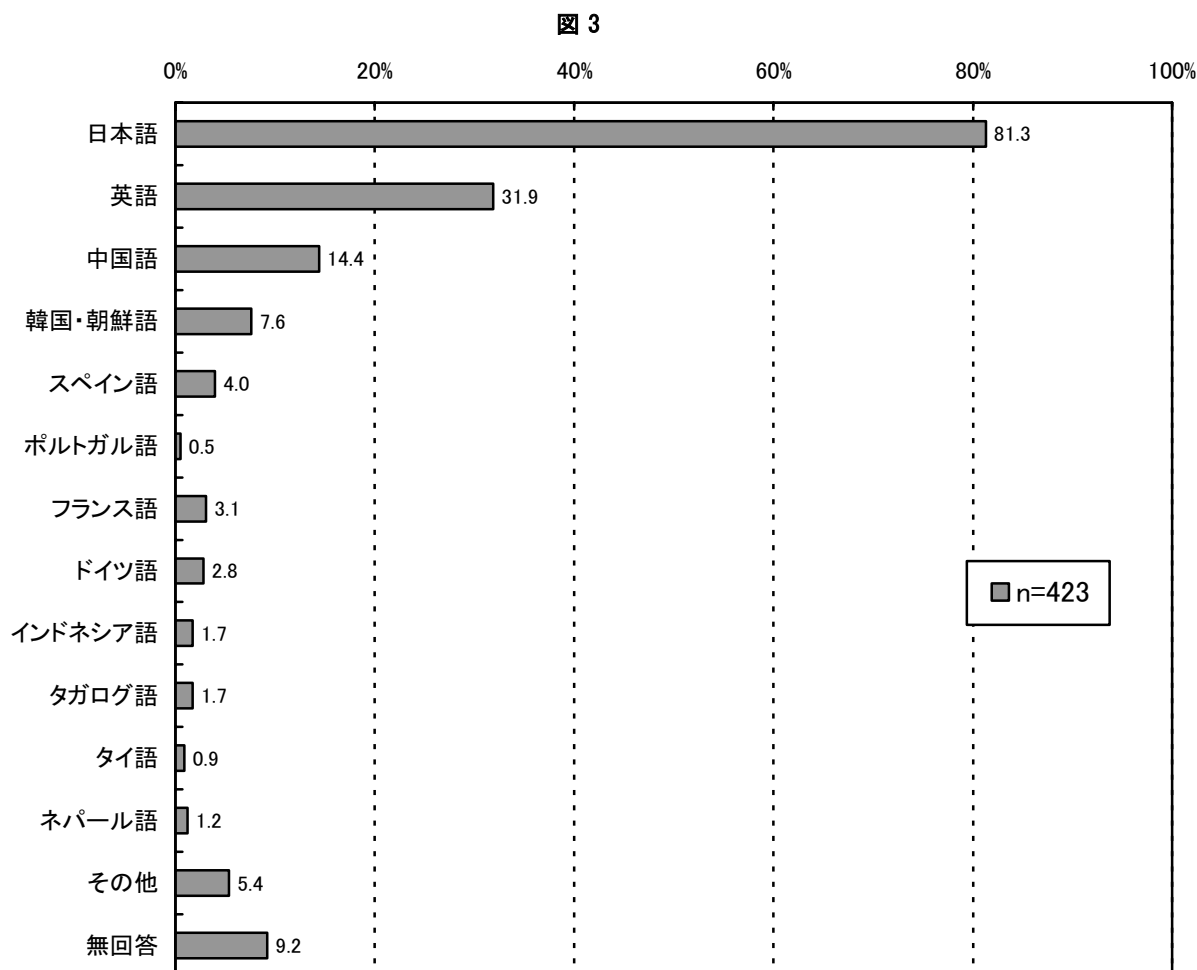
国籍では、「韓国・朝鮮」が 36.4%で最も高く、以下「中国」23.4%、「ヨーロッパ」8.7%となっている。(図 2)

### 【参考】

	今回の調査回答者数	平成 20 年 8 月 末 日 現 在 の 登 録 者 人 口
韓 国 ・ 朝 鮮	154 人 ( 36.4%)	756 人 ( 42.1%)
中 国	99 人 ( 23.4%)	342 人 ( 19.0%)
北 米	33 人 ( 7.8%)	130 人 ( 7.2%)
ヨ ー ロ ッ パ	37 人 ( 8.7%)	141 人 ( 7.9%)
オ セ ア ニ ア	8 人 ( 1.9%)	36 人 ( 2.0%)
東 南 ア ジ ア	32 人 ( 7.6%)	179 人 ( 10.0%)
中 南 米	16 人 ( 3.8%)	102 人 ( 5.7%)
西 ・ 南 ア ジ ア 、 中 近 東	13 人 ( 3.1%)	60 人 ( 3.3%)
そ の 他	4 人 ( 0.9%)	50 人 ( 2.8%)
無 回 答	27 人 ( 6.4%)	— ( — )
合 計	423 人 (100.0%)	1,796 人 (100.0%)

### 3. 日常の主たる使用言語（3つまで）

Q36 あなたは日常的に何語を使用していますか。



日常の主たる使用言語では、「日本語」が 81.3%で最も高く、以下「英語」31.9%、「中国語」14.4%となっている。（図 3）

国籍別では、韓国・朝鮮や中国の人は、日常「日本語」を使用している割合が高く、中国の 57.6%の人は、「中国語」も日常使用言語としてあげている。東南アジアの人は、日本語、英語などの他に「インドネシア語」、「タガログ語」及び「タイ語」も日常使用言語にあげている。北米、ヨーロッパ及びオセアニアの人は、「英語」を日常使用言語としてあげ、また、いずれの言語回答者も、日常「日本語」を使用している割合は非常に高い。（表 2）

表2 【国籍別】日常の主たる使用言語

(%)

国籍 \ 日常使用言語	日本語	英語	中国語	韓国・朝鮮語	スペイン語	ポルトガル語	フランス語
韓国・朝鮮 (n=154)	95.5	5.8	0.0	18.2	0.0	0.0	0.6
中国 (n=99)	84.8	11.1	57.6	3.0	0.0	0.0	0.0
北米 (n=33)	63.6	97.0	6.1	0.0	6.1	0.0	9.1
ヨーロッパ (n=37)	83.8	89.2	0.0	0.0	5.4	0.0	18.9
オセアニア (n=8)	75.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	78.1	65.6	6.3	0.0	3.1	0.0	0.0
中南米 (n=16)	75.0	50.0	0.0	0.0	75.0	12.5	6.3
西・南アジア、中近東 (n=13)	92.3	61.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=4)	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

(%)

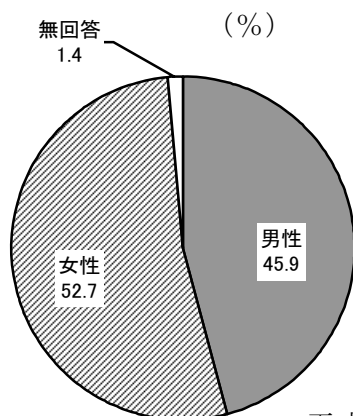
国籍 \ 日常使用言語	ドイツ語	インドネシア語	タガログ語	タイ語	ネパール語	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	3.2
中国 (n=99)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	10.1
北米 (n=33)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
ヨーロッパ (n=37)	32.4	0.0	0.0	0.0	0.0	18.9	0.0
オセアニア (n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	0.0	18.8	18.8	12.5	0.0	9.4	3.1
中南米 (n=16)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	7.7	0.0	0.0	38.5	46.2	0.0
その他 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0

(注) 調査票回答言語と、日常使用言語の間で、同じ言語でもその数が一致していない場合がある。例えばポルトガル語において、調査票回答数は4であるが、日常使用言語の回答数は2である。これは回答者が無回答であったり、他の言語をあげていたりしているためである。

## 4. 性別

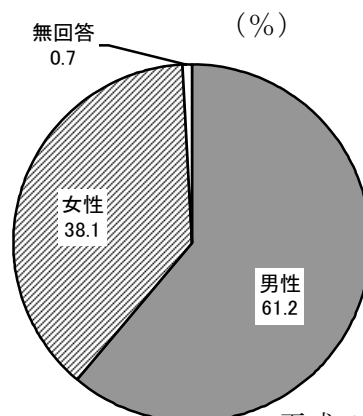
F2 あなたの性別をお聞かせください。

図 4



平成 20 年度調査  
n=423

図 5



平成 4 年度調査  
n=307

回答者の性別では、「男性」45.9%、「女性」52.7%となっている。(図 4)

前回調査(図 5)との比較では、「女性」が前回調査より 14.6 ポイント増加している。

国籍別では、ヨーロッパ、オセアニア及び西・南アジア、中近東の人は「男性」が 7 割を超えている。一方、韓国・朝鮮、中国、東南アジア及び中南米の人は「女性」が半数を超えている。(図 6)

年齢別では、「20 歳未満」及び「60 歳以上」を除いて、いずれの年齢層も「女性」が半数を超えている。(図 7)

図6 【国籍別】性別

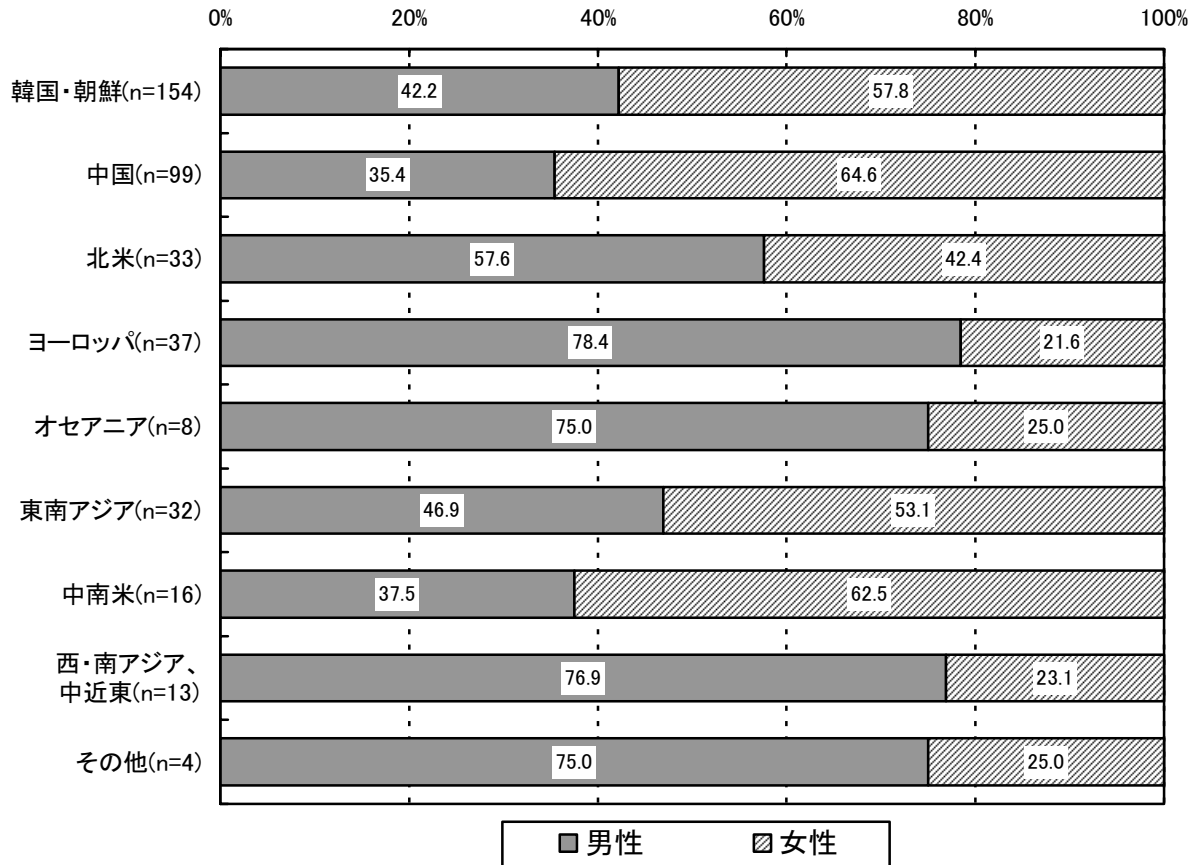
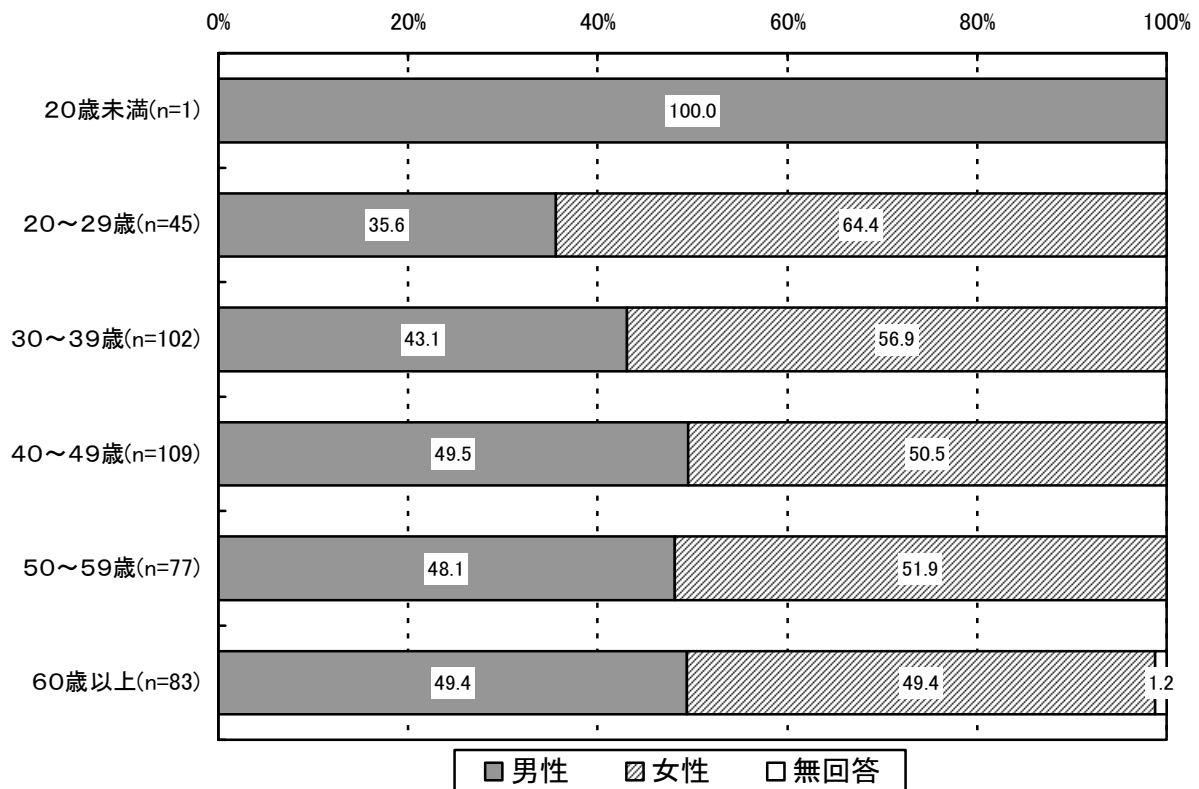


図7 【年齢別】性別



## 5. 年齢

F3 あなたの年齢をお聞かせください。

図 8

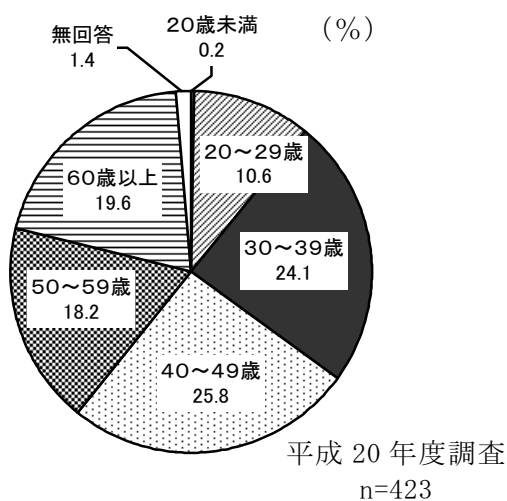
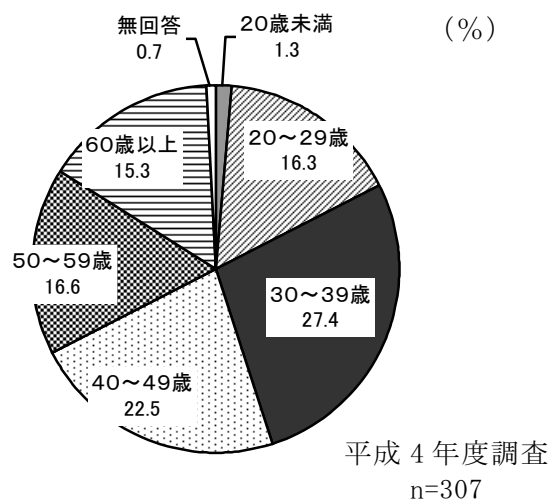


図 9



回答者の年齢では、「40～49歳」が25.8%で最も高く、以下「30～39歳」24.1%、「60歳以上」19.6%となっており、「30歳代～40歳代」で全体の約半数となっている。(図 8)

前回調査(図 9)との比較では、前回調査より「20歳代～30歳代」が減少し、「40歳以上」が増加しており、回答者の年齢が高くなっている。

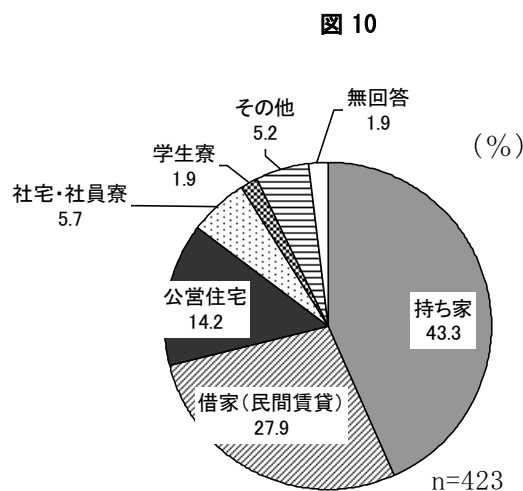
国籍別では、韓国・朝鮮の人は「60歳以上」が29.9%となっている。(表 3)

表 3 【国籍別】年齢

国籍	年齢 (%)						
	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	0.0	3.9	19.5	25.3	20.8	29.9	0.6
中国 (n=99)	0.0	20.2	29.3	23.2	10.1	17.2	0.0
北米 (n=33)	3.0	9.1	21.2	27.3	18.2	21.2	0.0
ヨーロッパ (n=37)	0.0	0.0	24.3	29.7	35.1	10.8	0.0
オセアニア (n=8)	0.0	12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	0.0	28.1	25.0	31.3	6.3	9.4	0.0
中南米 (n=16)	0.0	18.8	12.5	18.8	37.5	12.5	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	0.0	38.5	30.8	23.1	7.7	0.0
その他 (n=4)	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0

## 6. 住まい

### F4 現在お住まいの住宅は、次のどれですか。



回答者の現在の住宅では、「持ち家」が 43.3% で最も高く、以下「借家(民間賃貸)」27.9%、「公営住宅」14.2% となっている。(図 10)

国籍別では、韓国・朝鮮、中国、ヨーロッパ、中南米及び西・南アジア、中近東の人は「持ち家」の割合が高く、北米や東南アジアの人は「借家(民間賃貸)」の割合が高くなっている。(表 4)

通算在住年数別では、在住年数が長くなるほどおおむね「持ち家」の割合は高くなっている。(表 5)

在住予定期間別では、永住すると回答した人は「持ち家」の割合が高くなっている。(表 6)

表 4 【国籍別】住まい

国籍	住まい (%)						
	持ち家	借家(民間賃貸)	公営住宅	社宅・社員寮	学生寮	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	53.9	25.3	14.3	1.9	0.0	3.9	0.6
中国 (n=99)	45.5	25.3	18.2	4.0	3.0	4.0	0.0
北米 (n=33)	42.4	48.5	0.0	6.1	0.0	3.0	0.0
ヨーロッパ (n=37)	37.8	24.3	5.4	10.8	5.4	16.2	0.0
オセアニア (n=8)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	15.6	37.5	15.6	6.3	6.3	12.5	6.3
中南米 (n=16)	31.3	31.3	6.3	25.0	6.3	0.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	53.8	0.0	23.1	23.1	0.0	0.0	0.0
その他 (n=4)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0



表5 【通算在住年数別】住まい

(%)

通算在住年数 \ 住まい	持ち家	借家 (民間賃貸)	公営住宅	社宅・社員寮	学生寮	その他	無回答
1年未満 (n=16)	0.0	37.5	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	16.1	50.0	16.1	8.1	3.2	6.5	0.0
5年以上15年未満 (n=93)	36.6	31.2	20.4	6.5	3.2	2.2	0.0
15年以上30年未満 (n=61)	49.2	16.4	19.7	6.6	1.6	4.9	1.6
30年以上55年未満 (n=114)	60.5	24.6	5.3	5.3	0.0	3.5	0.9
55年以上 (n=72)	55.6	19.4	15.3	0.0	0.0	6.9	2.8

表6 【在住予定期間別】住まい

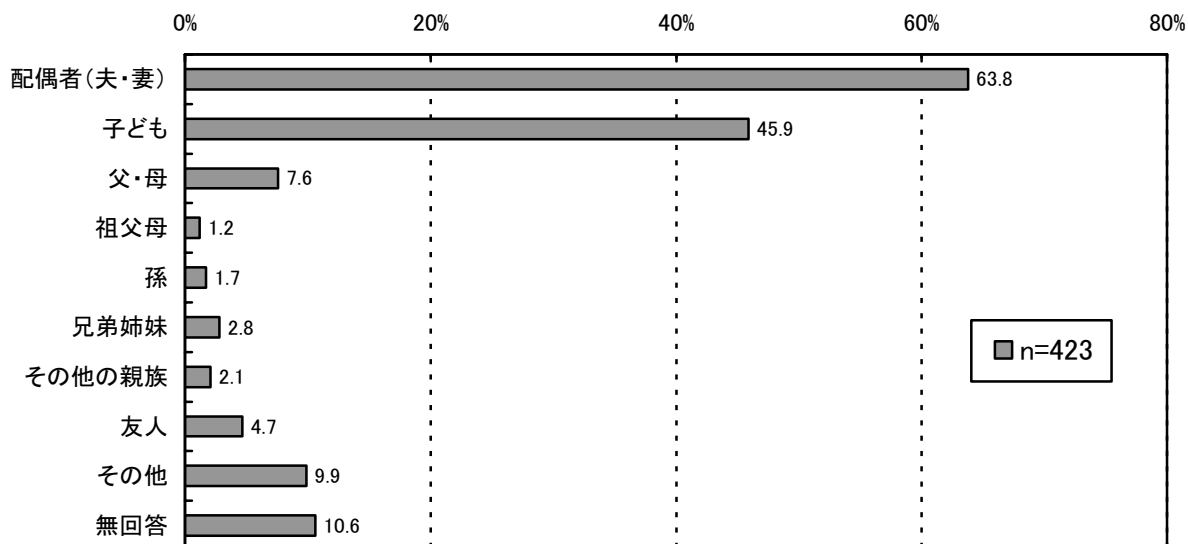
(%)

在住予定期間 \ 住まい	持ち家	借家 (民間賃貸)	公営住宅	社宅・社員寮	学生寮	その他	無回答
1年未満 (n=11)	9.1	27.3	9.1	18.2	18.2	18.2	0.0
1～3年 (n=28)	0.0	53.6	17.9	7.1	3.6	17.9	0.0
3年以上 (n=40)	15.0	42.5	22.5	7.5	7.5	5.0	0.0
永住する (n=259)	55.6	21.2	12.4	5.0	0.8	3.9	1.2
将来は母国に帰りたい (n=18)	33.3	27.8	11.1	16.7	0.0	5.6	5.6
よくわからない (未定である) (n=56)	41.1	37.5	16.1	1.8	0.0	3.6	0.0

## 7. 同居人（複数回答）

F5 げんざい 現在あなたと同居されているのはどなたですか。また、あなたをふく含めた総人数をまじゆうご記入ください。

図 11



回答者の同居人では、「配偶者（夫・妻）」が 63.8%で最も高く、以下「子ども」45.9%、「父・母」7.6%となっている。「その他」として、『1人』などをあげている。（図 11）

国籍別では、「配偶者（夫・妻）」及び「子ども」以外では、韓国・朝鮮の人は「父・母」が 14.9%、中南米や西・南アジア、中近東の人は「友人」がそれぞれ 12.5%、15.4%となっている。

また、北米、ヨーロッパ、オセアニア、東南アジア及び中南米の人は「その他」の割合も高く、東南アジアの人は 28.1%、中南米の人は 31.3%となっている。（表 7）

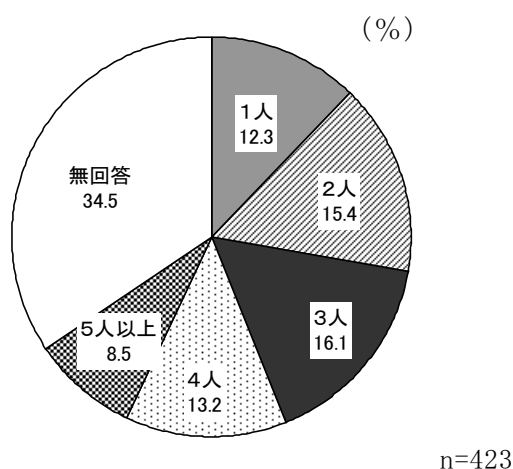
表 7 【国籍別】同居人（複数回答）

(%)

国籍	同居人	配偶者(夫・妻)	子ども	父・母	祖父母	孫	兄弟姉妹	その他の親族	友人	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)		59.1	46.8	14.9	0.0	1.9	5.8	4.5	0.6	4.5	14.9
中国 (n=99)		72.7	46.5	5.1	2.0	2.0	2.0	1.0	8.1	7.1	6.1
北米 (n=33)		72.7	30.3	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	6.1	9.1	9.1
ヨーロッパ (n=37)		70.3	51.4	2.7	0.0	2.7	2.7	2.7	5.4	16.2	2.7
オセアニア (n=8)		75.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5
東南アジア (n=32)		50.0	37.5	0.0	3.1	3.1	0.0	0.0	9.4	28.1	6.3
中南米 (n=16)		50.0	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	31.3	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)		61.5	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7
その他 (n=4)		75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 8. 同居人総人数

図 12



回答者の同居している人数では、「3人」が16.1%で最も高く、以下「2人」15.4%、「4人」13.2%となっている。「2～4人」で全体の44.7%となっている。(図12)

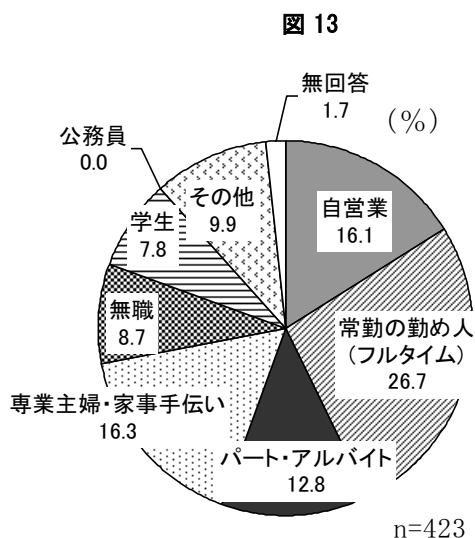
国籍別では、東南アジアの人は「1人」、中国や北米の人は「2人」、西・南アジア、中近東の人は「1人」または「2人」、韓国・朝鮮やヨーロッパの人は「3人」、中南米の人は「4人」または「5人以上」の割合が高くなっている。(表8)

表 8 【国籍別】同居人総人数

国籍	同居人総人数 (%)					
	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	16.2	11.0	18.8	10.4	8.4	35.1
中国 (n=99)	9.1	23.2	15.2	15.2	9.1	28.3
北米 (n=33)	6.1	27.3	9.1	12.1	9.1	36.4
ヨーロッパ (n=37)	8.1	13.5	27.0	16.2	2.7	32.4
オセアニア (n=8)	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0
東南アジア (n=32)	21.9	15.6	18.8	9.4	9.4	25.0
中南米 (n=16)	0.0	0.0	6.3	12.5	12.5	68.8
西・南アジア、中近東 (n=13)	23.1	23.1	15.4	15.4	7.7	15.4
その他 (n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0

## 9. 職業

F6 あなたの職業について教えてください。



回答者の職業では、「常勤の勤め人 (フルタイム)」が 26.7% で最も高く、以下「専業主婦・家事手伝い」16.3%、「自営業」16.1% となっている。「その他」として、『語学講師』、『会社経営者』などをあげている。(図 13)

国籍別では、韓国・朝鮮の人は「自営業」で、北米、ヨーロッパ、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人は「常勤の勤め人 (フルタイム)」で高くなっている。(表 9)

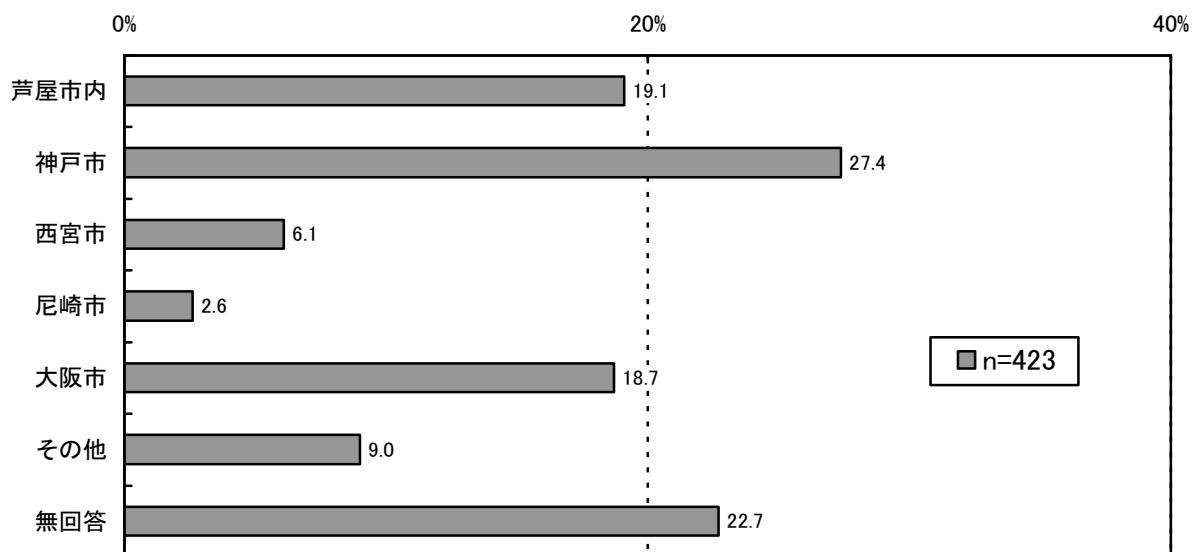
表 9 【国籍別】職業

国籍	職業 (%)								
	自営業	常勤の勤め人 (フルタイム)	パート・アルバイト	専業主婦・家事手伝い	無職	学生	公務員	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	24.0	20.8	9.1	16.9	13.6	4.5	0.0	9.7	1.3
中国 (n=99)	13.1	18.2	12.1	24.2	8.1	16.2	0.0	8.1	0.0
北米 (n=33)	6.1	42.4	21.2	12.1	3.0	3.0	0.0	12.1	0.0
ヨーロッパ (n=37)	13.5	48.6	10.8	0.0	2.7	2.7	0.0	21.6	0.0
オセアニア (n=8)	37.5	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
東南アジア (n=32)	6.3	43.8	12.5	15.6	9.4	12.5	0.0	0.0	0.0
中南米 (n=16)	0.0	25.0	18.8	25.0	0.0	6.3	0.0	25.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	30.8	46.2	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=4)	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

## 10. 通勤・通学先（複数回答）

F7 あなたの通勤・通学先をお教えてください。

図 14



回答者の通勤・通学先では、「神戸市」が 27.4% で最も高く、以下「芦屋市内」19.1%、「大阪市」18.7% となっている（無回答を除く）。（図 14）

国籍別では、韓国・朝鮮の人は「大阪市」や「神戸市」、中国、ヨーロッパ、東南アジア及び中南米の人は「神戸市」、西・南アジア、中近東及びオセアニアの人は「芦屋市内」で高くなっている。また、北米の人は「芦屋市内」と「神戸市」で高くなっている。（表 10）

職業別では、「自営業」の人は「芦屋市内」が 35.3% と最も高く、「常勤の勤め人（フルタイム）」の人は、「神戸市」が 35.4%、「大阪市」が 34.5% とこの 2 市の割合が高くなっている。「学生」の人は、「神戸市」に集中しており、69.7% となっている。（表 11）

表 10 【国籍別】通勤・通学先

(%)

国籍 \ 通勤・通学先	芦屋市内	神戸市	西宮市	尼崎市	大阪市	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	15.6	19.5	4.5	4.5	20.1	9.1	15.6
中国 (n=99)	13.1	39.4	10.1	4.0	11.1	8.1	13.1
北米 (n=33)	30.3	30.3	3.0	0.0	27.3	6.1	30.3
ヨーロッパ (n=37)	13.5	35.1	2.7	0.0	32.4	8.1	13.5
オセアニア (n=8)	50.0	12.5	12.5	0.0	12.5	25.0	50.0
東南アジア (n=32)	18.8	28.1	3.1	0.0	21.9	15.6	18.8
中南米 (n=16)	31.3	43.8	6.3	0.0	6.3	12.5	31.3
西・南アジア、中近東 (n=13)	53.8	7.7	7.7	0.0	23.1	7.7	53.8
その他 (n=4)	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0

表 11 【職業別】通勤・通学先

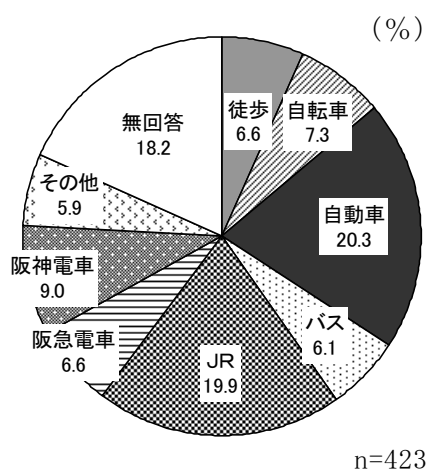
(%)

職業 \ 通勤・通学先	芦屋市内	神戸市	西宮市	尼崎市	大阪市	その他	無回答
自営業 (n=68)	35.3	23.5	11.8	1.5	22.1	11.8	2.9
常勤の勤め人 (フルタイム) (n=113)	15.0	35.4	5.3	4.4	34.5	9.7	0.0
パート・アルバイト (n=54)	35.2	40.7	9.3	5.6	16.7	3.7	0.0
専業主婦・ 家事手伝い (n=69)	13.0	8.7	2.9	0.0	4.3	7.2	66.7
無職 (n=37)	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8	86.5
学生 (n=33)	6.1	69.7	9.1	3.0	6.1	6.1	0.0
公務員 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=42)	21.4	21.4	4.8	2.4	26.2	14.3	21.4

## 11. 交通機関

F8 あなたは通勤・通学先に主<sup>おも</sup>にどの交通機関を使<sup>つか</sup>いますか。

図 15



回答者の交通機関の利用では、「自動車」が 20.3% で最も高く、以下「JR」19.9%、「阪神電車」9.0% となっている。電車やバスの公共交通機関を利用する人は 41.6% となっている。(図 15)

国籍別では、韓国・朝鮮、ヨーロッパ、オセアニア、中南米及び西・南アジア、中近東の人は「自動車」の利用が高く、中国、北米及び東南アジアの人は「JR」の利用が高くなっている。(表 12)

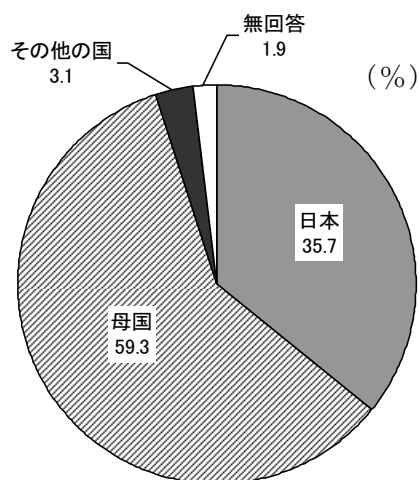
表 12 【国籍別】交通機関

交通機関 \ 国籍	徒歩	自転車	自動車	バス	JR	阪急電車	阪神電車	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	7.1	5.2	26.0	4.5	16.9	5.2	7.1	3.9	24.0
中国 (n=99)	4.0	12.1	9.1	5.1	19.2	7.1	15.2	7.1	21.2
北米 (n=33)	12.1	3.0	21.2	6.1	36.4	6.1	3.0	6.1	6.1
ヨーロッパ (n=37)	8.1	5.4	27.0	2.7	24.3	2.7	10.8	8.1	10.8
オセアニア (n=8)	12.5	0.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0
東南アジア (n=32)	0.0	12.5	6.3	9.4	28.1	12.5	3.1	12.5	15.6
中南米 (n=16)	6.3	6.3	25.0	18.8	18.8	6.3	6.3	0.0	12.5
西・南アジア、中近東 (n=13)	15.4	0.0	53.8	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0
その他 (n=4)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

## 12. 出生地

F9 あなたがお生まれになったのは、次のどれですか。

図 16



n=423

回答者の出生地では、「母国」が 59.3% で最も高く、以下「日本」 35.7%、「その他の国」 3.1% となっている。(図 16)

国籍別では、韓国・朝鮮の人は、「日本」での出生が 79.9% と他の国籍の人より特に高くなっている。(図 17)

年齢別では、年齢層が高くなるほど「日本」での出生の割合が高くなっており、「60 歳以上」の人では半数を超えている。(図 18)



図 17 【国籍別】出生地

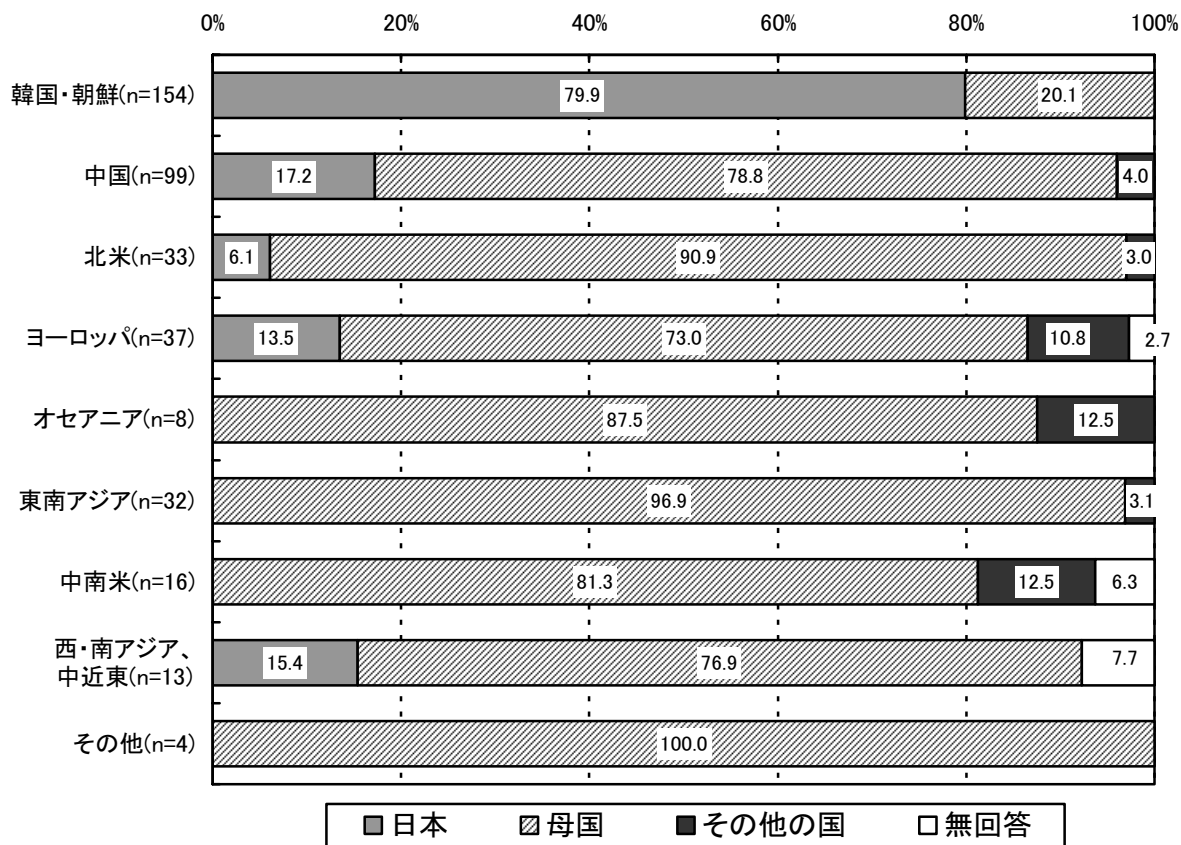
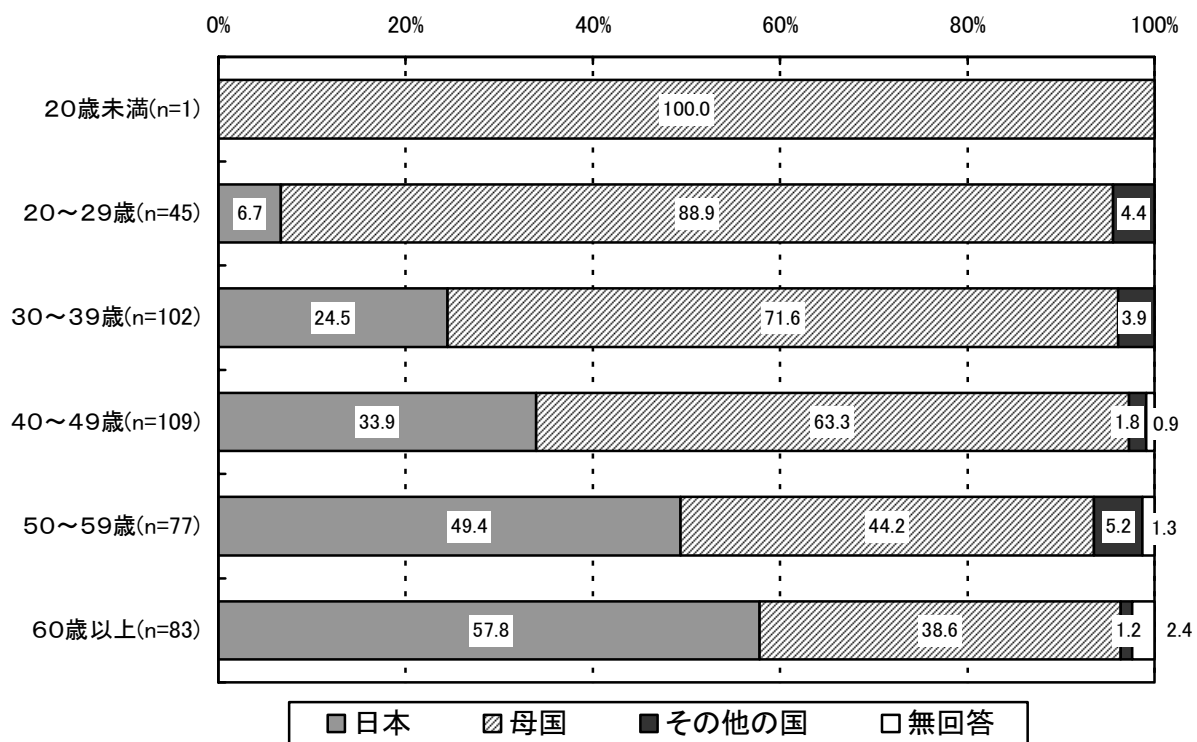


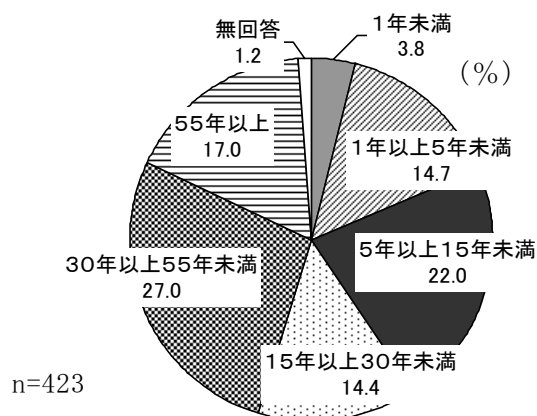
図 18 【年齢別】出生地



### 13. 通算在住年数

F10 あなたは日本に住んで何年になりますか。

図 19



回答者の日本での通算在住年数では、「30年以上55年未満」が27.0%で最も高く、以下「5年以上15年未満」22.0%、「55年以上」17.0%となっている。(図19)

国籍別では、韓国・朝鮮の人は「55年以上」が36.4%となっており、他の国籍の人と比べて特に高くなっている。また、韓国・朝鮮やヨーロッパの人は「30年以上55年未満」、中国、オセアニア及び西・南アジア、中近東の人は「5年以上15年未満」、北米の人は「15年以上30年未満」、中南米の人は「5年以上15年未満」または「15年以上30年未満」、東南アジアの人は「1年以上5年未満」が最も高くなっている。(表13)

表 13 【国籍別】通算在住年数

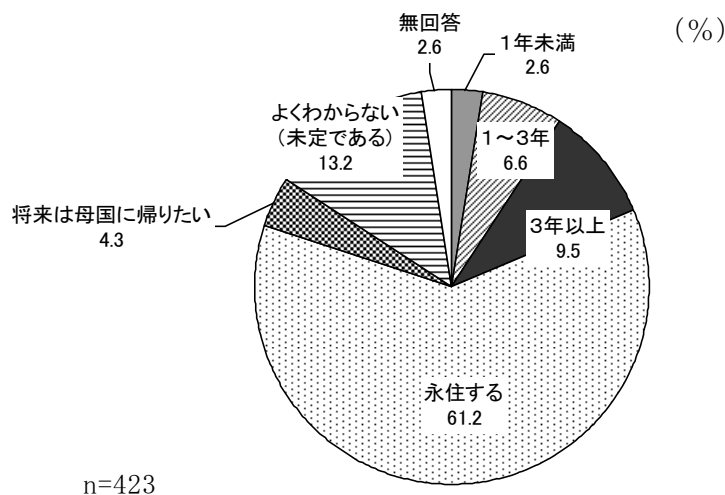
(%)

国籍	1年未満	1年以上5年未満	5年以上15年未満	15年以上30年未満	30年以上55年未満	55年以上	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	1.3	4.5	8.4	4.5	44.8	36.4	0.0
中国 (n=99)	5.1	19.2	32.3	15.2	15.2	12.1	1.0
北米 (n=33)	3.0	27.3	18.2	30.3	21.2	0.0	0.0
ヨーロッパ (n=37)	8.1	10.8	29.7	18.9	32.4	0.0	0.0
オセアニア (n=8)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	12.5	31.3	28.1	18.8	9.4	0.0	0.0
中南米 (n=16)	0.0	12.5	37.5	37.5	6.3	6.3	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	7.7	46.2	7.7	38.5	0.0	0.0
その他 (n=4)	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0

## 14. 日本在住予定

F11 今後、日本にどのくらいお住まいになる予定ですか。

図 20



回答者の今後の日本での在住予定では、「永住する」が 61.2%で最も高く、以下「よくわからない (未定である)」13.2%、「3年以上」9.5%となっている。「永住する」と「3年以上」をあわせた 70.7%の人に長期の在任意向のあることがわかる。(図 20)

国籍別では、「永住する」は韓国・朝鮮の人で 85.1%と高く、中国、中南米、西・南アジア及び中近東の人でも過半数が「永住する」と回答している。一方、北米や東南アジアの人で「永住する」と回答した人はそれぞれ 33.3%、31.3%となっており、他の国籍の人と比べて低くなっている。(表 14)

表 14 【国籍別】日本在住予定

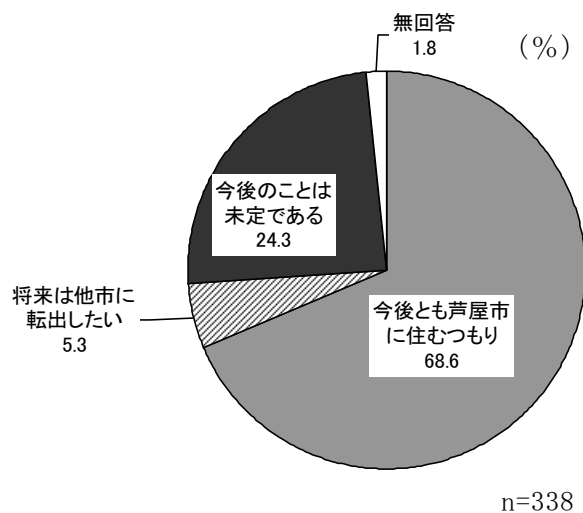
(%)

日本在住予定 国籍	1 年 未 満	1 ～ 3 年	3 年 以 上	永 住 す る	将 来 は 母 国 に 帰 り た い	よ く わ か ら な い (未 定 で あ る)	無 回 答
韓国・朝鮮 (n=154)	1.3	1.9	2.6	85.1	1.3	4.5	3.2
中国 (n=99)	4.0	4.0	16.2	57.6	3.0	13.1	2.0
北米 (n=33)	0.0	12.1	15.2	33.3	9.1	30.3	0.0
ヨーロッパ (n=37)	2.7	10.8	16.2	45.9	2.7	21.6	0.0
オセアニア (n=8)	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0	0.0
東南アジア (n=32)	6.3	21.9	15.6	31.3	9.4	15.6	0.0
中南米 (n=16)	6.3	0.0	6.3	62.5	6.3	18.8	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	0.0	0.0	53.8	23.1	23.1	0.0
その他 (n=4)	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0

## 15. 芦屋市在住予定

F12 今後、芦屋市にどのくらいお住まいになる予定ですか。

図 21



回答者の今後の芦屋市での在住予定では、「今後とも芦屋市に住むつもり」が 68.6%で最も高く、以下「今後のことは未定である」24.3%、「将来は他市に転出したい」5.3%となっている。(図 21)

年齢別では、年齢層が高くなるほど「今後とも芦屋市に住むつもり」の割合が高くなっており、「60歳以上」では 84.1%となっている。一方、年齢層が低くなるほど「今後のことは未定である」の割合が高くなっている。(表 15)

表 15 【年齢別】芦屋市在住予定

年齢	芦屋市在住予定 (%)			
	今後とも芦屋市に住むつもり	将来は他市に転出したい	今後のことは未定である	無回答
20歳未満 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=39)	43.6	7.7	46.2	2.6
30～39歳 (n=78)	59.0	7.7	30.8	2.6
40～49歳 (n=84)	65.5	6.0	27.4	1.2
50～59歳 (n=65)	81.5	1.5	15.4	1.5
60歳以上 (n=69)	84.1	4.3	10.1	1.4

### Ⅲ. 調査結果の要約

## 1. 日常生活について

### 1-1. 休日の過ごし方 (Q1)

休日の過ごし方では、「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」(53.4%)、以下「家事などをして過ごす」(47.0%)、「レストランに行ったりショッピングしたりする」(47.0%)、「家族と話したりして過ごす」(44.9%)となっている。

「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」、「ピクニックに出かけたり、観光したりする」、「ジョギングなどの軽いスポーツ活動」及び「友人などと会う」などは前回調査より減少し、「家事などをして過ごす」や「家族と話したりして過ごす」などは増加している。

いずれの国籍の人も「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」や「家族と話したりして過ごす」が上位にあがっている。また、前回と同様に、韓国・朝鮮、中国や中南米の人に比べ、北米、ヨーロッパ、東南アジアや西・南アジア、中近東の人の方が多くの項目をあげている。

### 1-2. 日常のつきあいの相手 (Q2)

日常のつきあいの相手は、「日本人とのつきあいが多し」(56.5%)は前回調査より 5.0 ポイント増加し、日本人とのつきあいが最も多しのは、韓国・朝鮮の人(77.9%)となっている。

また、中国、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人は、同じ国籍どうしのつきあいが多く、北米、ヨーロッパ及び中南米の人は、外国人とのつきあいが多し。

「日本人とのつきあいが多し」は「自営業」の人で 79.4%と最も高し。

### 1-3. 日本人とのつきあい程度 (Q3)

日本人とのつきあいの程度は、「あいさつをする程度」(65.2%)が最も高し、「まったくつきあがない」は 9.0%にすぎない。また、「あいさつをする程度」や「立ち話をする程度」といったあまり深くないつきあいは前回調査より多くなっているが、「お茶や食事に招いたり、招かれたりする」や「困ったことがあったとき相談にのってもらえる」などの親密なつきあいは減っている。

また、ほとんどの国籍の人のつきあい方として「あいさつをする程度」が半数を超えているが、中南米や東南アジアの人は、「まったくつきあがない」が 2 割前後ある。

### 1-4. 日本で知りたい情報 (Q4)

日常の生活の中で、日本で知りたいと考えている情報は、「日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること」(29.6%)、「文化・芸術活動に関すること」(28.1%)、「市の施設の利用に関すること」(25.5%)で、「特になし」は 21.0%となっている。

また、「新しい仕事につくなど就職に関すること」や「水害や火事など防災に関すること」などは前回調査より知りたい情報として多くなっている。

北米やヨーロッパの人は「文化・芸術活動に関すること」や「地域の歴史や自然に関すること」、東南アジアの人は「新しい仕事につくなど就職に関すること」、中南米の人は「サークルやボランティア活動に関すること」や「外国人どうしの交流に関すること」を知りたい

と考えており、韓国・朝鮮や中国の人の知りたい情報は「福祉の施設や病院、診療所について」で、知りたい情報のニーズは違う。

また、在住年数が短い人ほど「日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること」などの情報をあげ、在住年数が長い人ほど「福祉の施設や病院、診療所について」や「市の施設の利用に関すること」などの情報があがっている。

### 1-5. 日常生活の情報源 (Q5)

日常生活の情報源の入手方法は、「日本人の友人・知人」(57.0%)、「日本語のテレビやラジオ」(57.0%)、「インターネット」(54.4%)、「日本語の新聞、雑誌、書籍」(50.1%)となっている。

韓国・朝鮮や中国の人は「日本語のテレビやラジオ」や「日本語の新聞、雑誌、書籍」が主たる情報源であるのに対し、北米やヨーロッパの人は「日本人の友人・知人」や「インターネット」となっているが、「日本語のテレビやラジオ」による情報の入手は少ない。

### 1-6. 日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会 (Q6)

日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会は、「旅行」(37.4%)、「日本の文化・習慣(お茶や礼儀作法など)・伝統を学ぶ」(27.7%)、「日本語の学習」(27.0%)となっている。

いずれの国籍の人も「旅行」は参加希望が強く、また、東南アジア、中南米や西・南アジア、中近東の人は「日本語の学習」に強い参加希望がある。また、北米、ヨーロッパ、中南米及び東南アジアの人は「文化・芸術活動」の参加希望も強い。

### 1-7. 日常生活上の不便点や困っていること (Q7)

日常の暮らしの中で不便を感じていることや困っていることとして、「物価や生活費のこと」(30.3%)、「仕事のこと」(12.3%)、「病院・診療所などのこと」(11.6%)となっている。「特にない」は36.4%となっている。

「住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)」や「住宅のこと」などは前回調査より大きく減っているが、「ごみの収集など身近な生活のこと」は比較的増えている。

いずれの国籍の人も「物価や生活費のこと」が第1位にあがっているが、韓国・朝鮮、中国や中南米の人は「仕事のこと」、北米やヨーロッパの人は「住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)」、東南アジアの人は「風習や習慣の違い」などを日常の不便や困っていることとしてあげている。

在住年数が短い人ほど「ごみの収集など身近な生活のこと」や「病院・診療所などのこと」などの生活に身近なことをあげている人が多く、在住年数が長い人は、「住宅のこと」や「仕事のこと」などの住環境面や仕事のことをあげている人が多い。

### 1-8. 困った時の相談相手 (Q8)

困った時の相談相手は、「日本に住んでいる家族、親戚」(60.5%)で半数を超え、以下「日本人の友人・知人」(57.4%)、「職場や学校の仲間、先生」(22.9%)となっている。

男女とも、6割の人が「日本に住んでいる家族、親戚」及び「日本人の友人・知人」を主な相談相手としている。また、男性は「職場や学校の仲間、先生」、女性は「母国に住んでいる家族、親戚」が多くなっており、男性と女性の相談相手に差がみられる。



### 1-9. 住宅に関して困っていること・困った経験 (Q9)

住宅に関することで困っていること、困った経験として、「家賃が高い」(25.8%)、「外国人であることを理由に入居を断られた」(11.6%)、「保証人がみつからない」(10.2%)となっている。また、「特に困ったことはなかった」は61.2%もある。

「借家(民間賃貸)」や「公営住宅」に住んでいる4割前後の人は、「家賃が高い」と困っている。また、「借家(民間賃貸)」に住んでいる人では、「外国人であることを理由に入居を断られた」や「保証人がみつからない」といった困った経験を持っており、日本での外国人の住宅事情がうかがえる。

### 1-10. 仕事について困っていること・困った経験 (Q10)

仕事について困っていること、困った経験として、「外国人であることを理由に採用を断られた」(15.4%)、「待遇面で日本人と違いがある」(10.2%)、「自分の能力や技術を発揮できる職がない」(10.2%)となっている。また、「特に困ったことはなかった」は59.8%もある。

韓国・朝鮮や西・南アジア、中近東の人は「外国人であることを理由に採用を断られた」、中国や東南アジアの人は「外国人であることを理由に採用を断られた」や「自分の能力や技術を発揮できる職がない」など、北米や中南米の人は「自分の能力や技術を発揮できる職がない」の割合が高い。

年齢層が低いほど「職場での情報が日本語でよくわからない」、「仕事の探し方がわからない」及び「外国人であることを理由に採用を断られた」などの困っていることや経験をあげている。

### 1-11. 日本人に理解してほしいこと (Q11)

母国や外国人のことで、日本人に理解してほしいこととして、最も多いのは、「外国人が日本で生活することの困難さ」(35.7%)、以下「自分の母国の文化や習慣」(35.2%)、「日本人への対応と外国人への対応の違いが大きいこと」(27.7%)となっている。また、中国、東南アジア及び中南米の人は「自分の母国の文化や習慣」をあげる人も多い。

「母国生まれの人」は「日本生まれの人」より日本人に理解してほしい要望が多い。

### 1-12. 緊急時の連絡電話番号 (Q12)

警察署や消防署の緊急時の連絡電話番号を「知っている」人はともに約9割を占めている。警察署や消防署の連絡電話番号の認知度は前回調査より高い。また、韓国・朝鮮、中国及び西・南アジア、中近東の人は他の国籍の人と比べて認知度は高い。

### 1-13. 救急車の呼び方の認知度 (Q13)

救急車の呼び方を「知っている」人は84.6%で、警察署や消防署の連絡電話番号の認知度より低く、警察署、消防署の連絡先を知っているが、救急車の呼び方を知らない人がいる。救急車の呼び方の認知度は前回調査より高い。また、警察署や消防署の連絡電話番号と同様、韓国・朝鮮、中国及び西・南アジア、中近東の人の認知度は高い。

## 1-14. 災害への備え (Q14)

災害への備えで最も多いのは、「消火器や懐中電灯を備えている」(54.1%)で、以下「非常用食料・飲料水を備えている」(23.4%)、「避難場所や家族や友人とおちあう場所を決めている」(17.3%)となっている。災害への備えは前回調査より増加している。

「消火器や懐中電灯を備えている」のは、韓国・朝鮮、中国、北米、ヨーロッパ及び西・南アジア、中近東の人に多く、また、「まったく準備はしていない」のは、東南アジアや中南米の人に多い。

## 1-15. 芦屋市や地域に望む緊急時の対応 (Q15)

芦屋市や地域に望む緊急時の対応では、「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」が最も高く 43.3%を占めている。以下「緊急時に日本語以外での放送や誘導を行う」(29.3%)、「助け合いができるように地域の人との交流機会を増やす」(28.6%)となっている。「特に希望するものはない」は 24.3%となっている。

いずれの国籍の人も「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」をあげている人が最も多いが、ヨーロッパの人は、「日本語以外の言語による防災パンフレットを配布する」、東南アジアや中南米の人は「ふだんから日本語以外の言語による情報提供や相談に応じられるような体制をつくる」を比較的多くあげている。

在住年数が短い人ほど「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」、「日本語以外の言語による防災パンフレットを配布する」、「ふだんから日本語以外の言語による情報提供や相談に応じられるような体制をつくる」及び「緊急時に日本語以外での放送や誘導を行う」の割合は高い。

## 2. お子さんについて

### 2-1. 同居家族 (Q16)

現在、「小・中学生(6～15歳)」がいる世帯は 22.9%で最も高く、以下「65歳以上のお年寄り」(15.4%)、「幼児・小学校前の子ども(1～5歳)」(13.9%)となっている。「乳児(1歳未満)」や「65歳以上のお年寄り」のいる世帯は前回調査よりそれぞれ増えており、「幼児・小学校前の子ども(1～5歳)」や「小・中学生(6～15歳)」の世帯はそれぞれ減っている。

中国や中南米の人を除くいずれの国籍でも「小・中学生(6～15歳)」のいる世帯が多く、中国や中南米の世帯では「幼児・小学校前の子ども(1～5歳)」のいる世帯が多い。

在住年数が「15年以上30年未満」の世帯は「小・中学生(6～15歳)」のいる世帯が多い。また、在住年数が「30年以上」の世帯は「65歳以上のお年寄り」のいる世帯が多くなっている。

### 2-2. 子どもの国籍 (Q17)

子どもの国籍では、「日本国籍」(58.2%)、「自分と同じ国籍」(54.1%)となっている。

韓国・朝鮮、中国、ヨーロッパ及び東南アジアの人は、「日本国籍」を持つ子どもの割合が高く、一方、北米や中南米の人は、「自分と同じ国籍」を持つ子どもの割合が高い。また、在住年数が「5年未満」の人の子どもでは、「自分と同じ国籍」を持つ子どもの割合は高く、一方、在住年数が「5年以上」の人の子どもでは、「日本国籍」を持つ子どもの割合は高い。

### 2-3. 小・中学生の通っている学校 (Q18)

小・中学生のいる世帯で、その子どもが通う学校について回答してもらったところ、「全員、日本の学校（国公立）」（55.7%）、「全員、外国人学校」（23.7%）、「全員、日本の学校（私立）」（6.2%）となっている。

### 2-4. 日本の学校、外国人学校を選んだ理由 (Q18-1、Q18-2)

日本の学校を選んだ理由として、「日本語や日本の習慣を覚えさせるため」が53.8%で最も高く、以下「通学に便利」（35.4%）、「日本人の友人ができる」（33.8%）となっている。

「日本語や日本の習慣を覚えさせるため」、「日本人の友人ができる」や「外国人学校を希望したが入れなかった」の割合は、前回調査より増加し、「通学に便利」や「本人（子ども）の希望」の割合は減少している。

外国人学校を選んだ理由としては、「母（国）語や母国の習慣を覚えさせる（忘れない）ため」と「その他（『日本の教育が気に入らない』や『将来外国に住む予定』）」はともに39.3%で最も多く、以下「本人（子ども）の希望」（35.7%）となっている。

「本人（子ども）の希望」や「日本人以外の友人ができる」は前回調査より増加し、「母（国）語や母国の習慣を覚えさせる（忘れない）ため」は前回調査より21.3ポイント減少している。

### 2-5. 中学校卒業後の進路 (Q19)

子どもの中学卒業後の進路では、「日本の学校の高校に進学する」（39.7%）が最も高く、「外国人学校の高校に進学する」は12.3%で、「まだ分からない」は22.6%となっている。

### 2-6. 子どもについて不安に思うこと (Q20)

子どもについて不安に思うこととして、「母国の言葉や文化を学ぶ機会が少ない」（36.3%）が最も高く、以下「日本での進学や就職」（24.7%）、「帰国後の母（国）語の学力」（16.4%）となっている。

韓国・朝鮮や中国の人は「母国の言葉や文化を学ぶ機会が少ない」（25.0%、64.7%）、北米の人は「日本語の能力、学力」（45.5%）、ヨーロッパの人は「帰国後の母（国）語の学力」（37.5%）、東南アジアの人は「日本での進学や就職」（58.3%）で、子どもについて不安に思っている割合が高い。また、韓国・朝鮮、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人は「日本での結婚」で子どもの将来を不安に思っている割合が高い。

在住年数が「30年以上」の人は「日本での結婚」で不安に思う割合が高く、また、在住年数が短い人ほど「帰国後の母（国）語の学力」や「帰国後の学校、就職」で不安に思う割合が高くなっている。

## 3. 医療・保険について

### 3-1. かかったことのある病院・診療所 (Q21)

かかったことのある病院、診療所などは、「市内の私立病院・クリニック・診療所」が65.0%で最も高く、以下「市外の病院・クリニック・診療所」（57.7%）、「市立芦屋病院」（37.1%）

となっている。東南アジアや中南米の人は、「病院・診療所を利用したことがない」の割合も高い。

### 3-2. 健康診断を受ける場所 (Q22)

健康診断の受診場所として、「市外の病院・クリニック・診療所」が32.4%で最も高く、以下「職場・学校」(26.2%)、「市内の私立病院・クリニック・診療所」(23.6%)となっている。また、「受けたことがない」は17.0%となっている。

国籍別では、中国の人は「職場・学校」、北米、ヨーロッパ、オセアニア及び中南米の人は「市外の病院・クリニック・診療所」、東南アジアの人は「市外の病院・クリニック・診療所」と「職場・学校」となっている。また、韓国・朝鮮の人は「受けたことがない」が23.4%もある。

### 3-3. 日本の医療サービスに対する満足度 (Q23)

日本で受けられる医療サービスに対して、「非常に満足している」と「満足している」をあわせた“満足派”は71.7%に対し、「やや不満である」と「非常に不満である」をあわせた“不満派”は22.2%となっている。“満足派”は前回調査より9.8ポイント増加している。

“満足派”が最も高いのは北米の人(81.9%)で、以下西・南アジア、中近東の人(76.9%)、中南米の人(75.1%)となっている。“不満派”が最も高いのはヨーロッパの人(29.7%)となっている。

男性は女性に比べて“満足派”は高く、前回調査との比較では、男女とも“満足派”は増加している。

### 3-4. 医療サービスに対する不満点 (Q23-1)

医療サービスに対する不満内容は、「診察までの待ち時間が長い」が51.1%で最も高く、以下「医療費が高い」(46.8%)、「どこの病院にいけばよいかわからない」(31.9%)となっている。前回調査より「医療費が高い」や「どこの病院にいけばよいかわからない」の不満は増え、「診察までの待ち時間が長い」や「言葉がわからない(通じない)」の不満は減っている。

韓国・朝鮮や中国の人は「診察までの待ち時間が長い」や「医療費が高い」で不満が多く、一方、ヨーロッパの人は「診察までの待ち時間が長い」などで不満が多い。

日常いずれの言語を使用している人も、「言葉がわからない(通じない)」、「医療費が高い」や「診察までの待ち時間が長い」などの不満も多く、日常使用言語が英語の人で「言葉がわからない(通じない)」という不満は35.7%もある。

### 3-5. 保険や年金への加入状況 (Q24)

保険や年金の加入状況として、「国民健康保険」が53.9%で最も高く、以下「国民年金」(27.2%)、「その他の健康保険」(25.3%)となっている。

いずれの国籍の人も「国民健康保険」の加入率は高いが、「何も加入していない」は東南アジアの人で12.5%もある。

男性は女性に比べて「国民健康保険」や「雇用保険」の加入率が高い。

いずれの年齢層も「国民健康保険」の加入率が最も高い。

## 4. 市役所のサービスについて

### 4-1. 市の窓口を利用した時の感想 (Q25)

市役所の窓口を利用した時の感想として、「非常に満足した」(15.4%)と「満足した」(72.1%)をあわせた“満足派”は87.5%となっている。「不満だった」(7.1%)と「非常に不満だった」(1.7%)をあわせた“不満派”は8.8%となっている。“満足派”は前回調査より5.0ポイント減少し、“不満派”は2.0ポイント増加している。

“満足派”は、中国、北米、東南アジア及び中南米の人で9割を超えている。“不満派”が多いのは、西・南アジア、中近東の人(15.4%)、韓国・朝鮮の人(11.6%)、ヨーロッパの人(10.8%)となっている。

### 4-2. 市の窓口に対する不満点 (Q25-1)

市役所の窓口に対する不満の理由として、「手続きが面倒だった」が51.4%で最も高く、以下「窓口の職員が不親切だった」(40.5%)、「時間がかかった」(37.8%)となっている。

「手続きが面倒だった」や「言葉が通じなかった」などの不満は前回調査より増加し、「窓口の職員が不親切だった」の不満は減少している。

### 4-3. わかりやすくした方がよい案内標識 (Q26)

改善要望の案内標識として、「電車、バスなどの交通機関の案内標識」(21.7%)、「市役所や図書館などの公共施設の案内標識」(19.6%)、「道路の案内標識」(18.7%)となっている。「特にない」は42.1%となっている。

北米、東南アジア及び中南米の人は「市役所や図書館などの公共施設の案内標識」、ヨーロッパの人は「歴史的に大切な所やハイキングなどの案内標識」、西・南アジア、中近東の人は「道路の案内標識」と改善要望に差がみられる。

在住年数が短い人ほど各案内標識の改善要望は高い。

### 4-4. 市の住民サービス活動の参加経験・参加意向 (Q27)

市の住民サービス活動の参加経験と参加意向では、「文化・芸術活動などのイベント」が参加経験(11.6%)・参加意向(27.4%)ともに最も高く、参加経験のある活動では、以下「スポーツ活動などのイベント」(9.7%)、「市民が互いに交流できる活動」6.6%となっている。

一方、参加意向が高い活動では、「講座・講習会」(23.6%)、「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」(22.0%)、「スポーツ活動などのイベント」(21.5%)となっている。

参加意向が高い活動を前回調査との比較で見ると、「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」や「水害や火事などに備えるための防災活動」で前回調査より増加し、「スポーツ活動などのイベント」や「市民が互いに交流できる活動」などは減少している。

男性は参加経験・参加意向ともに「スポーツ活動などのイベント」が高く、女性は参加経験で「文化・芸術活動などのイベント」が高く、参加意向では「文化・芸術活動などのイベント」と「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」が高くなっている。

また、在住年数別では、いずれの在住年数の人も、参加経験・参加意向ともに「文化・芸術活動などのイベント」が上位にあるが、参加意向は在住年数が「1年未満」の人は「水害

や火事などに備えるための防災活動」、在住年数が「55年以上」の人は「講座・講習会」が第1位にある。

#### 4-5. 利用したことがある市の施設 (Q28)

利用したことがある施設では、「図書館」(39.2%)が最も高く、以下「市民センター(公民館)」(21.3%)、「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」(21.3%)、「美術博物館」(20.6%)となっている。一方、「利用したことがない」は32.9%となっている。

「図書館」や「美術博物館」などの施設を利用した人は前回調査より増え、「市民センター(公民館)」や「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」を利用した人は減っている。

いずれの国籍の人も「図書館」を利用する人は多い。また、北米の人は「市民センター(公民館)」、「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」や「美術博物館」、中国の人は「保健センター」、西・南アジア、中近東の人は「体育館」を利用する割合は高い。ヨーロッパや東南アジアの人は「利用したことがない」の割合も高い。

また、「子育て支援関係の施設(子育てセンターなど)」の利用は男性で3.1%となっている。

#### 4-6. 市の施設を利用するにあたっての要望 (Q29)

市の施設利用での要望として、「申し込み方法をわかりやすくしてほしい」と「使用料をもっと安くしてほしい」(21.3%)が同率で最も高く、以下「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」(20.6%)、「設備を充実してほしい」(15.6%)、「利用時間を長くしてほしい」(15.4%)となっている。「使用料をもっと安くしてほしい」、「設備を充実してほしい」や「利用時間を長くしてほしい」という要望が前回調査より増えている。

年齢層が低いほど「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」や「日本語以外の言語による説明を受けられるようにしてほしい」という要望も高い。

回答言語が英語やスペイン語の人は「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」や「日本語以外の言語による説明を受けられるようにしてほしい」という要望も高い。

#### 4-7. 外国語による情報提供の認知度 (Q30)

外国語による情報提供の認知度として、外国語による情報提供があることを「知っている」割合が最も高いのは、「ごみ収集日日程表・分別表」(27.7%)、以下「災害時の避難場所」(26.2%)、「芦屋市ガイドマップ」(25.5%)となっている。一方、「知らない」という割合が最も高いのは、「ボランティアによる通訳・翻訳」(73.5%)、以下「多言語生活ガイド」(68.1%)、「日本語教室や文化教室」(64.1%)となっている。外国語による情報提供の認知度は高くない。

韓国・朝鮮及び中国の人は、「災害時の避難場所」で他の国籍の人より「知っている」人の割合は高いが、それでも認知度は3割前後と低い。

全般に「30歳代～40歳代」の人の認知度は高い。

日常使用言語が「英語」の人は、「芦屋市ガイドマップ」、「広報紙ニューズレター」、「ごみ収集日日程表・分別表」の認知度は約5割あるが、それ以外では認知度が低い。また、「スペイン語」の人は、「災害時の避難場所」や「多言語生活ガイド」は認知度が低い。

#### 4-8. 外国人が利用できる市のサービスの認知度 (Q31)

外国人が利用できる市のサービスを「知っている」割合が最も高いのは、「国民健康保険」(59.3%)で、以下「国民年金」(44.0%)、「乳幼児健診」(32.9%)となっている。一方、「知らない」割合が最も高いのは、「行政や法律についての相談」(65.5%)で、以下「高齢者の医療費助成」(64.8%)、「生活保護」(60.8%)となっている。

いずれの国籍の人も「国民健康保険」の認知度は高い。韓国・朝鮮及び中国の人は、他の国籍の人と比べて全体的に認知度は高い。

女性は男性に比べて、すべての項目で認知度は高い。

各年齢層で「国民健康保険」や「国民年金」の認知度は高い。

「フランス語」や「ドイツ語」を日常使用言語としている人はすべての項目で認知度が低い。「スペイン語」の人は、「健康相談」で認知度は約5割となっている。

### 5. 芦屋市のイメージについて

#### 5-1. 芦屋市のイメージ (Q32)

芦屋市に対するイメージとして、「やすらぎ、くつろぎがある」(60.5%)が最も高く、以下「しゃれている」(38.3%)、「国際性がある」(31.7%)となっている。前回調査との比較から、「やすらぎ、くつろぎがある」、「しゃれている」、「国際性がある」及び「親しみやすさがある」などは、イメージがアップしている。また、「個性がある」、「歴史がある」及び「将来性がある」などはイメージが低くなっている。

いずれの国籍の人も「やすらぎ、くつろぎがある」のイメージが最も高いが、東南アジアの人は「国際性がある」、中南米や西・南アジア、中近東の人は「親しみやすさがある」も高い。

「親しみやすさがある」、「文化がある」や「やすらぎ、くつろぎがある」は住みやすいと答えた人と住みにくいと答えた人で差が大きく、これらが住みやすさをはかる主なものといえる。

#### 5-2. 芦屋市の住みやすさ評価 (Q33)

芦屋市の住みやすさを評価してもらったところ、「非常に住みやすい」と「住みやすい」をあわせた“住みやすい派”は85.1%を占めている。また、「住みにくい」と「非常に住みにくい」をあわせた“住みにくい派”は12.1%となっている。

いずれの国籍の人も“住みやすい派”が7割を超えているが、韓国・朝鮮や東南アジアの人は、“住みにくい派”が2割弱ある。

また、年齢層が高くなるほど、あるいは在住年数が長い人ほど“住みにくい派”の割合は高い。

日本語能力が十分ある人は、十分でない人より“住みやすい派”の割合が低く、出生地が「日本」の人、出生地が「日本以外」の人とも、その傾向がある。

#### 5-3. 住みやすい点・住みにくい点 (Q33-1、Q33-2)

住みやすい点としては、「通勤、通学に便利」(68.1%)が最も高く、以下「買い物などが

便利」(47.5%)、「教育文化施設が充実している」(19.7%)となっている。

「通勤、通学に便利」や「買い物などが便利」をあげる人は前回調査より減り、「教育文化施設が充実している」などをあげる人は増えている。

住みにくい点としては、「物価や住居費が高い」(84.3%)が最も高く、以下「買い物などが不便」(47.1%)、「通勤・通学に不便」(19.6%)となっている。買い物などの利便性では、住みやすい点、住みにくい点として、いずれも約5割の人があげている。また、「買い物などが不便」という人は前回調査より増え、「通勤・通学に不便」や「外国人向けの案内が不十分」という人は減っている。

## 6. 日本語の能力について

### 6-1. 日本語の能力 (Q34)

読むことでは、「新聞や雑誌が読める」(56.3%)が最も高く、以下「漢字がまじった簡単な文章が読める」(11.3%)、「ひらがな・カタカナは読める」(9.0%)となっている。「新聞や雑誌が読める」、「漢字がまじった簡単な文章が読める」や「店で売っているものの名前や広告が読める」をあわせると、71.1%の外国人が日常生活に不便がない程度の読む能力がある。「日常生活に不便がない人」は前回調査より7.3ポイント減っている。

書くことでは、「漢字を使ってまとめた文章が書ける」(51.3%)が最も高く、以下「ひらがな・カタカナはだいたい書ける」(10.9%)、「簡単なメモが書ける」(10.4%)となっている。「漢字を使ってまとめた文章が書ける」、「手紙が書ける」や「簡単なメモが書ける」をあわせると、69.0%の外国人が日常生活に不便がない程度の書く能力がある。「日常生活に不便がない人」は前回調査より2.3ポイント減っている。

聴くことでは、「テレビのニュースやドラマなどがわかる」(62.2%)が最も高く、以下「日常の会話ならわかる」(13.0%)、「相手がゆっくり話してくれたらわかる」(5.9%)となっている。「テレビのニュースやドラマなどがわかる」、「日常の会話ならわかる」や「相手がゆっくり話してくれたらわかる」をあわせると、81.1%の外国人が日常生活に不便がない程度の聴く能力がある。「日常生活に不便がない人」は前回調査より4.3ポイント減っている。

話すことでは、「自分の考えをまとめて発表することができる」(54.4%)が最も高く、以下「簡単な日常の会話ならできる」(17.3%)、「仕事をするのに不自由のない会話ができる」(12.1%)となっている。「自分の考えをまとめて発表することができる」、「仕事をするのに不自由のない会話ができる」や「簡単な日常の会話ならできる」をあわせると、83.8%の外国人が日常生活に不便がない程度の会話能力がある。「日常生活に不便がない人」は前回調査より2.9ポイント減っている。

《読む・書く・聴く・話す》の各能力とも、韓国・朝鮮や中国の人は“日常生活に不便がない”程度に日本語能力がある。また、全体的に《聴く・話す》能力に比べて《読む・書く》能力で不自由を感じている人が多い。特に《書く》能力は、韓国・朝鮮や中国の人を除く人では、“日常生活に不便がない”人は半数以下となっている。

全般に在住年数が長い人ほど日本語能力が高いと自己評価しているが、《書く》能力は、在住年数が「15年以上30年未満」の人でも「ひらがな・カタカナはだいたい書ける」と「ほとんどを書けない」という人は32.8%となっている。



## 6-2. 日本語学習の場所・学習したい方法 (Q35)

日本語学習の場所・学習したい方法では、「家族や友人」(25.1%)が最も高く、以下「日本語学校」(24.3%)、「テレビ・ラジオの講座、通信教育など」(17.0%)となっている。

学習の場として、韓国・朝鮮や中国の人は「日本語学校」、北米、ヨーロッパや東南アジアの人は「家族や友人」、中南米や西・南アジア、中近東の人は「国際交流協会 (A C A) やボランティアによる日本語教室」をあげている割合が高い。

いずれの年齢層も「日本語学校」や「家族や友人」の割合が高い。また、在住年数が短い人ほど「日本語学校」や「国際交流協会 (A C A) やボランティアによる日本語教室」を学習場所としている人の割合が高い。

出生が「母国」の人は「家族や友人」(34.3%)や「日本語学校」(30.7%)の割合が高く、「日本」の人は「日本語学校」(14.6%)や「学びたくない・学ぶ必要がない」(13.2%)の割合が高くなっている。

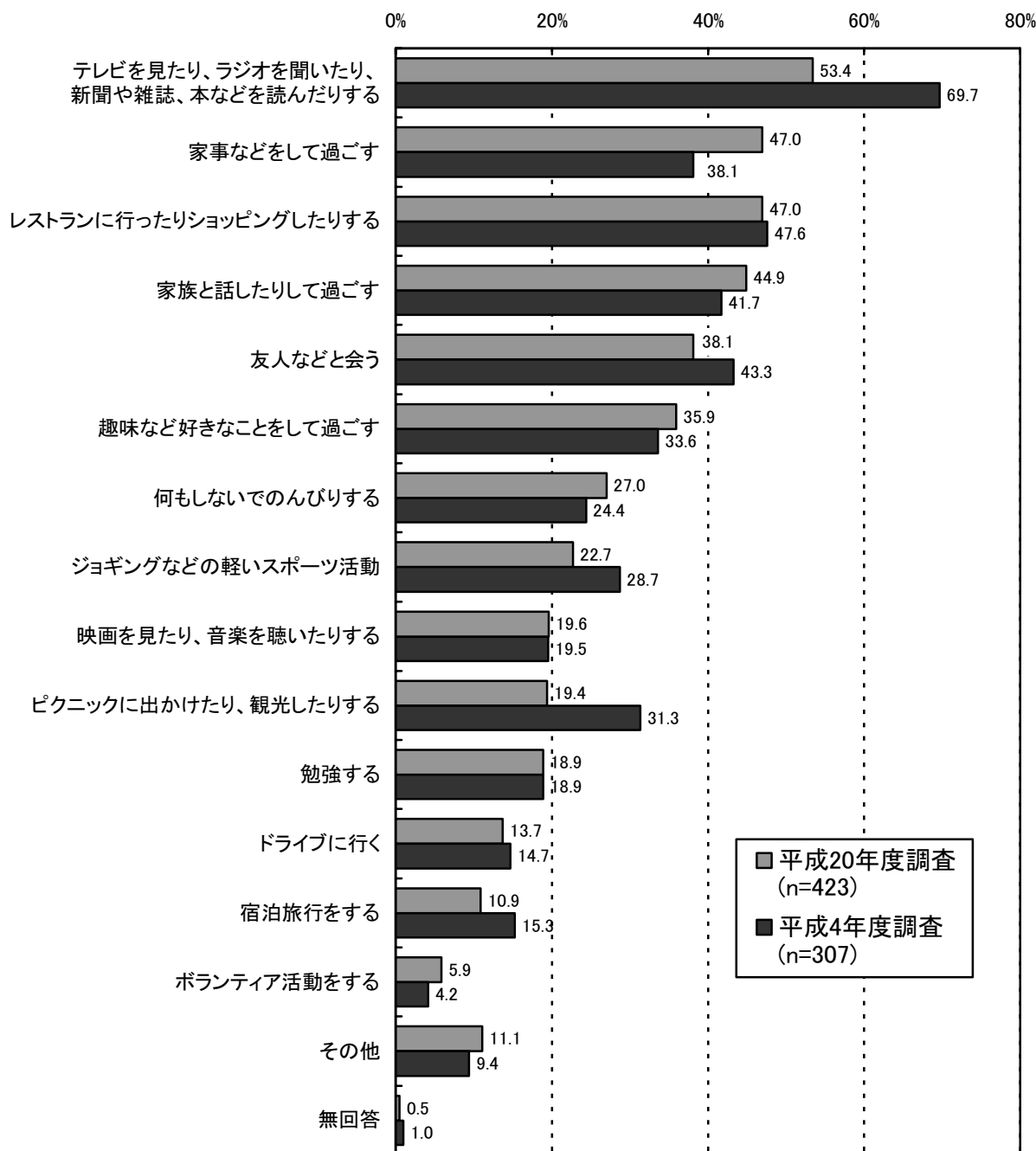
## IV. 調査結果の分析

# 1. 日常生活について

## 1-1. 休日の過ごし方（複数回答）

Q1 あなたは日曜、祝祭日などの休日をどのように過ごすことが多いですか。次の中からお選びください。（〇はいくつでも）

図 1-1



休日の過ごし方として最も高いのは、「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」53.4%で、以下「家事などをして過ごす」及び「レストランに行ったりショッピングしたりする」47.0%、「家族と話したりして過ごす」44.9%となっている。（図 1-1）

前回調査との比較では、「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」、「友人などと会う」、「ジョギングなどの軽いスポーツ活動」、「ピクニックに出かけたり、観光したりする」、「宿泊旅行をする」などは前回調査と比べて減少しており、「家事などをして過ごす」や「家族と話したりして過ごす」は増加している。(図 1-1)

国籍別では、いずれの国籍の人も「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」や「家族と話したりして過ごす」が上位にあがっている。韓国・朝鮮や東南アジアの人は「趣味など好きなことをして過ごす」、中南米の人は「勉強する」が他の国籍の人より高く、北米の人は「ジョギングなどの軽いスポーツ活動」が上位にあがっている。また、回答項目個数の平均は、韓国・朝鮮、中国及び中南米の人に比べて、北米、ヨーロッパ、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人の方が多くの項目をあげている。(表 1-1、表 1-2)

性別では、男性は「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」が最も高く、女性は「家事などをして過ごす」が最も高い。前回調査との比較では、男性では「家事などをして過ごす」の項目が入ってきているが、女性では、第1位と第2位の入れ替わりはあるが、項目としては変わっていない。(表 1-3)

年齢別では、「20歳代～30歳代」は「レストランに行ったりショッピングしたりする」が第1位、「40～49歳」は「家族と話したりして過ごす」が第1位となっている。(表 1-3)

通算在住年数別では、在住年数が「30年以上」の人は「テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする」、在住年数が「15年以上30年未満」は「友人などと会う」、在住年数が「5年以上」や「1年未満」の人は「家事などをして過ごす」、また、在住年数が「1年以上5年未満」の人は「レストランに行ったりショッピングしたりする」がそれぞれ第1位にあがっている。(表 1-4)

表 1-1【国籍別】 休日の過ごし方（第1位～5位）

(%)

順位 国籍	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
韓国・朝鮮(n=154)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	レストランに行ったりショッピングしたりする	家事などをして過ごす	趣味など好きなことをして過ごす	家族と話したりして過ごす
	55.2	43.5	41.6	40.9	38.3
中国(n=99)	家事などをして過ごす	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家族と話したりして過ごす	レストランに行ったりショッピングしたりする	友人などと会う
	55.6	52.5	48.5	47.5	35.4
北米(n=33)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家族と話したりして過ごす／レストランに行ったりショッピングしたりする	家事などをして過ごす	友人などと会う／ジョギングなどの軽いスポーツ活動	
	57.6		54.5	51.5	48.5
ヨーロッパ(n=37)	家族と話したりして過ごす	レストランに行ったりショッピングしたりする／テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家事などをして過ごす／友人などと会う		
	51.4		45.9		43.2
オセアニア(n=8)	家事などをして過ごす／趣味など好きなことをして過ごす／レストランに行ったりショッピングしたりする／テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする				友人などと会う／ジョギングなどの軽いスポーツ活動
				75.0	62.5
東南アジア(n=32)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家族と話したりして過ごす	家事などをして過ごす／友人などと会う	趣味など好きなことをして過ごす	
	68.8	56.3		50.0	34.4
中南米(n=16)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家事などをして過ごす／友人などと会う		家族と話したりして過ごす／勉強する	
	43.8		37.5		31.3
西・南アジア、中近東(n=13)	家事などをして過ごす／友人などと会う		レストランに行ったりショッピングしたりする	家族と話したりして過ごす	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする
		69.2	61.5	53.8	46.2
その他(n=4)	家族と話したりして過ごす／映画を見たり、音楽を聴いたりする／レストランに行ったりショッピングしたりする			ジョギングなどの軽いスポーツ活動／趣味など好きなことをして過ごす／テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	
		50.0			25.0

表 1-2【国籍別】 休日の過ごし方（第6位～10位）

(%) (項目/人)

国籍	順位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位	平均 項目個数 (H20年度)	平均 項目個数 (H4年度)
韓国・朝鮮(n=154)		友人などと会う	何もしないでのんびりする	映画を見たり、音楽を聴いたりする	ドライブに行く	ジョギングなどの軽いスポーツ活動	3.7	3.9
		30.5	29.2	21.4	15.6	13.6		
中国(n=99)		趣味など好きなことをして過ごす	勉強する	ジョギングなどの軽いスポーツ活動	映画を見たり、音楽を聴いたりする/ピクニックに出かけたり、観光したりする	何もしないでのんびりする	4.0	3.6
		32.3	25.3	20.2	19.2	14.1		
北米(n=33)		何もしないでのんびりする	ピクニックに出かけたり、観光したりする	趣味など好きなことをして過ごす	勉強する	宿泊旅行をする	5.3	6.1
		39.4	36.4	33.3	30.3	15.2		
ヨーロッパ(n=37)		何もしないでのんびりする	ジョギングなどの軽いスポーツ活動	趣味など好きなことをして過ごす/映画を見たり、音楽を聴いたりする	勉強する		4.4	5.2
		37.8	32.4		27.0	24.3		
オセアニア(n=8)		家族と話したりして過ごす	何もしないでのんびりする/勉強する/ドライブに行く/ピクニックに出かけたり、観光したりする			映画を見たり、音楽を聴いたりする	7.0	5.0
		50.0			37.5	25.0		
東南アジア(n=32)		何もしないでのんびりする/レストランに行ったりショッピングしたりする		勉強する/ピクニックに出かけたり、観光したりする		ジョギングなどの軽いスポーツ活動	4.4	5.7
			31.3		28.1	21.9		
中南米(n=16)		レストランに行ったりショッピングしたりする	何もしないでのんびりする/ジョギングなどの軽いスポーツ活動/ドライブに行く/ピクニックに出かけたり、観光したりする				3.5	3.5
		25.0				18.8		
西・南アジア、中近東(n=13)		何もしないでのんびりする/趣味など好きなことをして過ごす		ドライブに行く	ジョギングなどの軽いスポーツ活動	ピクニックに出かけたり、観光したりする	4.8	2.8
		38.5		30.8	23.1	15.4		
その他(n=4)							2.5	-
						0.0		

表 1-3【性別・年齢別】 休日の過ごし方（第1位～5位）

(%)

順位 性別	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成4年度調査 男性(n=188)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	レストランに行ったりショッピングしたりする	友人などと会う	家族と話したりして過ごす	趣味など好きなことをして過ごす
	67.6	46.8	41.0	38.3	36.2
平成4年度調査 女性(n=117)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家事などをして過ごす	レストランに行ったりショッピングしたりする	家族と話したりして過ごす／友人などと会う	
	73.5	50.4	49.6	47.0	

順位 性別・年齢	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性(n=194)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家族と話したりして過ごす	レストランに行ったりショッピングしたりする	趣味など好きなことをして過ごす	家事などをして過ごす
	54.1	43.8	43.3	37.1	35.1
女性(n=223)	家事などをして過ごす	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	レストランに行ったりショッピングしたりする	家族と話したりして過ごす	友人などと会う
	57.8	52.5	50.2	46.2	41.3
20歳未満(n=1)	何もしないでのんびりする／家族と話したりして過ごす／友人などと会う／趣味など好きなことをして過ごす／勉強する／レストランに行ったりショッピングしたりする／宿泊旅行をする／テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする				
	100.0				
20～29歳(n=45)	レストランに行ったりショッピングしたりする	友人などと会う	家事などをして過ごす	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家族と話したりして過ごす／趣味など好きなことをして過ごす
	48.9	46.7	44.4	42.2	40.0
30～39歳(n=102)	レストランに行ったりショッピングしたりする	家事などをして過ごす	家族と話したりして過ごす	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	友人などと会う
	61.8	52.9	51.0	47.1	43.1
40～49歳(n=109)	家族と話したりして過ごす	レストランに行ったりショッピングしたりする	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家事などをして過ごす	友人などと会う
	54.1	53.2	51.4	46.8	39.4
50～59歳(n=77)	家事などをして過ごす	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	友人などと会う／レストランに行ったりショッピングしたりする	趣味など好きなことをして過ごす	
	50.6	46.8	35.1		33.8
60歳以上(n=83)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする	家族と話したりして過ごす／趣味など好きなことをして過ごす	家事などをして過ごす		レストランに行ったりショッピングしたりする
	74.7	39.8		38.6	31.3

表 1-4【通算在住年数別】 休日の過ごし方（第1位～5位）

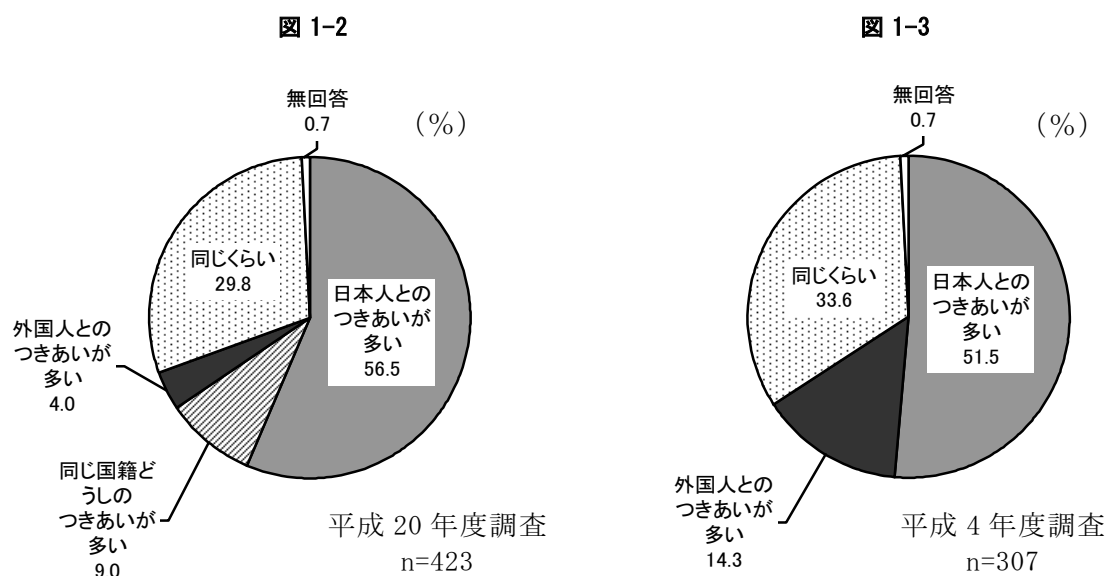
(%)

順位 通算在住年数	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
1年未満(n=16)	家事などをして過ごす 62.5	家族と話したりして過ごす／テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする 56.3		友人などと会う／趣味など好きなことをして過ごす 50.0	
1年以上5年未満 (n=62)	レストランに行ったりショッピングしたりする 53.2	家族と話したりして過ごす 48.4	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする 46.8	家事などをして過ごす 43.5	勉強する 40.3
5年以上15年未満 (n=93)	家事などをして過ごす 57.0	家族と話したりして過ごす／レストランに行ったりショッピングしたりする 52.7		テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする 46.2	友人などと会う 45.2
15年以上30年未満 (n=61)	友人などと会う 55.7	レストランに行ったりショッピングしたりする 54.1	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする 52.5	家事などをして過ごす 49.2	家族と話したりして過ごす 45.9
30年以上55年未満 (n=114)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする 55.3	レストランに行ったりショッピングしたりする 49.1	家族と話したりして過ごす 43.9	家事などをして過ごす 41.2	趣味など好きなことをして過ごす 40.4
55年以上(n=72)	テレビを見たり、ラジオを聞いたり、新聞や雑誌、本などを读んだりする 65.3	家事などをして過ごす 41.7	趣味など好きなことをして過ごす 38.9	何もしないでのんびりする／家族と話したりして過ごす	29.2



## 1-2. 日常のつきあいの相手

Q2 日頃あなたは個人的に、あるいは交流グループを通じて、日本人とつきあう方が多いですか。それとも外国人とどうしてつきあう方が多いですか。(〇は1つだけ)



日常のつきあいの相手では、「日本人とのつきあいが多」が 56.5%と半数を超えており、「同じくらい」は 29.8%となっている。「同じ国籍どうしのつきあいが多」と「外国人とのつきあいが多」をあわせても 13.0%であり、日常のつきあいの相手は、日本人が多い。(図 1-2)

前回調査との比較では、前回調査は「同じ国籍どうしのつきあいが多」の項目がなかったが、「日本人とのつきあいが多」は前回調査より 5.0 ポイント増加している。前回調査の「外国人とのつきあいが多」と比較して、今回調査の「同じ国籍どうしのつきあいが多」と「外国人とのつきあいが多」をあわせると、大きな変化はみられない。(図 1-3)

国籍別では、韓国・朝鮮の人は「日本人とのつきあいが多」が 77.9%となっている。北米、ヨーロッパ、東南アジア及び中南米の人は「同じくらい」が 5 割前後を占めている。中国、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人は「同じ国籍どうしのつきあいが多」も 2 割前後を占めている。北米、ヨーロッパ及び中南米の人は「外国人とのつきあいが多」では、1 割～2 割弱となっている。(図 1-4)

性別では、あまり大きな差はみられない。(図 1-5)

年齢別では、「日本人とのつきあいが多」は「60 歳以上」で 73.5%を占め、「20 歳代～50 歳代」の人は、年齢層が低くなるほど「同じ国籍どうしのつきあいが多」とする割合は高くなっている。(図 1-5)

職業別では、「日本人とのつきあいが多」は「自営業」の人で 79.4%と最も高く、「学生」は 33.3%と最も低い。「同じ国籍どうしのつきあいが多」や「外国人とのつきあいが多」では「学生」がそれぞれ 33.3%、9.1%で最も高い。(図 1-6)

通算在住年数別では、在住年数が長い人ほど「日本人とのつきあいが多」の割合は高くなっている。(図 1-7)

在住予定期間別では、在住予定期間が「1 年未満」、「1～3 年」と回答した人は「外国人とのつきあいが多」の割合が高く、「永住する」と回答した人は「日本人とのつきあいが多」が 72.6%となっている。(図 1-8)

図 1-4 【国籍別】日常のつきあいの相手

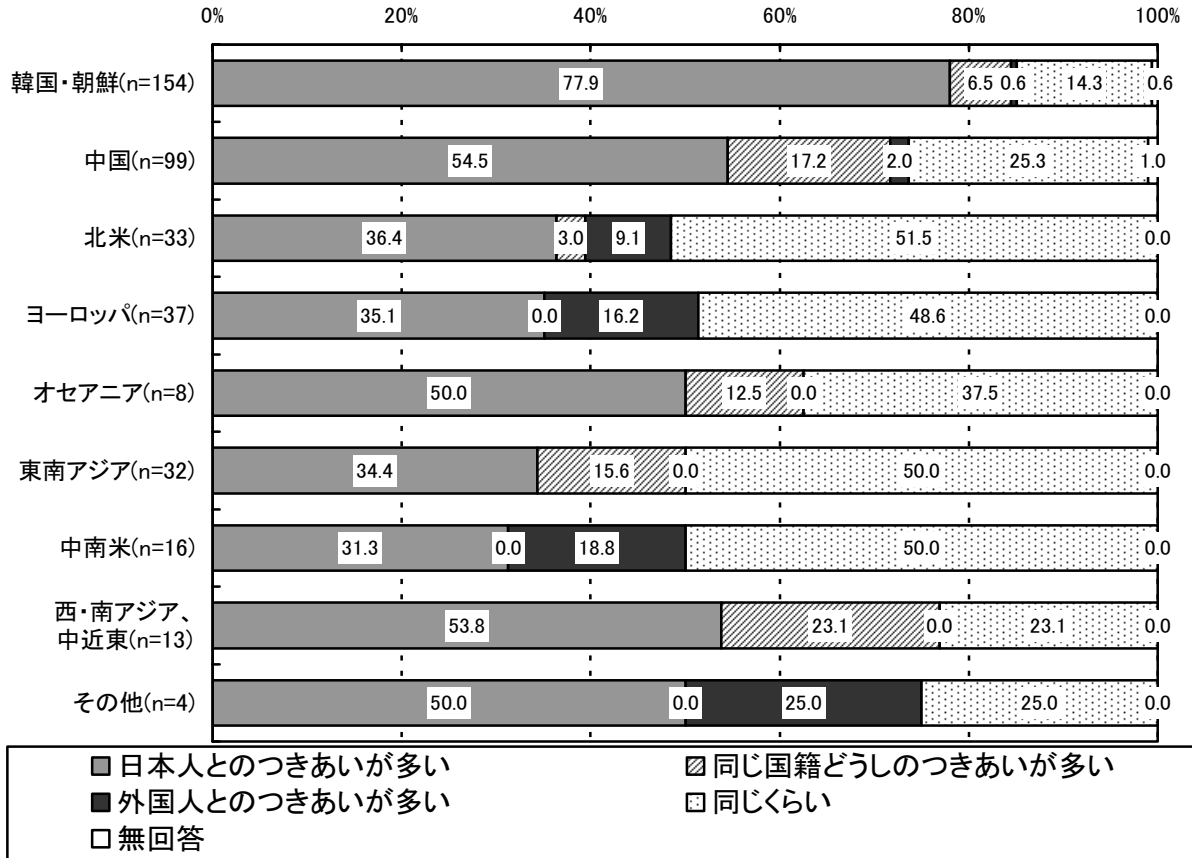


図 1-5 【性別・年齢別】日常のつきあいの相手

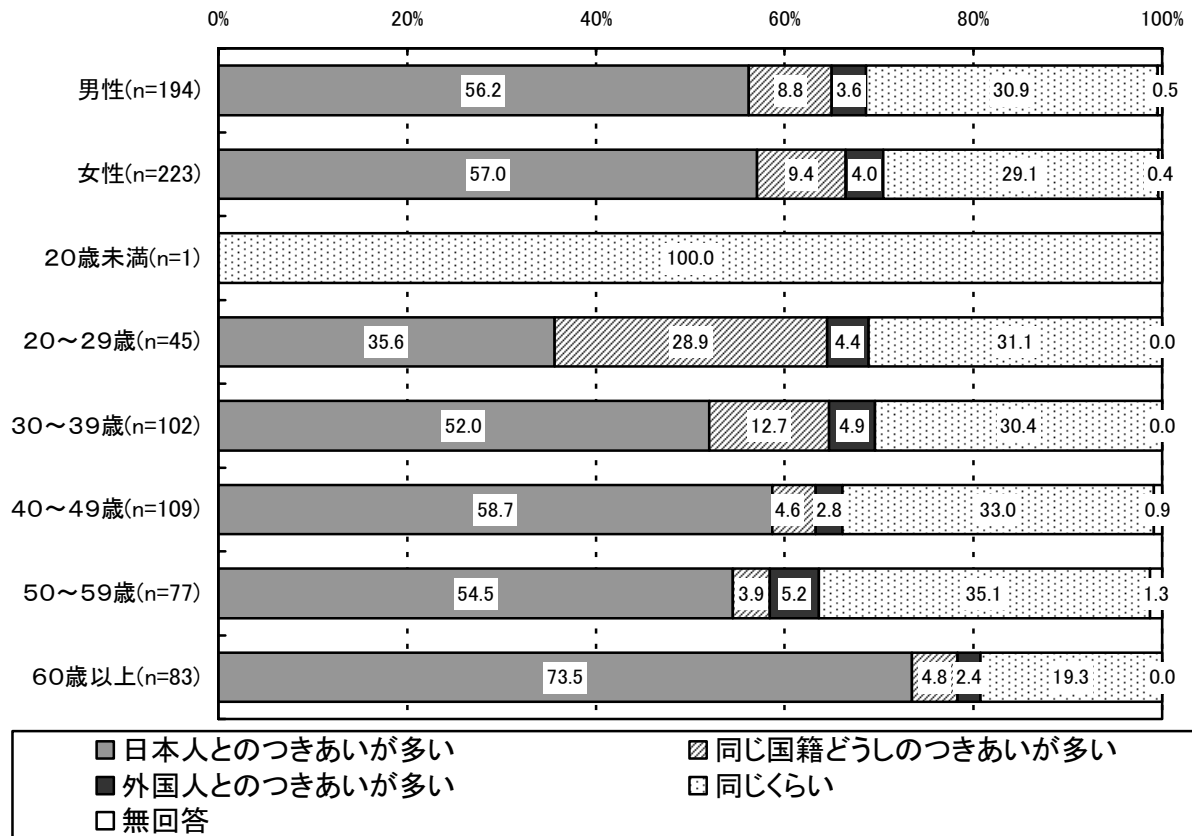


図 1-6 【職業別】日常のつきあいの相手

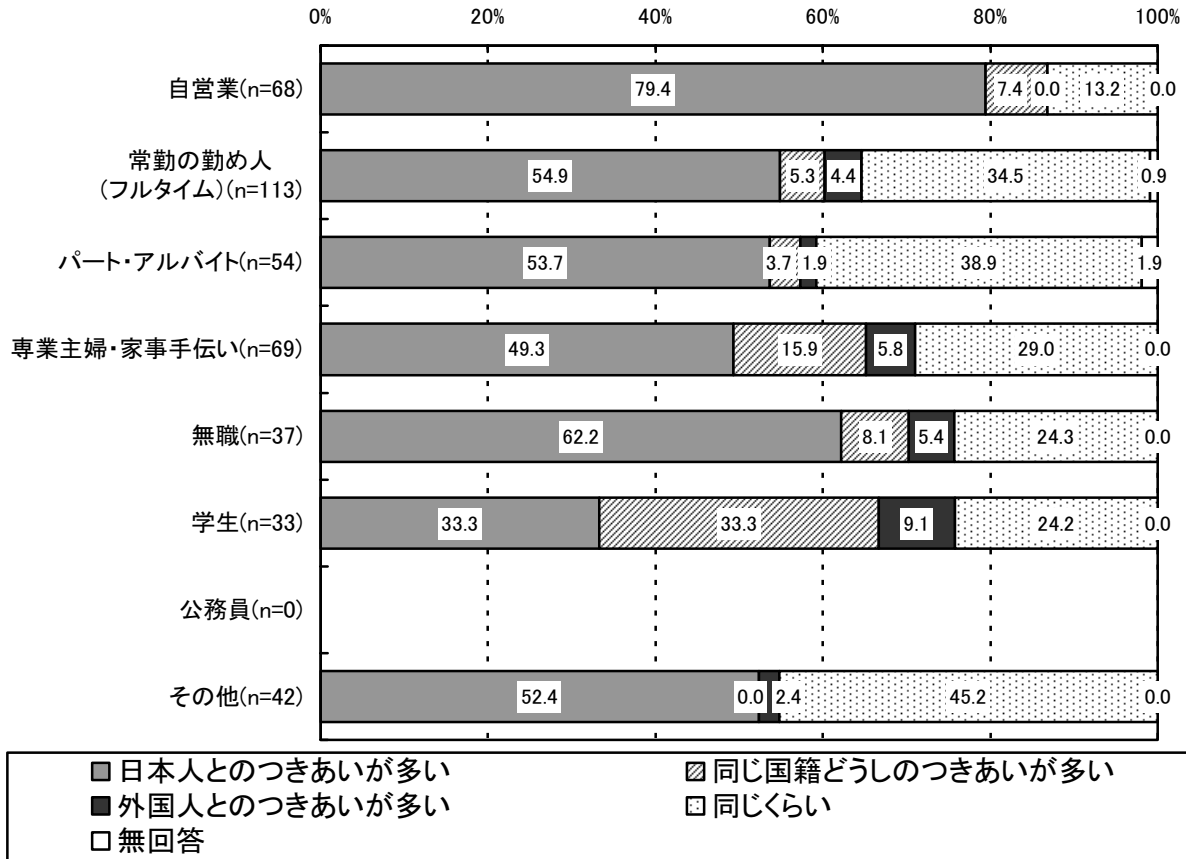


図 1-7 【通算在住年数別】日常のつきあいの相手

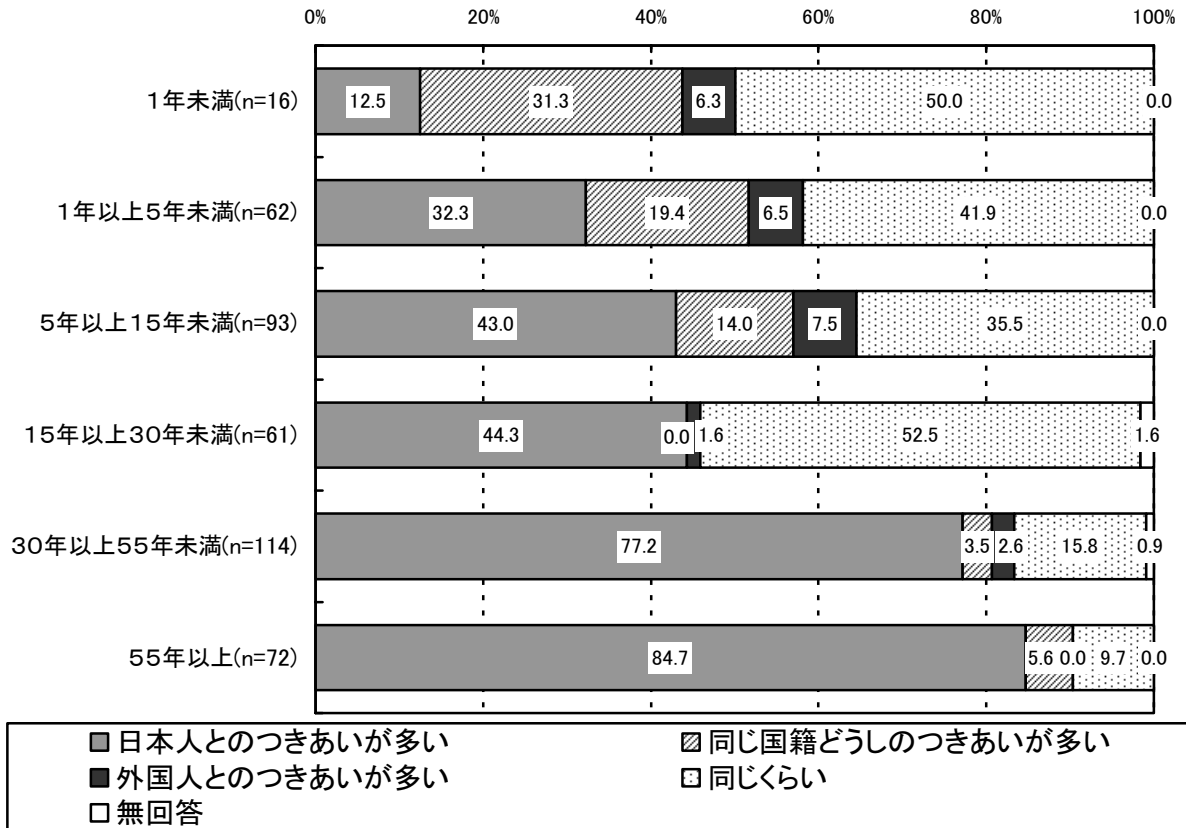
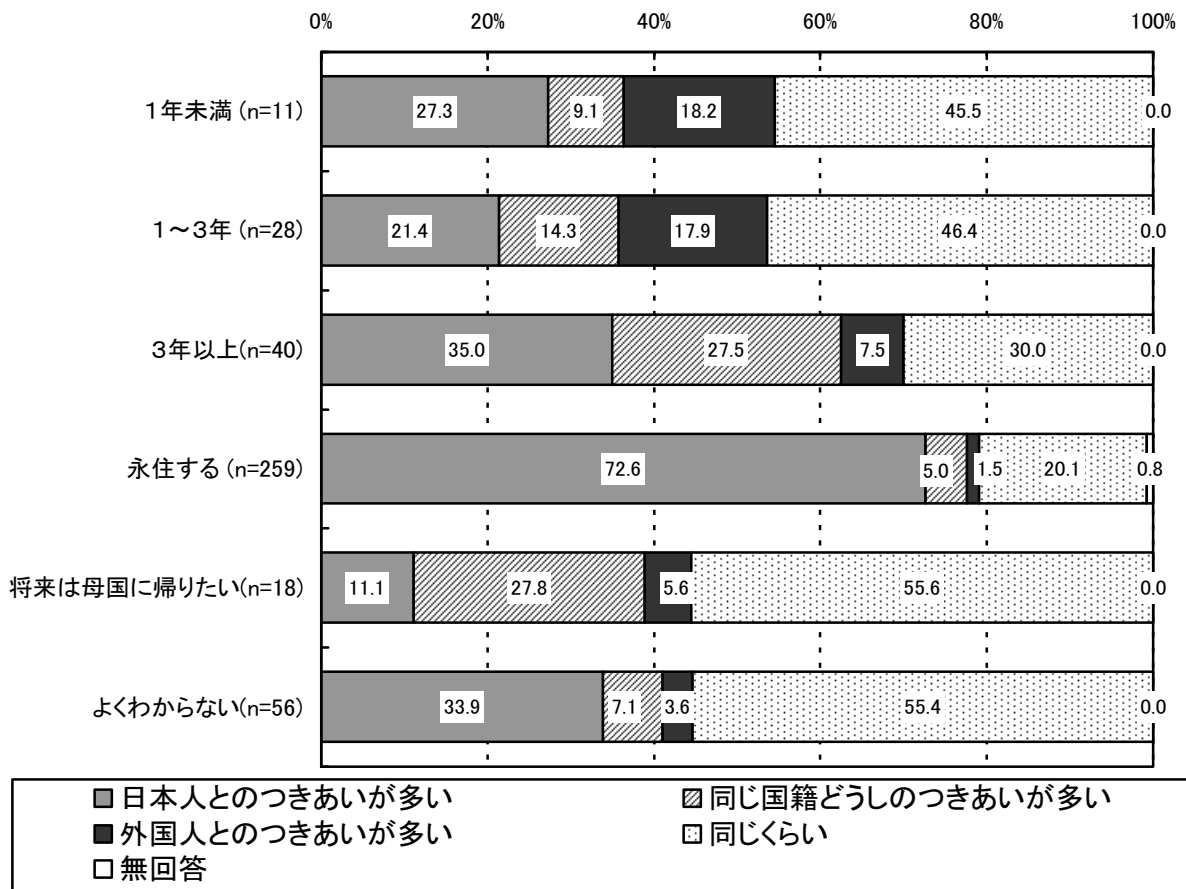


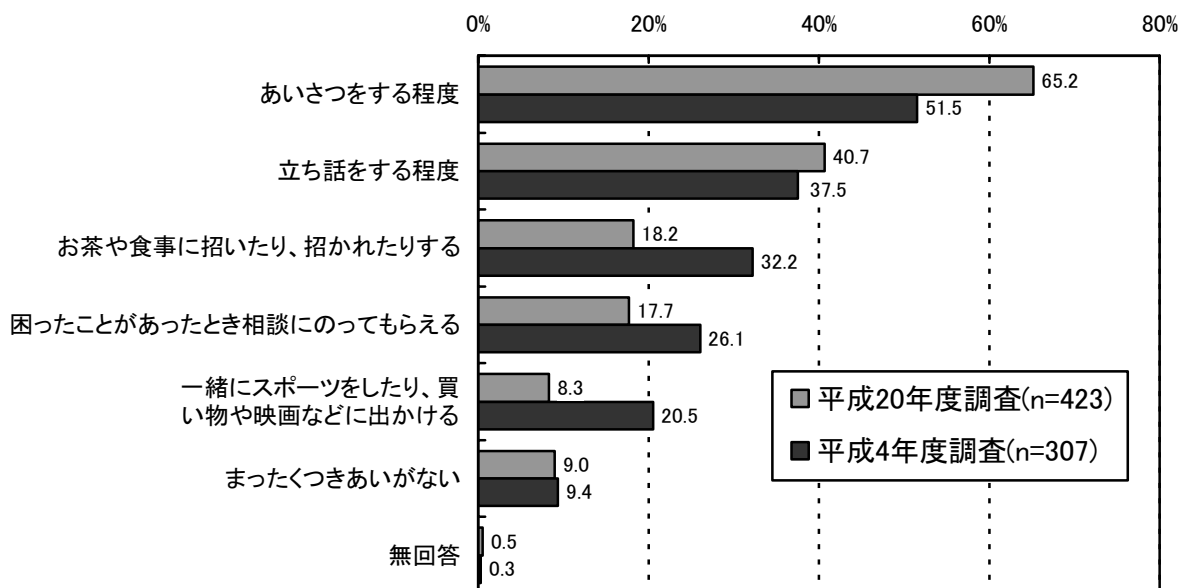
図 1-8 【在住予定期間別】日常のつきあいの相手



### 1-3. 日本人とのつきあい程度（複数回答）

Q3 あなたは現在、隣近所に住む日本人とどのくらいのつきあいがありますか。（○はいくつでも）

図 1-9



回答者全体のうち、日本人とのつきあいの程度では、「まったくつきあいがいい」は9.0%にすぎず、残り90.5%の人が隣近所に住む日本人と何らかのつきあいがある。そのうち、「あいさつをする程度」が65.2%で最も高く、以下「立ち話をする程度」40.7%、「お茶や食事に招いたり、招かれたりする」18.2%となっている。（図 1-9）

前回調査との比較では、「あいさつをする程度」や「立ち話をする程度」といったあまり深くないつきあいは前回調査と比べて増加しており、「お茶や食事に招いたり、招かれたりする」、「困ったことがあったとき相談にのってもらえる」や「一緒にスポーツをしたり、買い物や映画などに出かける」といった深いつきあいは減少している。（図 1-9）

国籍別では、ほとんどの国籍の人で「あいさつをする程度」が最も高くなっている。東南アジアや北米の人は「困ったことがあったとき相談にのってもらえる」の割合は、それぞれ28.1%、21.2%となっている。一方、中南米や東南アジアの人は「まったくつきあいがいい」の割合は、それぞれ25.0%、18.8%となっている。（表 1-5）

通算在住年数別では、「まったくつきあいがいい」は在住年数が長い人ほど割合が低くなっている。「あいさつをする程度」や「立ち話をする程度」といったあまり深くないつきあいは在住年数に関わらず割合が高くなっており、「お茶や食事に招いたり、招かれたりする」や「困ったことがあったとき相談にのってもらえる」といった深いつきあいは在住年数が「5年以上15年未満」の人、「15年以上30年未満」の人で特に高くなっており、在住年数と比例して深いつきあいが多いいとはいえない。（表 1-6）

日本語《会話能力》別では、会話能力が低くなるほど「まったくつきあいがいい」の割合は高くなっている。（表 1-7）

表 1-5 【国籍別】日本人とのつきあい程度

(%)

日本人とのつきあい程度 国籍	程 度 あ い さ つ を す る	度 立 ち 話 を す る 程	り お 茶 や 食 事 に 招 か れ た り す る	か け る や 映 画 な ど に 出 る	を し た り 、 買 い 物 を し た り	一 緒 に ス ポ ー ツ を し た り	の つ て も ら え る 困 っ た こ と が あ っ た と き 相 談 に	ま っ た く つ き あ い が な い	無 回 答
韓国・朝鮮 (n=154)	66.9	44.8	18.2	9.7	16.2	5.2	0.6		
中国 (n=99)	67.7	30.3	17.2	10.1	16.2	10.1	0.0		
北米 (n=33)	57.6	42.4	15.2	3.0	21.2	6.1	0.0		
ヨーロッパ (n=37)	62.2	45.9	16.2	5.4	13.5	8.1	0.0		
オセアニア (n=8)	37.5	50.0	37.5	0.0	37.5	25.0	0.0		
東南アジア (n=32)	62.5	37.5	12.5	6.3	28.1	18.8	0.0		
中南米 (n=16)	50.0	62.5	18.8	0.0	6.3	25.0	0.0		
西・南アジア、中近東 (n=13)	92.3	38.5	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0		
その他 (n=4)	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0		

表 1-6 【通算在住年数別】日本人とのつきあい程度

(%)

日本人とのつきあい程度 通算在住年数	程 度 あ い さ つ を す る	度 立 ち 話 を す る 程	り お 茶 や 食 事 に 招 か れ た り す る	か け る や 映 画 な ど に 出 る	を し た り 、 買 い 物 を し た り	一 緒 に ス ポ ー ツ を し た り	の つ て も ら え る 困 っ た こ と が あ っ た と き 相 談 に	ま っ た く つ き あ い が な い	無 回 答
1年未満 (n=16)	62.5	25.0	6.3	0.0	6.3	25.0	0.0		
1年以上5年未満 (n=62)	67.7	24.2	11.3	3.2	19.4	19.4	0.0		
5年以上15年未満 (n=93)	63.4	25.8	23.7	7.5	20.4	10.8	0.0		
15年以上30年未満 (n=61)	55.7	55.7	21.3	8.2	21.3	8.2	0.0		
30年以上55年未満 (n=114)	64.9	46.5	19.3	11.4	14.9	5.3	0.9		
55年以上 (n=72)	73.6	56.9	15.3	9.7	16.7	1.4	0.0		

表 1-7 【日本語《会話能力》別】日本人とのつきあい程度

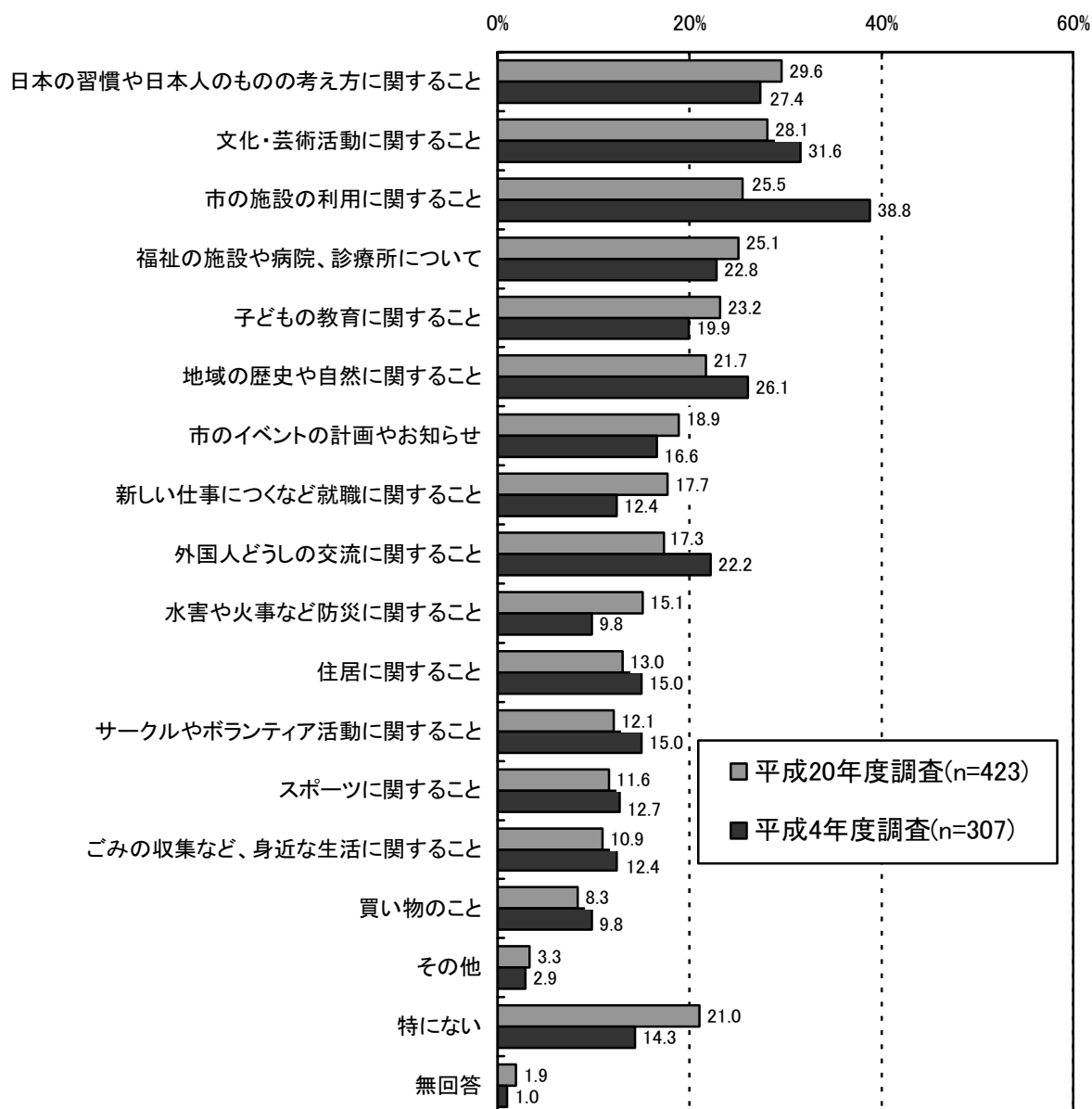
(%)

日本人とのつきあい程度 会話能力	程 度 あ い さ つ を す る	度 立 ち 話 を す る 程	り お 茶 や 食 事 に 招 か れ た り す る	か け る や 映 画 な ど に 出 る	一 緒 に ス ポ ー ツ を し た り 、 買 い 物 を し た り	困 っ た こ と が あ っ た と き 相 談 に の つ て も ら え る	ま っ た く つ き あ い が な い	無 回 答
自分の考えをまとめて発表 することができる (n=230)	66.1	42.6	19.1	9.1	17.0	6.5	0.4	
仕事をするのに不自由のない 会話ができる (n=51)	72.5	37.3	11.8	2.0	9.8	7.8	0.0	
簡単な日常の会話ならでき る (n=73)	63.0	41.1	17.8	6.8	24.7	11.0	0.0	
決まったあいさつだけなら できる (n=19)	47.4	21.1	15.8	15.8	15.8	36.8	0.0	
ほとんど話せない (n=6)	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	

## 1-4. 日本で知りたい情報（複数回答）

Q4 あなたは日本に住んでいて、特に<sup>にほん</sup>どうい<sup>す</sup>うことをも<sup>とく</sup>っと知<sup>し</sup>りたいと思<sup>おも</sup>いますか。（○はいくつでも）

図 1-10



日本で知りたい情報では、「日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること」が 29.6% で最も高く、以下「文化・芸術活動に関すること」28.1%、「市の施設の利用に関すること」25.5%となっている。一方、「特にない」は 21.0%となっている。（図 1-10）

前回調査との比較では、特に変化が大きい項目は、「市の施設の利用に関すること」が前回調査より減少し、「新しい仕事につくなど就職に関すること」や「水害や火事など防災に関すること」などは増加している。また、「特にない」は前回調査より増加している。（図 1-10）

国籍別では、北米やヨーロッパの人は「文化・芸術活動に関すること」や「地域の歴史や自然に関すること」が上位にあがっている。東南アジアの人は「新しい仕事につくなど就職に関すること」、中南米の人は「サークルやボランティア活動に関すること」や「外国人どうしの交流に関すること」が比較的上位にあがっている。韓国・朝鮮や中国の人では「福祉



の施設や病院、診療所について」や「市の施設の利用に関すること」が上位にあがっており、福祉・医療施設や公共施設のサービスに関する情報のニーズが高くなっている。(表 1-8)

性別では、男性は「地域の歴史や自然に関すること」や「スポーツに関すること」が女性と比べて特に高い。女性は、「新しい仕事につくなど就職に関すること」、「外国人どうしの交流に関すること」、「サークルやボランティア活動に関すること」や「ごみの収集など、身近な生活に関すること」が男性と比べて高くなっている。(図 1-11)

通算在住年数別では、在住年数が「15年未満」の人は「日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること」、「15年以上30年未満」の人は「市の施設の利用に関すること」、「30年以上55年未満」の人は「文化・芸術活動に関すること」、「55年以上」の人は「福祉の施設や病院、診療所について」が第1位にあがっている。(表 1-9)

表 1-8 【国籍別】日本で知りたい情報（第1位～5位）

(%)

国籍	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
韓国・朝鮮(n=154)		福祉の施設や病院、診療所について	市の施設の利用に関すること	子どもの教育に関すること	文化・芸術活動に関すること	水害や火事など防災に関すること
		24.7	21.4	20.8	17.5	16.2
中国(n=99)		日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること	福祉の施設や病院、診療所について	子どもの教育に関すること	文化・芸術活動に関すること	市の施設の利用に関すること／外国人どうしの交流に関すること
		48.5	35.4	30.3	29.3	28.3
北米(n=33)		文化・芸術活動に関すること	地域の歴史や自然に関すること	市の施設の利用に関すること	スポーツに関すること／日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること	
		45.5	36.4	33.3		30.3
ヨーロッパ(n=37)		文化・芸術活動に関すること	地域の歴史や自然に関すること	福祉の施設や病院、診療所について	市の施設の利用に関すること	日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること／水害や火事など防災に関すること
		43.2	24.3	21.6	18.9	10.8
オセアニア(n=8)		子どもの教育に関すること／市の施設の利用に関すること		市のイベントの計画やお知らせ／地域の歴史や自然に関すること／日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること／新しい仕事につくなど就職に関すること		
			50.0			37.5
東南アジア(n=32)		日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること	子どもの教育に関すること	地域の歴史や自然に関すること	新しい仕事につくなど就職に関すること	文化・芸術活動に関すること／市の施設の利用に関すること／ごみの収集など、身近な生活に関すること
		40.6	34.4	31.3	28.1	25.0
中南米(n=16)		文化・芸術活動に関すること／日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること		サークルやボランティア活動に関すること／地域の歴史や自然に関すること／外国人どうしの交流に関すること		
			37.5			31.3
西・南アジア、中近東(n=13)		市の施設の利用に関すること／日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること		文化・芸術活動に関すること	福祉の施設や病院、診療所について	子どもの教育に関すること／市のイベントの計画やお知らせ／外国人どうしの交流に関すること／新しい仕事につくなど就職に関すること／住居に関すること
			38.5	30.8	23.1	15.4
その他(n=4)		文化・芸術活動に関すること	子どもの教育に関すること／市のイベントの計画やお知らせ／日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること			
		50.0			25.0	0.0

図 1-11 【性別】日本で知りたい情報

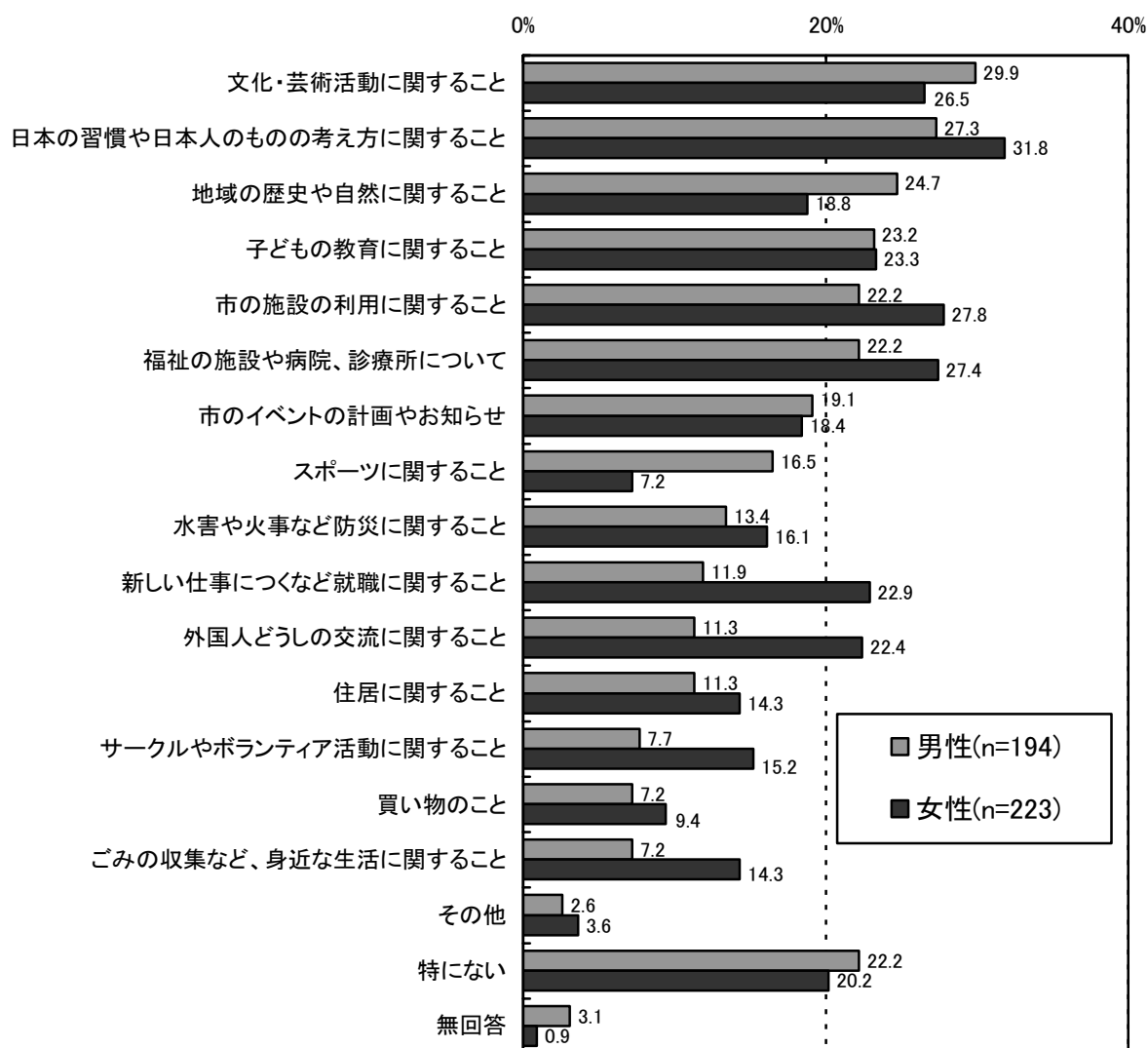


表 1-9 【通算在住年数別】日本で知りたい情報（第1位～5位）

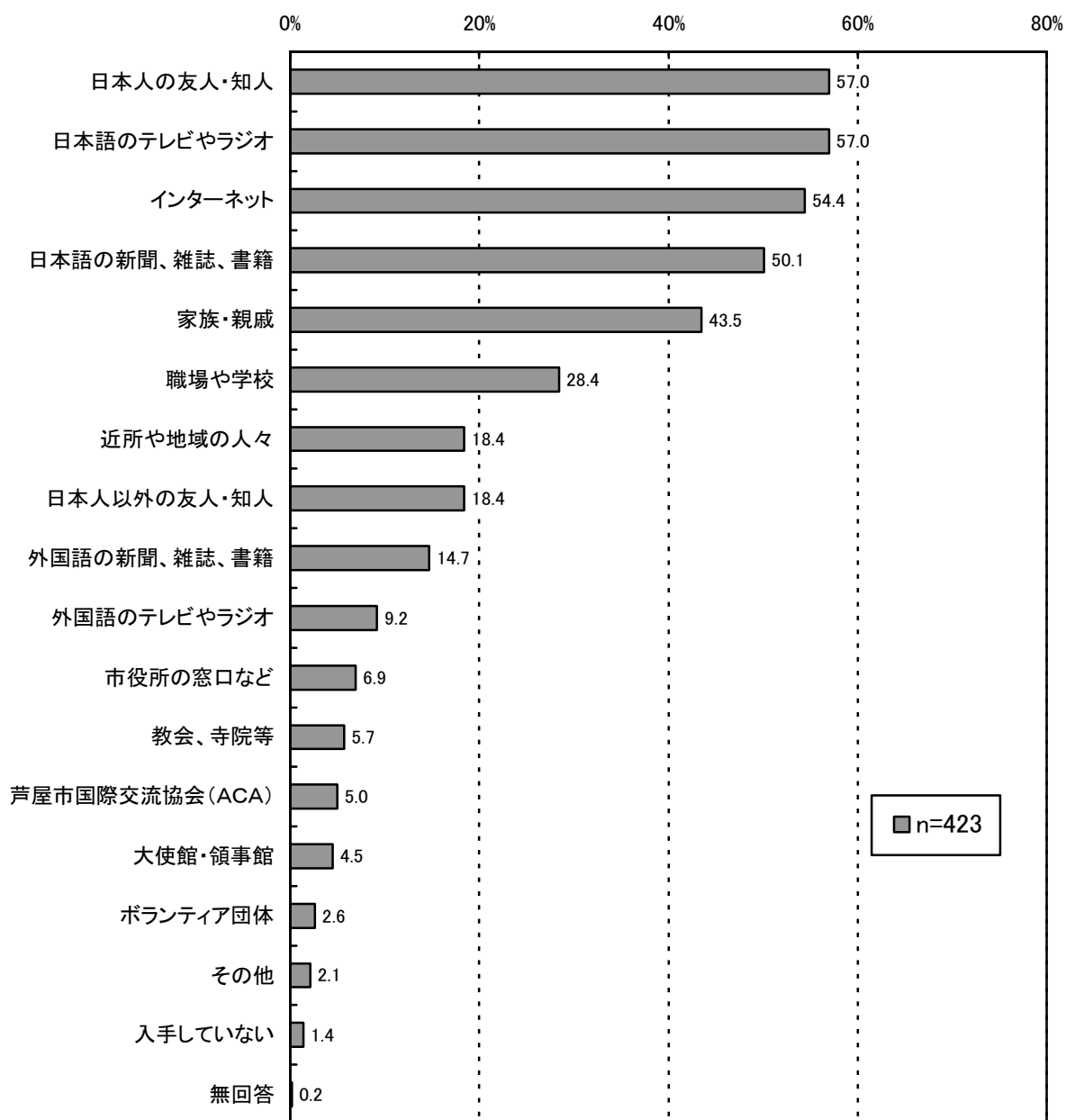
(%)

通算在住年数	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
1年未満(n=16)	第1位	日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること	買い物のこと	文化・芸術活動に関すること／地域の歴史や自然に関すること／ごみの収集など、身近な生活に関すること／新しい仕事につくなど就職に関すること		
	割合	50.0	37.5			31.3
1年以上5年未満(n=62)	第1位	日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること	地域の歴史や自然に関すること	文化・芸術活動に関すること	市の施設の利用に関すること	スポーツに関すること／外国人どうしの交流に関すること
	割合	62.9	41.9	38.7	30.6	24.2
5年以上15年未満(n=93)	第1位	日本の習慣や日本人のものの考え方に関すること	子どもの教育に関すること	文化・芸術活動に関すること	市の施設の利用に関すること／福祉の施設や病院、診療所について	
	割合	45.2	31.2	28.0		24.7
15年以上30年未満(n=61)	第1位	市の施設の利用に関すること	子どもの教育に関すること／地域の歴史や自然に関すること	新しい仕事につくなど就職に関すること	文化・芸術活動に関すること	
	割合	34.4		31.1	27.9	24.6
30年以上55年未満(n=114)	第1位	文化・芸術活動に関すること	福祉の施設や病院、診療所について	市の施設の利用に関すること	子どもの教育に関すること	市のイベントの計画やお知らせ
	割合	34.2	29.8	26.3	25.4	21.9
55年以上(n=72)	第1位	福祉の施設や病院、診療所について	地域の歴史や自然に関すること	文化・芸術活動に関すること／市のイベントの計画やお知らせ	市の施設の利用に関すること	
	割合	25.0	13.9			12.5

## 1-5. 日常生活の情報源（複数回答）

Q5 あなたは、日常生活で必要な情報はどこから手に入れますか。（○はいくつでも）

図 1-12



日常生活の情報源としては、「日本人の友人・知人」及び「日本語のテレビやラジオ」がそれぞれ 57.0% で最も高く、以下「インターネット」54.4%、「日本語の新聞、雑誌、書籍」50.1% となっており、媒体が日本語である項目の割合が高くなっている。（図 1-12）

国籍別では、韓国・朝鮮や中国の人は「日本語のテレビやラジオ」や「日本語の新聞、雑誌、書籍」が高くなっている。北米やヨーロッパの人は「日本人の友人・知人」や「インターネット」は高くなっているが、「日本語のテレビやラジオ」は低くなっている。（表 1-10）

通算在住年数別では、在住年数が「30年未満」の人は「日本人の友人・知人」や「インターネット」が上位にあがっており、在住年数が「30年以上」の人は、「日本語のテレビやラジオ」や「日本語の新聞、雑誌、書籍」が上位にあがっている。（表 1-11）

日本語《読む能力、書く能力、聴く能力、会話能力》別のいずれも、日常生活の情報源として、「日本人の友人・知人」や「インターネット」が上位にあがっている。(表 1-12～表 1-15)

表 1-10 【国籍別】日常生活の情報源（第1位～5位）

(%)

順位 国籍	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
韓国・朝鮮(n=154)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、書籍	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚
	72.7	71.4	50.0	48.1	42.9
中国(n=99)	日本語のテレビやラジオ / インターネット		日本語の新聞、雑誌、書籍	日本人の友人・知人	家族・親戚
	65.7		56.6	52.5	42.4
北米(n=33)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	外国語の新聞、雑誌、書籍	日本人以外の友人・知人
	87.9	66.7	60.6	42.4	36.4
ヨーロッパ(n=37)	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚	外国語の新聞、雑誌、書籍	日本語のテレビやラジオ
	54.1	51.4	45.9	35.1	27.0
オセアニア(n=8)	インターネット	近所や地域の人々 / 日本人の友人・知人		家族・親戚 / 職場や学校	
	75.0	62.5		50.0	
東南アジア(n=32)	日本語のテレビやラジオ	日本人の友人・知人 / インターネット		家族・親戚	職場や学校
	53.1	46.9		43.8	40.6
中南米(n=16)	日本人の友人・知人	家族・親戚 / 日本人以外の友人・知人 / 日本語の新聞、雑誌、書籍			外国語の新聞、雑誌、書籍
	68.8	43.8			37.5
西・南アジア、中近東(n=13)	日本人の友人・知人	日本人以外の友人・知人 / 日本語のテレビやラジオ / インターネット			家族・親戚
	84.6	46.2			30.8
その他(n=4)	日本語のテレビやラジオ	家族・親戚 / 日本人の友人・知人 / 職場や学校			日本語の新聞、雑誌、書籍 / インターネット
	100.0	50.0			25.0

表 1-11 【通算在住年数別】日常生活の情報源（第1位～5位）

(%)

順位 通算在住年数	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
1年未満(n=16)	日本人の友人・知人	インターネット	日本人以外の友人・知人 / 職場や学校		家族・親戚
	75.0	62.5	43.8		37.5
1年以上5年未満(n=62)	日本人の友人・知人 / インターネット		職場や学校	日本語のテレビやラジオ	家族・親戚
	66.1		45.2	38.7	37.1
5年以上15年未満(n=93)	インターネット	日本人の友人・知人	日本語のテレビやラジオ	家族・親戚	日本語の新聞、雑誌、書籍
	63.4	55.9	54.8	41.9	34.4
15年以上30年未満(n=61)	日本人の友人・知人 / インターネット		家族・親戚	日本語の新聞、雑誌、書籍	日本語のテレビやラジオ
	63.9		50.8	45.9	44.3
30年以上55年未満(n=114)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、書籍	日本人の友人・知人 / インターネット		家族・親戚
	64.9	64.0	56.1		48.2
55年以上(n=72)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、書籍	日本人の友人・知人	家族・親戚	近所や地域の人々
	77.8	76.4	41.7	38.9	20.8

表 1-12 【日本語《読む能力》別】日常生活の情報源

(%)

順位 読む能力	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
新聞や雑誌が読める (n=238)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、 書籍	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚
	70.6	67.2	62.6	52.5	43.7
漢字がまじった簡単な 文章が読める(n=48)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	日本語のテレビやラジオ	日本人以外の友人・知 人／日本語の新聞、雑 誌、書籍
	66.7	52.1	47.9	47.9	31.3
店で売っているものの 名前や広告が読める (n=15)	日本人の友人・知人	日本語の新聞、雑誌、 書籍	家族・親戚／日本語のテレビやラジオ		外国語の新聞、雑誌、 書籍／インターネット
	73.3	53.3	46.7		40.0
ひらがな・カタカナは読 める(n=38)	日本人の友人・知人	家族・親戚	インターネット	日本語のテレビやラジオ	日本人以外の友人・知 人
	76.3	47.4	44.7	36.8	34.2
ほとんど読めない (n=29)	日本人の友人・知人	インターネット	外国語の新聞、雑誌、 書籍	外国語のテレビやラジオ／職場や学校	
	55.2	37.9	34.5	27.6	

表 1-13 【日本語《書く能力》別】日常生活の情報源

(%)

順位 書く能力	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
漢字を使ってまとまった 文章が書ける(n=217)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、 書籍	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚
	72.8	69.6	62.2	54.4	43.8
手紙が書ける(n=31)	日本人の友人・知人	インターネット	日本語のテレビやラジオ	家族・親戚／日本語の新聞、雑誌、書籍	
	71.0	58.1	51.6	45.2	
簡単なメモが書ける (n=44)	日本人の友人・知人	家族・親戚	日本語のテレビやラジオ	インターネット	日本語の新聞、雑誌、 書籍
	65.9	52.3	50.0	45.5	34.1
ひらがな・カタカナはだ いたい書ける(n=46)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	日本語のテレビやラジオ	外国語の新聞、雑誌、 書籍／職場や学校
	58.7	45.7	43.5	34.8	32.6
ほとんど書けない (n=43)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	外国語の新聞、雑誌、書籍／職場や学校	
	62.8	41.9	30.2	27.9	

表 1-14 【日本語《聴く能力》別】日常生活の情報源

(%)

順位 聴く能力	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
テレビのニュースやドラマなどがわかる(n=263)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、書籍	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚
	71.1	64.6	57.4	54.0	45.6
日常の会話ならわかる(n=55)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	日本人以外の友人・知人	日本語のテレビやラジオ
	74.5	54.5	43.6	34.5	29.1
相手がゆっくり話してくれたらわかる(n=25)	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚／日本語の新聞、雑誌、書籍／職場や学校		
	72.0	48.0	40.0		
単語だけ聴き取れる(n=23)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	日本人以外の友人・知人	職場や学校
	56.5	39.1	34.8	26.1	26.1
ほとんど聴き取れない(n=8)	日本人の友人・知人	外国語の新聞、雑誌、書籍／職場や学校		日本語の新聞、雑誌、書籍／日本語のテレビやラジオ	
	50.0	37.5		25.0	

表 1-15 【日本語《会話能力》別】日常生活の情報源

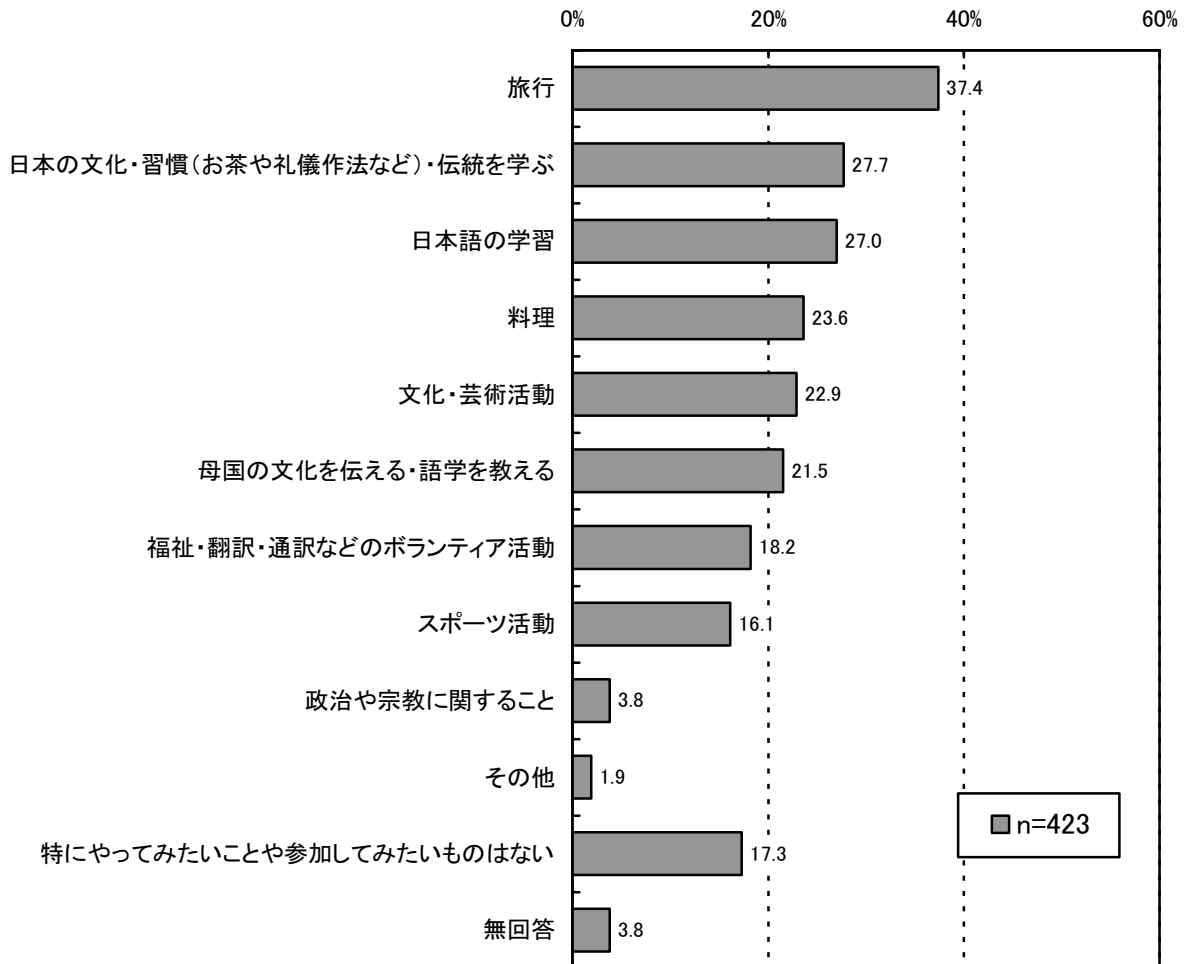
(%)

順位 会話能力	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
自分の考えをまとめて発表することができる(n=230)	日本語のテレビやラジオ	日本語の新聞、雑誌、書籍	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚
	70.9	66.5	58.7	56.1	44.8
仕事をするのに不自由のない会話ができる(n=51)	日本人の友人・知人	インターネット	日本語のテレビやラジオ	家族・親戚	日本語の新聞、雑誌、書籍
	64.7	51.0	47.1	41.2	39.2
簡単な日常の会話ならできる(n=73)	日本人の友人・知人	インターネット	家族・親戚	日本語のテレビやラジオ	職場や学校
	57.5	49.3	47.9	41.1	31.5
決まったあいさつだけならできる(n=19)	インターネット	日本人の友人・知人	家族・親戚／日本語の新聞、雑誌、書籍		職場や学校
	63.2	57.9	31.6		26.3
ほとんど話せない(n=6)	日本人の友人・知人	外国語の新聞、雑誌、書籍／職場や学校		日本人以外の友人・知人	外国語のテレビやラジオ／若屋市国際交流協会(ACA)／教会、寺院等
	66.7	50.0		33.3	16.7

## 1-6. 日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会（複数回答）

Q6 日本に住んでいてやってみたいと思うことや、参加してみたいと思う交流会などがあれば、それはどのような分野ですか。（〇はいくつでも）

図 1-13



日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会では、「旅行」が 37.4%で最も高く、以下「日本の文化・習慣（お茶や礼儀作法など）・伝統を学ぶ」27.7%、「日本語の学習」27.0%となっている。一方、「特にやってみたいことや参加してみたいものはない」は 17.3%となっている。また、「その他」として、『ボランティアリーダートレーニング』や『外国人同士の交流』などをあげている。（図 1-13）

国籍別では、いずれの国籍の人でも「旅行」が上位にあがっているが、東南アジア、中南米や西・南アジア、中近東の人は「日本語の学習」が高く、北米、ヨーロッパ、東南アジア及び中南米の人は「文化・芸術活動」が高くなっている。韓国・朝鮮の人は「日本語の学習」が低く、「特にやってみたいことや参加してみたいものはない」は他の国籍の人と比べて高くなっている。（表 1-16）

性別では、男女とも「旅行」が最も高く、また、男性は「スポーツ活動」、女性は「料理」が上位にあがっており、性別での違いもみられる。（表 1-17）

年齢別では、全体的に年齢層が低くなるほどやってみたいこと・参加してみたい交流会の割合は高くなっており、「日本の文化・習慣（お茶や礼儀作法など）・伝統を学ぶ」や「日本

語の学習」、「母国の文化を伝える・語学を教える」、「料理」などは特にその傾向が表れている。(表 1-17)

出生地別では、「日本生まれの人」より「母国生まれの人」の方がほとんどの項目で割合が高く、特に「日本の文化・習慣（お茶や礼儀作法など）・伝統を学ぶ」や「日本語の学習」では差が大きくなっているが、「旅行」はあまり差がない。(表 1-18)

表 1-16 【国籍別】日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会

(%)

国籍	やってみたいこと 日本文化・習慣(お茶や礼儀作法など)・伝統を学ぶ	日本語の学習	母国の文化を伝える・語学を教える	文化・芸術活動	スポーツ活動	旅行	料理	福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	政治や宗教に関すること	その他	特にやってみたいことや参加してみたいものはない	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	15.6	5.8	11.0	14.9	10.4	33.1	14.9	7.8	5.8	1.3	29.9	9.1
中国 (n=99)	44.4	33.3	29.3	19.2	16.2	43.4	31.3	32.3	2.0	2.0	13.1	1.0
北米 (n=33)	30.3	36.4	9.1	39.4	24.2	39.4	24.2	12.1	6.1	6.1	6.1	3.0
ヨーロッパ (n=37)	18.9	35.1	13.5	27.0	18.9	40.5	16.2	8.1	0.0	0.0	10.8	0.0
オセアニア (n=8)	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	37.5	37.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	43.8	53.1	34.4	40.6	28.1	37.5	43.8	18.8	3.1	0.0	6.3	0.0
中南米 (n=16)	25.0	50.0	50.0	50.0	18.8	31.3	18.8	31.3	0.0	0.0	12.5	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	23.1	46.2	30.8	15.4	23.1	61.5	7.7	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0
その他 (n=4)	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0



表 1-17 【性別・年齢別】日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会

(%)

性別・年齢	やってみたいこと 茶や礼儀作法など・ 伝統を学ぶ	日本の文化・習慣(お 日本語の学習	母国の文化を伝える・ 語学を教える	文化・芸術活動	スポーツ活動	旅行	料理	福祉・翻訳・通訳な どのボランティア活 動	政治や宗教に関する こと	その他	特にやってみたいこ とや参加してみたい ものはない	無回答
男性 (n=194)	23.7	26.3	16.5	22.2	23.7	38.7	14.4	9.3	3.6	1.5	17.5	5.2
女性 (n=223)	30.5	27.4	25.1	23.3	9.0	36.3	31.8	25.6	3.1	2.2	17.0	2.7
20歳未満 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=45)	53.3	48.9	28.9	35.6	22.2	42.2	35.6	24.4	0.0	0.0	8.9	2.2
30～39歳 (n=102)	36.3	35.3	26.5	20.6	14.7	42.2	25.5	23.5	3.9	3.9	12.7	1.0
40～49歳 (n=109)	32.1	26.6	28.4	20.2	18.3	35.8	22.9	23.9	3.7	0.0	13.8	4.6
50～59歳 (n=77)	15.6	19.5	11.7	26.0	20.8	33.8	19.5	15.6	1.3	3.9	16.9	2.6
60歳以上 (n=83)	6.0	12.0	10.8	19.3	4.8	34.9	18.1	3.6	4.8	1.2	32.5	8.4

表 1-18 【出生地別】日本でやってみたいこと・参加してみたい交流会

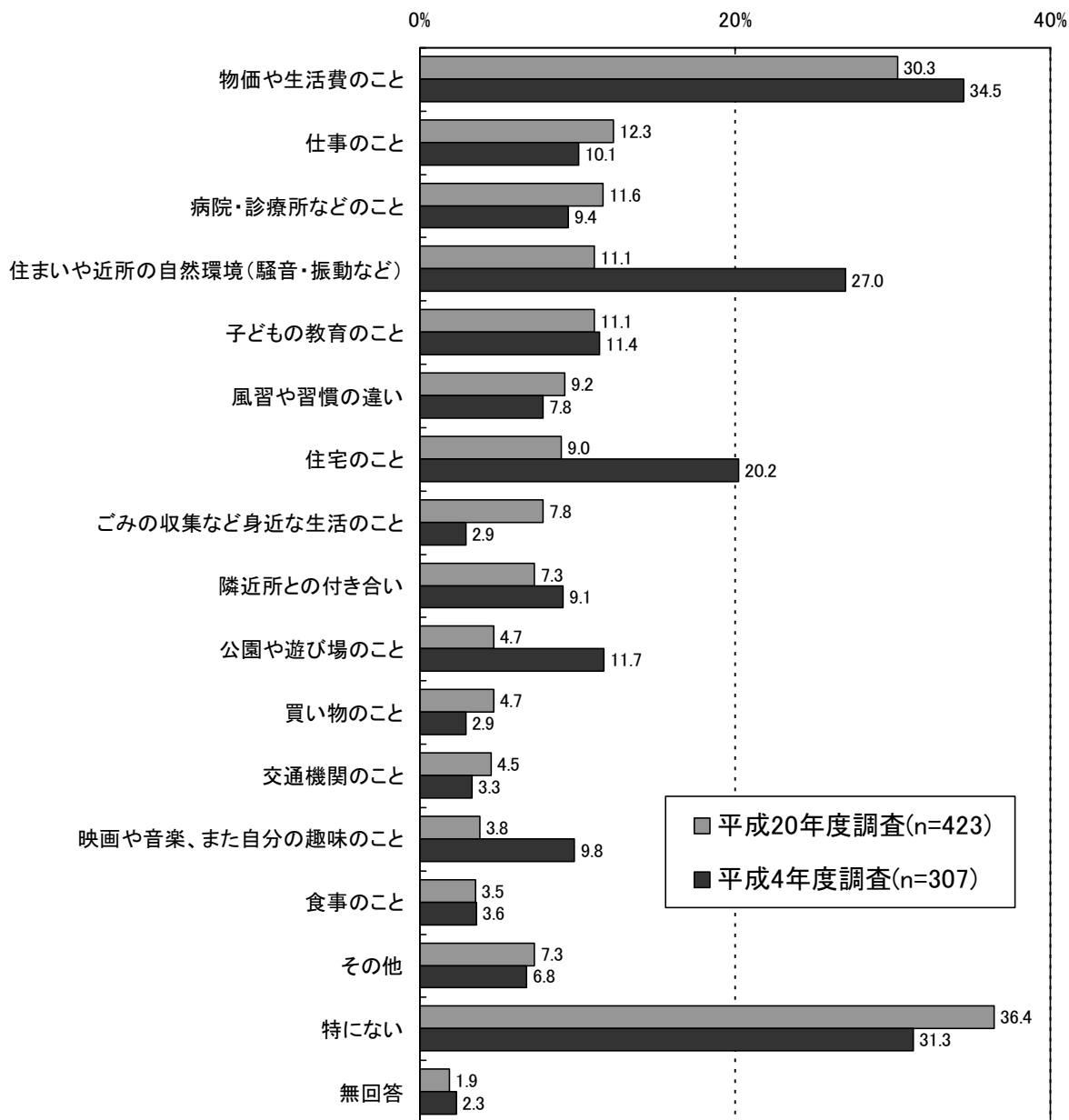
(%)

出生地	やってみたいこと 茶や礼儀作法など・ 伝統を学ぶ	日本の文化・習慣(お 日本語の学習	母国の文化を伝える・ 語学を教える	文化・芸術活動	スポーツ活動	旅行	料理	福祉・翻訳・通訳な どのボランティア活 動	政治や宗教に関する こと	その他	特にやってみたいこ とや参加してみたい ものはない	無回答
日本 (n=151)	12.6	1.3	7.3	12.6	12.6	35.1	14.6	7.3	4.0	1.3	31.8	9.3
母国 (n=251)	36.7	40.6	29.1	28.3	17.9	37.5	27.9	24.7	3.2	2.4	9.6	0.8
その他の国 (n=13)	23.1	38.5	38.5	23.1	23.1	69.2	46.2	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0

## 1-7. 日常生活上の不便点や困っていること（複数回答）

Q7 あなたが日常の暮らしの中で不便を感じていることや困っていることは次のうちどれですか。（○はいくつでも）

図 1-14



日常の暮らしの中で不便を感じていることや困っていることでは、「物価や生活費のこと」が 30.3%で最も高く、以下「仕事のこと」12.3%、「病院・診療所などのこと」11.6%となっている。「特にない」は 36.4%となっている。また、「その他」として、『税金が高いこと』や『車の排気ガス』などをあげている。（図 1-14）

前回調査との比較では、前回調査より大きく減少している項目は、「住まいや近所の自然環境（騒音・振動など）」、「住宅のこと」、「公園や遊び場のこと」や「映画や音楽、また自分の趣味のこと」であり、大きく増加している項目は、「ごみの収集など身近な生活のこと」となっている。（図 1-14）

国籍別では、ほとんどの国籍の人で「物価や生活費のこと」が第1位にあがっている。また、韓国・朝鮮、中国や中南米の人は「仕事のこと」、北米やヨーロッパの人は「住まいや近所の自然環境（騒音・振動など）」、東南アジアの人は「風習や習慣の違い」がそれぞれ上位にあがっている。（表 1-19）

通算在住年数別では、「物価や生活費のこと」以外では、在住年数が短い人ほど「ごみの収集など身近な生活のこと」、「病院・診療所などのこと」や「風習や習慣の違い」など、生活に身近な項目の割合が高くなっている。「15年以上」の在住年数が長い人は、「住まいや近所の自然環境（騒音・振動など）」、「住宅のこと」や「仕事のこと」などの住環境面や仕事でのことをあげている人が多い。（表 1-20）

表 1-19 【国籍別】日常生活上の不便点や困っていること（第1位～5位）

(%)

順位 国籍	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
韓国・朝鮮(n=154)	物価や生活費のこと	仕事のこと	住宅のこと	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)	子どもの教育のこと
	27.3	15.6	11.7	11.0	8.4
中国(n=99)	物価や生活費のこと	子どもの教育のこと	仕事のこと/風習や習慣の違い		隣近所との付き合い/病院・診療所などのこと
	34.3	16.2	13.1		11.1
北米(n=33)	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)/物価や生活費のこと		ごみの収集など身近な生活のこと/子どもの教育のこと/公園や遊び場のこと		
	21.2		12.1		
ヨーロッパ(n=37)	物価や生活費のこと/病院・診療所などのこと		住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)	ごみの収集など身近な生活のこと/公園や遊び場のこと	
	21.6		18.9	10.8	
オセアニア(n=8)	ごみの収集など身近な生活のこと/風習や習慣の違い		住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)/子どもの教育のこと/公園や遊び場のこと/病院・診療所などのこと		
	25.0		12.5		
東南アジア(n=32)	物価や生活費のこと	風習や習慣の違い	隣近所との付き合い/病院・診療所などのこと		住宅のこと/ごみの収集など身近な生活のこと/子どもの教育のこと/映画や音楽、また自分の趣味のこと
	50.0	25.0	15.6		12.5
中南米(n=16)	物価や生活費のこと/仕事のこと		風習や習慣の違い	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)/住宅のこと/隣近所との付き合い/ごみの収集など身近な生活のこと/公園や遊び場のこと/映画や音楽、また自分の趣味のこと	
	18.8		12.5	6.3	
西・南アジア、中近東(n=13)	物価や生活費のこと	病院・診療所などのこと	子どもの教育のこと	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)/住宅のこと/隣近所との付き合い/仕事のこと/食事のこと/風習や習慣の違い	
	38.5	23.1	15.4	7.7	
その他(n=4)	住宅のこと/物価や生活費のこと/仕事のこと				
	25.0			0.0	

表 1-20 【通算在住年数別】日常生活上の不便点や困っていること（第1位～5位）

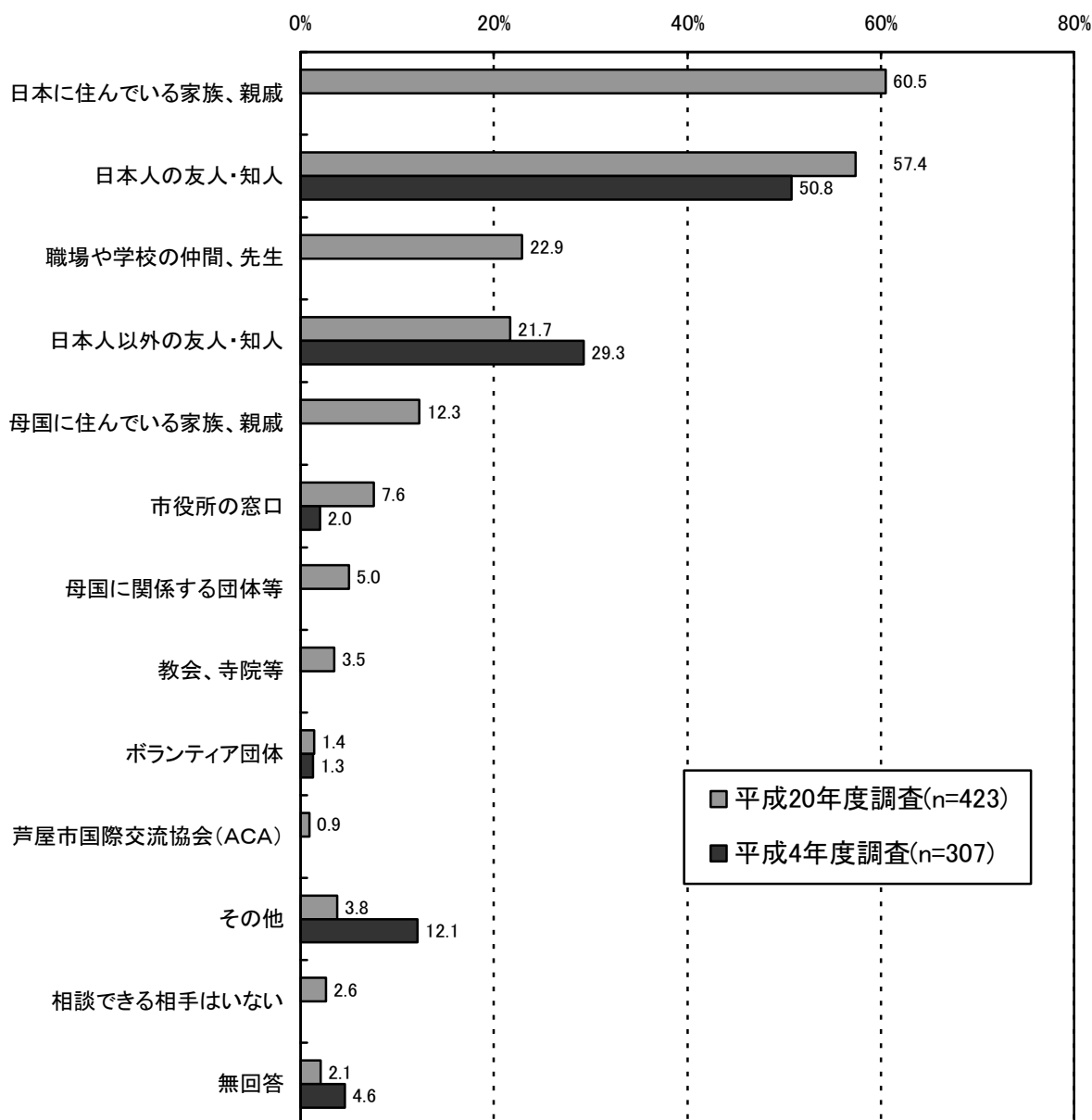
(%)

順位 通算在住年数	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
1年未満(n=16)	隣近所との付き合い／ごみの収集など身近な生活のこと／病院・診療所などのこと		物価や生活費のこと／買い物のこと		
	31.3		18.8		
1年以上5年未満 (n=62)	物価や生活費のこと	病院・診療所などのこと／風習や習慣の違い		ごみの収集など身近な生活のこと	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)
	38.7	17.7		16.1	14.5
5年以上15年未満 (n=93)	物価や生活費のこと	子どもの教育のこと	病院・診療所などのこと	風習や習慣の違い	仕事のこと
	25.8	19.4	18.3	16.1	15.1
15年以上30年未満 (n=61)	物価や生活費のこと	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)	仕事のこと／子どもの教育のこと／病院・診療所などのこと		
	29.5	13.1	11.5		
30年以上55年未満 (n=114)	物価や生活費のこと	仕事のこと	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)／子どもの教育のこと		住宅のこと
	31.6	14.9	10.5		7.0
55年以上(n=72)	物価や生活費のこと	住宅のこと	住まいや近所の自然環境(騒音・振動など)	仕事のこと	病院・診療所などのこと／買い物のこと
	27.8	11.1	9.7	8.3	5.6

## 1-8. 困った時の相談相手（複数回答）

Q8 あなたは困ったことなどを解決するときに、どなたに相談していますか。（○はいくつでも）

図 1-15



困った時の相談相手では、「日本に住んでいる家族、親戚」が60.5%で最も高く、以下「日本人の友人・知人」57.4%、「職場や学校の仲間、先生」22.9%となっている。また、「その他」として、『大使館、領事館』や『芦屋市商工会』などをあげている。（図 1-15）

国籍別では、韓国・朝鮮、中国、北米、ヨーロッパ及びオセアニアの人は「日本に住んでいる家族、親戚」が最も高く、東南アジア、中南米及び西・南アジア、中近東の人は「日本人の友人・知人」が最も高くなっている。（表 1-21）

性別では、男女とも「日本に住んでいる家族、親戚」が6割前後と最も高く、男性は、「職場や学校の仲間、先生」、女性は「母国に住んでいる家族、親戚」の割合が高く、差がみられる。（表 1-22）

年齢別では、年齢層が低いほど「母国に住んでいる家族、親戚」、「日本人以外の友人・知人」及び「職場や学校の仲間、先生」の割合が高くなっている。(表 1-22)

職業別では、「日本に住んでいる家族、親戚」と「日本人の友人・知人」が上位を占めている。また、「職場や学校の仲間、先生」では、「学生」、「常勤の勤め人」及び「パート・アルバイト」の人で高くなっている。(表 1-23)

通算在住年数別では、在住年数が短い人ほど「日本人以外の友人・知人」や「職場や学校の仲間、先生」の割合は高くなっている。一方、在住年数が長い人ほど「日本に住んでいる家族、親戚」や「市役所の窓口」の割合は高くなっている。(表 1-24)

日本語《会話能力》別では、「会話できる人」ほど「日本人以外の友人・知人」の割合は低い。また、「日本人の友人・知人」は会話能力に関係なく高い割合となっている。(表 1-25)

表 1-21 【国籍別】困った時の相談相手

(%)

国籍	相談相手	日本に住んでいる家族、親戚	母国に住んでいる家族、親戚	日本人以外の友人・知人	日本人以外の友人・知人	市役所の窓口	母国に関する団体等	協会(A C A)	芦屋市国際交流	教会、寺院等	ボランティア団体	職場や学校の仲間、先生	その他	相談できない相手	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)		69.5	6.5	57.1	8.4	8.4	7.1	0.0	0.6	0.0	8.4	2.6	4.5	3.2	
中国 (n=99)		59.6	14.1	52.5	17.2	5.1	2.0	1.0	1.0	1.0	23.2	4.0	2.0	3.0	
北米 (n=33)		66.7	15.2	57.6	45.5	12.1	0.0	3.0	15.2	0.0	42.4	9.1	0.0	0.0	
ヨーロッパ (n=37)		64.9	10.8	51.4	27.0	5.4	2.7	0.0	2.7	5.4	35.1	2.7	5.4	0.0	
オセアニア (n=8)		62.5	37.5	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	
東南アジア (n=32)		40.6	25.0	56.3	40.6	9.4	9.4	3.1	3.1	0.0	43.8	0.0	0.0	0.0	
中南米 (n=16)		50.0	6.3	75.0	25.0	6.3	6.3	6.3	12.5	0.0	25.0	6.3	0.0	0.0	
西・南アジア、中近東 (n=13)		30.8	30.8	61.5	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	
その他 (n=4)		50.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	

表 1-22 【性別・年齢別】困った時の相談相手

(%)

相談相手 性別・年齢	日本に住んでいる家族、親戚	母国に住んでいる家族、親戚	日本人の友人・知人	日本人以外の友人・知人	市役所の窓口	母国に関する団体等	芦屋市国際交流協会（ACCA）	教会、寺院等	ボランティア団体	職場や学校の仲間、先生	その他	相談できる相手はいない	無回答
男性 (n=194)	61.9	7.7	58.2	24.2	8.2	6.7	0.5	2.6	1.0	27.8	4.6	2.6	1.0
女性 (n=223)	59.6	16.1	56.5	19.3	6.7	2.7	1.3	3.6	1.3	18.4	2.7	2.7	2.7
20歳未満 (n=1)	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=45)	48.9	17.8	55.6	40.0	2.2	6.7	0.0	0.0	0.0	51.1	4.4	0.0	0.0
30～39歳 (n=102)	67.6	14.7	57.8	26.5	3.9	1.0	1.0	0.0	1.0	30.4	2.9	1.0	0.0
40～49歳 (n=109)	55.0	18.3	61.5	17.4	3.7	3.7	0.9	0.9	1.8	22.9	2.8	3.7	1.8
50～59歳 (n=77)	58.4	7.8	62.3	18.2	9.1	3.9	2.6	11.7	2.6	13.0	2.6	3.9	3.9
60歳以上 (n=83)	68.7	1.2	48.2	13.3	18.1	9.6	0.0	3.6	0.0	6.0	6.0	2.4	3.6

表 1-23 【職業別】困った時の相談相手

(%)

相談相手 職業	日本に住んでいる家族、親戚	母国に住んでいる家族、親戚	日本人の友人・知人	日本人以外の友人・知人	市役所の窓口	母国に関する団体等	芦屋市国際交流協会（ACCA）	教会、寺院等	ボランティア団体	職場や学校の仲間、先生	その他	相談できる相手はいない	無回答
自営業 (n=68)	57.4	14.7	64.7	14.7	5.9	10.3	1.5	2.9	1.5	7.4	8.8	1.5	1.5
常勤の勤め人（フルタイム） (n=113)	54.0	8.0	64.6	26.5	2.7	3.5	1.8	3.5	1.8	38.1	1.8	2.7	0.0
パート・アルバイト (n=54)	61.1	7.4	57.4	14.8	22.2	0.0	0.0	9.3	0.0	22.2	3.7	7.4	1.9
専業主婦・家事手伝い (n=69)	73.9	18.8	47.8	26.1	4.3	1.4	1.4	1.4	2.9	4.3	1.4	0.0	1.4
無職 (n=37)	83.8	8.1	29.7	8.1	10.8	16.2	0.0	2.7	0.0	8.1	0.0	2.7	0.0
学生 (n=33)	42.4	24.2	60.6	33.3	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	3.0	0.0	0.0
公務員 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=42)	59.5	7.1	66.7	23.8	9.5	2.4	0.0	0.0	0.0	16.7	7.1	2.4	9.5

表 1-24 【通算在住年数別】困った時の相談相手

(%)

相談相手 通算在住年数	族、親戚 日本に住んでいる家	族、親戚 母国に住んでいる家	日本人の友人・知人	知人 日本人以外の友人・知人	市役所の窓口	等 母国に関する団体	(A C A) 芦屋市国際交流協会	教会、寺院等	ボランティア団体	先生 職場や学校の仲間、	その他	ない 相談できる相手はい	無回答
1年未満 (n=16)	31.3	0.0	87.5	56.3	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	62.5	0.0	0.0	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	45.2	19.4	48.4	30.6	4.8	3.2	0.0	1.6	0.0	45.2	3.2	0.0	0.0
5年以上15年未満 (n=93)	57.0	24.7	52.7	29.0	3.2	1.1	3.2	2.2	2.2	26.9	2.2	1.1	1.1
15年以上30年未満 (n=61)	54.1	16.4	73.8	29.5	6.6	4.9	0.0	9.8	1.6	24.6	8.2	3.3	1.6
30年以上55年未満 (n=114)	74.6	4.4	62.3	11.4	7.0	3.5	0.9	3.5	0.9	14.0	1.8	5.3	2.6
55年以上 (n=72)	69.4	1.4	44.4	5.6	19.4	11.1	0.0	0.0	0.0	1.4	5.6	2.8	4.2

表 1-25 【日本語《会話能力》別】困った時の相談相手

(%)

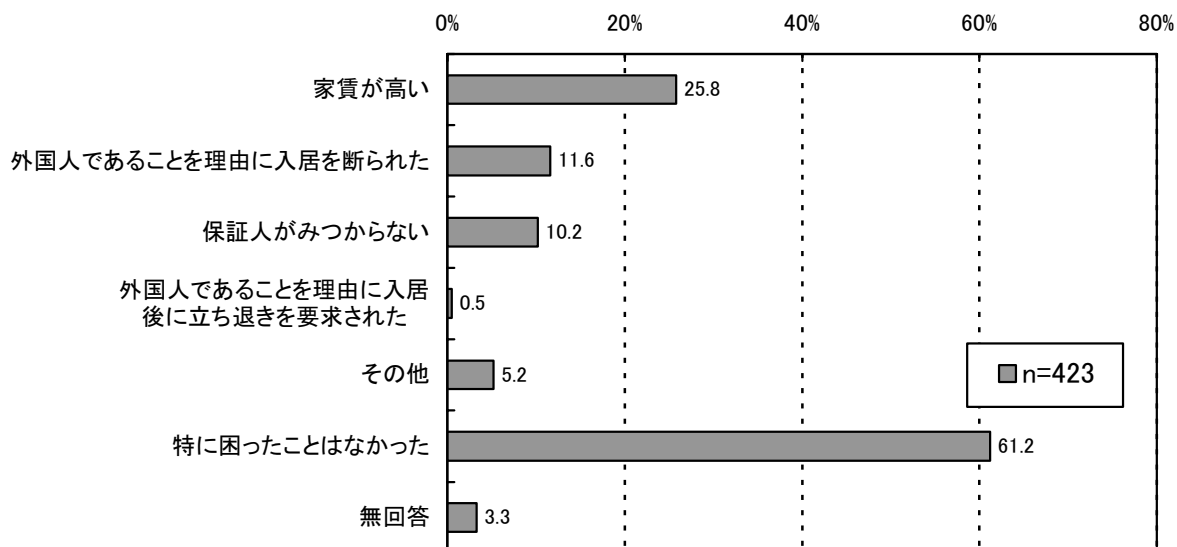
相談相手 会話能力	族、親戚 日本に住んでいる家	族、親戚 母国に住んでいる家	日本人の友人・知人	知人 日本人以外の友人・知人	市役所の窓口	等 母国に関する団体	(A C A) 芦屋市国際交流協会	教会、寺院等	ボランティア団体	先生 職場や学校の仲間、	その他	ない 相談できる相手はい	無回答
自分の考えをまとめて発表することができる(n=230)	66.5	10.0	62.2	15.2	8.3	5.2	0.9	2.2	0.4	16.5	3.0	3.0	2.6
仕事をするのに不自由のない会話ができる(n=51)	54.9	13.7	66.7	29.4	2.0	3.9	0.0	5.9	0.0	27.5	3.9	3.9	0.0
簡単な日常の会話ならできる(n=73)	56.2	21.9	38.4	31.5	5.5	1.4	1.4	2.7	4.1	31.5	2.7	2.7	0.0
決まったあいさつだけならできる(n=19)	31.6	5.3	57.9	36.8	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0	52.6	10.5	0.0	0.0
ほとんど話せない(n=6)	16.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0



## 1-9. 住宅に関して困っていること・困った経験（複数回答）

Q9 住宅に関することで困っていること、困った経験があればお聴かせください。（〇はいくつでも）

図 1-16



住宅に関することで困っていること、困った経験として、「家賃が高い」が25.8%、以下「外国人であることを理由に入居を断られた」11.6%、「保証人がみつからない」10.2%となっている。「特に困ったことはなかった」は61.2%となっている。また、「その他」として、『住宅が狭い』、『住宅が古い』や『芦屋市の固定資産税が高すぎる』などをあげている。（図 1-16）

国籍別では、オセアニアの人を除くいずれの国籍の人も「家賃が高い」という割合が最も高い。中国や東南アジアの人は、「保証人がみつからない」という割合も比較的高くなっている。（表 1-26）

職業別では、学生は「家賃が高い」が半数を超しており、「保証人がみつからない」も36.4%となっている。（表 1-27）

住まい別では、「借家（民間賃貸）」や「公営住宅」に住んでいる人は、「家賃が高い」と回答しており、それぞれ39.8%、41.7%となっている。また、「借家（民間賃貸）」では、「外国人であることを理由に入居を断られた」や「保証人がみつからない」の割合もそれぞれ16.9%、12.7%となっており、外国人の住宅事情がうかがえる。（表 1-28）

表 1-26 【国籍別】住宅に関して困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (住宅) 国籍	家賃が高い	外国人であること を理由に入居 を断られた	外国人であること を理由に入居 後に立ち退きを 要求された	保証人がみつか らない	その他	特に困ったこと はなかった	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	24.0	13.0	0.0	5.8	1.9	59.1	7.1
中国 (n=99)	32.3	9.1	0.0	15.2	5.1	58.6	0.0
北米 (n=33)	18.2	12.1	3.0	6.1	9.1	69.7	0.0
ヨーロッパ (n=37)	21.6	10.8	0.0	10.8	5.4	73.0	0.0
オセアニア (n=8)	12.5	50.0	0.0	25.0	0.0	37.5	12.5
東南アジア (n=32)	34.4	12.5	3.1	15.6	6.3	56.3	0.0
中南米 (n=16)	18.8	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	23.1	7.7	0.0	7.7	23.1	69.2	0.0
その他 (n=4)	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0

表 1-27 【職業別】住宅に関して困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (住宅) 職業	家賃が高い	外国人であること を理由に入居 を断られた	外国人であること を理由に入居 後に立ち退きを 要求された	保証人がみつか らない	その他	特に困ったこと はなかった	無回答
自営業 (n=68)	22.1	16.2	0.0	13.2	5.9	55.9	7.4
常勤の勤め人 (フルタ イム) (n=113)	21.2	7.1	0.0	7.1	8.0	68.1	0.0
パート・アルバイト (n=54)	37.0	13.0	1.9	9.3	3.7	50.0	1.9
専業主婦・家事手伝い (n=69)	15.9	11.6	0.0	4.3	1.4	72.5	2.9
無職 (n=37)	24.3	13.5	0.0	10.8	2.7	56.8	8.1
学生 (n=33)	57.6	15.2	0.0	36.4	6.1	36.4	0.0
公務員 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=42)	23.8	11.9	2.4	2.4	7.1	71.4	2.4

表 1-28 【住まい別】住宅に関して困っていること・困った経験

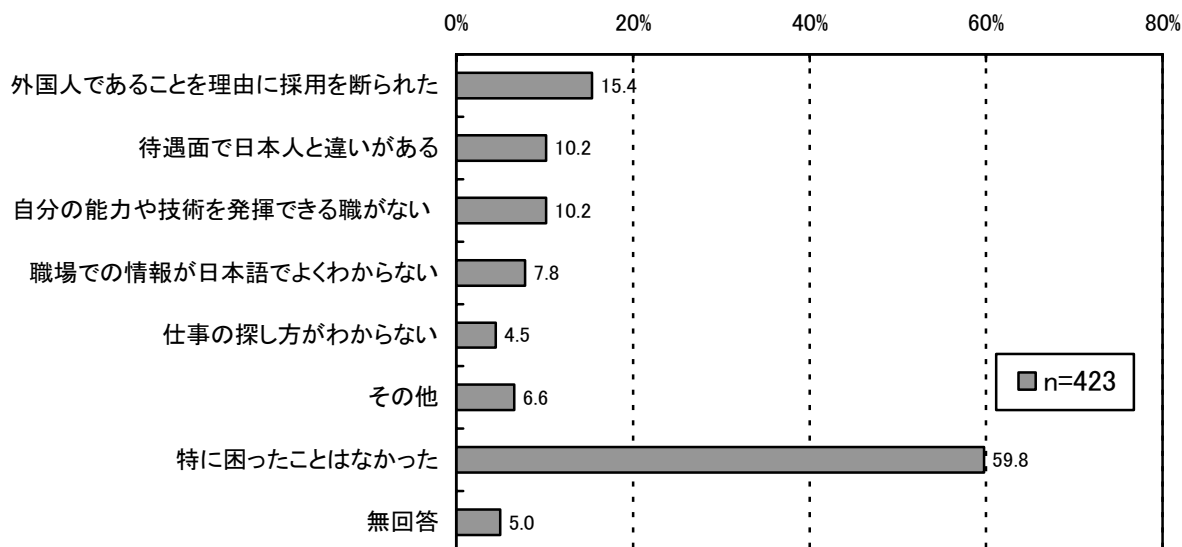
(%)

困ったこと（住宅） 職業	家賃が高い	外国人であること を理由に入居 を断られた	外国人であるこ とを理由に入居 後に立ち退きを 要求された	保証人がみつか らない	その他	特に困ったこと はなかった	無回答
持ち家 (n=183)	9.3	9.3	0.5	7.1	3.8	74.3	4.4
借家（民間賃貸） (n=118)	39.8	16.9	0.8	12.7	6.8	45.8	1.7
公営住宅 (n=60)	41.7	5.0	0.0	5.0	6.7	51.7	3.3
社宅・社員寮 (n=24)	12.5	4.2	0.0	8.3	8.3	91.7	0.0
学生寮 (n=8)	37.5	50.0	0.0	50.0	0.0	37.5	0.0
その他 (n=22)	54.5	18.2	0.0	22.7	4.5	40.9	0.0

## 1-10. 仕事について困っていること・困った経験（複数回答）

Q10 仕事について困っていること、困った経験があればお聴かせください。（○はいくつでも）

図 1-17



仕事について困っていること、困った経験として、「外国人であることを理由に採用を断られた」が 15.4%で最も高く、以下「待遇面で日本人と違いがある」及び「自分の能力や技術を発揮できる職がない」がそれぞれ 10.2%となっている。「特に困ったことはなかった」は 59.8%となっている。また、「その他」として、『高年齢であること』や『外国人であることを理由に様々な会議などに参加させてもらえない』などをあげている。（図 1-17）

国籍別では、国籍によって意見が分かれており、韓国・朝鮮や西・南アジア、中近東の人は「外国人であることを理由に採用を断られた」、中国や東南アジアの人は「外国人であることを理由に採用を断られた」や「自分の能力や技術を発揮できる職がない」など、北米や中南米の人は「自分の能力や技術を発揮できる職がない」の割合が高い。また、ヨーロッパの人は「特に困ったことはなかった」が 73.0%と高くなっている。（表 1-29）

性別では、女性は「仕事の探し方がわからない」や「自分の能力や技術を発揮できる職がない」が男性より高くなっている。（表 1-30）

年齢別では、「仕事の探し方がわからない」、「外国人であることを理由に採用を断られた」、「職場での情報が日本語でよくわからない」や「自分の能力や技術を発揮できる職がない」は年齢層が低いほど割合は高くなっている。（表 1-30）

職業別では、「自営業」、「パート・アルバイト」や「学生」の人は「外国人であることを理由に採用を断られた」の割合が高くなっている。（表 1-31）

通算在住年数別では、在住年数が「1年未満」及び「5年以上」の人は、「外国人であることを理由に採用を断られた」の割合が高い。また、「1年以上5年未満」の人は「仕事の探し方がわからない」が他の在住年数の人より高くなっている。（表 1-32）

日本語能力別では、日本語能力に関係なく、「特に困ったことはなかった」という人が4割～6割となっている。（表 1-33～表 1-36）

表 1-29 【国籍別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事) 国籍	仕事の探し方がわからない	外国人であることを理由に採用を断られた	待遇面で日本人と違いがある	職場での情報が日本語でよくわからない	職を發揮できる術がない	自分の能力や技術を發揮できる	その他	特に困ったことはなかった	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	3.2	21.4	9.1	1.3	3.2	2.6	63.0	8.4	
中国 (n=99)	5.1	14.1	14.1	10.1	14.1	6.1	55.6	1.0	
北米 (n=33)	3.0	3.0	12.1	12.1	18.2	12.1	60.6	6.1	
ヨーロッパ (n=37)	0.0	8.1	8.1	8.1	8.1	10.8	73.0	2.7	
オセアニア (n=8)	0.0	12.5	0.0	12.5	25.0	12.5	50.0	12.5	
東南アジア (n=32)	9.4	15.6	6.3	15.6	15.6	9.4	53.1	0.0	
中南米 (n=16)	6.3	12.5	12.5	6.3	18.8	12.5	56.3	0.0	
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	23.1	7.7	7.7	7.7	15.4	61.5	0.0	
その他 (n=4)	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	

表 1-30 【性別・年齢別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事) 性別・年齢	仕事の探し方がわからない	外国人であることを理由に採用を断られた	待遇面で日本人と違いがある	職場での情報が日本語でよくわからない	職を發揮できる術がない	自分の能力や技術を發揮できる	その他	特に困ったことはなかった	無回答
男性 (n=194)	0.0	16.0	10.8	8.8	7.7	5.2	66.5	3.6	
女性 (n=223)	8.1	14.8	9.4	6.7	12.1	8.1	54.7	5.8	
20歳未満 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
20～29歳 (n=45)	8.9	20.0	20.0	17.8	13.3	8.9	44.4	0.0	
30～39歳 (n=102)	8.8	15.7	8.8	10.8	15.7	7.8	52.9	2.9	
40～49歳 (n=109)	2.8	14.7	7.3	7.3	9.2	4.6	64.2	6.4	
50～59歳 (n=77)	1.3	14.3	16.9	3.9	9.1	10.4	61.0	3.9	
60歳以上 (n=83)	1.2	14.5	3.6	2.4	3.6	3.6	72.3	7.2	

表 1-31 【職業別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事) 職業	仕事の探し方がわからない	外国人であることを理由に採用を断られた	待遇面で日本人と違いがある	職場での情報が日本語でよくわからない	自分の能力や技術を發揮できる職がない	その他	特に困ったことはなかった	無回答
自営業 (n=68)	1.5	25.0	10.3	1.5	5.9	2.9	64.7	5.9
常勤の勤め人 (フルタイム) (n=113)	0.9	8.8	5.3	8.0	4.4	6.2	75.2	1.8
パート・アルバイト (n=54)	1.9	24.1	16.7	9.3	24.1	9.3	48.1	0.0
専業主婦・家事手伝い (n=69)	13.0	11.6	7.2	5.8	14.5	2.9	52.2	7.2
無職 (n=37)	5.4	8.1	13.5	5.4	8.1	5.4	56.8	13.5
学生 (n=33)	9.1	27.3	21.2	21.2	9.1	12.1	39.4	3.0
公務員 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=42)	2.4	9.5	7.1	9.5	9.5	14.3	64.3	2.4

表 1-32 【通算在住年数別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事) 通算在住年数	仕事の探し方がわからない	外国人であることを理由に採用を断られた	待遇面で日本人と違いがある	職場での情報が日本語でよくわからない	自分の能力や技術を發揮できる職がない	その他	特に困ったことはなかった	無回答
1年未満 (n=16)	6.3	25.0	18.8	12.5	0.0	6.3	50.0	12.5
1年以上5年未満 (n=62)	12.9	3.2	12.9	19.4	17.7	8.1	46.8	4.8
5年以上15年未満 (n=93)	7.5	15.1	8.6	9.7	15.1	10.8	55.9	3.2
15年以上30年未満 (n=61)	1.6	18.0	11.5	13.1	18.0	13.1	54.1	1.6
30年以上55年未満 (n=114)	0.9	18.4	12.3	0.9	4.4	2.6	67.5	4.4
55年以上 (n=72)	0.0	16.7	2.8	0.0	1.4	1.4	73.6	8.3

表 1-33 【日本語《読む能力》別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事)	仕事 の探し 方が わから ない	外国 人であ るこ とを理 由に採 用を断 られた	待遇 面で日 本人 と違い がある	職場 での情 報が 日本語 でよく わか らない	職 場での 情報 が 日本語 でよく わか らない	自 分の能 力や技 術を 発揮 でき る 職 が ない	そ の 他	特 に困 った こと はな かつ た	無 回 答
新聞や雑誌が読める (n=238)	2.1	20.2	9.2	2.1	10.1	5.0	61.3	4.6	
漢字がまじった簡単な 文章が読める (n=48)	2.1	12.5	16.7	18.8	10.4	6.3	54.2	8.3	
店で売っているもの の名前や広告が読める (n=15)	6.7	6.7	0.0	13.3	13.3	13.3	60.0	0.0	
ひらがな・カタカナは 読める (n=38)	15.8	5.3	13.2	15.8	13.2	10.5	44.7	2.6	
ほとんど読めない (n=29)	0.0	6.9	6.9	10.3	13.8	13.8	65.5	6.9	

表 1-34 【日本語《書く能力》別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事)	仕事 の探し 方が わから ない	外国 人であ るこ とを理 由に採 用を断 られた	待遇 面で日 本人 と違い がある	職場 での情 報が 日本語 でよく わか らない	職 場での 情報 が 日本語 でよく わか らない	自 分の能 力や技 術を 発揮 でき る 職 が ない	そ の 他	特 に困 った こと はな かつ た	無 回 答
漢字を使ってまとまっ た文章が書ける (n=217)	2.3	20.3	12.0	3.7	10.6	4.1	60.8	4.1	
手紙が書ける (n=31)	0.0	19.4	12.9	6.5	16.1	12.9	51.6	9.7	
簡単なメモが書ける (n=44)	6.8	9.1	9.1	11.4	11.4	9.1	52.3	4.5	
ひらがな・カタカナは だいたい書ける (n=46)	13.0	4.3	6.5	17.4	10.9	10.9	58.7	4.3	
ほとんど書けない (n=43)	2.3	11.6	9.3	11.6	11.6	11.6	62.8	4.7	

表 1-35 【日本語《聴く能力》別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

困ったこと (仕事) 聴く能力	わからない 仕事の探し方が	外国人であること を理由に採用 を断られた	待遇面で日本人 と違いがある	職場での情報が よくわからない	自分の能力や技 術を發揮できる 職がない	その他	特に困ったこと はなかった	無回答
テレビのニュースやドラマなどがわかる (n=263)	2.7	19.0	9.9	4.2	8.7	5.7	61.2	4.9
日常の会話ならわかる (n=55)	3.6	10.9	7.3	14.5	12.7	5.5	60.0	1.8
相手がゆっくり話してくれたらわかる (n=25)	8.0	8.0	20.0	16.0	16.0	12.0	44.0	0.0
単語だけ聞き取れる (n=23)	13.0	13.0	8.7	13.0	21.7	17.4	47.8	8.7
ほとんど聞き取れない (n=8)	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	50.0	12.5

表 1-36 【日本語《会話能力》別】仕事について困っていること・困った経験

(%)

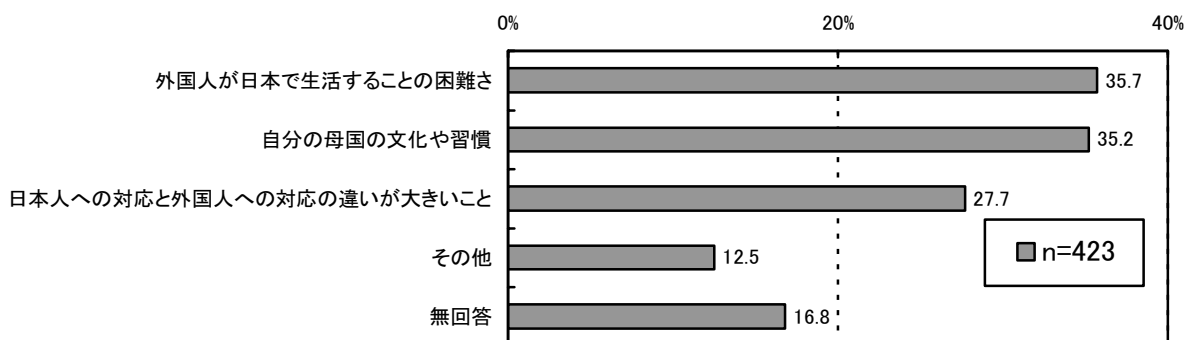
困ったこと (仕事) 会話能力	わからない 仕事の探し方が	外国人であること を理由に採用 を断られた	待遇面で日本人 と違いがある	職場での情報が よくわからない	自分の能力や技 術を發揮できる 職がない	その他	特に困ったこと はなかった	無回答
自分の考えをまとめて 発表することができる (n=230)	1.7	20.0	10.9	3.0	8.3	4.3	62.6	4.8
仕事をするのに不自由 のない会話ができる (n=51)	5.9	13.7	2.0	7.8	7.8	9.8	68.6	3.9
簡単な日常の会話なら できる (n=73)	4.1	9.6	11.0	16.4	12.3	9.6	50.7	1.4
決まったあいさつだけ ならできる (n=19)	15.8	10.5	21.1	15.8	36.8	15.8	36.8	10.5
ほとんど話せない (n=6)	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	66.7	0.0



## 1-11. 日本人に理解してほしいこと（複数回答）

Q11 母国や外国人のことで、日本人に理解してほしいことはありますか。（○はいくつでも）

図 1-18



母国や外国人のことで、日本人に理解してほしいこととして、「外国人が日本で生活することの困難さ」が 35.7%と最も高く、以下「自分の母国の文化や習慣」35.2%、「日本人への対応と外国人への対応の違いが大きいこと」27.7%となっている。また、「その他」として、『選挙権がないこと』、『差別や偏見が多いこと』や『日本に住んでいる外国人は多いということ』などをあげている。（図 1-18）

国籍別では、中国の人は「自分の母国の文化や習慣」が最も高くなっている。（表 1-37）

通算在住年数別では、在住年数が長い人ほど「外国人が日本で生活することの困難さ」をあげている割合が低くなっている。（表 1-38）

出生地別では、「母国生まれの人」は「日本生まれの人」より「自分の母国の文化や習慣」、「日本人への対応と外国人への対応の違いが大きいこと」や「外国人が日本で生活することの困難さ」でいずれも高くなっている。（表 1-39）

表 1-37 【国籍別】日本人に理解してほしいこと

(%)

国籍	理解してほしいこと	自分の母国の文化や習慣	日本人への対応と外国人への対応の違いが大きいこと	外国人が日本で生活することの困難さ	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)		32.5	26.0	32.5	16.9	16.9
中国 (n=99)		43.4	27.3	40.4	11.1	13.1
北米 (n=33)		24.2	24.2	24.2	18.2	33.3
ヨーロッパ (n=37)		27.0	27.0	29.7	2.7	32.4
オセアニア (n=8)		12.5	50.0	50.0	0.0	25.0
東南アジア (n=32)		40.6	37.5	50.0	3.1	6.3
中南米 (n=16)		50.0	25.0	50.0	6.3	6.3
西・南アジア、中近東 (n=13)		30.8	30.8	30.8	23.1	0.0
その他 (n=4)		75.0	0.0	0.0	25.0	0.0

表 1-38 【通算在住年数別】日本人に理解してほしいこと

(%)

理解してほしいこと 通算在住年数	化 自 や 分 習 自 慣 分 の の 母 国 の 文	い 応 こ と 外 と 日 大 本 き 人 の へ 対 応 応 の の 違 違 い い が が 大 大 き き	困 生 外 難 活 国 さ す 人 事 が 事 本 で	そ の 他	無 回 答
1 年未満 (n=16)	37.5	37.5	43.8	0.0	12.5
1 年以上 5 年未満 (n=62)	41.9	30.6	45.2	11.3	11.3
5 年以上 1 5 年未満 (n=93)	36.6	35.5	40.9	10.8	9.7
1 5 年以上 3 0 年未満 (n=61)	32.8	31.1	41.0	9.8	14.8
3 0 年以上 5 5 年未満 (n=114)	36.8	27.2	27.2	14.0	19.3
5 5 年以上 (n=72)	29.2	9.7	27.8	18.1	29.2

表 1-39 【出生地別】日本人に理解してほしいこと

(%)

理解してほしいこと 出生地	化 自 や 分 習 自 慣 自 の の 母 国 の 文	い 応 こ と 外 と 日 大 本 き 人 の へ 対 応 応 の の 違 違 い い が が 大 大 き き	困 生 外 難 活 国 さ す 人 事 が 事 本 で	そ の 他	無 回 答
日本 (n=151)	33.1	23.2	30.5	17.9	19.2
母国 (n=251)	37.8	28.7	39.4	9.6	14.3
その他の国 (n=13)	30.8	53.8	38.5	7.7	15.4

## 1-12. 緊急時の連絡電話番号（110番・119番）認知度

Q12 あなたは緊急時に連絡をとるための次のような電話番号を知っていますか。（それぞれ○は1つだけ）

図 1-19 【平成 20 年度調査】緊急時の連絡電話番号（110 番・119 番）認知度

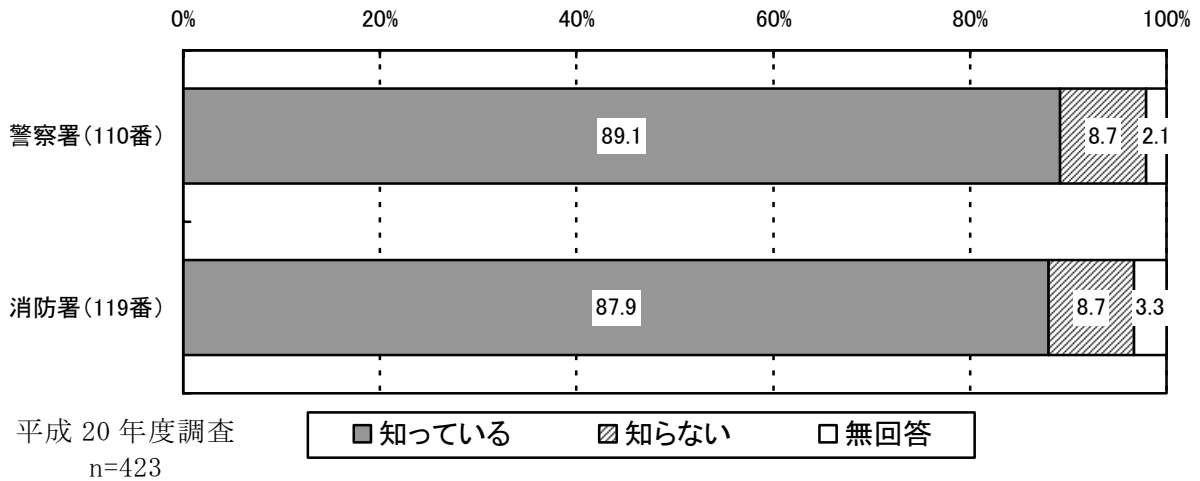
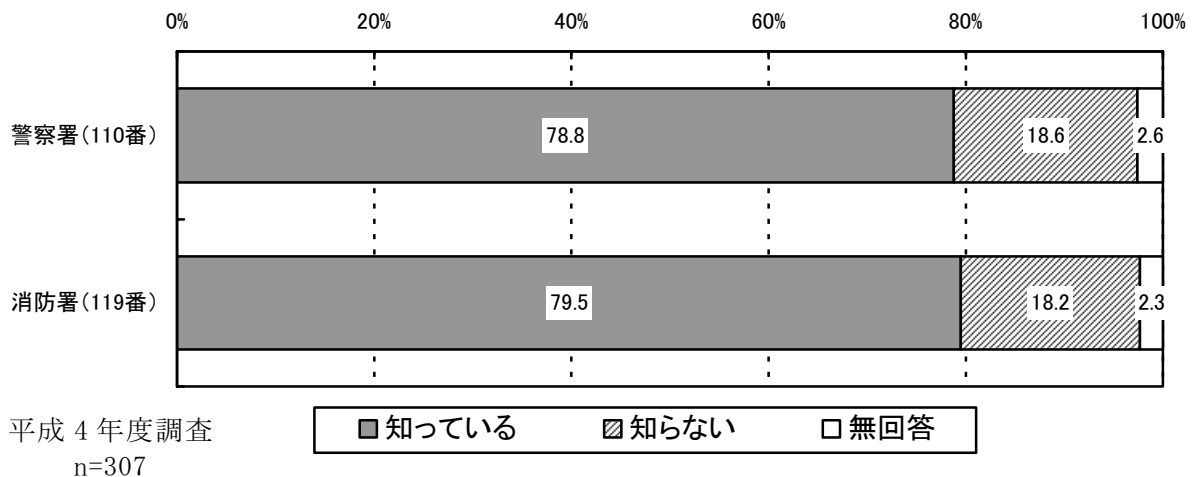


図 1-20 【平成 4 年度調査】緊急時の連絡電話番号（110 番・119 番）認知度



警察署、消防署の緊急時の連絡電話番号を「知っている」人は、ともに約 9 割を占めている。(図 1-19)

前回調査との比較では、警察署、消防署ともに前回調査より認知度は高くなっている。(図 1-20)

国籍別では、韓国・朝鮮、中国及び西・南アジア、中近東の人は他の国籍の人と比べて認知度は高い。(図 1-21)

通算在住年数別では、在住年数が長くなるほど認知度は高くなっている。(図 1-22)

図 1-21 【国籍別】緊急時の連絡電話番号（110番・119番）認知度

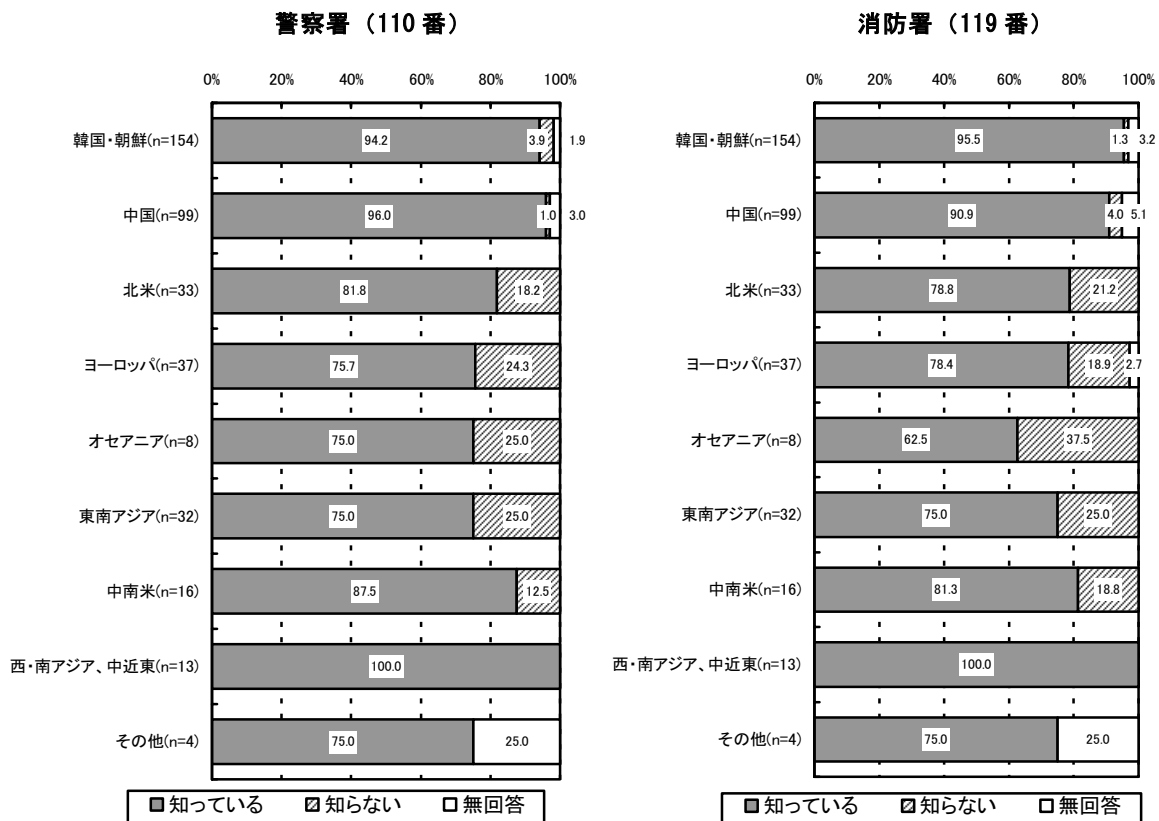
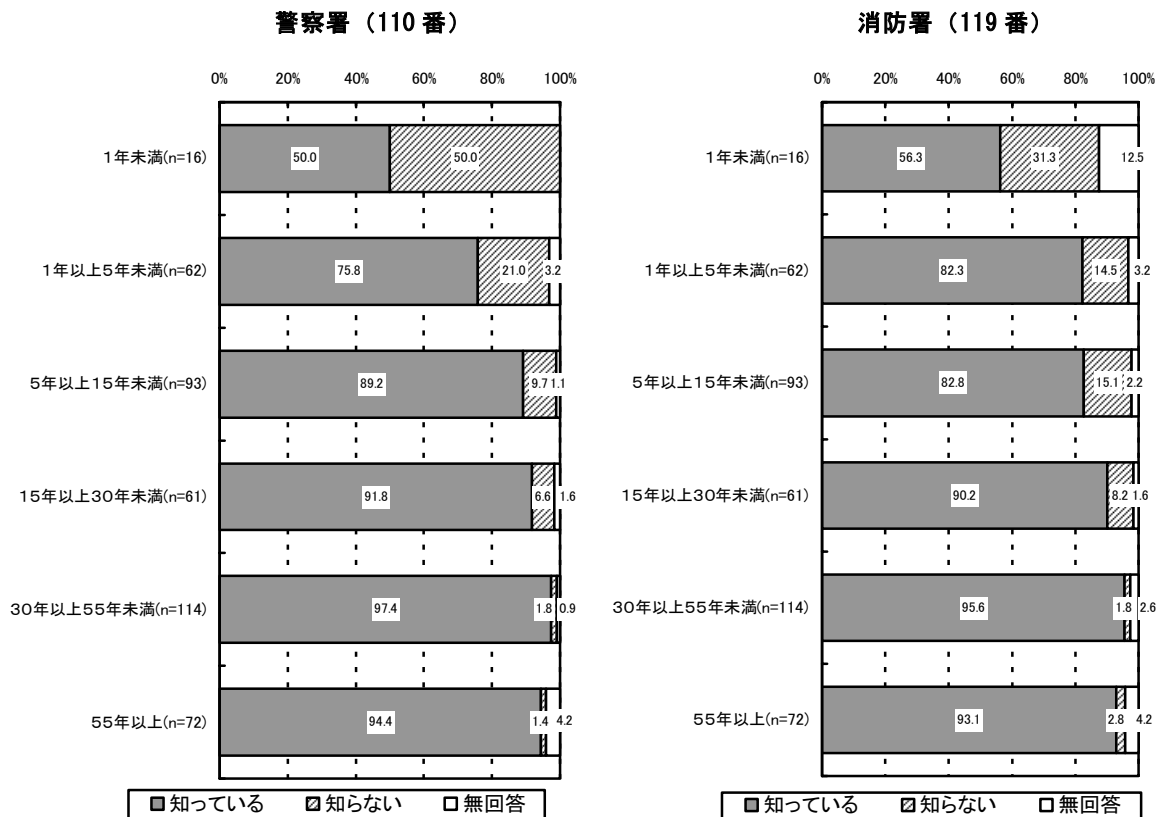


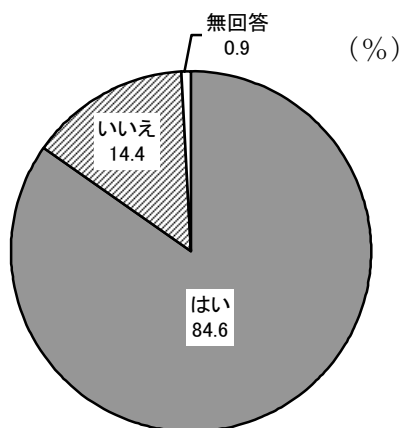
図 1-22 【通算在住年数別】緊急時の連絡電話番号（110番・119番）認知度



### 1-13. 救急車の呼び方の認知度

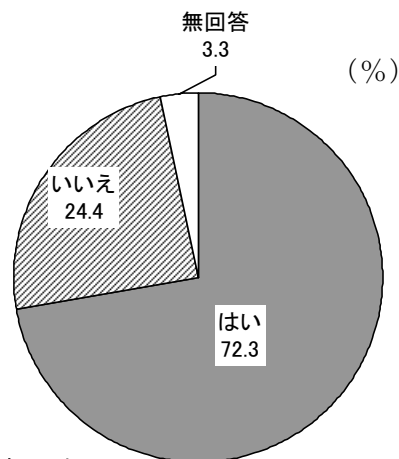
Q13 あなたは119番で救急車を呼べることを知っていますか。(○は1つだけ)

図 1-23



平成 20 年度調査  
n=423

図 1-24



平成 4 年度調査  
n=307

「知っている」人は 84.6%となっており、Q12 の問である警察署、消防署の連絡電話番号の認知度より低く、警察署、消防署の連絡先を知っているが、救急車の呼び方は知らない人がいる。(図 1-23)

前回調査との比較では、「知っている」人の割合は前回調査より 12.3 ポイント高くなっている。(図 1-24)

国籍別では、韓国・朝鮮、中国及び西・南アジア、中近東の人は他の国籍の人と比べて認知度は高く、8割を超えている。(図 1-25)

通算在住年数別では、在住年数が長い人ほど認知度は高くなっている。「1年未満」の人の認知度は 43.8%となっている。(図 1-26)

図 1-25 【国籍別】救急車の呼び方の認知度

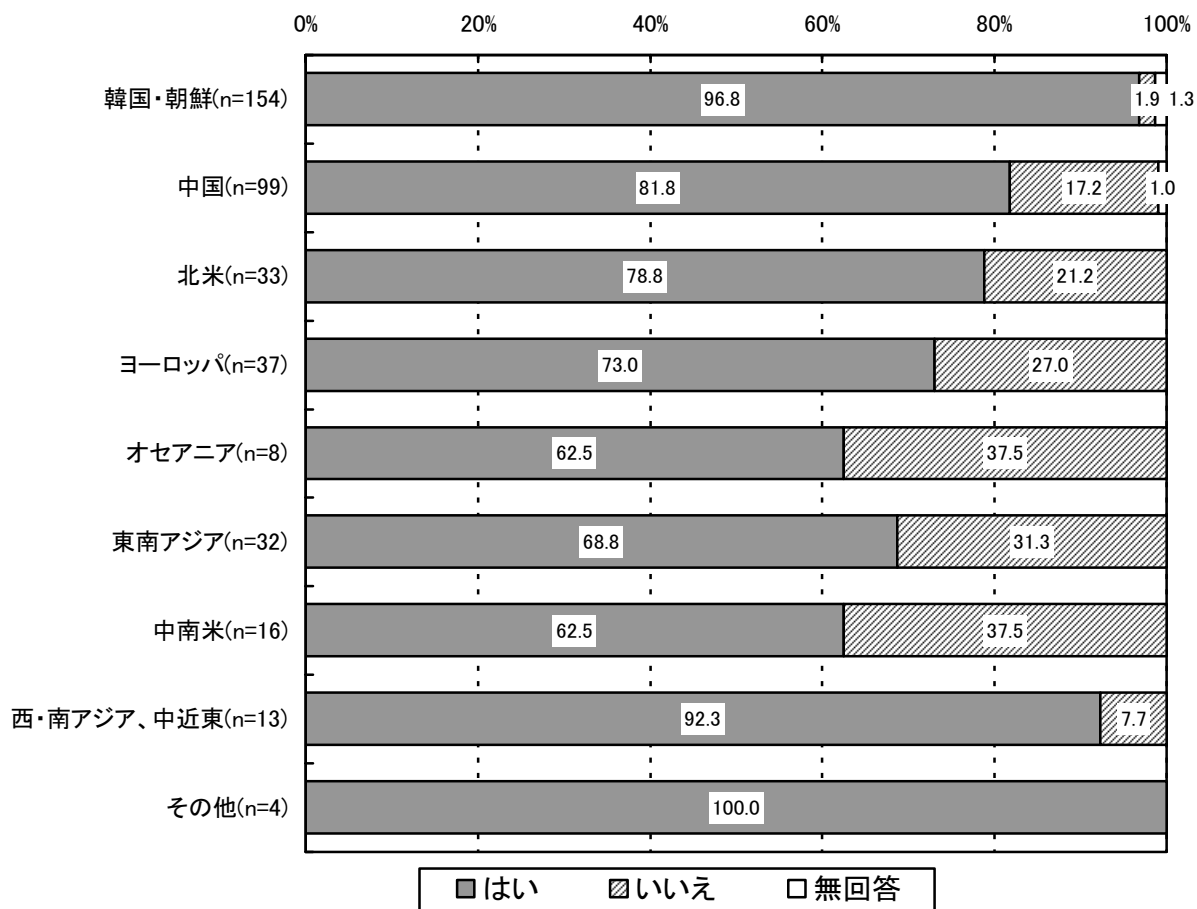
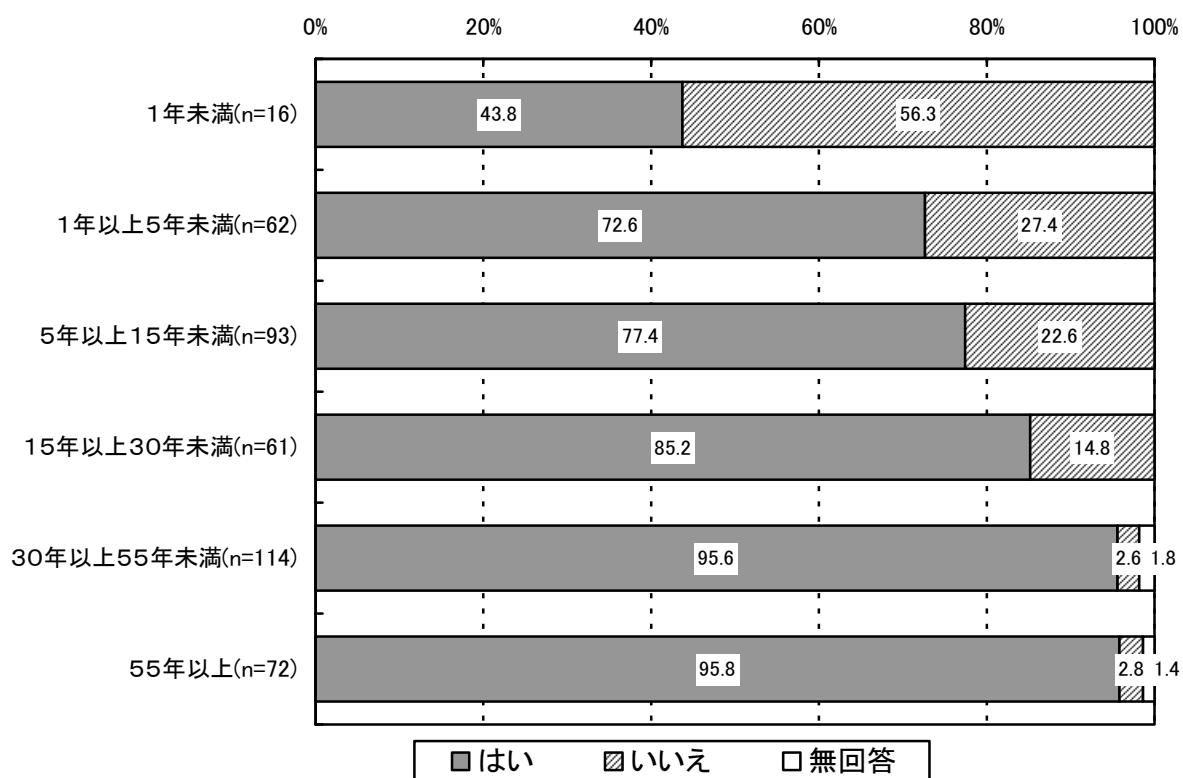


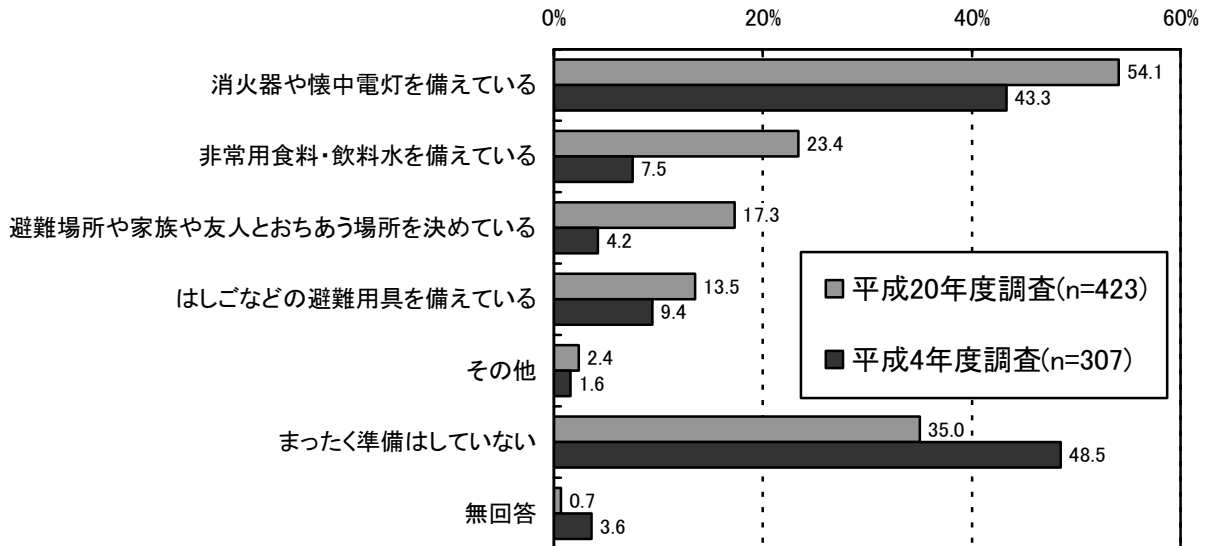
図 1-26 【通算在住年数別】救急車の呼び方の認知度



## 1-14. 災害への備え（複数回答）

Q14 あなたのいえでは、すいがい、かさい、さいがい、そな、なに、じゆんが、水害や火災などの災害に備えて何か準備していますか。（○はいくつでも）

図 1-27



災害への備えでは、「消火器や懐中電灯を備えている」が 54.1%と最も高く、以下「非常用食料・飲料水を備えている」23.4%、「避難場所や家族や友人とおちあう場所を決めている」17.3%となっている。「まったく準備はしていない」は 35.0%である。（図 1-27）

前回調査との比較では、災害に備えた準備の割合はいずれの項目でも前回調査より高く、「消火器や懐中電灯を備えている」、「非常用食料・飲料水を備えている」や「避難場所や家族や友人とおちあう場所を決めている」は大きく増加している。（図 1-27）

国籍別では、「消火器や懐中電灯を備えている」という人は、韓国・朝鮮、中国、北米、ヨーロッパ及び西・南アジア、中近東の人に多く、東南アジアや中南米の人は「消火器や懐中電灯を備えている」という人の割合も比較的高いが、「まったく準備はしていない」という割合も高くなっている。また、ヨーロッパの人は「はしごなどの避難用具を備えている」、西・南アジア、中近東の人は「避難場所や家族や友人とおちあう場所を決めている」という割合も高い。東南アジアや中南米の人は「まったく準備はしていない」が最も高くなっている。（表 1-40）

通算在住年数別では、在住年数が短い人ほど「まったく準備はしていない」という割合が高い。全在住年数をとおして、「消火器や懐中電灯を備えている」の割合は高いが、これ以外の災害に備えての準備は在住年数に応じた傾向はあまりみられない。（表 1-41）

表 1-40 【国籍別】災害への備え

(%)

国籍	災害への準備 いる	難用はしごなどの避 具を備えて	る料非常用食料・飲 水を備えてい	灯消火器や懐中電 を備えている	うや避難場所や家族 場所を決めてあ	その他	まったく準備は していない	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	10.4	18.8	61.7	15.6	1.9	27.9	1.3	
中国 (n=99)	12.1	21.2	53.5	18.2	0.0	37.4	0.0	
北米 (n=33)	18.2	33.3	51.5	21.2	6.1	36.4	0.0	
ヨーロッパ (n=37)	27.0	35.1	48.6	16.2	2.7	37.8	0.0	
オセアニア (n=8)	12.5	25.0	37.5	12.5	12.5	50.0	0.0	
東南アジア (n=32)	18.8	21.9	37.5	18.8	3.1	43.8	0.0	
中南米 (n=16)	18.8	25.0	43.8	6.3	0.0	50.0	0.0	
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	15.4	46.2	30.8	7.7	38.5	0.0	
その他 (n=4)	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0	0.0	

表 1-41 【通算在住年数別】災害への備え

(%)

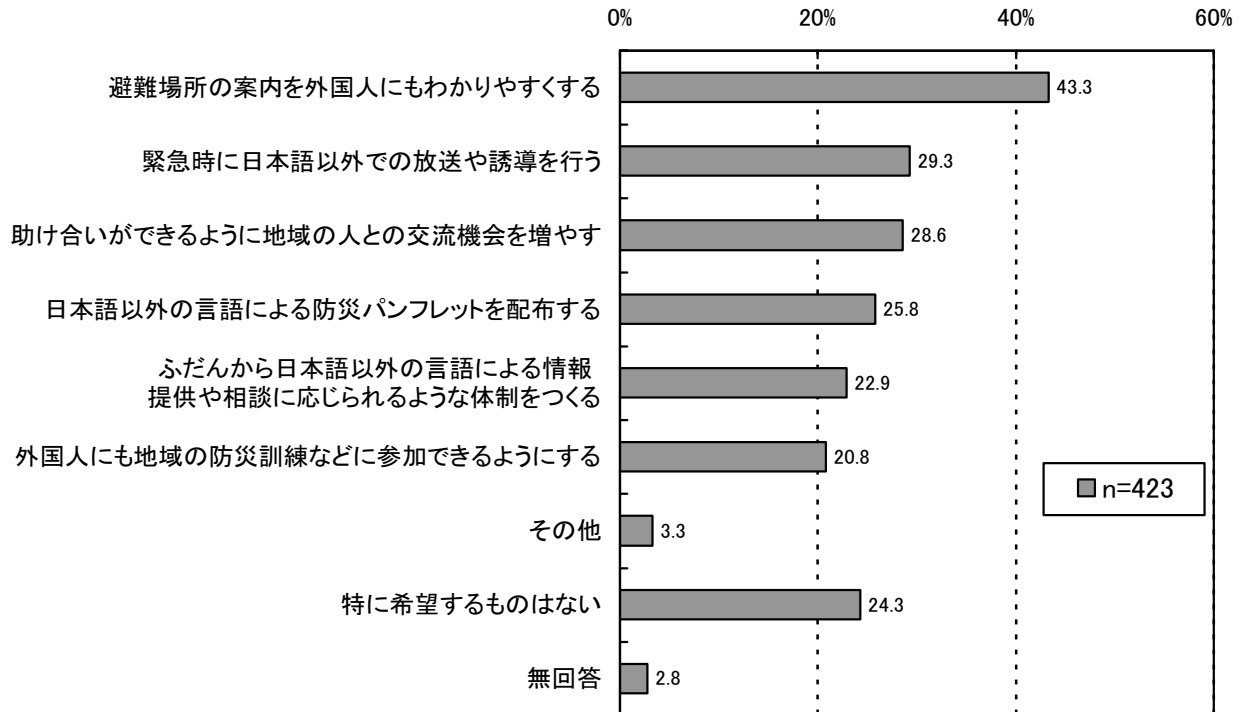
通算在住年数	災害への準備 いる	難用はしごなどの避 具を備えて	る料非常用食料・飲 水を備えてい	灯消火器や懐中電 を備えている	うや避難場所や家族 場所を決めてあ	その他	まったく準備は していない	無回答
1年未満 (n=16)	6.3	25.0	37.5	18.8	6.3	50.0	0.0	
1年以上5年未満 (n=62)	17.7	14.5	43.5	19.4	4.8	43.5	0.0	
5年以上15年未満 (n=93)	14.0	20.4	50.5	12.9	2.2	41.9	0.0	
15年以上30年未満 (n=61)	13.1	34.4	54.1	18.0	3.3	32.8	0.0	
30年以上55年未満 (n=114)	13.2	23.7	52.6	19.3	0.9	36.8	0.9	
55年以上 (n=72)	11.1	26.4	75.0	16.7	1.4	13.9	1.4	



## 1-15. 芦屋市や地域に望む緊急時の対応（複数回答）

Q15 緊急時の対応について、芦屋市や地域に望むのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

図 1-28



芦屋市や地域に望む緊急時の対応として、「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」が 43.3%と最も高く、以下「緊急時に日本語以外での放送や誘導を行う」29.3%、「助け合いができるように地域の人との交流機会を増やす」28.6%となっている。「特に希望するものはない」は 24.3%となっている。（図 1-28）

国籍別では、いずれの国籍の人でも「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」が最も高くなっている。ヨーロッパの人は、「日本語以外の言語による防災パンフレットを配布する」、東南アジアや中南米の人は「ふだんから日本語以外の言語による情報提供や相談に応じられるような体制をつくる」という割合が高い。韓国・朝鮮や中国の人は「特に希望するものはない」という割合が高い。（表 1-42）

通算在住年数別では、在住年数が短い人ほど「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」、「日本語以外の言語による防災パンフレットを配布する」、「ふだんから日本語以外の言語による情報提供や相談に応じられるような体制をつくる」及び「緊急時に日本語以外での放送や誘導を行う」の割合は高くなっている。また、在住年数が長い人ほど「特に希望するものはない」の割合が高くなっている。（表 1-43）

調査票回答言語別では、特に「英語」や「スペイン語」で回答した人は「日本語以外の言語による防災パンフレットを配布する」が高くなっている。（表 1-44）

表 1-42 【国籍別】 芦屋市や地域に望む緊急時の対応

(%)

緊急時の対応 国籍	避難場所の案内を外国人にも わかりやすくする	日本語以外の言語による防災 パンフレットを配布する	ふだんから日本語以外の言語 による情報提供や相談に応じ られるような体制をつくる	緊急時に日本語以外での放送 や誘導を行う	助け合いができるように地域 の人との交流機会を増やす	外国人にも地域の防災訓練な どに参加できるようにする	その他	特に希望するものはない	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	30.5	11.7	11.0	16.2	26.0	10.4	1.9	34.4	6.5
中国 (n=99)	39.4	21.2	21.2	30.3	31.3	21.2	1.0	30.3	0.0
北米 (n=33)	57.6	36.4	36.4	48.5	21.2	21.2	9.1	15.2	0.0
ヨーロッパ (n=37)	59.5	51.4	24.3	40.5	13.5	32.4	5.4	18.9	0.0
オセアニア (n=8)	87.5	75.0	50.0	75.0	50.0	37.5	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	56.3	37.5	40.6	40.6	34.4	31.3	3.1	9.4	3.1
中南米 (n=16)	75.0	50.0	56.3	56.3	43.8	50.0	0.0	6.3	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	69.2	30.8	38.5	23.1	46.2	23.1	7.7	0.0	0.0
その他 (n=4)	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0

表 1-43 【通算在住年数別】 芦屋市や地域に望む緊急時の対応

(%)

緊急時の対応 通算在住年数	避難場所の案内を外国人にも わかりやすくする	日本語以外の言語による防災 パンフレットを配布する	ふだんから日本語以外の言語 による情報提供や相談に応じ られるような体制をつくる	緊急時に日本語以外での放送 や誘導を行う	助け合いができるように地域 の人との交流機会を増やす	外国人にも地域の防災訓練な どに参加できるようにする	その他	特に希望するものはない	無回答
1年未満 (n=16)	75.0	56.3	56.3	81.3	12.5	25.0	6.3	0.0	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	54.8	43.5	33.9	41.9	29.0	33.9	3.2	16.1	1.6
5年以上15年未満 (n=93)	52.7	29.0	22.6	34.4	30.1	20.4	2.2	21.5	0.0
15年以上30年未満 (n=61)	41.0	26.2	27.9	32.8	37.7	26.2	4.9	18.0	3.3
30年以上55年未満 (n=114)	42.1	21.1	21.1	23.7	26.3	15.8	3.5	23.7	2.6
55年以上 (n=72)	18.1	5.6	5.6	6.9	26.4	11.1	1.4	48.6	6.9

表 1-44 【調査票回答言語別】芦屋市や地域に望む緊急時の対応

(%)

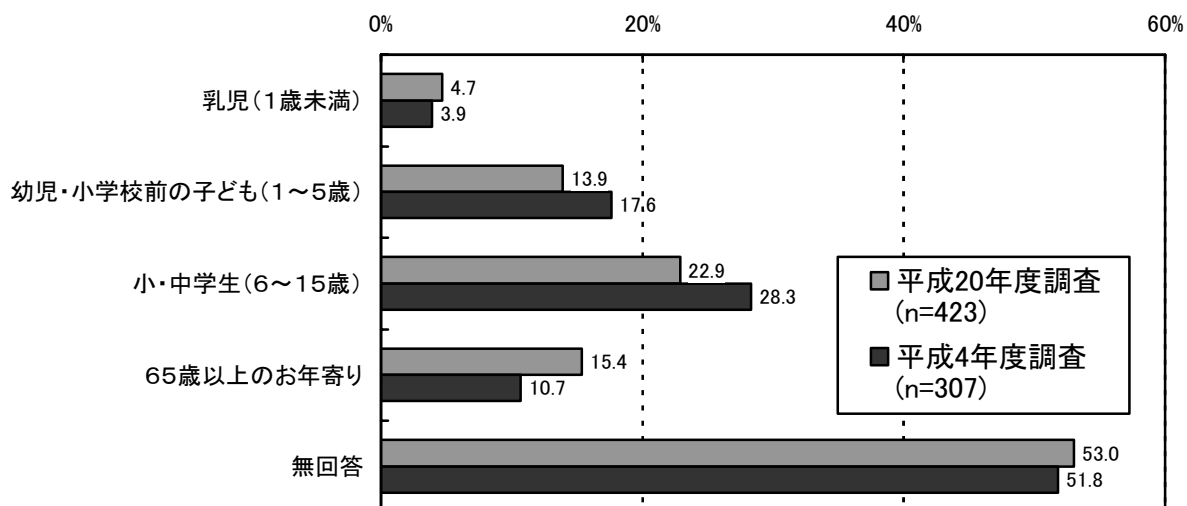
緊急時の対応 調査票回答言語	避難場所の案内を外国人にも わかりやすくする	日本語以外の言語による防災 パンフレットを配布する	ふだんから日本語以外の言語 による情報提供や相談に応じ られるような体制をつくる	緊急時に日本語以外での放送 や誘導を行う	助け合いができるように地域 の人との交流機会を増やす	外国人にも地域の防災訓練な どに参加できるようにする	その他	特に希望するものはない	無回答
日本語 (n=246)	33.3	9.3	11.4	17.1	26.8	15.4	2.8	33.3	4.1
英語 (n=95)	66.3	55.8	41.1	52.6	28.4	31.6	5.3	8.4	1.1
中国語 (n=37)	48.6	40.5	40.5	43.2	27.0	21.6	0.0	24.3	0.0
韓国・朝鮮語 (n=24)	33.3	29.2	16.7	29.2	33.3	8.3	8.3	12.5	4.2
スペイン語 (n=17)	52.9	47.1	52.9	41.2	41.2	47.1	0.0	5.9	0.0
ポルトガル語 (n=4)	75.0	75.0	50.0	50.0	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0

## 2. お子さんについて

### 2-1. 同居家族（複数回答）

Q16 同居している家族の中に次のような方はいらっしゃいますか。（〇はいくつでも）

図 2-1



現在同居している家族についてたずねた。「小・中学生（6～15歳）」がいる世帯は22.9%で最も高く、以下「65歳以上のお年寄り」15.4%、「幼児・小学校前の子ども（1～5歳）」13.9%となっている。（図 2-1）

前回調査との比較では、「乳児（1歳未満）」や「65歳以上のお年寄り」のいる世帯は前回調査よりそれぞれ0.8ポイント、4.7ポイント増加しており、「幼児・小学校前の子ども（1～5歳）」や「小・中学生（6～15歳）」はそれぞれ3.7ポイント、5.4ポイント減少している。（図 2-1）

国籍別では、中国や中南米の人を除く、いずれの国籍の人も同居する家族で「小・中学生（6～15歳）」の割合が最も高く、中国や中南米の人は同居する家族で「幼児・小学校前の子ども（1～5歳）」の割合が最も高くなっている。（表 2-1）

通算在住年数別では、在住年数が「15年以上30年未満」の世帯は「小・中学生（6～15歳）」のいる世帯が多い。また在住年数が「30年以上」の世帯は「65歳以上のお年寄り」のいる世帯が多くなっている。（表 2-2）

在住予定期間別では、在住予定期間が「1～3年」あるいは「3年以上」の世帯は「小・中学生（6～15歳）」や「幼児・小学校前の子ども（1～5歳）」のいる世帯が多く、「永住する」予定者の世帯では「小・中学生（6～15歳）」や「65歳以上のお年寄り」世帯が多くなっている。（表 2-3）

表 2-1 【国籍別】同居家族

(%)

同居家族 国籍	乳児 (1歳未満)	5 歳 の 幼 児 ・ 小 学 校 前 の 子 ど も (1 歳 以 上)	15 歳 以 上 の 小 ・ 中 学 生 (6 歳 以 上)	寄 り 65 歳 以 上 の お 年 寄 り	無 回 答
韓国・朝鮮 (n=154)	3.2	11.0	20.1	18.8	59.1
中国 (n=99)	5.1	17.2	14.1	17.2	50.5
北米 (n=33)	6.1	12.1	24.2	18.2	51.5
ヨーロッパ (n=37)	10.8	13.5	24.3	16.2	43.2
オセアニア (n=8)	12.5	50.0	50.0	0.0	25.0
東南アジア (n=32)	0.0	9.4	28.1	6.3	56.3
中南米 (n=16)	12.5	18.8	6.3	0.0	75.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	0.0	7.7	38.5	15.4	53.8
その他 (n=4)	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0

表 2-2 【通算在住年数別】同居家族

(%)

同居家族 通算在住年数	乳児 (1歳未満)	5 歳 の 幼 児 ・ 小 学 校 前 の 子 ど も (1 歳 以 上)	15 歳 以 上 の 小 ・ 中 学 生 (6 歳 以 上)	寄 り 65 歳 以 上 の お 年 寄 り	無 回 答
1年未満 (n=16)	0.0	12.5	37.5	12.5	56.3
1年以上5年未満 (n=62)	6.5	19.4	16.1	4.8	59.7
5年以上15年未満 (n=93)	7.5	24.7	24.7	4.3	48.4
15年以上30年未満 (n=61)	1.6	11.5	39.3	3.3	52.5
30年以上55年未満 (n=114)	6.1	11.4	24.6	25.4	48.2
55年以上 (n=72)	1.4	2.8	5.6	34.7	59.7

表 2-3 【在住予定期間別】同居家族

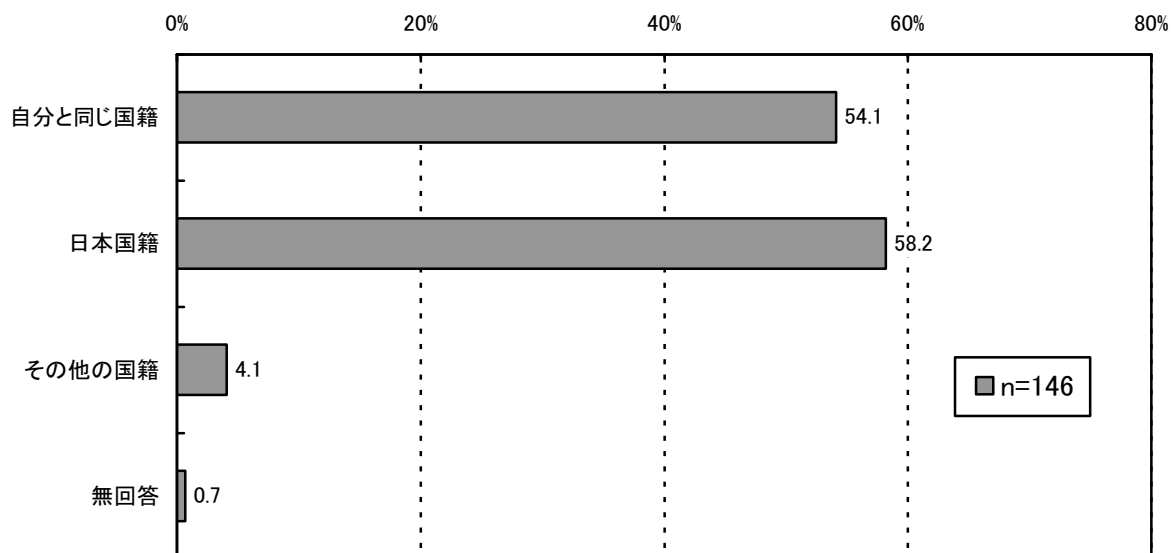
(%)

同居家族 在住予定期間	乳児 (1歳未満)	5歳 の 幼 児 ・ 小 学 校 前 の 子 ど も (1 〜 5 歳)	小・中学生 (6 〜 15 歳)	65歳以上のお年 寄り	無回答
1年未満 (n=11)	0.0	27.3	0.0	18.2	54.5
1〜3年 (n=28)	3.6	25.0	39.3	3.6	50.0
3年以上 (n=40)	12.5	12.5	15.0	0.0	62.5
永住する (n=259)	3.9	11.6	20.5	20.5	53.7
将来は母国に帰りたい (n=18)	0.0	22.2	22.2	16.7	44.4
よくわからない (n=56)	7.1	17.9	35.7	8.9	44.6

## 2-2. 子どもの国籍

Q17 お子さんの国籍はどれですか。(〇はいくつでも)

図 2-2



子どもの国籍では、「日本国籍」58.2%、「自分と同じ国籍」54.1%となっている。(図 2-2)  
国籍別では、韓国・朝鮮、中国、ヨーロッパ及び東南アジアの人は「自分と同じ国籍」より「日本国籍」を持つ子どもの割合が高く、また、オセアニアや西・南アジア、中近東の人は、「自分と同じ国籍」と「日本国籍」を持つ子どもの割合は同じである。北米や中南米の人は「日本国籍」より「自分と同じ国籍」を持つ子どもの割合が高くなっている。(表 2-4)

通算在住年数別では、在住年数が「5年未満」の人の子どもでは、「日本国籍」を持つ子どもより「自分と同じ国籍」を持つ子どもの割合は高く、逆に在住年数が「5年以上」の人の子どもでは、「自分と同じ国籍」を持つ子どもより「日本国籍」を持つ子どもの割合は高くなっている。(表 2-5)

在住予定期間別では、永住する人の子どもは「日本国籍」を持つ子どもの割合が高くなっている。(表 2-6)

出生地別では、出生地が母国の人は「日本国籍」より「自分と同じ国籍」を持つ子どもの割合が高くなっている。(表 2-7)

表 2-4 【国籍別】子どもの国籍

(%)

子どもの国籍 国籍	自分と同じ国籍	日本国籍	その他の国籍	無回答
韓国・朝鮮 (n=40)	50.0	55.0	0.0	0.0
中国 (n=34)	38.2	58.8	8.8	0.0
北米 (n=11)	81.8	72.7	9.1	0.0
ヨーロッパ (n=16)	68.8	81.3	0.0	0.0
オセアニア (n=6)	66.7	66.7	0.0	0.0
東南アジア (n=12)	41.7	58.3	0.0	0.0
中南米 (n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=5)	60.0	60.0	0.0	0.0
その他 (n=3)	33.3	100.0	0.0	0.0

表 2-5 【通算在住年数別】子どもの国籍

(%)

子どもの国籍 通算在住年数	自分と同じ国籍	日本国籍	その他の国籍	無回答
1年未満 (n=6)	83.3	0.0	16.7	0.0
1年以上5年未満 (n=22)	77.3	31.8	0.0	0.0
5年以上15年未満 (n=45)	53.3	62.2	11.1	0.0
15年以上30年未満 (n=28)	57.1	71.4	0.0	0.0
30年以上55年未満 (n=37)	40.5	64.9	0.0	0.0
55年以上 (n=6)	16.7	83.3	0.0	0.0



表 2-6 【在住予定期間別】子どもの国籍

(%)

子どもの国籍 在住予定期間	自分と同じ国籍	日本国籍	その他の国籍	無回答
1年未満 (n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0
1～3年 (n=14)	92.9	0.0	7.1	0.0
3年以上 (n=15)	66.7	66.7	6.7	0.0
永住する (n=77)	37.7	70.1	2.6	0.0
将来は母国に帰りたい (n=7)	100.0	57.1	0.0	0.0
よくわからない (n=27)	63.0	51.9	7.4	0.0

表 2-7 【出生地別】子どもの国籍

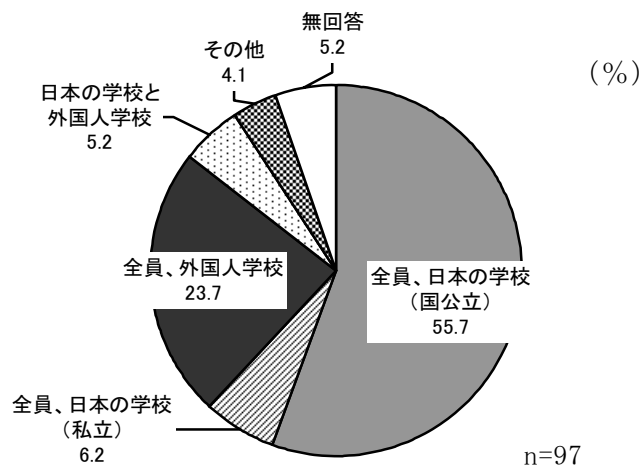
(%)

子どもの国籍 出生地	自分と同じ国籍	日本国籍	その他の国籍	無回答
日本 (n=38)	36.8	68.4	0.0	0.0
母国 (n=102)	59.8	54.9	5.9	0.0
その他の国 (n=4)	75.0	50.0	0.0	0.0

## 2-3. 小・中学生の通っている学校

Q18 小・中学生のいるお宅では、お子さんは日本の学校ですか、それとも外国人学校に通っていますか。(〇は1つだけ)

図 2-3

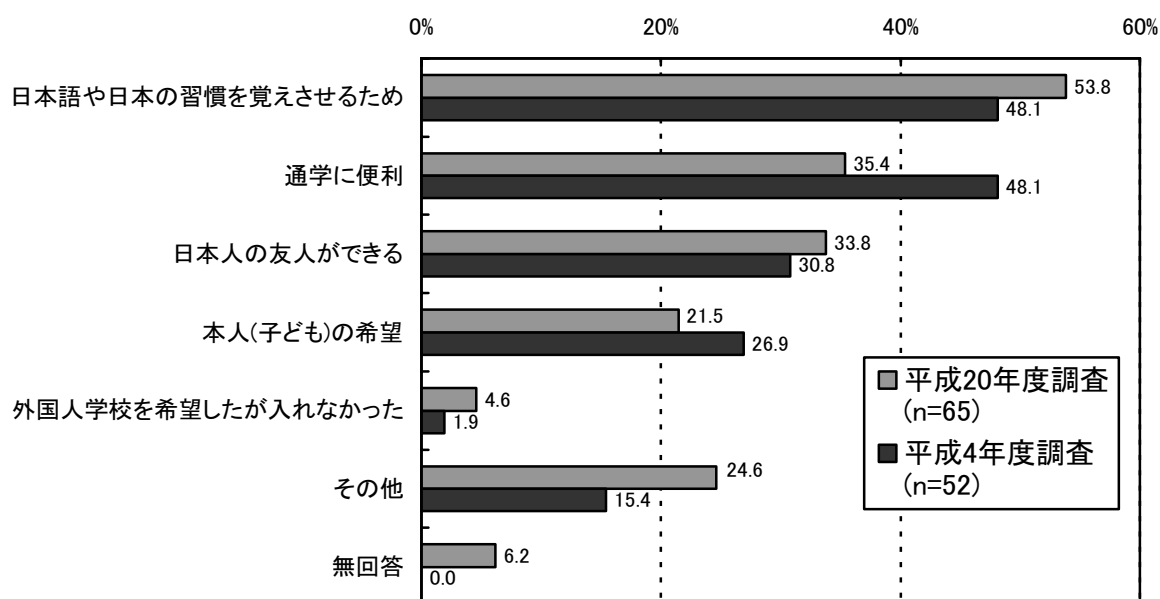


小・中学生のいる世帯で、その子どもが通う学校を回答してもらったところ、「全員、日本の学校 (国公立)」が 55.7% で、以下「全員、外国人学校」23.7%、「全員、日本の学校 (私立)」6.2% となっている。「その他」として、『カナダの学校』や『外国人学校とプリスクール』などをあげている。(図 2-3)

## 2-4. 日本の学校、外国人学校を選んだ理由（複数回答）

Q18-1 にほんがっこうえらりゆう 日本の学校を選ばれた理由は次のうちどれですか。（○はいくつでも）

図 2-4

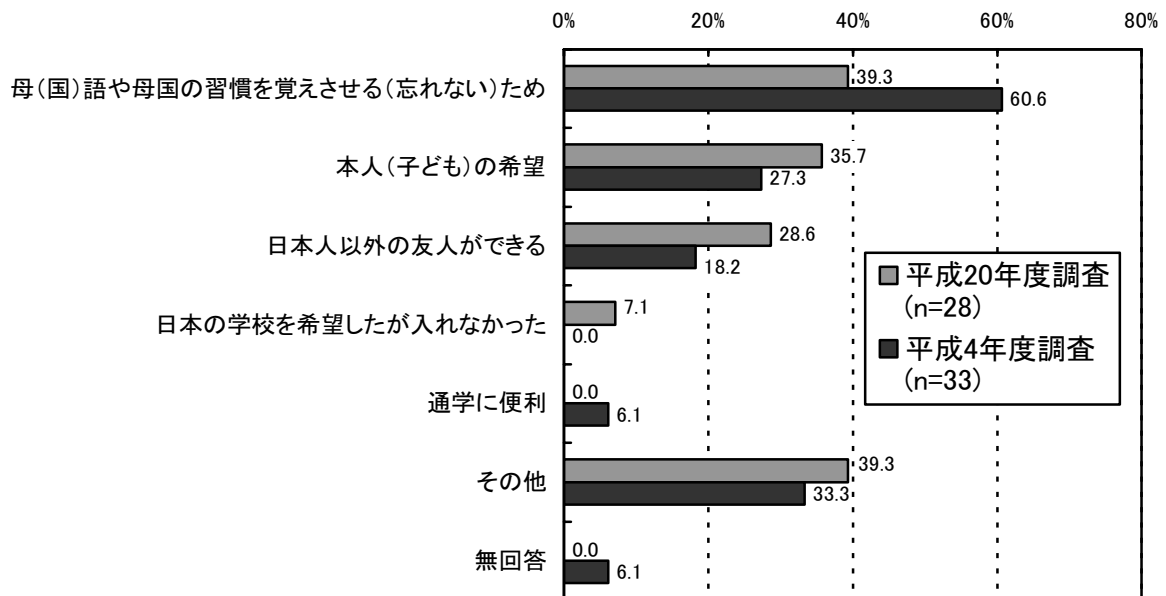


日本の学校を選んだ理由では、「日本語や日本の習慣を覚えさせるため」が 53.8%で最も高く、以下「通学に便利」35.4%、「日本人の友人ができる」33.8%となっている。また、「その他」として、『日本国籍だから』や『子どもは母国に帰ることはないと思うから』などをあげている。（図 2-4）

前回調査との比較では、「日本語や日本の習慣を覚えさせるため」、「日本人の友人ができる」や「外国人学校を希望したが入れなかった」の割合は、前回調査より増加し、「通学に便利」や「本人（子ども）の希望」の割合は減少している。（図 2-4）

Q18-2 外国人学校を選ばれた理由は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

図 2-5

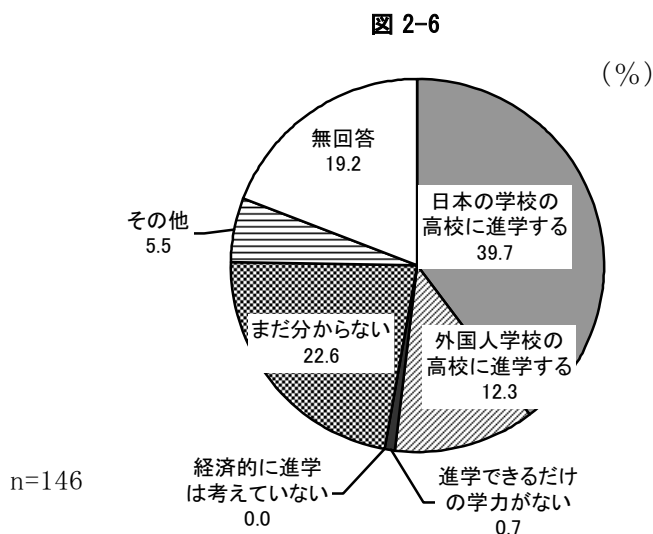


サンプル数は少ないが、外国人学校を選んだ理由として、「母（国）語や母国の習慣を覚えさせる（忘れない）ため」と「その他」はともに 39.3%と最も高く、以下「本人（子ども）の希望」35.7%となっている。また、「その他」として、『日本の教育が気に入らない』や『将来外国に住む予定』などをあげている。（図 2-5）

前回調査との比較では、「本人（子ども）の希望」や「日本人以外の友人ができる」は前回調査より増加し、「母（国）語や母国の習慣を覚えさせる（忘れない）ため」は 21.3 ポイント減少している。（図 2-5）

## 2-5. 中学校卒業後の進路

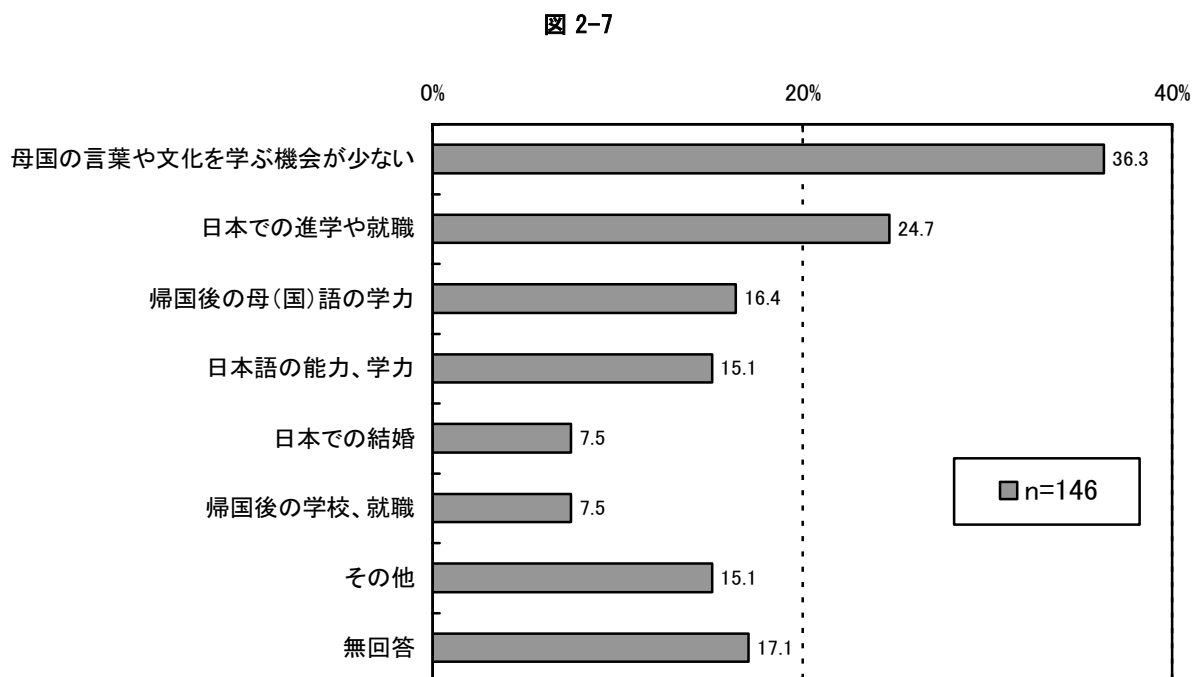
Q19 中学校卒業後の進路についてどのように考えていますか。(○は1つだけ)



子どもの中学卒業後の進路では、「日本の学校の高校に進学する」が 39.7%で最も高く、「外国人学校の高校に進学する」は 12.3%となっている。「まだ分からない」は 22.6%となっている。また、「その他」として、『中高一貫制』や『海外の学校』などをあげている。(図 2-6)

## 2-6. 子どもについて不安に思うこと (複数回答)

Q20 お子さんについて、不安に思うことはなんですか。(○はいくつでも)



子どもについて不安に思うこととして、「母国の言葉や文化を学ぶ機会が少ない」が 36.3%と最も高く、以下「日本での進学や就職」24.7%、「帰国後の母(国)語の学力」16.4%となっている。また、「その他」として、『日本の中学や高校でのいじめ』や『国籍の選択』な

などをあげている。(図 2-7)

国籍別では、韓国・朝鮮や中国の人で「母国の言葉や文化を学ぶ機会が少ない」(25.0%、64.7%)、ヨーロッパの人は「帰国後の母(国)語の学力」(37.5%)、北米の人は「日本語の能力、学力」(45.5%)、東南アジアの人は「日本での進学や就職」(58.3%)の割合で子どもについて不安に思っていることが多い。また、韓国・朝鮮、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人は「日本での結婚」で子どもの将来を不安に思っている割合が高い。(表 2-8)

通算在住年数別では、在住年数が「30年以上」の人は「日本での結婚」で不安に思う割合が高く、また、在住年数が短い人ほど「帰国後の母(国)語の学力」や「帰国後の学校、就職」で不安に思う割合が高くなっている。(表 2-9)

在住予定期間別では、「永住する」予定の人は「母国の言葉や文化を学ぶ機会が少ない」が高く、在住予定が「1～3年」の人、「3年以上」の人及び「将来は母国に帰りたい」人は「帰国後の母(国)語の学力」が高くなっている。また、「帰国後の学校、就職」では「1～3年」及び「3年以上」の人で高くなっている。(表 2-10)

表 2-8 【国籍別】子どもについて不安に思うこと

(%)

国籍	子どもへの不安 少ない	母国の言葉や文化を学ぶ機会が	日本語の能力、学力	日本での進学や就職	日本での結婚	帰国後の母(国)語の学力	帰国後の学校、就職	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=40)	25.0	7.5	20.0	15.0	10.0	2.5	17.5	30.0	
中国 (n=34)	64.7	8.8	20.6	0.0	14.7	5.9	2.9	14.7	
北米 (n=11)	9.1	45.5	9.1	0.0	0.0	9.1	27.3	9.1	
ヨーロッパ (n=16)	18.8	25.0	12.5	0.0	37.5	12.5	18.8	12.5	
オセアニア (n=6)	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0	
東南アジア (n=12)	25.0	8.3	58.3	16.7	8.3	8.3	8.3	25.0	
中南米 (n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
西・南アジア、中近東 (n=5)	40.0	40.0	60.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	

表 2-9 【通算在住年数別】子どもについて不安に思うこと

(%)

子どもへの不安 通算在住年数	少ない 母国の言葉や文 化を学ぶ機会が	学力 日本語の能力、	就職 日本での進学や	日本での結婚	帰国後の母(国) 語の学力	帰国後の学校、 就職	その他	無回答
1年未満 (n=6)	0.0	16.7	0.0	0.0	66.7	33.3	16.7	16.7
1年以上5年未満 (n=22)	18.2	13.6	22.7	4.5	18.2	13.6	18.2	18.2
5年以上15年未満 (n=45)	53.3	24.4	17.8	0.0	20.0	11.1	8.9	8.9
15年以上30年未満 (n=28)	35.7	10.7	42.9	7.1	14.3	3.6	25.0	3.6
30年以上55年未満 (n=37)	35.1	8.1	21.6	16.2	8.1	0.0	8.1	37.8
55年以上 (n=6)	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7

表 2-10 【在住予定期間別】子どもについて不安に思うこと

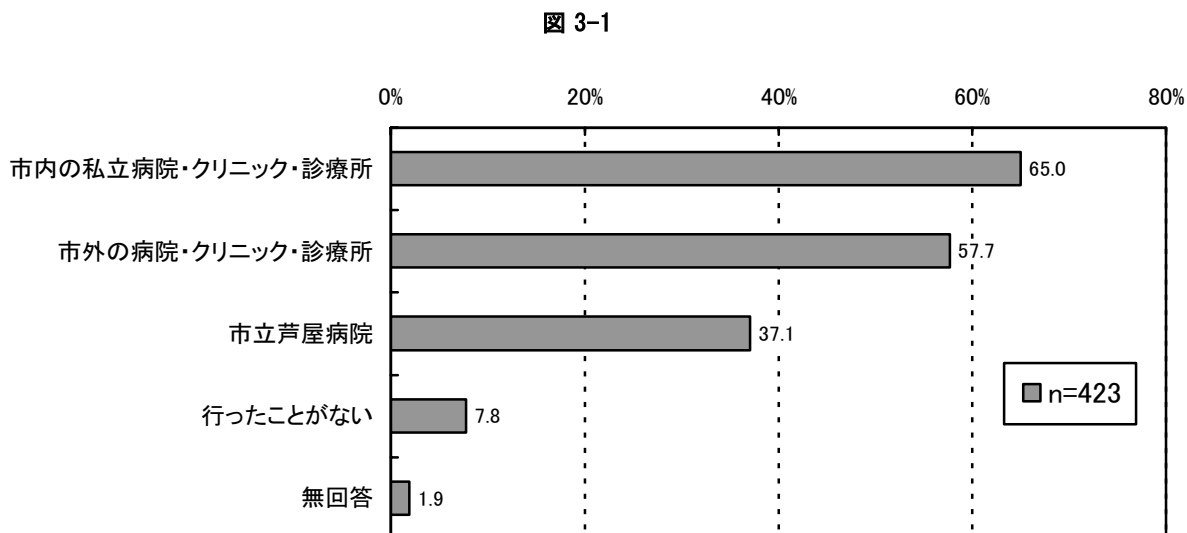
(%)

子どもへの不安 在住予定期間	少ない 母国の言葉や文 化を学ぶ機会が	学力 日本語の能力、	就職 日本での進学や	日本での結婚	帰国後の母(国) 語の学力	帰国後の学校、 就職	その他	無回答
1年未満 (n=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
1～3年 (n=14)	14.3	7.1	7.1	0.0	42.9	21.4	21.4	21.4
3年以上 (n=15)	13.3	26.7	13.3	0.0	33.3	26.7	13.3	13.3
永住する (n=77)	42.9	10.4	28.6	11.7	9.1	2.6	11.7	20.8
将来は母国に帰りたい (n=7)	28.6	14.3	28.6	0.0	42.9	14.3	14.3	0.0
よくわからない (n=27)	48.1	22.2	29.6	3.7	11.1	3.7	18.5	7.4

### 3. 医療・保険について

#### 3-1. かかったことのある病院・診療所（複数回答）

Q21 あなたがかかったことのある病院・診療所などについて、下記からお選びください。（○はいくつでも）



かかったことのある病院、診療所などでは、「市内の私立病院・クリニック・診療所」が65.0%で最も高く、以下「市外の病院・クリニック・診療所」57.7%、「市立芦屋病院」37.1%となっている。（図 3-1）

国籍別では、韓国・朝鮮、中国、北米及びオセアニアの人は「市内の私立病院・クリニック・診療所」、ヨーロッパ、東南アジア及び中南米の人は「市外の病院・クリニック・診療所」が最も高く、西・南アジア、中近東の人は「市立芦屋病院」、「市内の私立病院・クリニック・診療所」及び「市外の病院・クリニック・診療所」が同率で最も高い。ヨーロッパの人は「市立芦屋病院」も高い。また、「行ったことがない」は東南アジアや中南米の人の割合が高くなっている。（表 3-1）

年齢別では、「市立芦屋病院」の利用は、「20歳代以下」の人は「30歳代以上」の人より利用が低くなっている。また、年齢層が高くなるほど、「病院・診療所」などに「行ったことがない」という割合は低くなっている。（表 3-2）

通算在住年数別では、在住年数が短い人ほど「行ったことがない」の割合は高くなっており、「1年未満」の人は43.8%となっている。（表 3-3）



表 3-1 【国籍別】かかったことのある病院・診療所

(%)

国籍	市立 芦屋病院	市内の 私立病 院・ク リニッ ク・診 療所	市外 の病 院・ 診 療 ク	行 った こと が な い	無 回 答
韓国・朝鮮 (n=154)	34.4	70.1	56.5	4.5	2.6
中国 (n=99)	37.4	63.6	51.5	11.1	0.0
北米 (n=33)	39.4	66.7	63.6	3.0	0.0
ヨーロッパ (n=37)	43.2	64.9	73.0	10.8	2.7
オセアニア (n=8)	37.5	62.5	50.0	25.0	0.0
東南アジア (n=32)	25.0	50.0	56.3	12.5	3.1
中南米 (n=16)	37.5	43.8	68.8	12.5	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	69.2	69.2	69.2	0.0	0.0
その他 (n=4)	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0

表 3-2 【年齢別】かかったことのある病院・診療所

(%)

年齢	市立 芦屋病院	市内の 私立病 院・ク リニッ ク・診 療所	市外 の病 院・ 診 療 ク	行 った こと が な い	無 回 答
20歳未満 (n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=45)	17.8	40.0	51.1	15.6	0.0
30～39歳 (n=102)	31.4	70.6	55.9	10.8	1.0
40～49歳 (n=109)	41.3	67.9	61.5	8.3	1.8
50～59歳 (n=77)	35.1	55.8	61.0	5.2	2.6
60歳以上 (n=83)	51.8	75.9	55.4	2.4	2.4

表 3-3 【通算在住年数別】かかったことのある病院・診療所

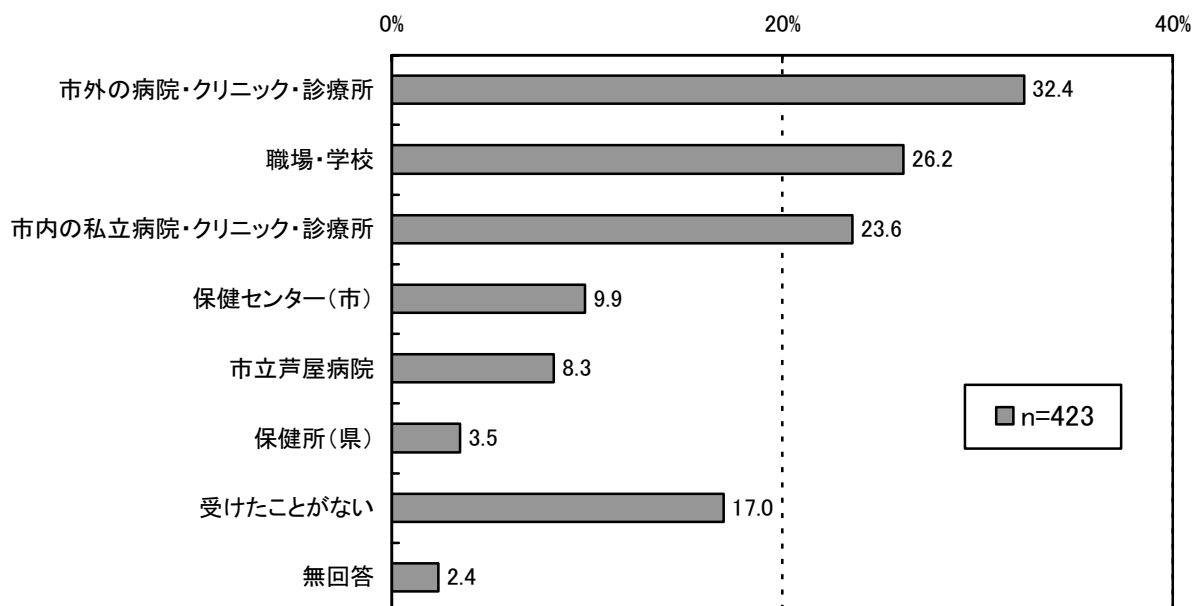
(%)

病院・診療所 通算在住年数	市立 芦屋病院	ク 院 ・ ク リ ニ ッ 病 所	市 内 の 私 立 病 院	所 リ ニ ッ ク ・ 診 療 ク	市 外 の 病 院 ・ 診 療 ク	い 行 っ た こ と が な い	無 回 答
1 年未満 (n=16)	6.3	18.8	31.3	43.8	0.0		
1 年以上 5 年未満 (n=62)	25.8	51.6	41.9	12.9	3.2		
5 年以上 1 5 年未満 (n=93)	39.8	65.6	57.0	8.6	1.1		
1 5 年以上 3 0 年未満 (n=61)	45.9	72.1	73.8	4.9	0.0		
3 0 年以上 5 5 年未満 (n=114)	36.0	70.2	64.9	3.5	2.6		
5 5 年以上 (n=72)	44.4	72.2	52.8	2.8	1.4		

### 3-2. 健康診断を受ける場所（複数回答）

Q22 健康診断は、どこで受けますか。（○はいくつでも）

図 3-2



健康診断を受ける場所では、「市外の病院・クリニック・診療所」が 32.4%で最も高く、以下「職場・学校」26.2%、「市内の私立病院・クリニック・診療所」23.6%となっている。「受けたことがない」は 17.0%となっている。（図 3-2）

国籍別では、受診する場所として中国の人は「職場・学校」38.4%、北米、ヨーロッパ、オセアニアや中南米の人は「市外の病院・クリニック・診療所」でそれぞれ 42.4%、54.1%、37.5%、50.0%、西・南アジア、中近東の人は「市内の私立病院・クリニック・診療所」46.2%、また、東南アジアの人は「市外の病院・クリニック・診療所」と「職場・学校」で 31.3%となっている。韓国・朝鮮の人は「受けたことがない」が 23.4%となっている。（表 3-4）

年齢別では、年齢層が低いほど「職場・学校」での受診の割合が高くなっている。「60歳以上」は「市内の私立病院・クリニック・診療所」50.6%、「受けたことがない」は「30～39歳」で 28.4%と高くなっている。（表 3-5）

通算在住年数別では、在住年数「15年以上」の人は、「市外の病院・クリニック・診療所」もしくは「市内の病院・クリニック・診療所」で、在住年数「15年未満」の人は、「職場・学校」での受診の割合が最も高くなっている。（表 3-6）

表 3-4 【国籍別】健康診断を受ける場所

(%)

健康診断の場所 国籍	保健センター (市)	市立芦屋病院	保健所 (県)	市内の私立病院・クリニック・診療所	市外の病院・クリニック・診療所	職場・学校	いを受けたことがない	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	7.8	5.8	1.9	22.7	26.6	22.1	23.4	1.9
中国 (n=99)	11.1	9.1	2.0	24.2	27.3	38.4	18.2	1.0
北米 (n=33)	9.1	9.1	6.1	24.2	42.4	15.2	12.1	3.0
ヨーロッパ (n=37)	2.7	5.4	0.0	13.5	54.1	16.2	8.1	2.7
オセアニア (n=8)	0.0	12.5	0.0	12.5	37.5	25.0	25.0	0.0
東南アジア (n=32)	18.8	18.8	0.0	25.0	31.3	31.3	18.8	3.1
中南米 (n=16)	25.0	6.3	6.3	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	15.4	7.7	23.1	46.2	23.1	23.1	7.7	0.0
その他 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

表 3-5 【年齢別】健康診断を受ける場所

(%)

健康診断の場所 年齢	保健センター (市)	市立芦屋病院	保健所 (県)	市内の私立病院・クリニック・診療所	市外の病院・クリニック・診療所	職場・学校	いを受けたことがない	無回答
20歳未満 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=45)	4.4	11.1	0.0	8.9	31.1	44.4	17.8	0.0
30～39歳 (n=102)	7.8	2.9	5.9	21.6	23.5	32.4	28.4	2.0
40～49歳 (n=109)	11.0	14.7	2.8	12.8	30.3	36.7	14.7	2.8
50～59歳 (n=77)	14.3	5.2	1.3	20.8	45.5	11.7	15.6	3.9
60歳以上 (n=83)	9.6	7.2	3.6	50.6	33.7	9.6	8.4	1.2

表 3-6 【通算在住年数別】健康診断を受ける場所

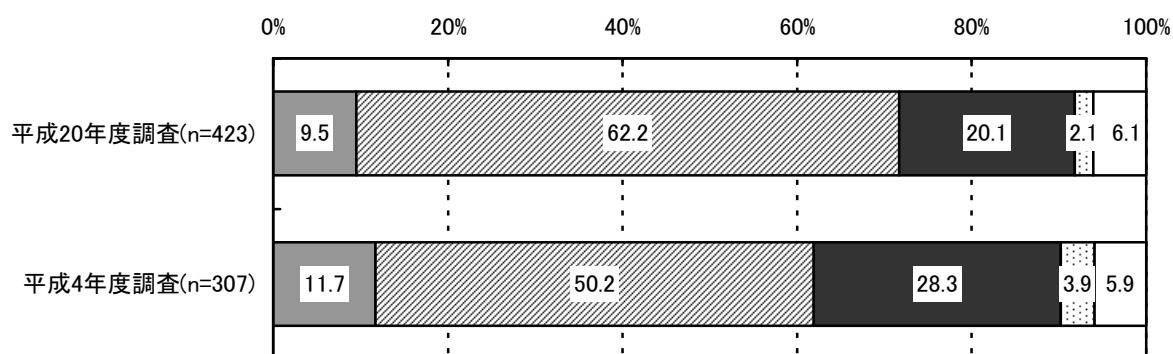
(%)

健康診断の場所 通算在住年数	保健センター (市)	市立芦屋病院	保健所 (県)	市内の私立病 院・クリニック ・診療所	市外の病院・ク リニック・診療 所	職場・学校	い 受けたこと がな	無回答
1年未満 (n=16)	0.0	6.3	0.0	0.0	18.8	37.5	37.5	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	3.2	9.7	1.6	17.7	27.4	29.0	24.2	4.8
5年以上15年未満 (n=93)	10.8	7.5	4.3	18.3	29.0	33.3	17.2	2.2
15年以上30年未満 (n=61)	13.1	14.8	4.9	27.9	49.2	27.9	8.2	0.0
30年以上55年未満 (n=114)	14.9	4.4	3.5	25.4	29.8	27.2	15.8	1.8
55年以上 (n=72)	6.9	8.3	1.4	34.7	33.3	11.1	16.7	1.4

### 3-3. 日本の医療サービスに対する満足度

Q23 あなたは日本で受けられる医療サービス(病院・診療所など)についてどの程度満足していますか。(〇は1つだけ)

図 3-3



■非常に満足している ■満足している ■やや不満である □非常に不満である □無回答

日本で受けられる医療サービスについての満足度として、「非常に満足している」が9.5%、「満足している」が62.2%であり、これら“満足派”は71.7%となっている。「やや不満である(20.1%)」と「非常に不満である(2.1%)」をあわせた“不満派”は22.2%となっている。(図3-3)

前回調査との比較では、“満足派”は前回調査より9.8ポイント増加している。(図3-3)

国籍別では、“満足派”が最も高いのは北米の人で81.9%であり、以下西・南アジア、中近東の人76.9%、中南米の人75.1%となっている。一方、“不満派”が最も高いのはヨーロッパの人で、29.7%となっている。(図3-4)

性別では、男性は女性に比べて“満足派”の割合が高く、前回調査との比較では、男女とも“満足派”は増加している。(前回調査での“満足派”の割合は、男性66.0%、女性54.7%。)(図3-5)

年齢別では、「20～29歳」と「60歳以上」の年齢層で“満足派”がそれぞれ80.0%、78.3%と高く、「40～49歳」は“不満派”が27.6%と高くなっている。(図3-5)

通算在住年数別では、“満足派”が最も高いのは在住年数が「55年以上」の人で、80.6%となっている。(図3-6)

図 3-4 【国籍別】日本の医療サービスに対する満足度

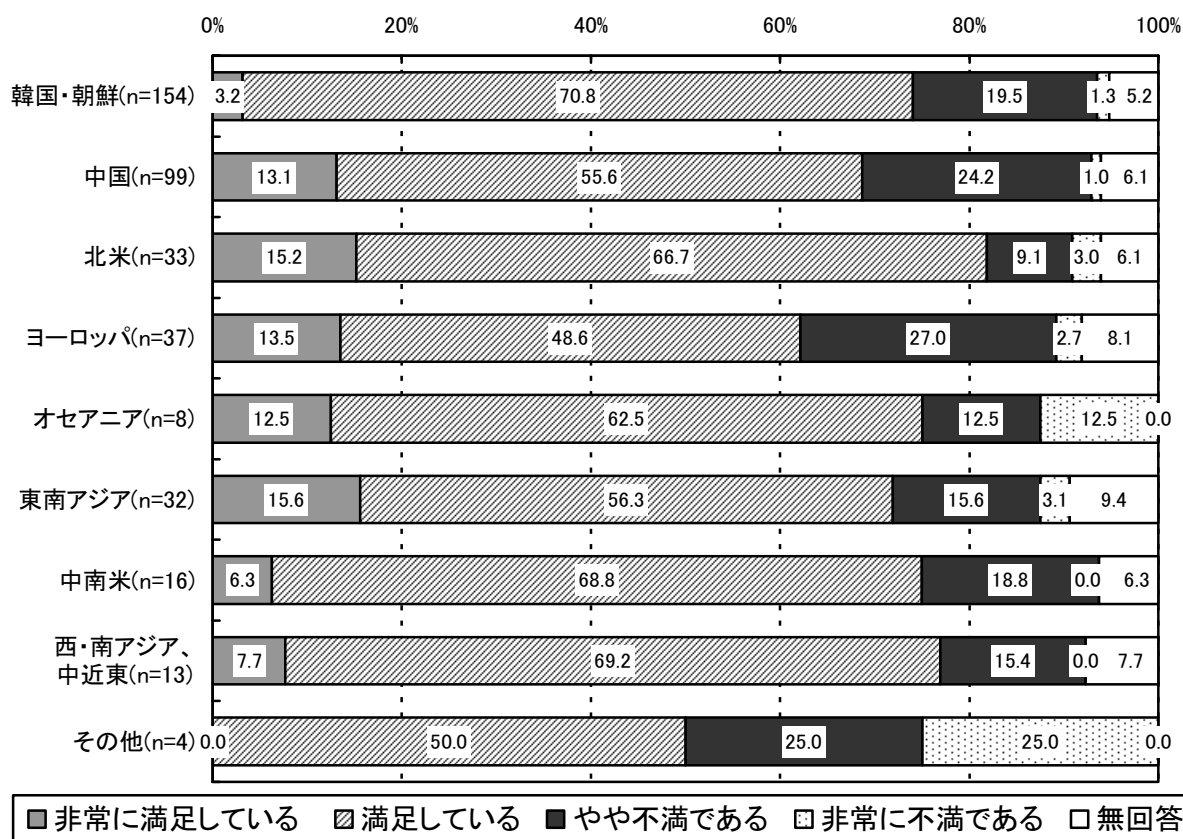


図 3-5 【性別・年齢別】日本の医療サービスに対する満足度

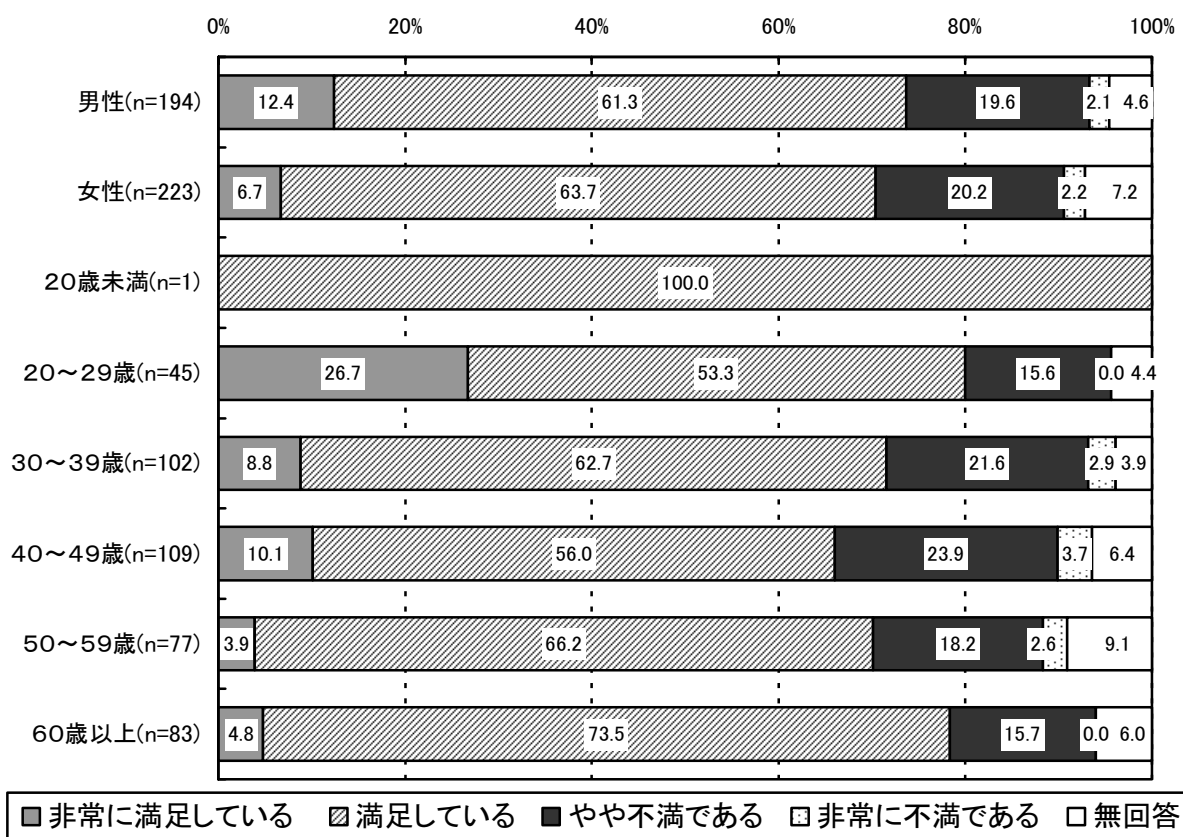
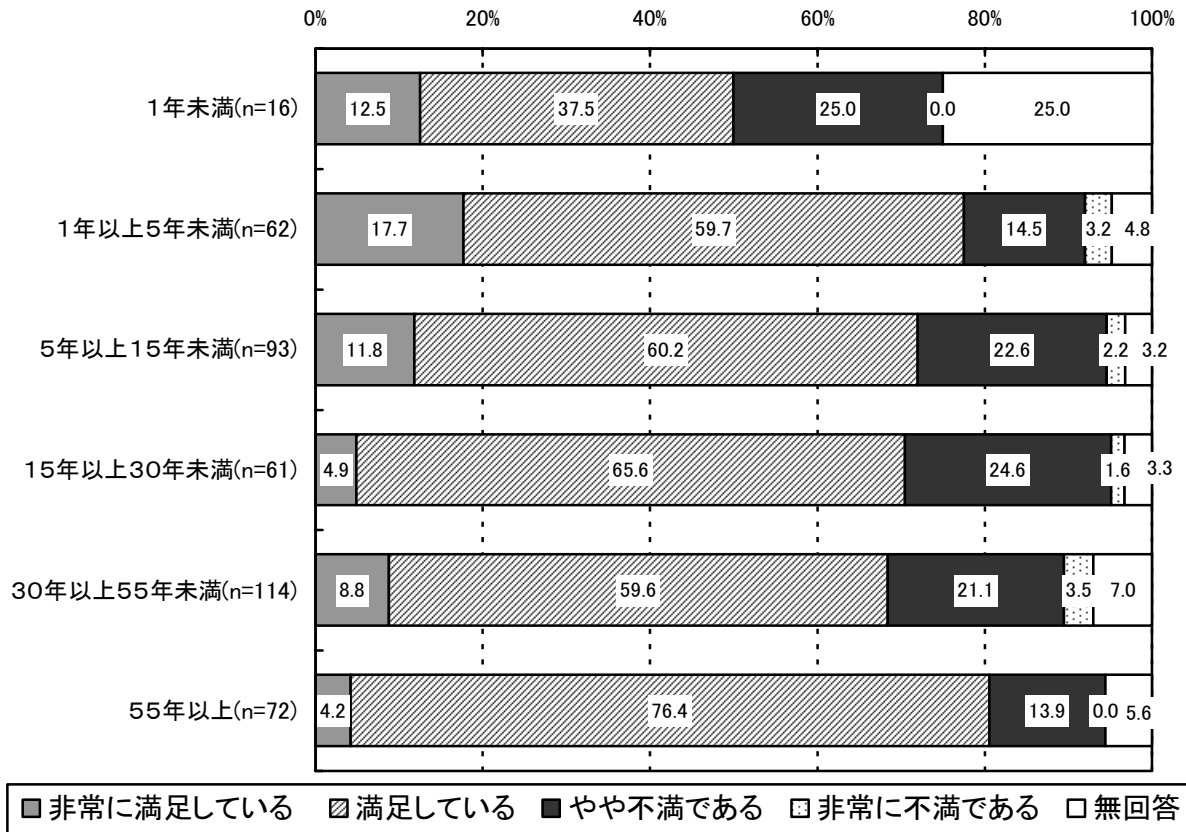


図 3-6 【通算在住年数別】日本の医療サービスに対する満足度

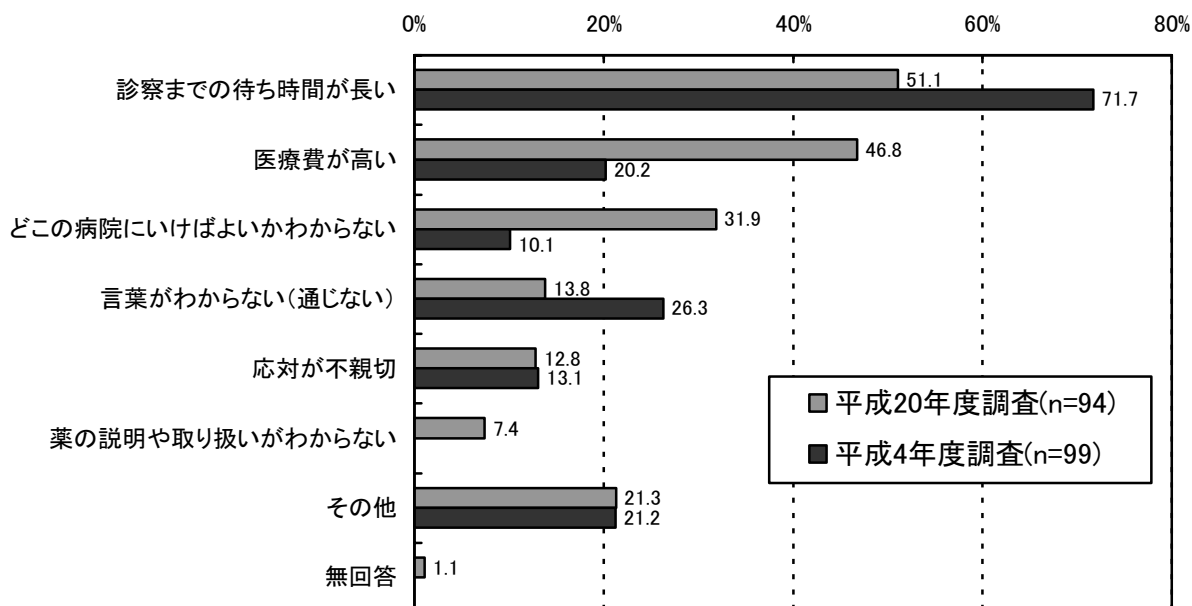




### 3-4. 医療サービスに対する不満点（複数回答）

Q23-1 ふまん 不満ないよう だった内容をお教おしえください。（○はいくつでも）

図 3-7



医療サービスに対する不満だった内容では、「診察までの待ち時間が長い」が51.1%で最も高く、以下「医療費が高い」46.8%、「どこの病院にいけばよいかわからない」31.9%となっている。また、「その他」として、『医師の程度が低い』や『診療時間が短い』、『英語表記の看板や案内板がない』などをあげている。（図3-7）

前回調査との比較では、「医療費が高い」や「どこの病院にいけばよいかわからない」は前回調査より増加し、「診察までの待ち時間が長い」や「言葉がわからない（通じない）」は減少している。（図3-7）

国籍別では、韓国・朝鮮や中国の人は「診察までの待ち時間が長い」や「医療費が高い」が高く、一方、ヨーロッパの人は「診察までの待ち時間が長い」などが高くなっている。（表3-7）

性別では、男女とも「診察までの待ち時間が長い」や「医療費が高い」という不満内容のものが高い。また、女性は男性に比べて、「診察までの待ち時間が長い」や「どこの病院にいけばよいかわからない」といった不満の割合が高くなっている。（表3-8）

年齢別では、「20～29歳」の人や「60歳以上」の人は、「医療費が高い」という割合がそれぞれ71.4%、84.6%、また「30～39歳」の人は「どこの病院にいけばよいかわからない」56.0%、「40～49歳」の人や「50～59歳」の人では、「診察までの待ち時間が長い」という割合がそれぞれ53.3%、75.0%となっている。（表3-8）

通算在住年数別では、「医療費が高い」や「診察までの待ち時間が長い」は在住年数が長くなるほど不満の割合は高くなっている。（表3-9）

日常使用言語別では、日常いずれの言語を使用している人でも、「言葉がわからない(通じない)」、「医療費が高い」や「診察までの待ち時間が長い」などの割合が高くなっている。日常使用言語が英語の人で「言葉がわからない（通じない）」は35.7%と高くなっている。（表3-10）

表 3-7 【国籍別】医療サービスに対する不満点

(%)

国籍	不満点 言葉がわからない(通じない)	医療費が高い	応対が不親切	診察までの待ち時間が長い	薬の説明や取り扱いがわからない	どこの病院にいかねばよいかわからない	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=32)	3.1	65.6	21.9	71.9	3.1	18.8	3.1	3.1
中国 (n=25)	4.0	56.0	12.0	52.0	0.0	36.0	28.0	0.0
北米 (n=4)	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	50.0	0.0
ヨーロッパ (n=11)	18.2	0.0	9.1	45.5	18.2	27.3	45.5	0.0
オセアニア (n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0
東南アジア (n=6)	66.7	83.3	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0
中南米 (n=4)	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
西・南アジア、中近東 (n=2)	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
その他 (n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

表 3-8 【性別・年齢別】医療サービスに対する不満点

(%)

性別・年齢	不満点 言葉がわからない(通じない)	医療費が高い	応対が不親切	診察までの待ち時間が長い	薬の説明や取り扱いがわからない	どこの病院にいかねばよいかわからない	その他	無回答
男性 (n=42)	14.3	42.9	9.5	42.9	11.9	19.0	19.0	0.0
女性 (n=50)	14.0	52.0	16.0	60.0	2.0	42.0	22.0	2.0
20歳未満 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=7)	14.3	71.4	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
30～39歳 (n=25)	12.0	44.0	8.0	40.0	8.0	56.0	36.0	0.0
40～49歳 (n=30)	23.3	43.3	13.3	53.3	6.7	33.3	20.0	0.0
50～59歳 (n=16)	6.3	18.8	18.8	75.0	6.3	18.8	25.0	0.0
60歳以上 (n=13)	7.7	84.6	15.4	69.2	7.7	7.7	0.0	7.7

表 3-9 【通算在住年数別】医療サービスに対する不満点

(%)

通算在住年数 \ 不満点	言葉がわからない (通じない)	医療費が高い	応対が不親切	診察までの待ち 時間が長い	薬の説明や取り 扱いがわからない	どこの病院にい けばよいかわか らない	その他	無回答
1年未満 (n=4)	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
1年以上5年未満 (n=11)	36.4	27.3	18.2	36.4	9.1	27.3	27.3	0.0
5年以上15年未満 (n=23)	21.7	39.1	0.0	39.1	13.0	47.8	26.1	0.0
15年以上30年未満 (n=16)	12.5	43.8	6.3	50.0	6.3	50.0	37.5	0.0
30年以上55年未満 (n=28)	0.0	57.1	25.0	67.9	3.6	21.4	10.7	0.0
55年以上 (n=10)	0.0	70.0	10.0	70.0	0.0	0.0	0.0	10.0

表 3-10 【日常使用言語別】医療サービスに対する不満点

(%)

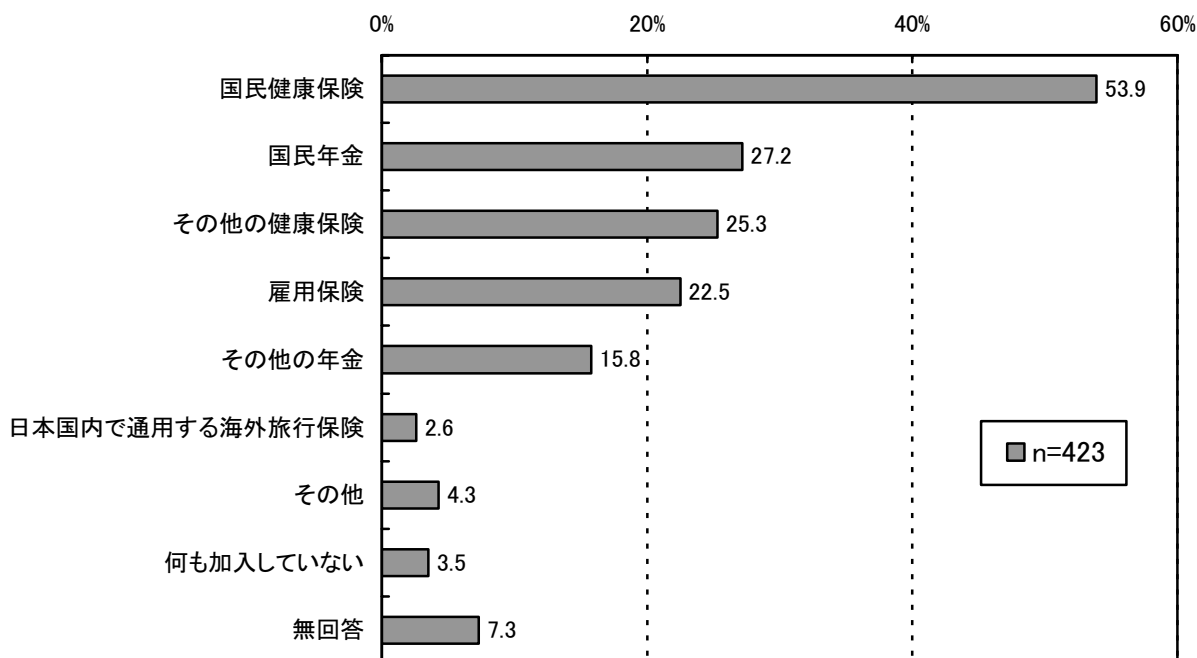
日常使用言語 \ 不満点	言葉がわからない (通じない)	医療費が高い	応対が不親切	診察までの待ち 時間が長い	薬の説明や取り 扱いがわからない	どこの病院にい けばよいかわか らない	その他	無回答
日本語 (n=76)	9.2	51.3	14.5	52.6	7.9	32.9	18.4	1.3
英語 (n=28)	35.7	21.4	10.7	32.1	17.9	39.3	25.0	0.0
中国語 (n=18)	5.6	66.7	11.1	38.9	0.0	38.9	33.3	0.0
韓国・朝鮮語 (n=10)	10.0	60.0	20.0	60.0	0.0	40.0	30.0	0.0
スペイン語 (n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0
ポルトガル語 (n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
フランス語 (n=4)	0.0	0.0	50.0	75.0	0.0	0.0	50.0	0.0
ドイツ語 (n=4)	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0
インドネシア語 (n=3)	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
タイ語 (n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=5)	0.0	40.0	40.0	60.0	0.0	60.0	0.0	0.0

(注) 属性のタガログ語及びネパール語は基数が0であったため、表から外している。

### 3-5. 保険や年金への加入状況（複数回答）

Q24 げんざい ほけん ねんきん かにゆう 現在、保険や年金に加入されていますか。（○はいくつでも）

図 3-8



現在の保険や年金の加入状況として、「国民健康保険」が 53.9%で最も高く、以下「国民年金」27.2%、「その他の健康保険」25.3%となっている。また、「その他」として、『厚生年金』などをあげている。（図 3-8）

国籍別では、いずれの国籍の人も「国民健康保険」の加入率は高いが、「国民年金」や「雇用保険」の加入率は、2～3割程度の加入率となっている。「何も加入していない」は東南アジアの人で 12.5%となっている。（表 3-11）

性別では、男性は女性に比べて「国民健康保険」や「雇用保険」の加入率が高い。（表 3-12）

年齢別では、いずれの年齢層も「国民健康保険」の加入率は最も高くなっているが、年齢層が高くなるほど「日本国内で通用する海外旅行保険」や「何も加入していない」の割合は低くなっており、「30～39歳」以上では「国民健康保険」に加えて何らかの保険に加入している人が多くなっている。「国民年金」は「50～59歳」で、「その他の年金」と「その他の健康保険」は「40～49歳」で、「雇用保険」は「30～39歳」で他の年齢層に比べて最も高くなっている。（表 3-12）

職業別では、いずれの職業を持つ人も、「国民健康保険」や「その他の健康保険」に加入し、あわせると約7～8割の人が加入していると思われる。（表 3-13）

通算在住年数別では、いずれの在住年数の人でも「国民健康保険」が最も高く、在住年数が「55年以上」の人は 59.7%で他の在住年数の人と比べて最も高くなっている。また、在住年数が「5年以上55年未満」の人で「国民年金」、「その他の年金」、「その他の健康保険」や「雇用保険」はいずれも他の在住年数の人と比べて割合が高くなっている。在住年数が短

い人ほど「何も加入していない」の割合は高くなっており、「1年未満」の人は12.5%となっている。(表3-14)

表 3-11 【国籍別】保険や年金への加入状況

(%)

国籍	保険・年金	国民年金	金その他の年	険国民健康保	康保 他の健	雇用保険	外旅行 通用する 国内で 海	その他	てい 何も加 入し ない	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)		29.2	19.5	53.2	25.3	19.5	1.9	3.2	3.2	9.1
中国 (n=99)		24.2	18.2	54.5	31.3	21.2	3.0	3.0	5.1	2.0
北米 (n=33)		24.2	9.1	48.5	15.2	27.3	3.0	3.0	3.0	15.2
ヨーロッパ (n=37)		32.4	16.2	48.6	29.7	32.4	2.7	13.5	0.0	10.8
オセアニア (n=8)		25.0	12.5	50.0	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)		21.9	18.8	56.3	12.5	28.1	6.3	3.1	12.5	6.3
中南米 (n=16)		37.5	6.3	56.3	18.8	31.3	0.0	6.3	0.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)		7.7	7.7	61.5	15.4	23.1	0.0	0.0	0.0	7.7
その他 (n=4)		25.0	0.0	100.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表 3-12 【性別・年齢別】保険や年金への加入状況

(%)

性別・年齢	保険・年金	国民年金	金その他の年	険国民健康保	康保 他の健	雇用保険	外旅行 通用する 国内で 海	その他	てい 何も加 入し ない	無回答
男性 (n=194)		27.8	17.5	56.7	24.7	28.4	2.6	3.6	3.6	5.7
女性 (n=223)		26.0	14.8	52.5	25.6	17.5	2.7	4.5	3.6	8.1
20歳未満 (n=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20～29歳 (n=45)		11.1	13.3	57.8	26.7	13.3	8.9	2.2	11.1	6.7
30～39歳 (n=102)		26.5	16.7	54.9	30.4	29.4	2.0	2.0	2.0	4.9
40～49歳 (n=109)		29.4	22.0	49.5	31.2	27.5	2.8	1.8	3.7	7.3
50～59歳 (n=77)		32.5	18.2	54.5	23.4	23.4	1.3	6.5	1.3	6.5
60歳以上 (n=83)		28.9	7.2	57.8	13.3	12.0	1.2	8.4	3.6	8.4

表 3-13 【職業別】 保険や年金への加入状況

(%)

職業	保険・年金	国民年金	その他の年金	国民健康保険	その他の健康保険	雇用保険	日本国内で通用する海外旅行保険	その他	何も加入していない	無回答
自営業 (n=68)		30.9	13.2	67.6	22.1	7.4	1.5	2.9	0.0	8.8
常勤の勤め人（フルタイム） (n=113)		23.0	30.1	34.5	38.9	50.4	3.5	4.4	4.4	7.1
パート・アルバイト (n=54)		35.2	7.4	61.1	14.8	20.4	0.0	7.4	7.4	3.7
専業主婦・家事手伝い (n=69)		30.4	14.5	50.7	33.3	14.5	4.3	2.9	1.4	2.9
無職 (n=37)		32.4	5.4	59.5	8.1	5.4	2.7	2.7	8.1	10.8
学生 (n=33)		6.1	6.1	72.7	12.1	0.0	3.0	0.0	6.1	12.1
公務員 (n=0)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=42)		31.0	14.3	61.9	21.4	21.4	2.4	9.5	0.0	4.8

表 3-14 【通算在住年数別】 保険や年金への加入状況

(%)

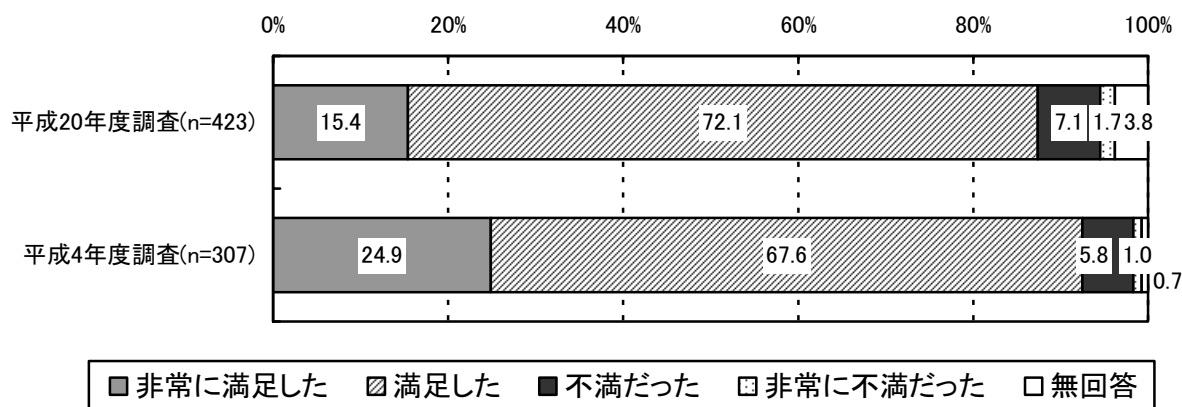
通算在住年数	保険・年金	国民年金	その他の年金	国民健康保険	その他の健康保険	雇用保険	日本国内で通用する海外旅行保険	その他	何も加入していない	無回答
1年未満 (n=16)		6.3	12.5	43.8	18.8	18.8	6.3	0.0	12.5	18.8
1年以上5年未満 (n=62)		11.3	12.9	58.1	24.2	17.7	3.2	0.0	6.5	6.5
5年以上15年未満 (n=93)		24.7	15.1	50.5	31.2	24.7	5.4	5.4	3.2	7.5
15年以上30年未満 (n=61)		31.1	18.0	54.1	27.9	26.2	0.0	6.6	1.6	8.2
30年以上55年未満 (n=114)		35.1	21.9	52.6	28.9	27.2	1.8	3.5	1.8	3.5
55年以上 (n=72)		31.9	9.7	59.7	12.5	13.9	1.4	6.9	4.2	8.3

## 4. 市役所のサービスについて

### 4-1. 市の窓口を利用した時の感想

Q25 市の窓口し まどぐちを利用した感想りよう かんそうはいかがでしたか。(○は1つだけ)

図 4-1



市役所の窓口を利用した感想として、「非常に満足した」が15.4%、「満足した」が72.1%であり、これら“満足派”は87.5%となっている。「不満だった」7.1%と「非常に不満だった」1.7%をあわせた“不満派”は8.8%となっている。(図4-1)

前回調査との比較では、“満足派”は前回調査より5.0ポイント減少し、“不満派”は2.0ポイント増加している。(図4-1)

国籍別では、“満足派”は中国、北米、東南アジア及び中南米の人で9割を超えている。“不満派”が多いのは、西・南アジア、中近東の人で15.4%、韓国・朝鮮の人で11.6%、ヨーロッパの人は10.8%の割合となっている。(図4-2)

性別では、特に大きな差はみられない。(図4-3)

年齢別では、“満足派”の割合は「20～29歳」が他の年代と比べて高く、95.6%であり、“不満派”の割合が高いのは「30～39歳」で13.8%、「50～59歳」で10.4%となっている。(図4-3)

通算在住年数別では、“不満派”の割合が最も高いのは「30年以上55年未満」の人で13.1%となっている。(図4-4)

図 4-2 【国籍別】市の窓口を利用した時の感想

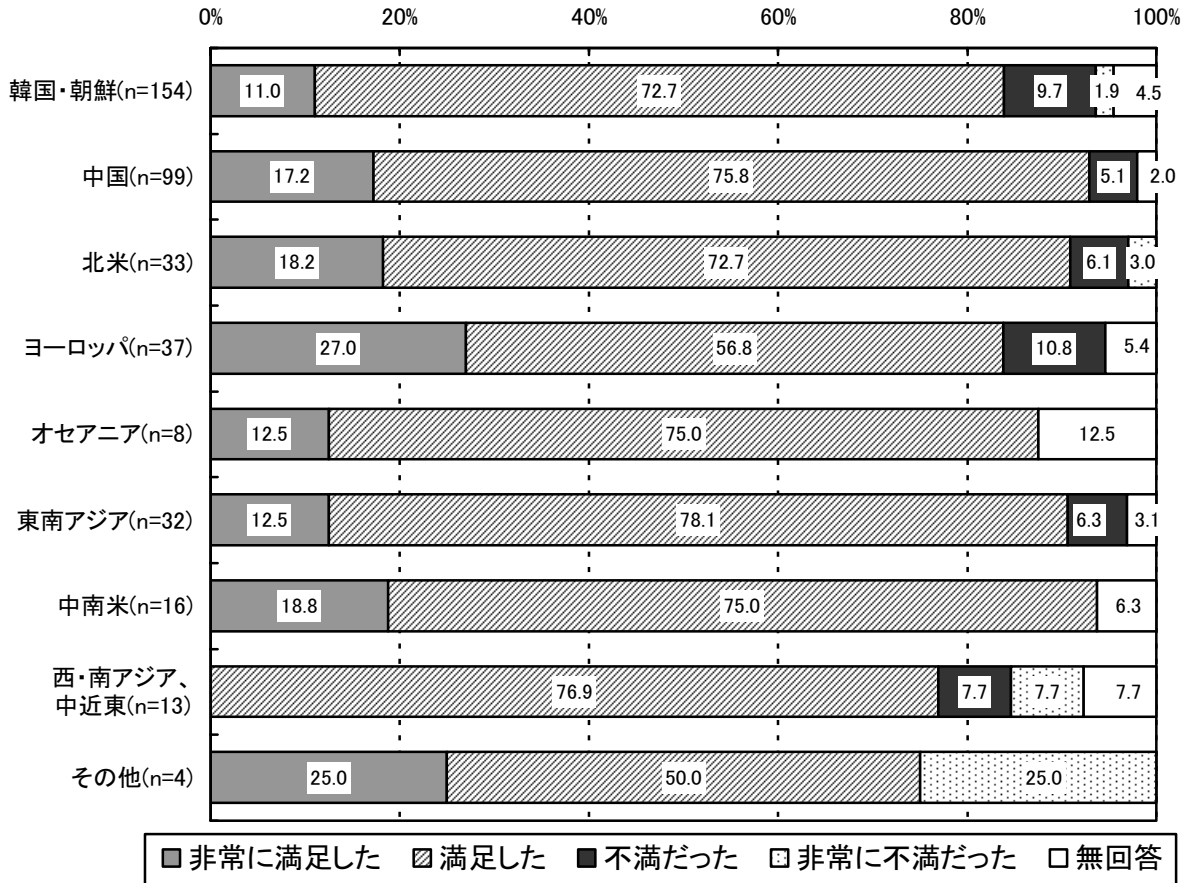


図 4-3 【性別・年齢別】市の窓口を利用した時の感想

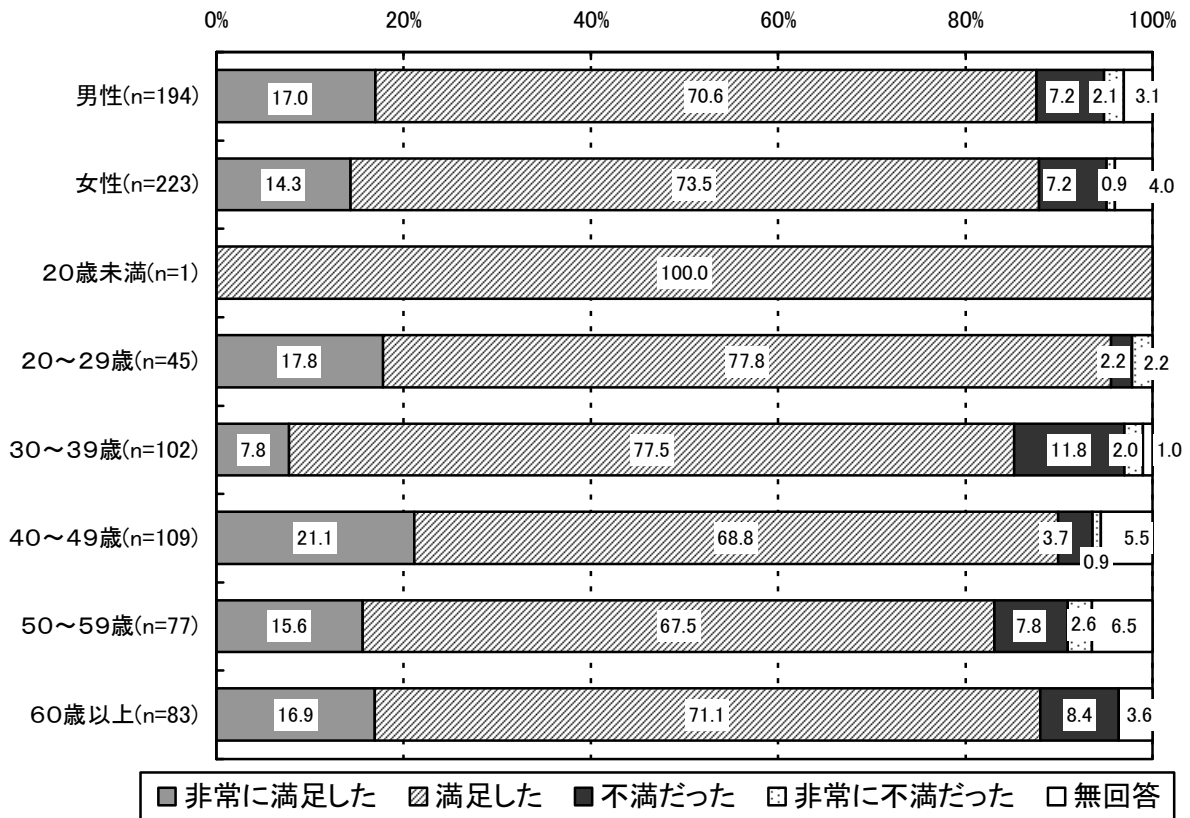




図 4-4 【通算在住年数別】市の窓口を利用した時の感想

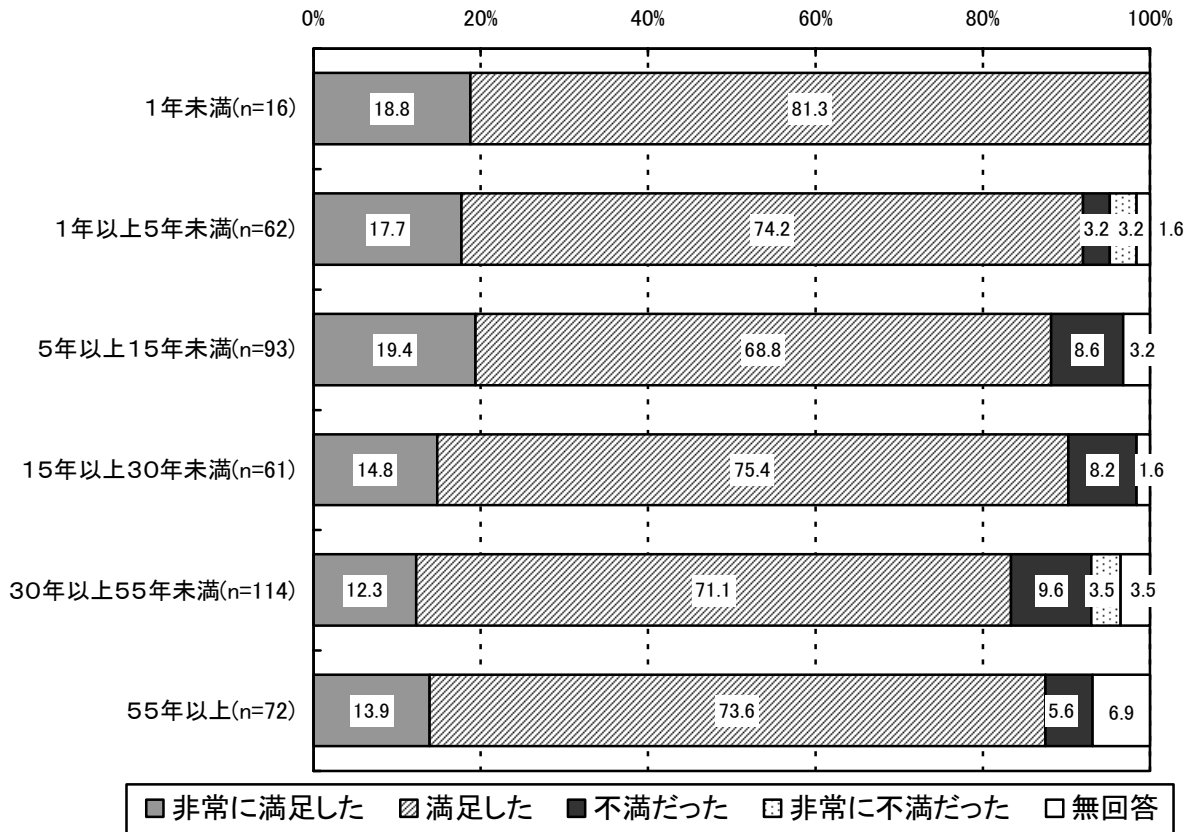
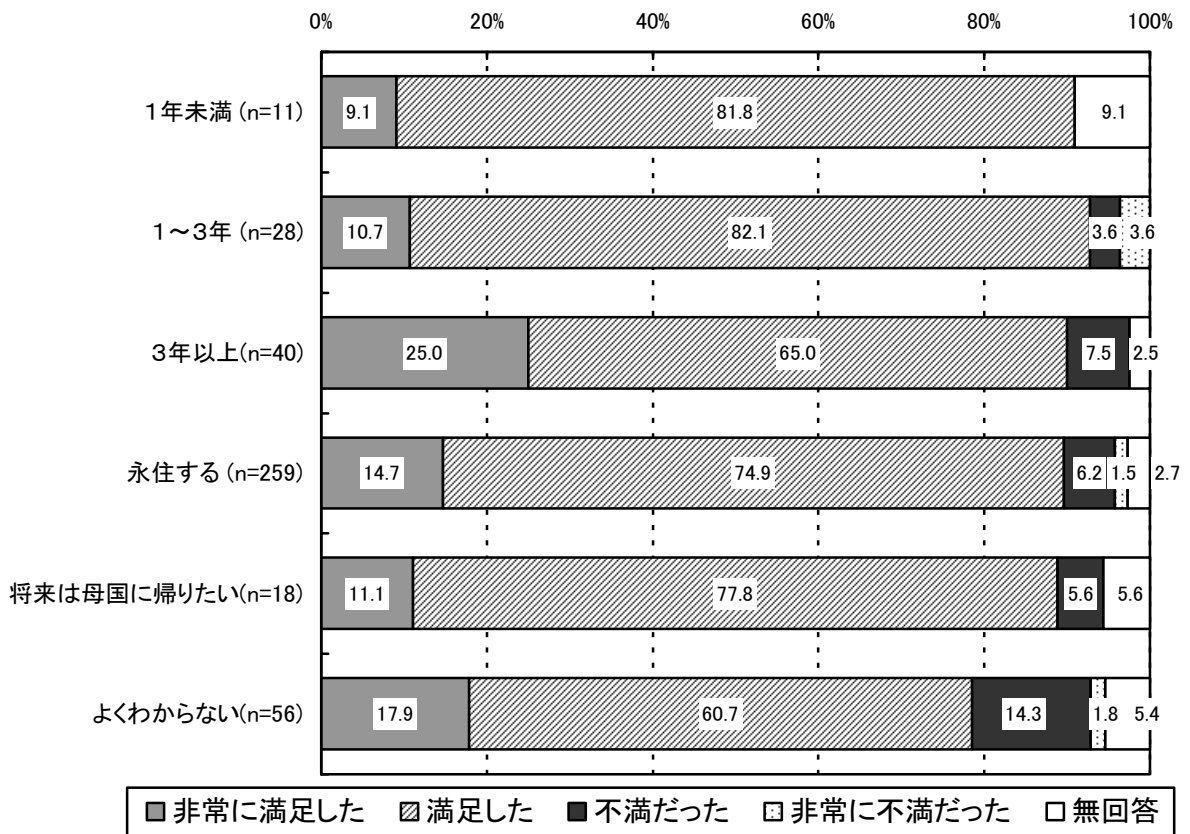
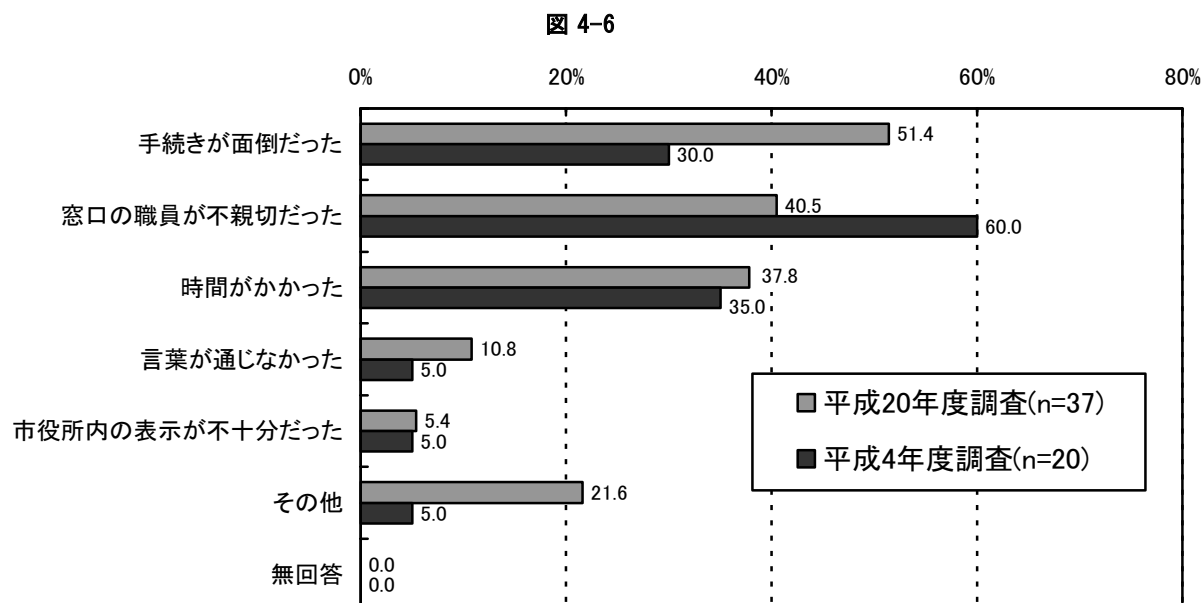


図 4-5 【在住予定期間別】市の窓口を利用した時の感想



## 4-2. 市の窓口に対する不満点（複数回答）

Q25-1 不満だった理由をお教えてください。(〇はいくつでも)



サンプル数は少ないが、市役所の窓口に対する不満の理由として、「手続きが面倒だった」が51.4%で最も高く、以下「窓口の職員が不親切だった」40.5%、「時間がかかった」37.8%となっている。また、「その他」として、『仕事が遅い』や『職員の連携がとれていない』などをあげている。(図 4-6)

前回調査との比較では、「手続きが面倒だった」や「言葉が通じなかった」などは前回調査より増加し、「窓口の職員が不親切だった」は減少している。(図 4-6)

日常使用言語別では、日常使用言語が「日本語」や「英語」の人は、「手続きが面倒だった」、「韓国・朝鮮語」の人は「時間がかかった」が最も高くなっている。日常使用言語が「英語」の人は、「言葉が通じなかった」や「時間がかかった」という割合も高い。(表 4-1)

表 4-1 【日常使用言語別】市の窓口に対する不満点

(%)

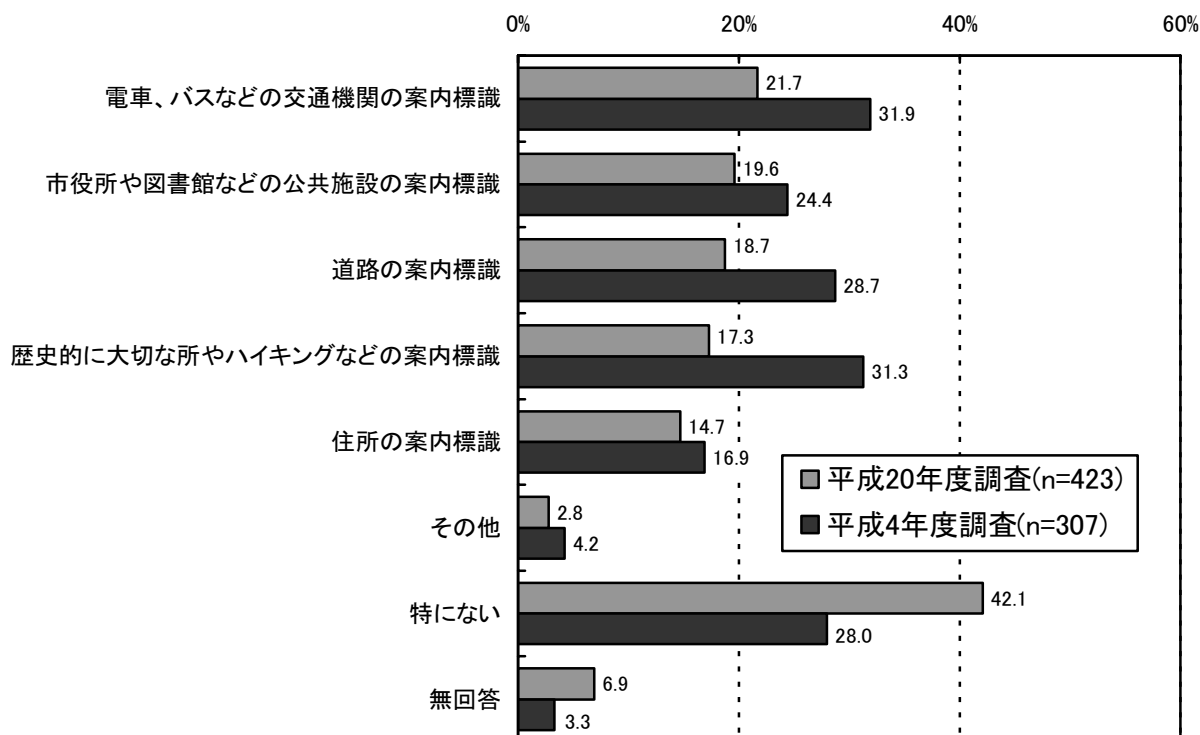
日常使用言語 \ 不満点	言葉が通じなかった	手続きが面倒だった	時間がかかった	窓口の職員が不親切だった	市役所内の表示が不十分だった	その他	無回答
日本語 (n=33)	9.1	54.5	42.4	42.4	6.1	21.2	0.0
英語 (n=13)	30.8	61.5	30.8	15.4	0.0	15.4	0.0
中国語 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
韓国・朝鮮語 (n=6)	0.0	50.0	83.3	50.0	16.7	16.7	0.0
ドイツ語 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インドネシア語 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
その他 (n=4)	0.0	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0

(注) 属性のスペイン語、ポルトガル語、フランス語、タガログ語、タイ語及びネパール語は基数が0であったため、表から外している。

### 4-3. わかりやすくした方がよい案内標識（複数回答）

Q26 もっとわかりやすくした方がよいと思う案内標識(看板やサインなど)は次における中ではどれですか。(〇はいくつでも)

図 4-7



わかりやすくした方がよい案内標識として、「電車、バスなどの交通機関の案内標識」が21.7%、以下「市役所や図書館などの公共施設の案内標識」19.6%、「道路の案内標識」18.7%となっている。「特にない」は42.1%となっている。また、「その他」として、『公衆便所』や『日本語以外の案内標識』などをあげている。(図 4-7)

前回調査との比較では、「特にない」は前回調査より増加し、全体的に各項目の回答率は低い。(図 4-7)

国籍別では、北米、東南アジアや中南米の人は「市役所や図書館などの公共施設の案内標識」、ヨーロッパの人は「歴史的に大切な所やハイキングなどの案内標識」、西・南アジア、中近東の人は「道路の案内標識」がそれぞれ高い。(表 4-2)

通算在住年数別では、在住年数が短い人ほど各項目の割合は高くなっている。一方、在住年数が長い人ほど「特にない」の割合は高くなっており、在住年数が55年以上の人は半数を超えている。(表 4-3)

日本語《読む能力》別では、日本語を十分に読むことができない人ほど「市役所や図書館などの公共施設の案内標識」は高く、ほとんど読むことができない人は「道路の案内標識」も高い。(表 4-4)

調査票回答言語別では、回答言語が英語、韓国・朝鮮語及びスペイン語の人は「市役所や図書館などの公共施設の案内標識」が最も高い。また、スペイン語の人は「歴史的に大切な所やハイキングなどの案内標識」も比較的高い。回答言語が中国語の人は、「電車、バスなどの交通機関の案内標識」が56.8%、「道路の案内標識」が35.1%となっている。(表 4-5)

表 4-2 【国籍別】わかりやすくした方がよい案内標識

(%)

案内標識 の 国籍	案内標識 の 市役所や図書館 などの公共施設 の案内標識	道路の案内標識	住所の案内標識	歴史的に大切な 所やハイキング などの案内標識	案内標識 の 電車、バスなど の交通機関の案 内標識	その他	特 に な い	無 回 答
韓国・朝鮮 (n=154)	10.4	13.6	9.7	14.9	18.2	0.6	51.9	8.4
中国 (n=99)	16.2	25.3	17.2	14.1	29.3	1.0	42.4	7.1
北米 (n=33)	33.3	21.2	21.2	27.3	15.2	9.1	21.2	3.0
ヨーロッパ (n=37)	16.2	18.9	10.8	32.4	21.6	8.1	40.5	0.0
オセアニア (n=8)	37.5	25.0	12.5	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0
東南アジア (n=32)	37.5	15.6	18.8	18.8	18.8	3.1	37.5	3.1
中南米 (n=16)	37.5	6.3	18.8	25.0	18.8	6.3	50.0	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	30.8	38.5	15.4	0.0	23.1	0.0	38.5	15.4
その他 (n=4)	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0

表 4-3 【通算在住年数別】わかりやすくした方がよい案内標識

(%)

案内標識 の 通算在住年数	案内標識 の 市役所や図書館 などの公共施設 の案内標識	道路の案内標識	住所の案内標識	歴史的に大切な 所やハイキング などの案内標識	案内標識 の 電車、バスなど の交通機関の案 内標識	その他	特 に な い	無 回 答
1年未満 (n=16)	56.3	43.8	25.0	18.8	56.3	6.3	6.3	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	33.9	21.0	19.4	24.2	24.2	4.8	30.6	3.2
5年以上15年未満 (n=93)	17.2	18.3	14.0	20.4	22.6	1.1	38.7	5.4
15年以上30年未満 (n=61)	29.5	16.4	16.4	19.7	21.3	1.6	44.3	4.9
30年以上55年未満 (n=114)	10.5	17.5	14.0	15.8	21.9	2.6	48.2	6.1
55年以上 (n=72)	9.7	15.3	8.3	8.3	11.1	4.2	54.2	12.5

表 4-4 【日本語《読む能力》別】わかりやすくした方がよい案内標識

(%)

案内標識 読む能力	市役所や図書館 などの公共施設 の案内標識	道路の案内標識	住所の案内標識	歴史的に大切な 所やハイキング などの案内標識	電車、バスなど の交通機関の案 内標識	その他	特 に な い	無 回 答
新聞や雑誌が読める (n=238)	12.6	17.2	11.8	16.4	17.6	2.1	49.6	8.4
漢字がまじった簡単な 文章が読める (n=48)	29.2	22.9	22.9	18.8	37.5	6.3	18.8	4.2
店で売っているものの 名前や広告が読める (n=15)	26.7	13.3	13.3	13.3	13.3	0.0	66.7	0.0
ひらがな・カタカナは 読める (n=38)	36.8	10.5	15.8	13.2	28.9	2.6	34.2	5.3
ほとんど読めない (n=29)	37.9	34.5	24.1	24.1	27.6	3.4	20.7	6.9

表 4-5 【調査票回答言語別】わかりやすくした方がよい案内標識

(%)

案内標識 調査票回答言語	市役所や図書館 などの公共施設 の案内標識	道路の案内標識	住所の案内標識	歴史的に大切な 所やハイキング などの案内標識	電車、バスなど の交通機関の案 内標識	その他	特 に な い	無 回 答
日本語 (n=246)	8.5	14.6	12.6	13.4	15.9	1.6	52.0	9.8
英語 (n=95)	38.9	25.3	22.1	24.2	26.3	7.4	27.4	2.1
中国語 (n=37)	32.4	35.1	16.2	18.9	56.8	0.0	18.9	5.4
韓国・朝鮮語 (n=24)	20.8	16.7	12.5	16.7	16.7	0.0	33.3	4.2
スペイン語 (n=17)	41.2	11.8	5.9	29.4	17.6	5.9	35.3	0.0
ポルトガル語 (n=4)	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0

#### 4-4. 市の住民サービス活動の参加経験・参加意向（複数回答）

Q27 市役所が行っている住民サービスのなかには、市民も参加できる次のような活動がありますが、  
 (1)あなたが参加したことがある、また (2)今後参加したい、これからも継続して参加したい  
 と思うのはどのような活動ですか。（それぞれ〇はいくつでも）

図 4-8

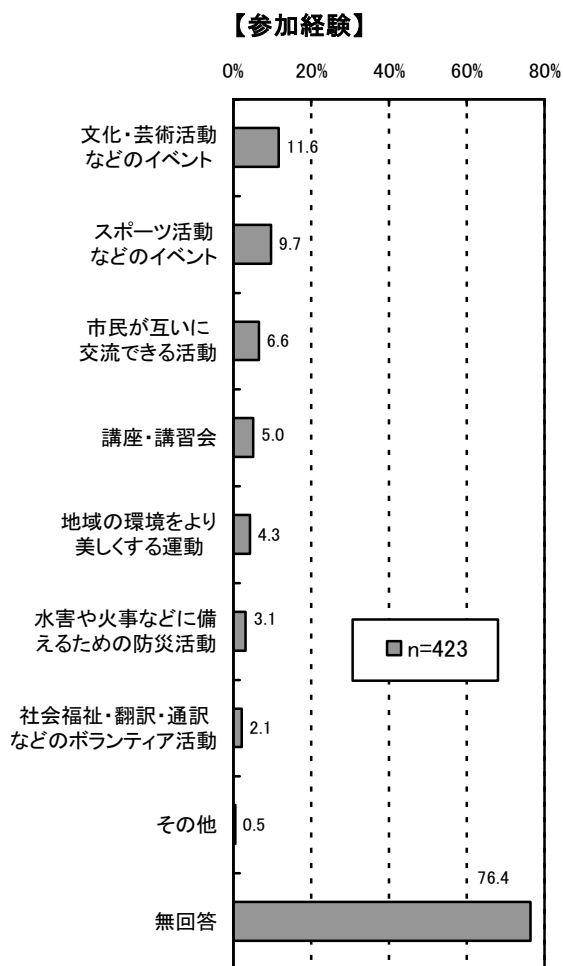
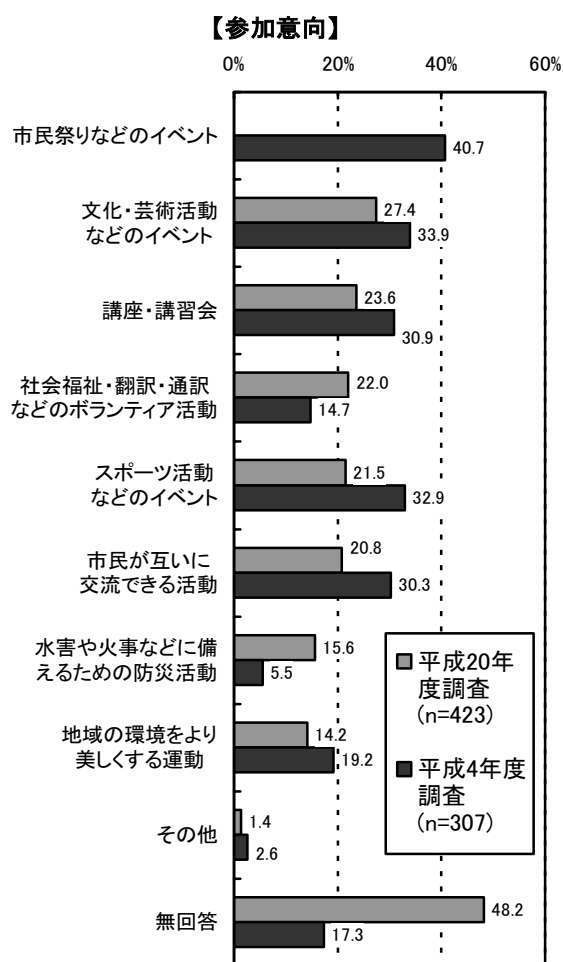


図 4-9



市の住民サービス活動の参加経験と参加意向では、参加経験・参加意向ともに「文化・芸術活動などのイベント」がそれぞれ 11.6%、27.4%で最も高く、参加経験のある活動では、「スポーツ活動などのイベント」9.7%、「市民が互いに交流できる活動」6.6%となっている。一方、参加意向が高い活動では、「講座・講習会」23.6%、「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」22.0%、「スポーツ活動などのイベント」21.5%となっている。（図 4-8、図 4-9）

参加意向の前回調査との比較では、「無回答」は 48.2%と前回調査より 30.9ポイント増加している。また、「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」や「水害や火事などに備えるための防災活動」は前回調査より増加し、「文化・芸術活動などのイベント」、「講座・講習会」、「スポーツ活動などのイベント」、「市民が互いに交流できる活動」及び「地域の環境をより美しくする運動」は減少している。（図 4-9）

国籍別では、住民サービス活動の参加経験で、いずれの国籍の人も第1位または第2位に「文

化・芸術活動などのイベント」や「スポーツ活動などのイベント」があがっている。(表 4-6)

今後参加したい活動では、韓国・朝鮮やオセアニアの人は、「講座・講習会」、中国及び東南アジアの人は「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」、西・南アジア、中近東の人は「市民が互いに交流できる活動」がそれぞれ第1位にあがっている。(表 4-7)

性別では、男性は参加経験・参加意向ともに「スポーツ活動などのイベント」が高く、女性は参加経験では「文化・芸術活動などのイベント」が高く、参加意向では「文化・芸術活動などのイベント」と「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」が高くなっている。(表 4-8、表 4-9)

年齢別では、参加経験で各年齢層の第1位または第2位に「文化・芸術活動などのイベント」があがっている。参加意向は年齢層が低いほど「社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動」が上位にあがっている。(表 4-10、表 4-11)

通算在住年数別では、いずれの在住年数の人も、参加経験・参加意向ともに「文化・芸術活動などのイベント」が上位にあがっている。参加意向は在住年数が「1年未満」の人は「水害や火事などに備えるための防災活動」、在住年数が「55年以上」の人は「講座・講習会」が第1位にあがっている。(表 4-12、表 4-13)

表 4-6 【国籍別】市の住民サービス活動の参加経験（第1位～5位）

(%)

順位 国籍	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
韓国・朝鮮(n=154)	スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	水害や火事などに備えるための防災活動	講座・講習会	市民が互いに交流できる活動
	8.4	7.8	5.8	3.2	2.6
中国(n=99)	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント／講座・講習会		地域の環境をより美しくする運動
	11.1	10.1	8.1		5.1
北米(n=33)	文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	講座・講習会／地域の環境をより美しくする運動	
	27.3	21.2	12.1	3.0	
ヨーロッパ(n=37)	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動		スポーツ活動などのイベント／講座・講習会／地域の環境をより美しくする運動	
	8.1	5.4		2.7	
オセアニア(n=8)	地域の環境をより美しくする運動	スポーツ活動などのイベント／文化・芸術活動などのイベント／講座・講習会			市民が互いに交流できる活動
	37.5	12.5			0.0
東南アジア(n=32)	文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	講座・講習会／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	
	18.8	12.5	9.4	6.3	
中南米(n=16)	文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント			
	18.8	6.3	0.0		
西・南アジア、中近東(n=13)	スポーツ活動などのイベント／文化・芸術活動などのイベント／講座・講習会			市民が互いに交流できる活動／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	
	15.4			7.7	
その他(n=4)	スポーツ活動などのイベント／水害や火事などに備えるための防災活動				
	33.3		0.0		

表 4-7 【国籍別】市の住民サービス活動の参加意向（第1位～5位）

（％）

国籍	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
韓国・朝鮮(n=154)		講座・講習会	文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	水害や火事などに備えるための防災活動
		22.1	18.8	13.6	11.7	11.0
中国(n=99)		社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント
		42.4	38.4	36.4	34.3	32.3
北米(n=33)		文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	地域の環境をより美しくする運動	講座・講習会／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動／水害や火事などに備えるための防災活動
		39.4	27.3	18.2	15.2	9.1
ヨーロッパ(n=37)		スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	講座・講習会／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	
		27.0	24.3	21.6	16.2	
オセアニア(n=8)		講座・講習会	スポーツ活動などのイベント／水害や火事などに備えるための防災活動		文化・芸術活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動／地域の環境をより美しくする運動	
		50.0		37.5	25.0	
東南アジア(n=32)		社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント／水害や火事などに備えるための防災活動		文化・芸術活動などのイベント／講座・講習会
		21.9	18.8	15.6	12.5	
中南米(n=16)		文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	スポーツ活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動	
		50.0	37.5	31.3	18.8	
西・南アジア、中近東(n=13)		市民が互いに交流できる活動	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動／水害や火事などに備えるための防災活動		スポーツ活動などのイベント／文化・芸術活動などのイベント	
		38.5	23.1	15.4		
その他(n=4)		文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動／講座・講習会			
		50.0	25.0	0.0		



表 4-8 【性別】市の住民サービス活動の参加経験

(%)

参加経験 性別	スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	講座・講習会	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	地域の環境をより美しくする運動	水害や火事などに備えるための防災活動	その他	無回答
男性 (n=194)	12.9	10.8	5.7	3.1	3.1	4.1	3.1	0.5	75.3
女性 (n=223)	6.7	12.1	7.6	6.7	1.3	4.0	3.1	0.4	77.6

表 4-9 【性別】市の住民サービス活動の参加意向

(%)

参加意向 性別	スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	講座・講習会	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	地域の環境をより美しくする運動	水害や火事などに備えるための防災活動	その他	無回答
男性 (n=194)	26.3	24.7	20.6	18.6	13.4	14.4	14.9	1.5	48.5
女性 (n=223)	17.5	30.0	21.5	28.7	30.0	14.3	16.6	1.3	47.1

表 4-10 【年齢別】市の住民サービス活動の参加経験（第1位～5位）

(%)

順位 年齢	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満(n=1)	0.0				
20～29歳(n=45)	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント／講座・講習会		0.0
	8.9	6.7	4.4		0.0
30～39歳(n=102)	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント	水害や火事などに備えるための防災活動	講座・講習会／地域の環境をより美しくする運動
	12.7	9.8	6.9	5.9	2.9
40～49歳(n=109)	スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	地域の環境をより美しくする運動	市民が互いに交流できる活動／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動
	11.9	11.0	10.1	9.2	5.5
50～59歳(n=77)	文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動		講座・講習会／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	
	11.7	7.8		2.6	
60歳以上(n=83)	スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動／講座・講習会／地域の環境をより美しくする運動		
	14.5	12.0	3.6		

表 4-11 【年齢別】市の住民サービス活動の参加意向（第1位～5位）

(%)

年齢	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満(n=1)		スポーツ活動などのイベント				
		100.0	0.0			
20～29歳(n=45)		社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	スポーツ活動などのイベント	地域の環境をより美しくする運動／水害や火事などに備えるための防災活動
		40.0	33.3	28.9	26.7	22.2
30～39歳(n=102)		文化・芸術活動などのイベント	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	スポーツ活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動	講座・講習会	
		32.4	26.5	25.5		20.6
40～49歳(n=109)		講座・講習会	文化・芸術活動などのイベント	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	市民が互いに交流できる活動	水害や火事などに備えるための防災活動
		33.0	32.1	30.3	23.9	22.9
50～59歳(n=77)		スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動
		23.4	22.1	20.8	19.5	13.0
60歳以上(n=83)		文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	市民が互いに交流できる活動	地域の環境をより美しくする運動	スポーツ活動などのイベント
		19.3	18.1	13.3	12.0	10.8

表 4-12 【通算在住年数別】市の住民サービス活動の参加経験（第1位～5位）

(%)

通算在住年数	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
1年未満(n=16)		文化・芸術活動などのイベント／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	スポーツ活動などのイベント／講座・講習会			
		12.5	6.3		0.0	
1年以上5年未満(n=62)		文化・芸術活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント／講座・講習会			
		12.9	4.8		0.0	
5年以上15年未満(n=93)		文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	地域の環境をより美しくする運動	スポーツ活動などのイベント／講座・講習会	
		6.5	5.4	4.3	3.2	
15年以上30年未満(n=61)		文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント	地域の環境をより美しくする運動	講座・講習会	市民が互いに交流できる活動
		16.4	14.8	11.5	9.8	8.2
30年以上55年未満(n=114)		文化・芸術活動などのイベント	スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	水害や火事などに備えるための防災活動	講座・講習会／地域の環境をより美しくする運動
		16.7	14.0	7.9	7.0	5.3
55年以上(n=72)		スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	市民が互いに交流できる活動／地域の環境をより美しくする運動／水害や火事などに備えるための防災活動	
		11.1	4.2	2.8	1.4	

表 4-13 【通算在住年数別】市の住民サービス活動の参加意向（第1位～5位）

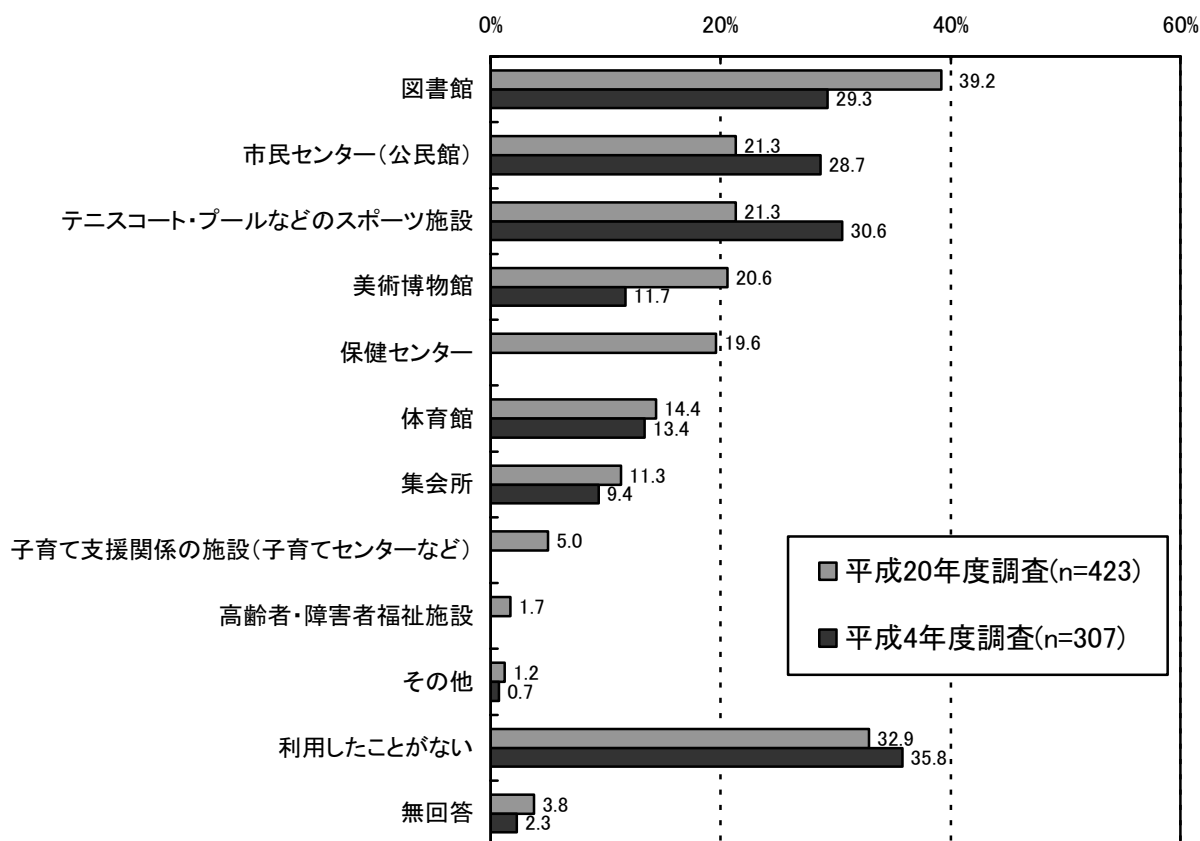
(%)

順位 通算在住年数	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
1年未満(n=16)	水害や火事などに備えるための防災活動	スポーツ活動などのイベント／文化・芸術活動などのイベント／市民が互いに交流できる活動			社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動／地域の環境をより美しくする運動
	31.3	25.0			18.8
1年以上5年未満(n=62)	文化・芸術活動などのイベント	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動／講座・講習会	
	35.5	33.9	30.6	24.2	
5年以上15年未満(n=93)	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	市民が互いに交流できる活動	スポーツ活動などのイベント	
	33.3	30.1		26.9	22.6
15年以上30年未満(n=61)	文化・芸術活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	講座・講習会／社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動	スポーツ活動などのイベント	
	34.4	31.1	29.5		24.6
30年以上55年未満(n=114)	文化・芸術活動などのイベント	講座・講習会	スポーツ活動などのイベント	市民が互いに交流できる活動	社会福祉・翻訳・通訳などのボランティア活動
	26.3	24.6	20.2	17.5	16.7
55年以上(n=72)	講座・講習会	スポーツ活動などのイベント	文化・芸術活動などのイベント／地域の環境をより美しくする運動	水害や火事などに備えるための防災活動	
	12.5	11.1	9.7		8.3

#### 4-5. 利用したことがある市の施設（複数回答）

Q28 あなたは<sup>あしや</sup>市の<sup>しせつ</sup>施設を利用したことがありますか。利用したことがあるものを<sup>りよう</sup>次の<sup>つぎ</sup>の中から<sup>なか</sup>お<sup>まら</sup>選びください。（〇はいくつでも）

図 4-10



利用したことがある市の施設では、「図書館」が 39.2%と最も高く、以下「市民センター（公民館）」と「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」の利用がそれぞれ 21.3%、「美術博物館」20.6%となっている。「利用したことがない」人は 32.9%となっている。また、「その他」として、『消防署』などをあげている。（図 4-10）

前回調査との比較では、「図書館」や「美術博物館」などを利用した人は前回調査より増加し、「市民センター（公民館）」や「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」を利用した人は減少している。（図 4-10）

国籍別では、国籍に関係なく、「図書館」を利用した人は全般的に多い。北米の人は「市民センター（公民館）」、「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」や「美術博物館」を利用した割合が高く、中国の人は「保健センター」、西・南アジア、中近東の人は「体育館」も高い。ヨーロッパや東南アジアの人は「利用したことがない」人も多い。（表 4-14）

性別では、男女ともに「図書館」の利用が第1位にあがっている。男性は「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」の利用、女性は「保健センター」の利用も高い。また、「子育て支援関係の施設（子育てセンターなど）」の利用は男性で 3.1%となっている。「利用したことがない」人は男女ともに3割を超えている。（表 4-15）

年齢別では、各年代とも「図書館」は幅広く利用されている。「利用したことがない」人

は「20～29歳」で51.1%となっている。(表4-15)

通算在住年数別では、在住年数が長い人ほど「利用したことがない」という人は少なくなっているが、在住年数が「55年以上」の人では増加している。どの通算在住年数層の人にも、「図書館」はよく利用されている。また、「30年以上55年未満」の人は、「市民センター(公民館)」や「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」などもよく利用している。

(表4-16)

日常使用言語別では、「タイ語」を除いていずれの言語を使用する人も「図書館」の利用の割合は高く、「英語」の人は「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」や「美術博物館」、「中国語」の人は「保健センター」、「韓国・朝鮮語」の人は「市民センター(公民館)」、「スペイン語」の人は「美術博物館」や「テニスコート・プールなどのスポーツ施設」、「フランス語」の人は「体育館」や「市民センター(公民館)」の利用がそれぞれ高い。また、日常使用言語が「ドイツ語」の人は、「利用したことがない」人の割合が高くなっている。(表4-17)

表4-14 【国籍別】利用したことがある市の施設

(%)

国籍	市の施設 市民センター(公民館)	図書館	体育館	集会所	テニスコート・プールなどのスポーツ施設	美術博物館	保健センター	子育て支援関係の施設(子育てセンターなど)	高齢者・障害者福祉施設	その他	利用したことがない	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	22.7	42.2	10.4	15.6	18.8	21.4	20.1	2.6	2.6	0.6	32.5	4.5
中国 (n=99)	18.2	43.4	14.1	13.1	15.2	20.2	24.2	8.1	3.0	1.0	32.3	1.0
北米 (n=33)	42.4	33.3	24.2	9.1	42.4	39.4	21.2	3.0	0.0	0.0	15.2	0.0
ヨーロッパ (n=37)	13.5	27.0	8.1	0.0	21.6	18.9	8.1	2.7	0.0	0.0	51.4	0.0
オセアニア (n=8)	12.5	50.0	25.0	0.0	75.0	37.5	0.0	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0
東南アジア (n=32)	15.6	28.1	12.5	9.4	18.8	15.6	15.6	6.3	0.0	3.1	46.9	3.1
中南米 (n=16)	12.5	37.5	18.8	6.3	18.8	18.8	12.5	0.0	0.0	0.0	31.3	6.3
西・南アジア、中近東 (n=13)	15.4	30.8	23.1	7.7	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	30.8	23.1
その他 (n=4)	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0

表 4-15 【性別・年齢別】利用したことがある市の施設

(%)

市の施設 性別・年齢	市民センター(公民館)	図書館	体育館	集会所	テニスコート・プールなどのスポーツ施設	美術博物館	保健センター	子育て支援関係の施設(子育てセンターなど)	高齢者・障害者福祉施設	その他	利用したことがない	無回答
男性 (n=194)	19.6	35.6	13.4	9.3	25.8	19.6	15.5	3.1	1.0	1.5	36.1	3.6
女性 (n=223)	22.4	41.7	14.3	13.0	17.5	21.5	23.3	6.7	2.2	0.9	30.5	3.6
20歳未満 (n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=45)	2.2	22.2	8.9	0.0	15.6	2.2	8.9	0.0	0.0	2.2	51.1	0.0
30～39歳 (n=102)	15.7	47.1	10.8	8.8	26.5	21.6	22.5	12.7	2.0	1.0	29.4	3.9
40～49歳 (n=109)	27.5	42.2	21.1	13.8	24.8	18.3	22.9	6.4	0.0	0.9	31.2	3.7
50～59歳 (n=77)	26.0	41.6	13.0	14.3	14.3	26.0	19.5	1.3	1.3	1.3	31.2	0.0
60歳以上 (n=83)	24.1	30.1	12.0	14.5	19.3	26.5	18.1	0.0	4.8	1.2	33.7	7.2

表 4-16 【通算在住年数別】利用したことがある市の施設

(%)

市の施設 通算在住年数	市民センター(公民館)	図書館	体育館	集会所	テニスコート・プールなどのスポーツ施設	美術博物館	保健センター	子育て支援関係の施設(子育てセンターなど)	高齢者・障害者福祉施設	その他	利用したことがない	無回答
1年未満 (n=16)	12.5	25.0	6.3	0.0	18.8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	16.1	29.0	9.7	3.2	19.4	11.3	9.7	4.8	0.0	3.2	41.9	0.0
5年以上15年未満 (n=93)	19.4	38.7	7.5	5.4	17.2	14.0	22.6	10.8	1.1	0.0	35.5	5.4
15年以上30年未満 (n=61)	16.4	41.0	26.2	9.8	26.2	26.2	23.0	6.6	0.0	3.3	23.0	3.3
30年以上55年未満 (n=114)	30.7	49.1	19.3	17.5	29.8	27.2	25.4	3.5	0.9	0.0	28.1	1.8
55年以上 (n=72)	18.1	33.3	9.7	19.4	11.1	23.6	16.7	0.0	6.9	1.4	34.7	8.3

表 4-17 【日常使用言語別】利用したことがある市の施設

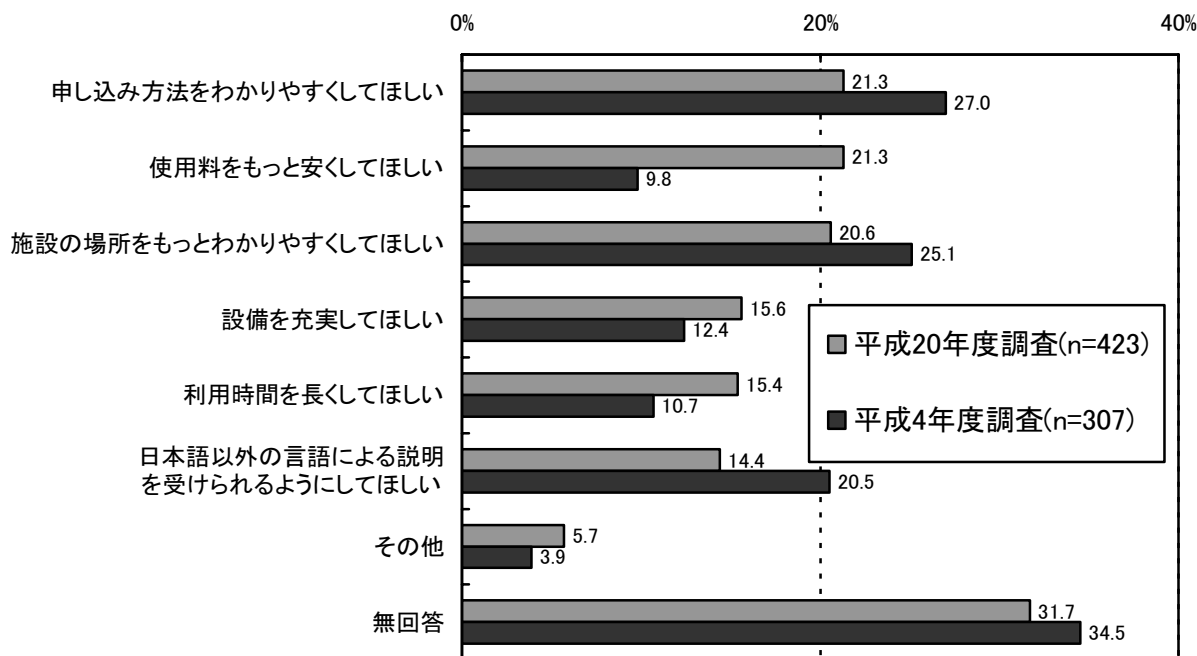
(%)

市の施設 日常使用言語	市民センター (公民館)	図書館	体育館	集会所	テニスコート・プールなどのスポーツ施設	美術博物館	保健センター	子育て支援関係の施設(子育てセンターなど)	高齢者・障害者福祉施設	その他	利用したことがない	無回答
日本語 (n=344)	20.6	41.9	14.5	12.2	22.4	21.2	20.9	5.2	2.0	1.2	31.7	3.2
英語 (n=135)	23.7	34.1	17.0	5.2	31.1	25.2	16.3	5.2	0.0	2.2	34.1	0.0
中国語 (n=61)	18.0	49.2	11.5	6.6	16.4	21.3	23.0	13.1	1.6	1.6	26.2	0.0
韓国・朝鮮語 (n=32)	25.0	53.1	12.5	3.1	12.5	15.6	12.5	0.0	3.1	0.0	21.9	3.1
スペイン語 (n=17)	17.6	35.3	17.6	5.9	29.4	35.3	23.5	0.0	0.0	0.0	23.5	5.9
ポルトガル語 (n=2)	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フランス語 (n=13)	38.5	30.8	46.2	7.7	23.1	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0	30.8	0.0
ドイツ語 (n=12)	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
インドネシア語 (n=7)	28.6	28.6	14.3	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0
タガログ語 (n=7)	0.0	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0
タイ語 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0
ネパール語 (n=5)	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0
その他 (n=23)	17.4	39.1	21.7	13.0	4.3	4.3	17.4	4.3	0.0	4.3	47.8	4.3

#### 4-6. 市の施設を利用するにあたっての要望（複数回答）

Q29 公共の施設を利用されるにあたってどのような希望がありますか。（〇はいくつでも）

図 4-11



市の施設の利用での要望として、「申し込み方法をわかりやすくしてほしい」と「使用料をもっと安くしてほしい」がそれぞれ21.3%と最も高く、以下「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」20.6%、「設備を充実してほしい」15.6%、「利用時間を長くしてほしい」15.4%となっている。また、「無回答」の割合が高いのは、『特に要望がない』という人が相当数あると思われる。また、『その他』として、『英語の図書を増やしてほしい』などをあげている。（図4-11）

前回調査との比較では、「使用料をもっと安くしてほしい」という人が前回調査より11.5ポイント増加している。「設備を充実してほしい」や「利用時間を長くしてほしい」という人も増加している。一方、「申し込み方法をわかりやすくしてほしい」、「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」及び「日本語以外の言語による説明を受けられるようにしてほしい」という人は前回調査より減少している。（図4-11）

国籍別では、中国、東南アジア及び中南米の人は「使用料をもっと安くしてほしい」が高く、ヨーロッパ、東南アジア及び中南米の人は「日本語以外の言語による説明を受けられるようにしてほしい」が高くなっている。北米やヨーロッパの人は「利用時間を長くしてほしい」も高い。（表4-18）

性別では、男女ともに「使用料をもっと安くしてほしい」という要望の割合が高く、全体的にみると女性より男性が各項目にわたって割合が高い。（表4-19）

年齢別では、「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」や「日本語以外の言語による説明を受けられるようにしてほしい」という要望は、年齢層が低いほど多くなっている。（表4-19）

調査票回答言語別では、「施設の場所をもっとわかりやすくしてほしい」や「日本語以外の言語による説明を受けられるようにしてほしい」という要望は回答言語が英語やスペイン語の人で多くなっている。（表4-20）



表 4-18 【国籍別】市の施設を利用するにあたっての要望

(%)

施設利用時の要望 国籍	施設の場所をも つとわかりやす くしてほしい	申し込み方法を わかりやすくし てほしい	設備を充実して ほしい	利用時間を長く してほしい	使用料をもっと 安くしてほしい	日本語以外の言 語による説明を 受けられるよう にしてほしい	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	19.5	24.0	17.5	13.6	18.2	3.2	1.9	41.6
中国 (n=99)	24.2	19.2	21.2	18.2	32.3	13.1	7.1	22.2
北米 (n=33)	24.2	9.1	18.2	18.2	6.1	9.1	15.2	27.3
ヨーロッパ (n=37)	16.2	18.9	5.4	21.6	5.4	21.6	8.1	37.8
オセアニア (n=8)	50.0	37.5	25.0	0.0	12.5	50.0	0.0	12.5
東南アジア (n=32)	18.8	18.8	12.5	15.6	37.5	31.3	3.1	18.8
中南米 (n=16)	12.5	18.8	6.3	6.3	37.5	31.3	0.0	31.3
西・南アジア、中近東 (n=13)	7.7	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	30.8
その他 (n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0

表 4-19 【性別・年齢別】市の施設を利用するにあたっての要望

(%)

施設利用時の要望 性別・年齢	施設の場所をも つとわかりやす くしてほしい	申し込み方法を わかりやすくし てほしい	設備を充実して ほしい	利用時間を長く してほしい	使用料をもっと 安くしてほしい	日本語以外の言 語による説明を 受けられるよう にしてほしい	その他	無回答
男性 (n=194)	22.2	22.7	17.0	15.5	23.7	14.9	6.2	29.4
女性 (n=223)	19.3	19.3	14.8	15.7	19.7	13.9	5.4	33.2
20歳未満 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=45)	28.9	24.4	15.6	17.8	28.9	26.7	2.2	20.0
30～39歳 (n=102)	20.6	26.5	19.6	14.7	24.5	13.7	5.9	24.5
40～49歳 (n=109)	21.1	18.3	17.4	17.4	22.9	16.5	7.3	30.3
50～59歳 (n=77)	19.5	22.1	13.0	20.8	14.3	14.3	5.2	29.9
60歳以上 (n=83)	16.9	14.5	10.8	8.4	18.1	6.0	6.0	49.4

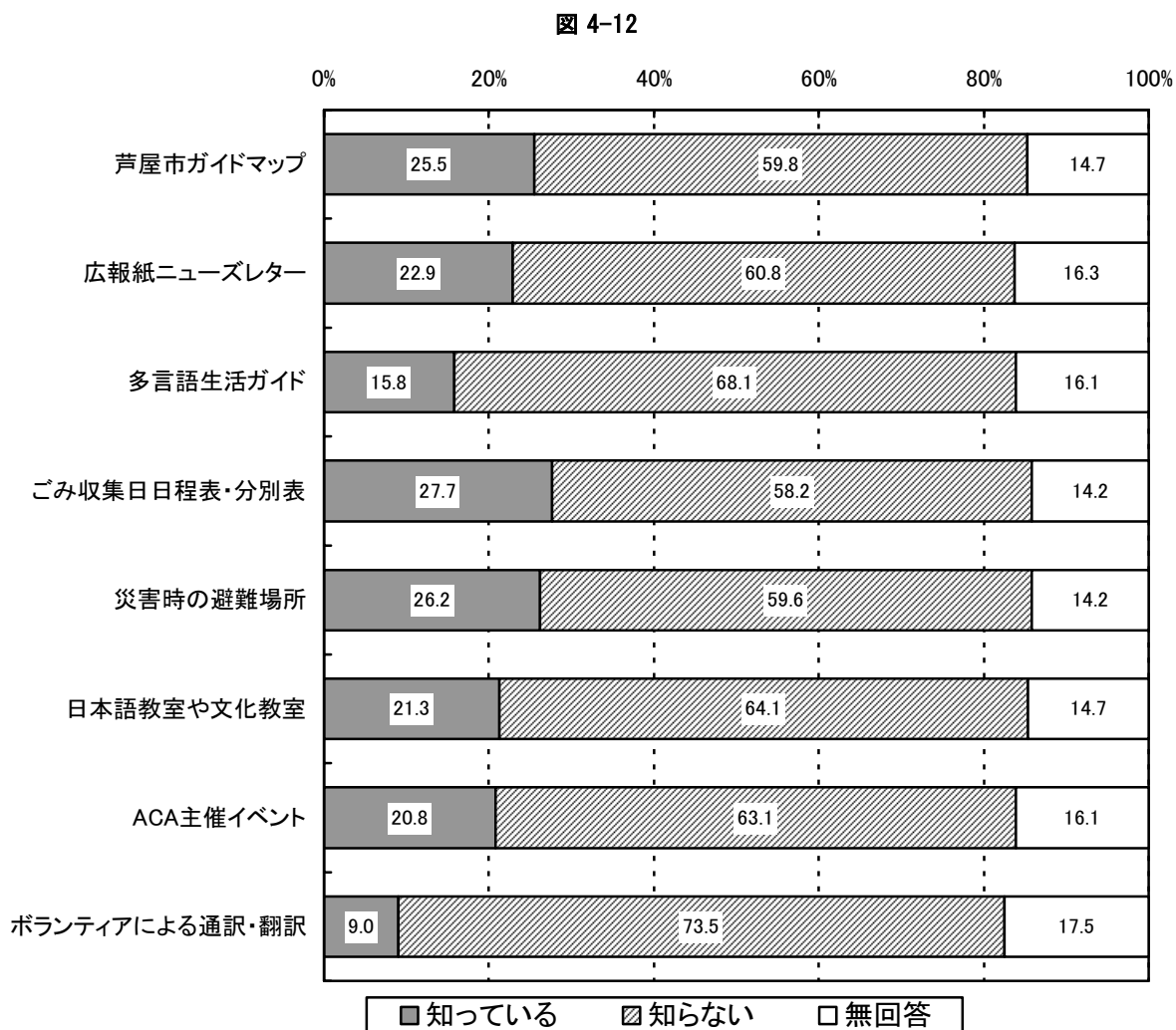
表 4-20 【調査票回答言語別】市の施設を利用するにあたっての要望

(%)

施設利用時の要望 調査票回答言語	施設の場所をも っとわかりやす くしてほしい	申し込み方法を わかりやすくし てほしい	設備を充実して ほしい	利用時間を長く してほしい	使用料をもっと 安くしてほしい	日本語以外の言 語による説明を 受けられるよう にしてほしい	その他	無回 答
日本語 (n=246)	19.5	19.9	20.7	12.2	22.4	4.5	4.5	38.2
英語 (n=95)	24.2	22.1	6.3	18.9	12.6	31.6	7.4	24.2
中国語 (n=37)	21.6	29.7	16.2	21.6	35.1	24.3	8.1	13.5
韓国・朝鮮語 (n=24)	12.5	20.8	8.3	29.2	20.8	16.7	4.2	29.2
スペイン語 (n=17)	23.5	11.8	5.9	5.9	23.5	29.4	11.8	29.4
ポルトガル語 (n=4)	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0

#### 4-7. 外国語による情報提供の認知度

Q30 市では、現在外国語による情報提供に努めています。以下の項目についてご存知ですか。(それぞれ○は1つだけ)



外国語による情報提供の認知度として、外国語による情報提供があることを「知っている」割合が最も高いのは、「ごみ収集日日程表・分別表」27.7%で、以下「災害時の避難場所」26.2%、「芦屋市ガイドマップ」25.5%となっている。一方、「知らない」と回答している割合が最も高いのは、「ボランティアによる通訳・翻訳」73.5%、以下「多言語生活ガイド」68.1%、「日本語教室や文化教室」64.1%となっている。また、「知らない」と回答している割合は、「ごみ収集日日程表・分別表」58.2%となっており、各項目の認知度は高くない。(図 4-12)

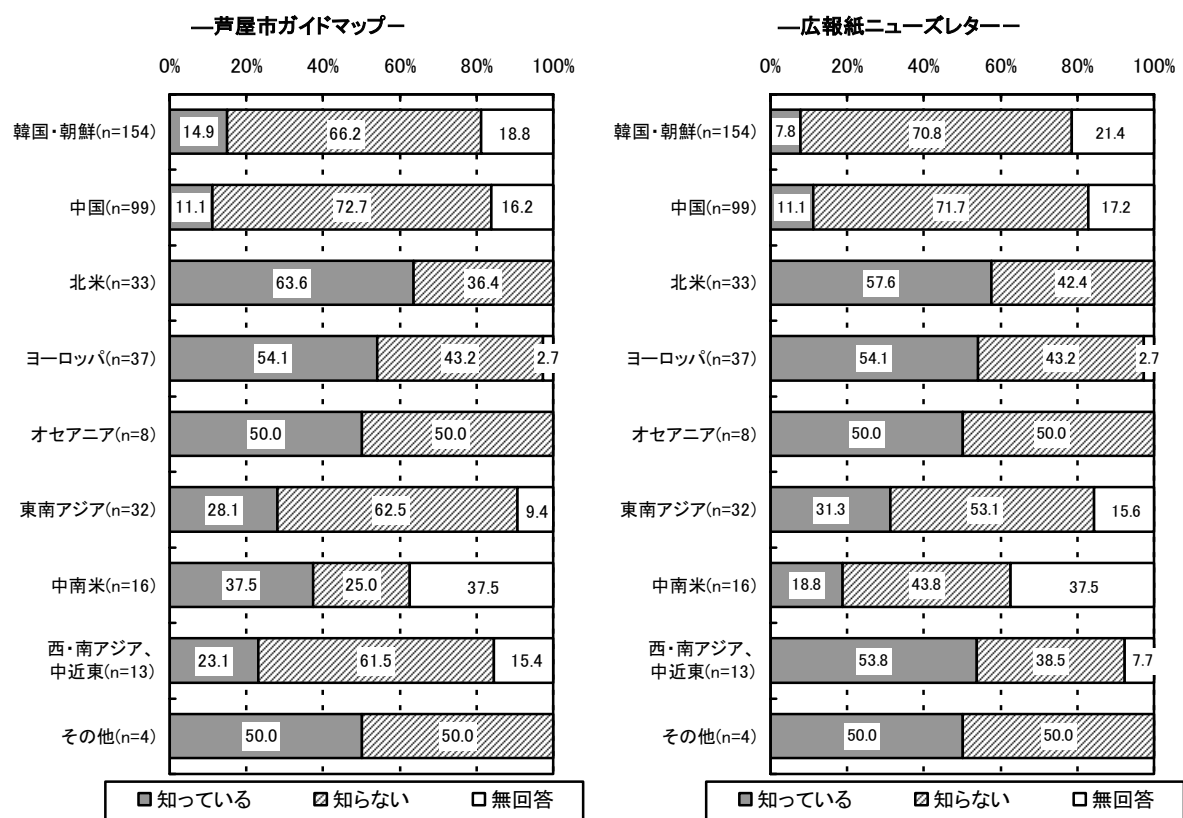
国籍別では、韓国・朝鮮及び中国の人は、「災害時の避難場所」で他の国籍の人より高いが、認知度は2～3割で低い。北米、ヨーロッパ及びオセアニアの人は「芦屋市ガイドマップ」、「広報紙ニューズレター」、「ごみ収集日日程表・分別表」や「日本語教室や文化教室」で認知度が4～6割となっている。また、東南アジアの人は「広報紙ニューズレター」や「ごみ収集日日程表・分別表」で3～4割、中南米の人では「芦屋市ガイドマップ」や「ごみ収集日日程表・分別表」で3～4割、西・南アジア、中近東の人は「広報紙ニューズレター」、「ごみ収集日日程表・分別表」や「ACA主催イベント」で3～6割となっている。(図 4-13)

性別では、男性は女性に比べて「芦屋市ガイドマップ」、「広報紙ニューズレター」や「ACA主催イベント」の認知度が高くなっている。(図 4-14)

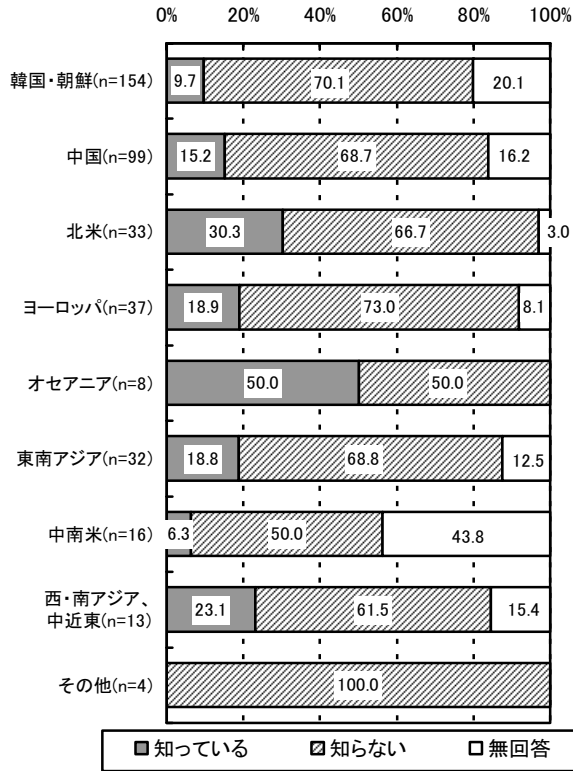
年齢別では、全般に「30歳代～40歳代」の人の認知度は高いが、各年齢層の認知度をみると、「50～59歳」は「広報紙ニューズレター」や「ボランティアによる通訳・翻訳」、「40～49歳」は「芦屋市ガイドマップ」、「ごみ収集日日程表・分別表」、「災害時の避難場所」、「日本語教室や文化教室」や「ACA主催イベント」、「20～29歳」は「多言語生活ガイド」が高くなっている。(図 4-14)

日常使用言語別では、全般に日常使用言語が「日本語」、「韓国・朝鮮語」及び「中国語」の人は各項目にわたって「知っている」の割合は低い。日常使用言語が「英語」の人は、「芦屋市ガイドマップ」、「広報紙ニューズレター」、「ごみ収集日日程表・分別表」の認知度は約5割あるが、その他の項目は「知らない」の割合が高く、「災害時の避難場所」や「ボランティアによる通訳・翻訳」は7割以上の方が「知らない」と回答している。日常使用言語が「スペイン語」の人は、「災害時の避難場所」や「多言語生活ガイド」は認知度が低い。(図 4-15)

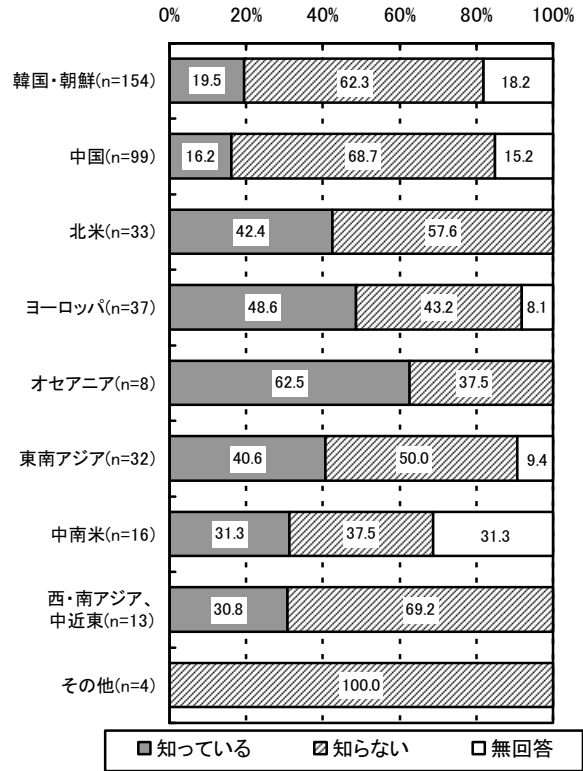
図 4-13 【国籍別】外国語による情報提供の認知度



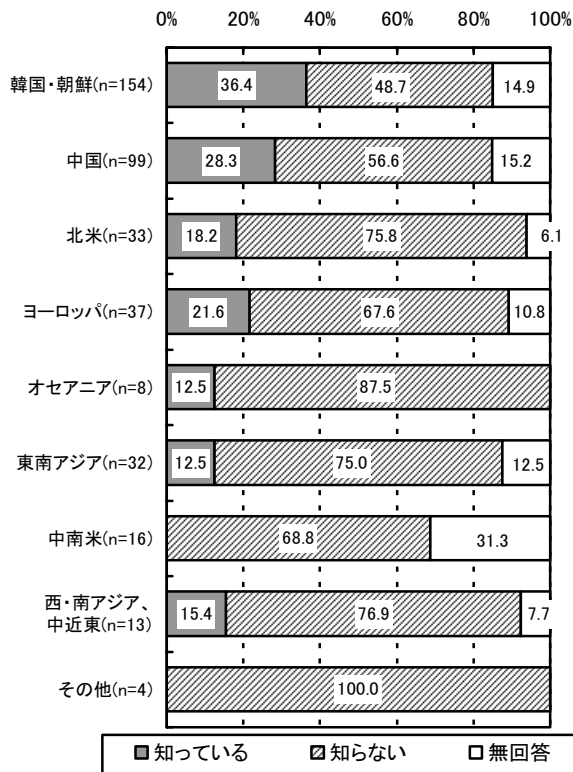
—多言語生活ガイド—



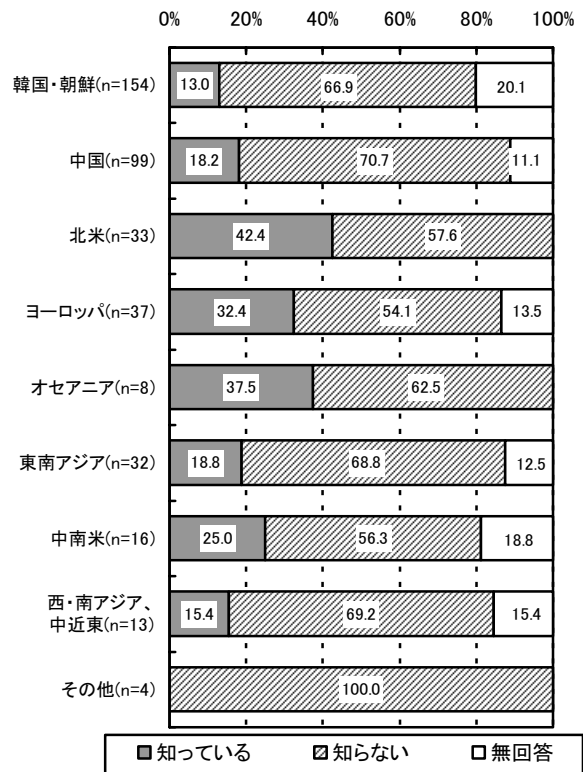
—ごみ収集日日程表・分別表—



—災害時の避難場所—



—日本語教室や文化教室—



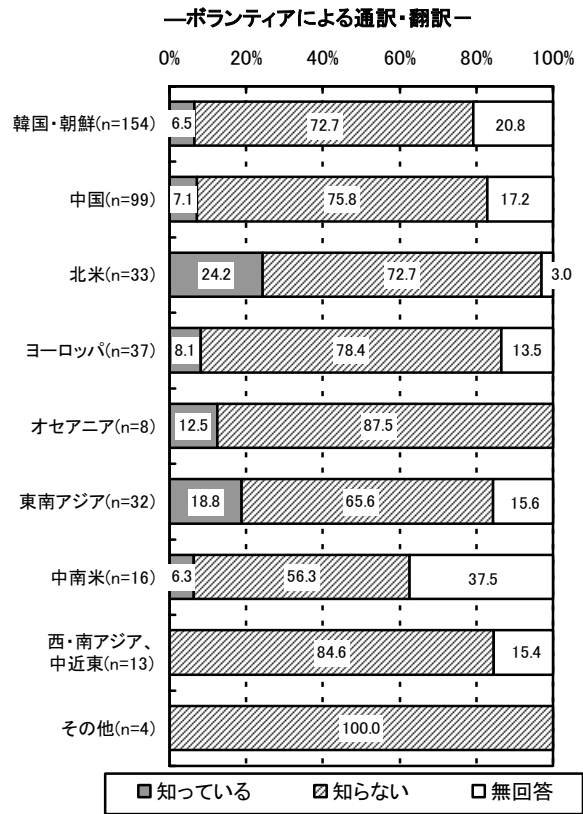
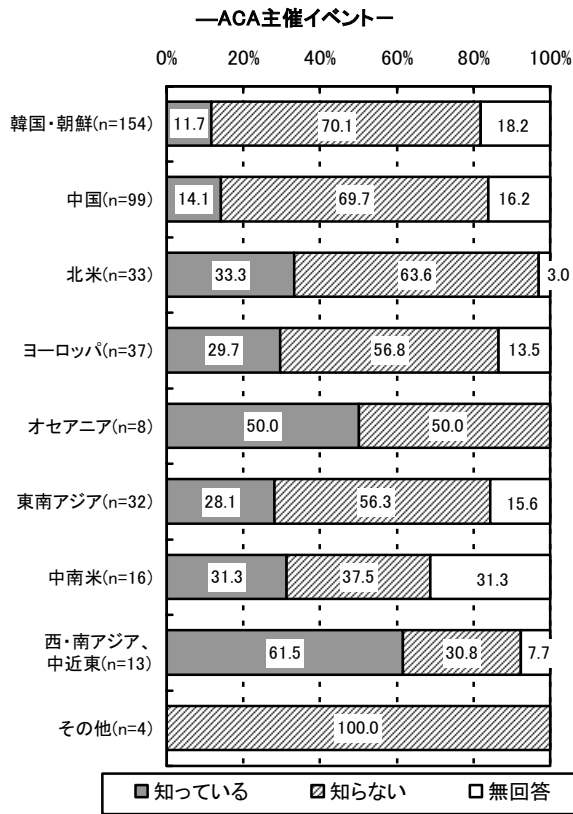
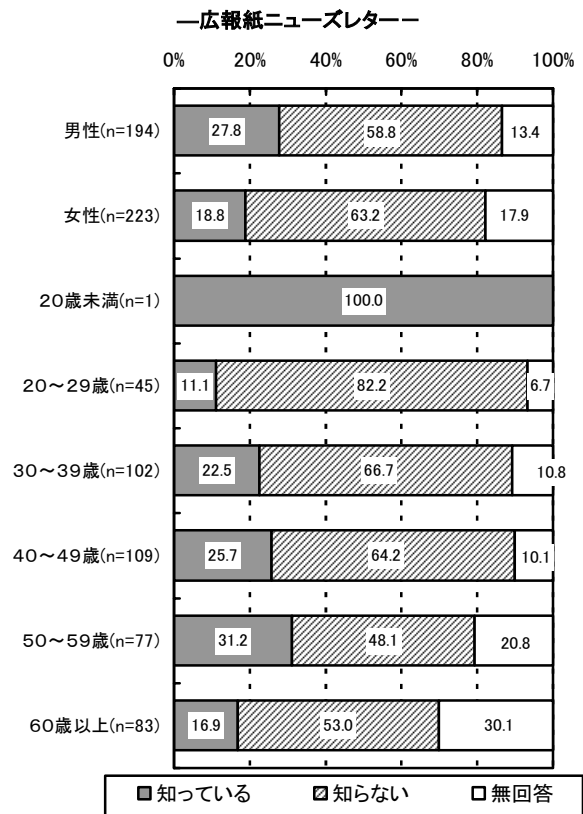
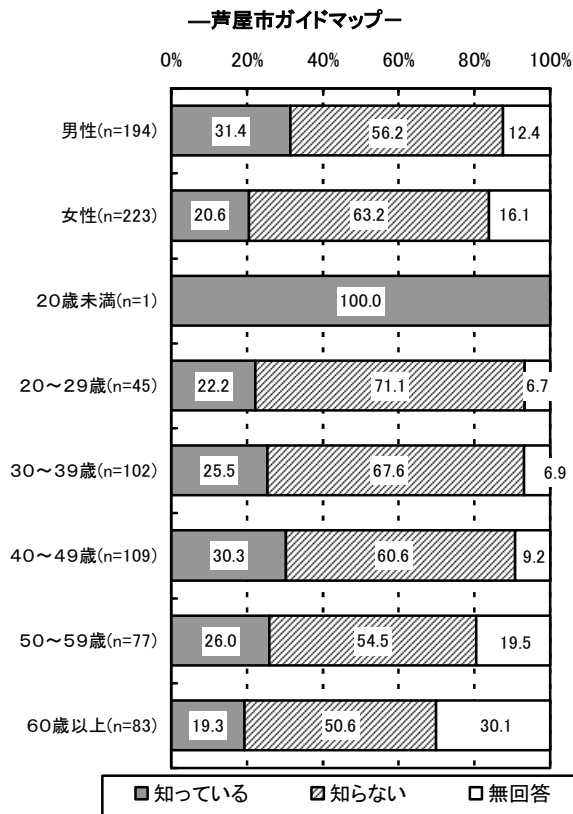
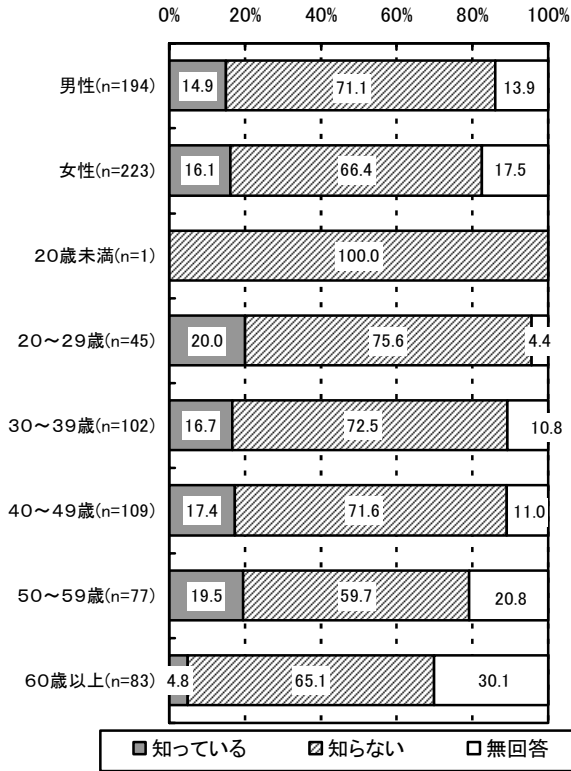


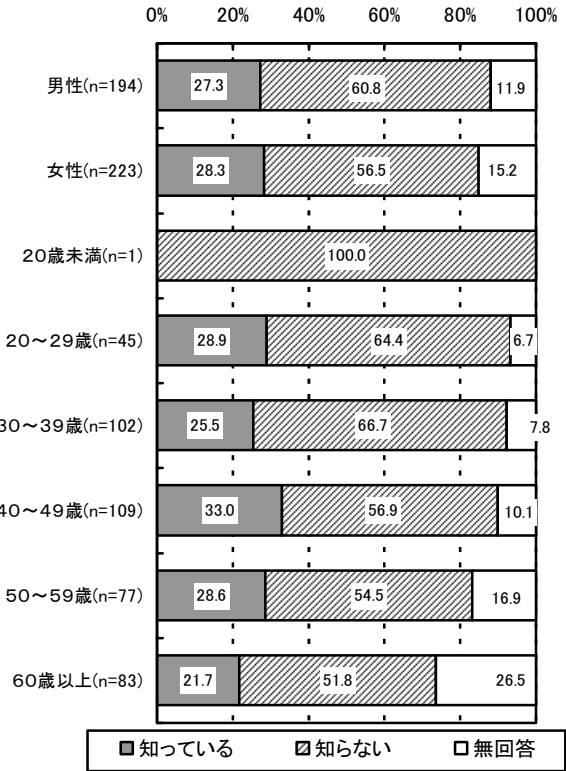
図 4-14 【性別・年齢別】外国語による情報提供の認知度



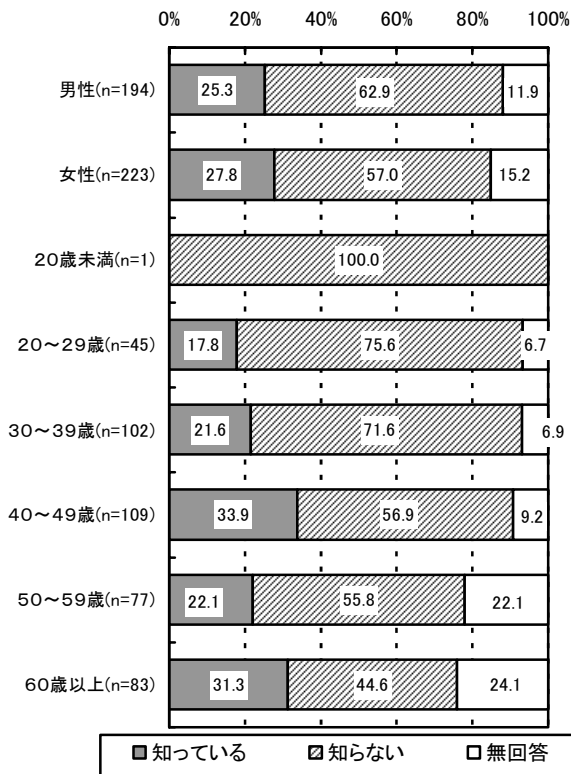
—多言語生活ガイド—



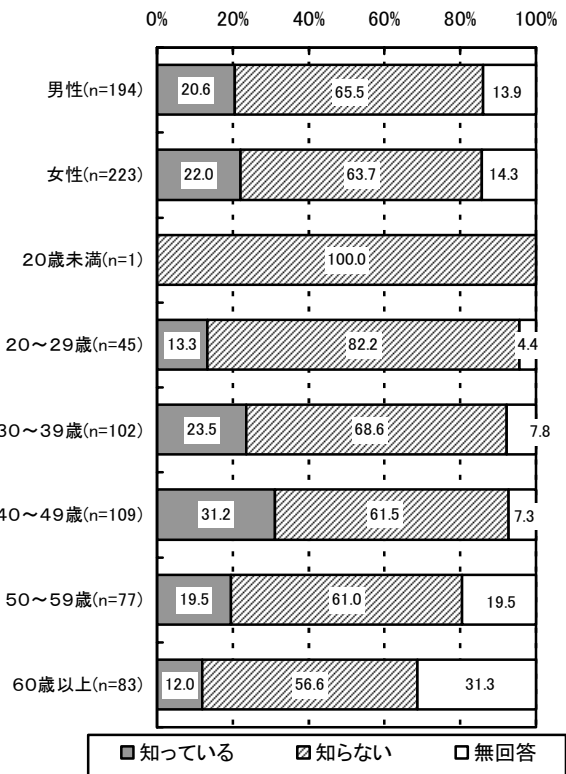
—ごみ収集日日程表・分別表—



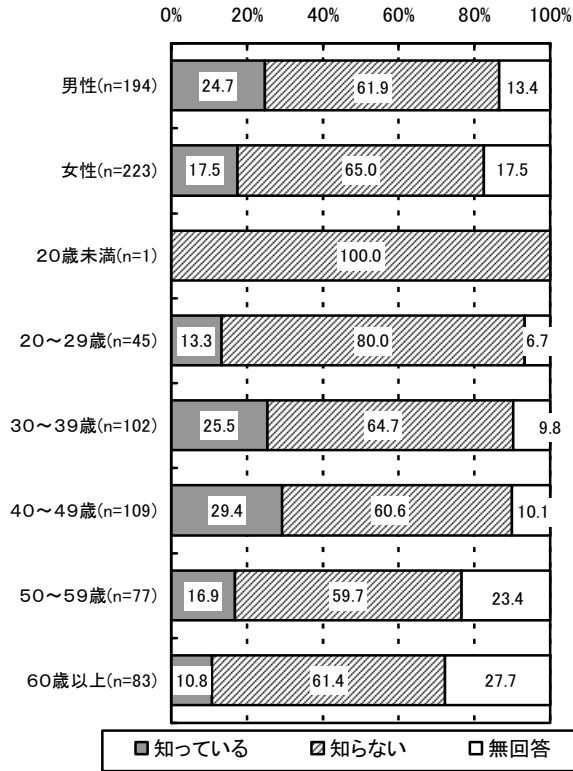
—災害時の避難場所—



—日本語教室や文化教室—



—ACA主催イベント—



—ボランティアによる通訳・翻訳—

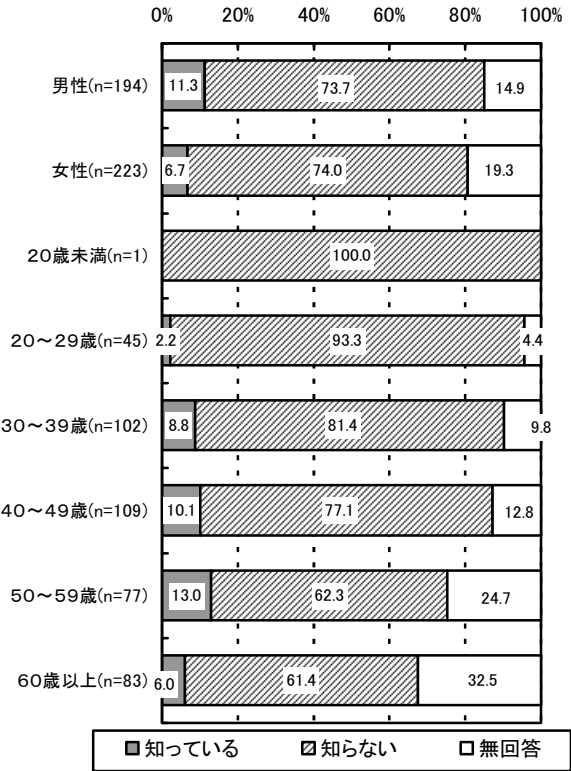
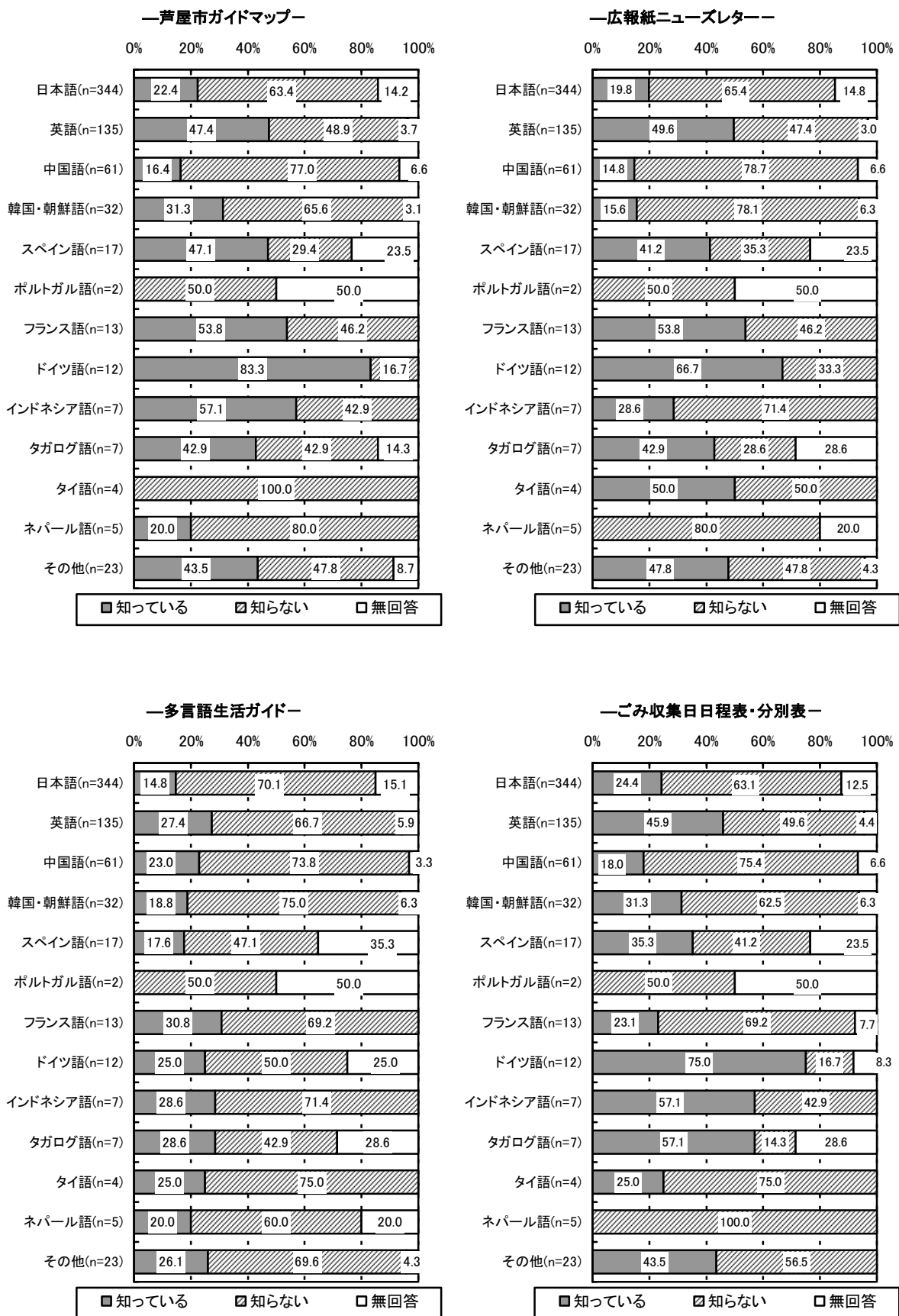
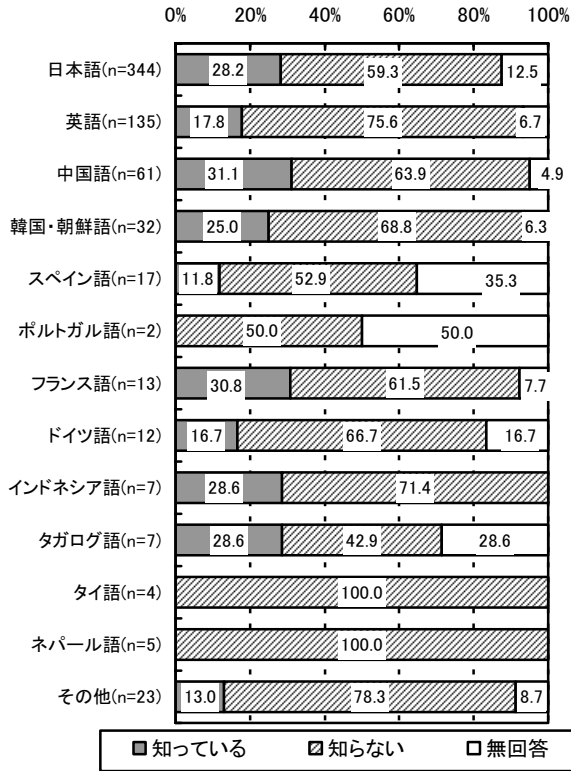




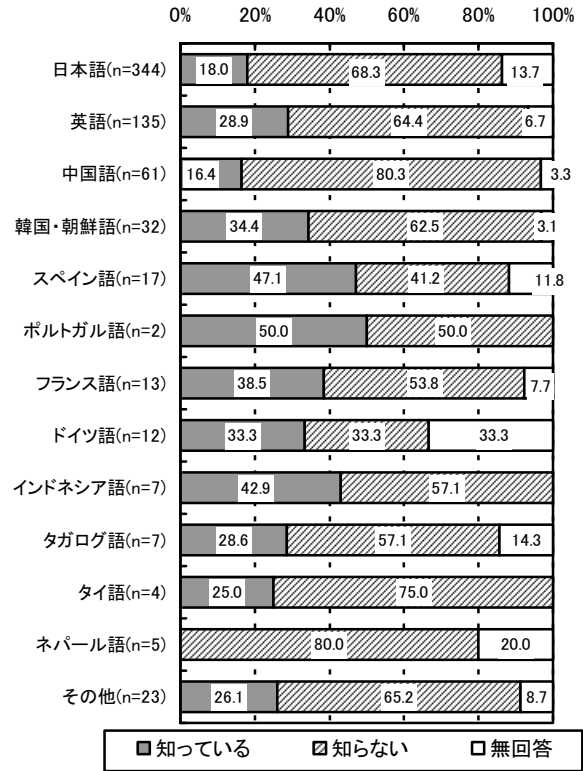
図 4-15 【日常使用言語別】外国語による情報提供の認知度



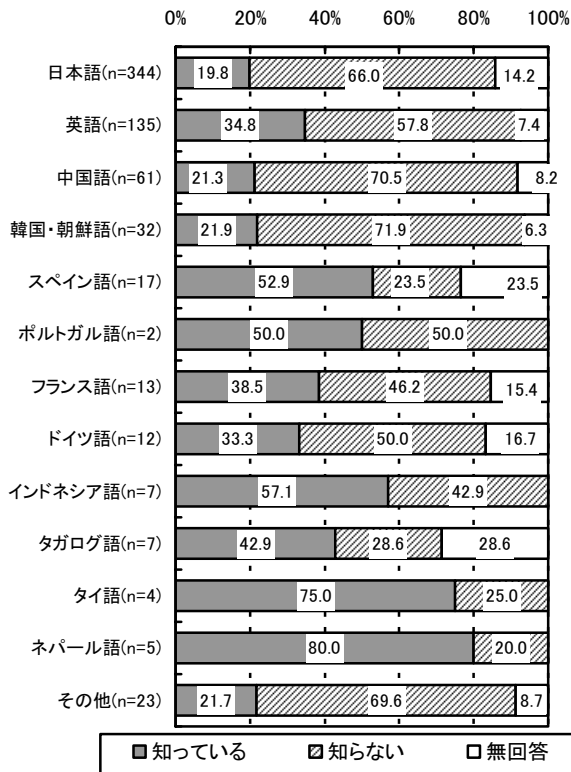
—災害時の避難場所—



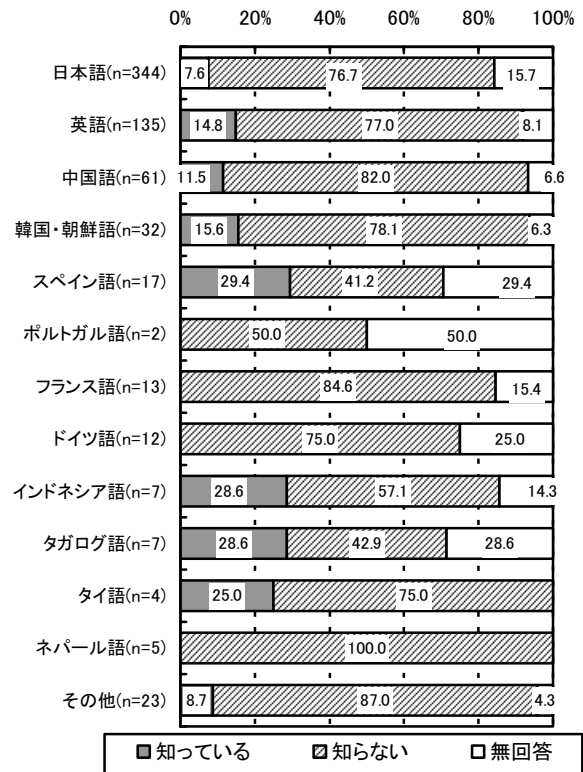
—日本語教室や文化教室—



—ACA主催イベント—



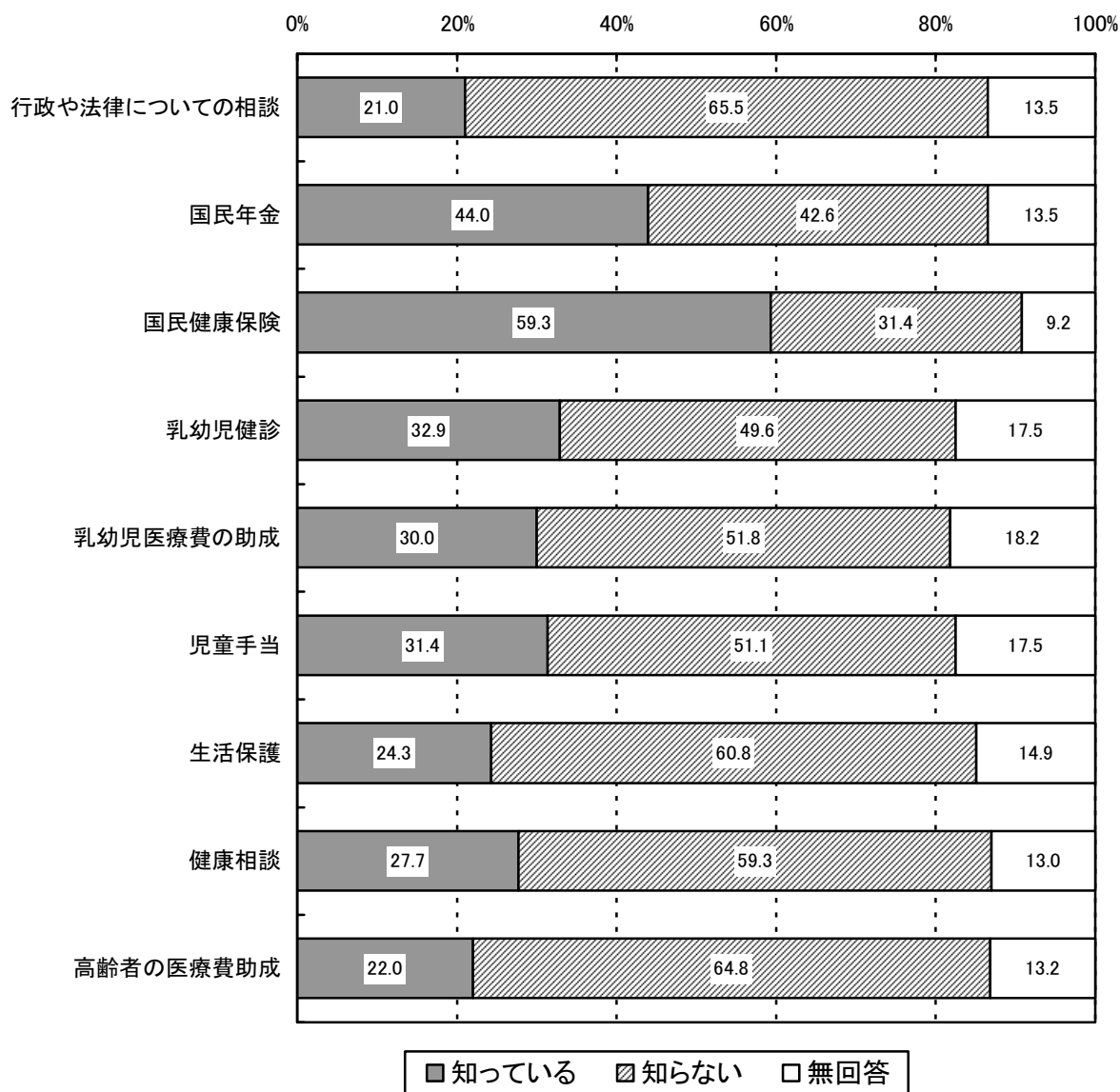
—ボランティアによる通訳・翻訳—



#### 4-8. 外国人が利用できる市のサービスの認知度

Q31 市では外国人の方も利用できるサービスがありますが、以下の項目についてご存知ですか。(それぞれ○は1つだけ)

図 4-16



外国人が利用できる市のサービスの認知度として、「知っている」割合が最も高いのは、「国民健康保険」59.3%で、以下「国民年金」44.0%、「乳幼児健診」32.9%となっている。一方、「知らない」が最も高いのは、「行政や法律についての相談」65.5%で、以下「高齢者の医療費助成」64.8%、「生活保護」60.8%となっている。(図 4-16)

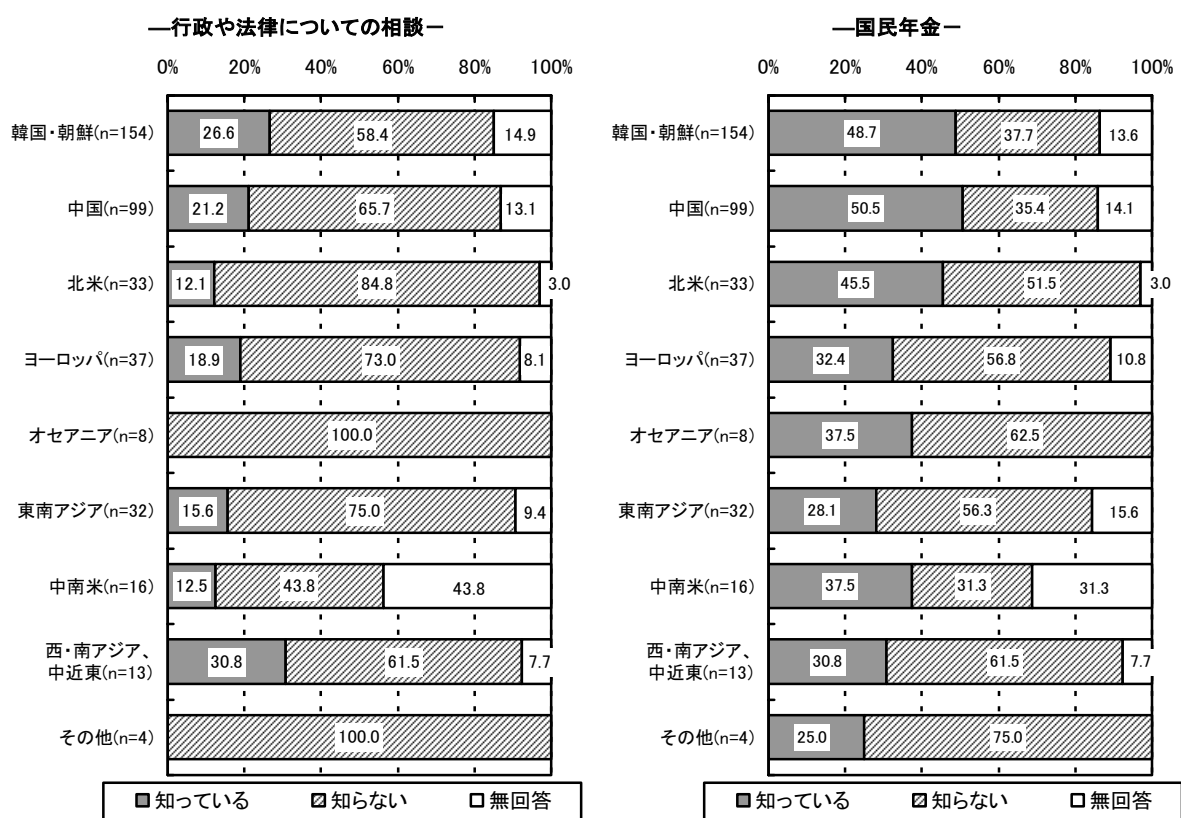
国籍別では、いずれの国籍の人も「国民健康保険」の認知度は高い。韓国・朝鮮及び中国の人は、他の国籍の人と比べてほとんどの項目で認知度は高くなっている。北米の人は「国民年金」、東南アジアの人は「乳幼児医療費の助成」、中南米の人は「健康相談」、西・南アジア、中近東の人は「行政や法律についての相談」や「児童手当」の認知度が比較的高い。(図 4-17)

性別では、女性は男性に比べて、すべての項目で認知度は高い。(図 4-18)

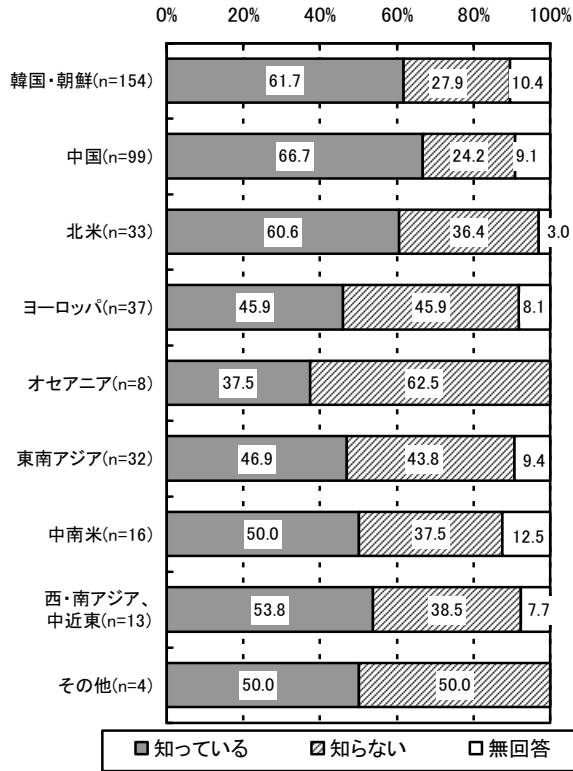
年齢別では、「国民健康保険」や「国民年金」は各年齢層で認知度は高い。「乳幼児健診」、「乳幼児医療費の助成」、「児童手当」といった子どもに関するサービスの認知度は「30歳代～40歳代」の人で高くなっている。また、「50歳以上」の人では「健康相談」や「高齢者の医療費助成」といった健康や高齢者に関するサービスの認知度が高くなっている。(図4-18)

日常使用言語別では、日常使用言語が「フランス語」や「ドイツ語」の人は、すべての項目で「知っている」より「知らない」と回答している人の割合が高い。日常使用言語が「スペイン語」の人は、「健康相談」で約5割の認知度となっている。(図4-19)

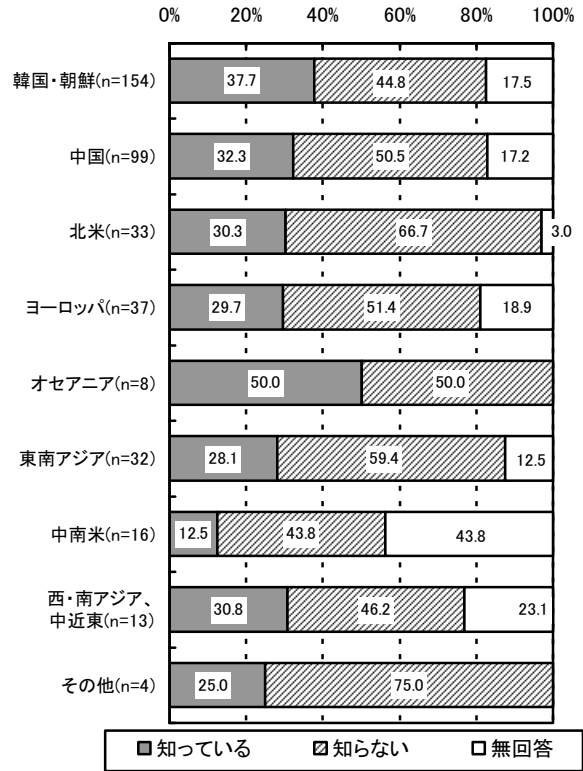
図4-17 【国籍別】外国人が利用できる市のサービスの認知度



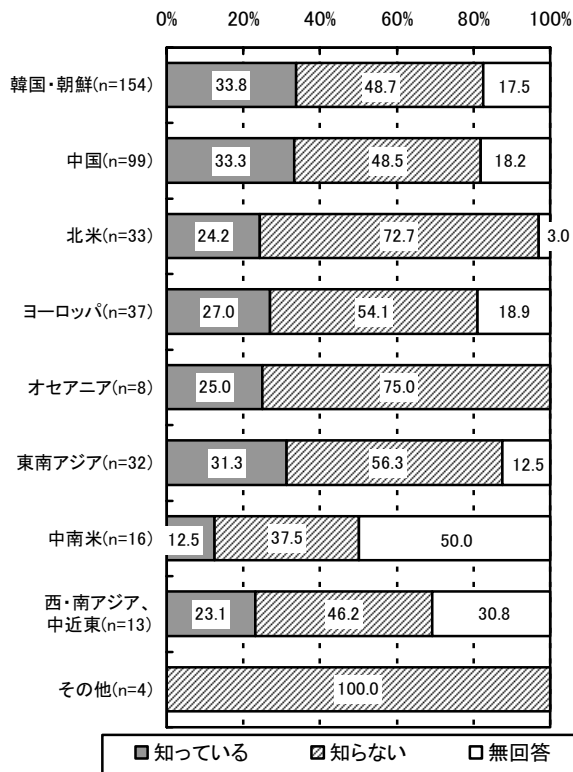
—国民健康保険—



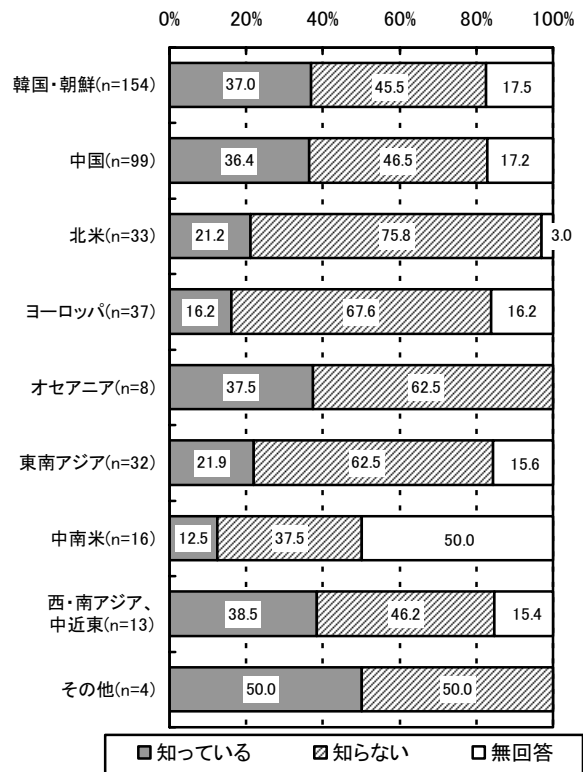
—乳幼児健診—



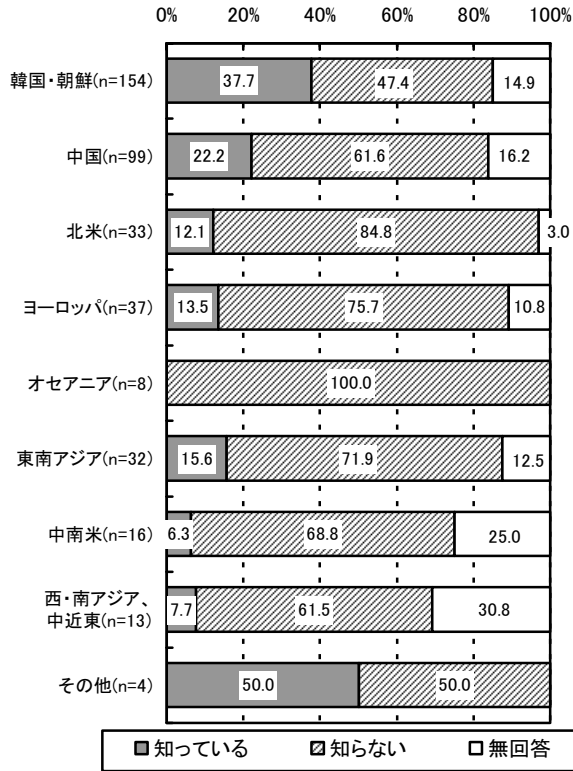
—乳幼児医療費の助成—



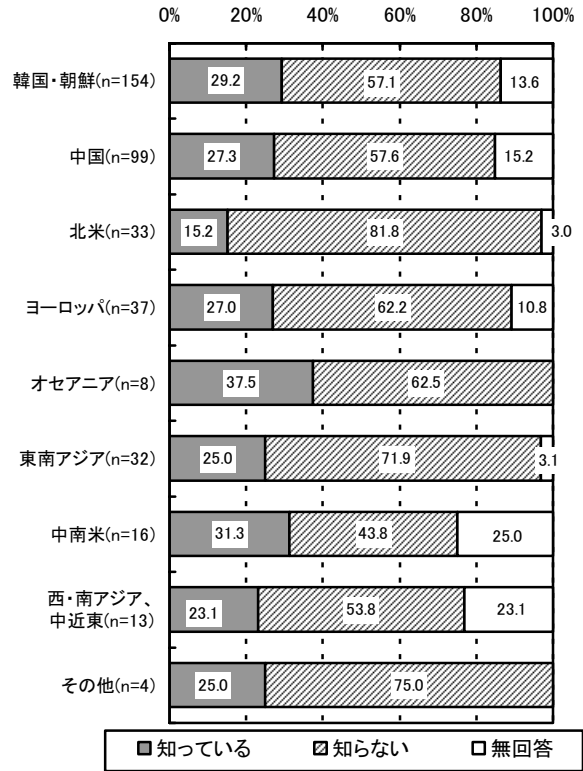
—児童手当—



—生活保護—



—健康相談—



—高齢者の医療費助成—

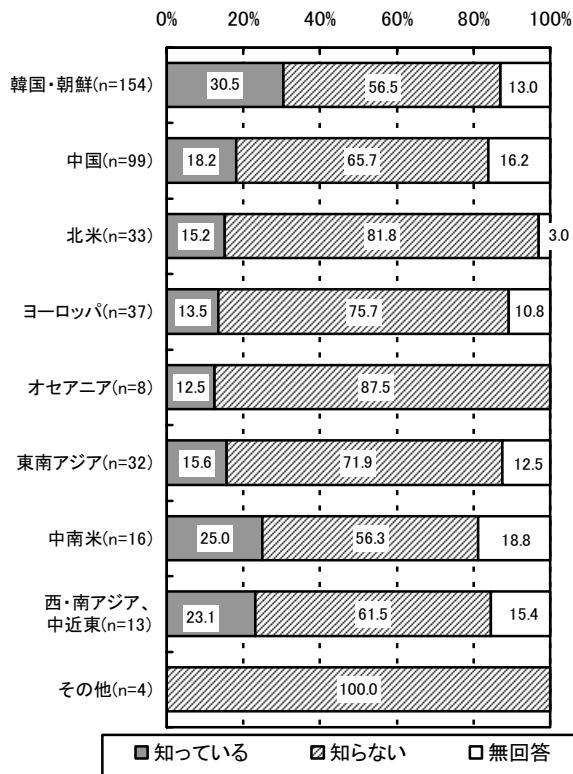
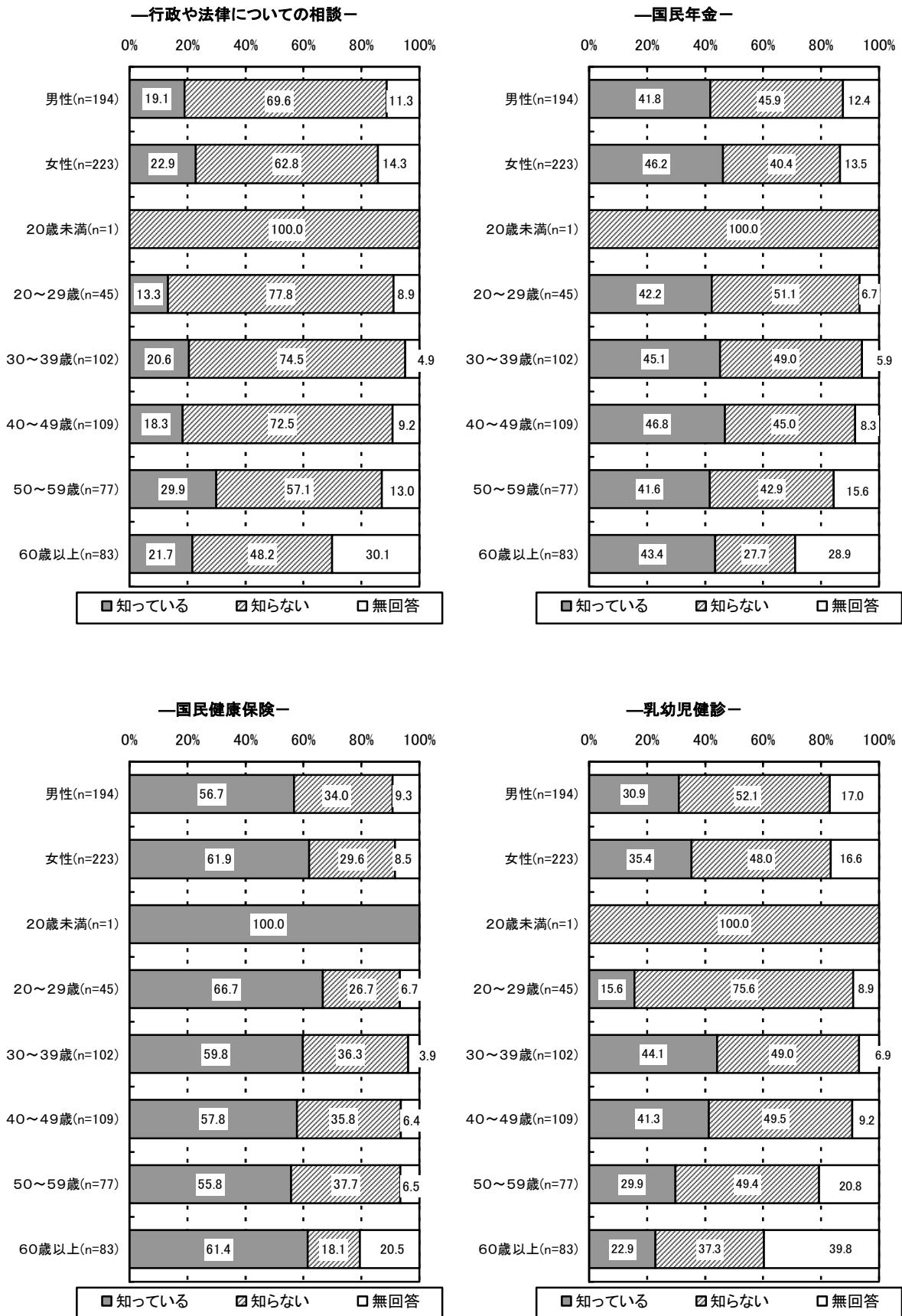
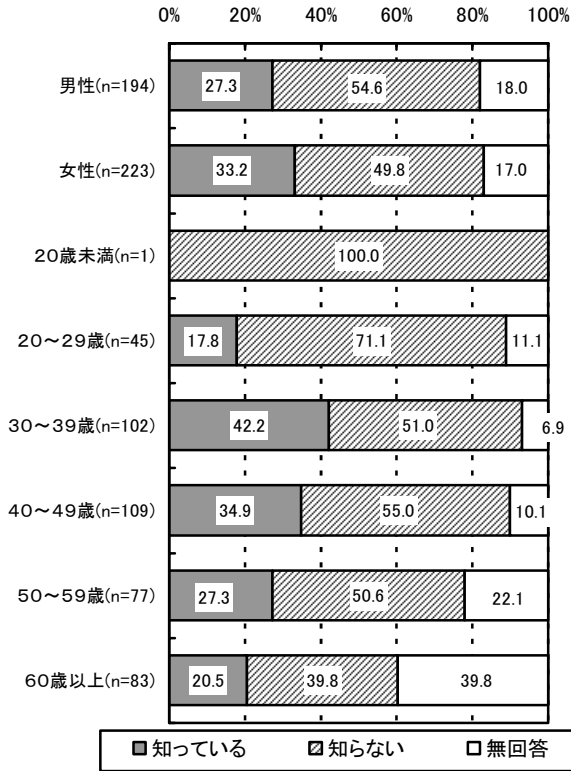


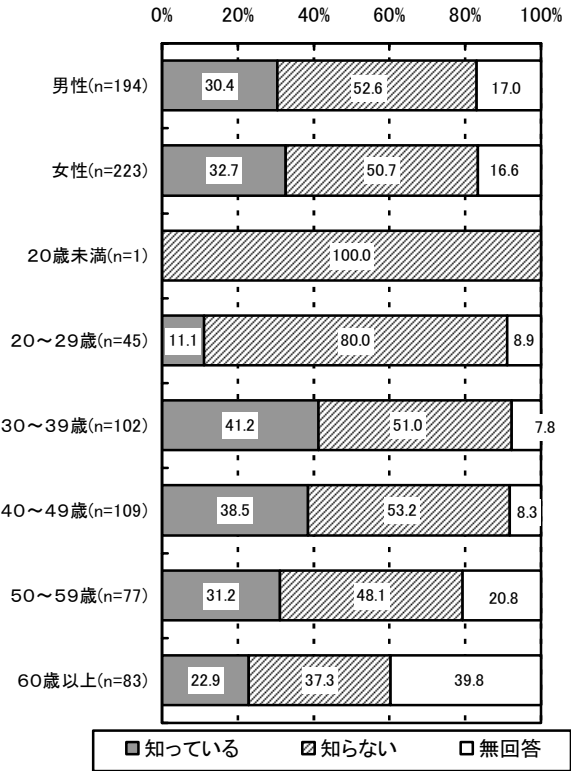
図 4-18 【性別・年齢別】外国人が利用できる市のサービスの認知度



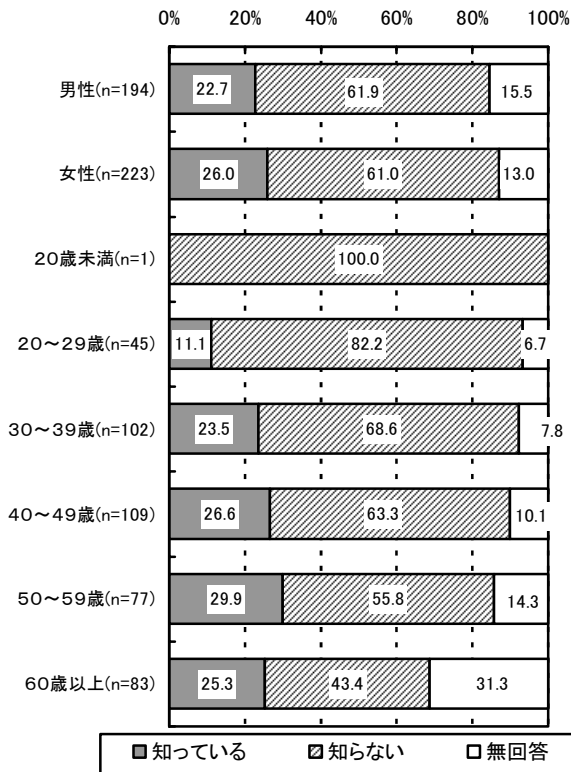
—乳幼児医療費の助成—



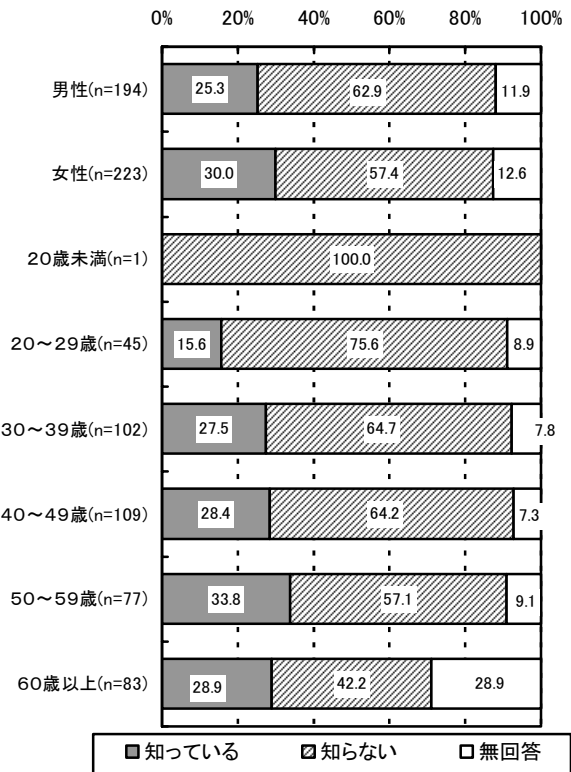
—児童手当—



—生活保護—



—健康相談—





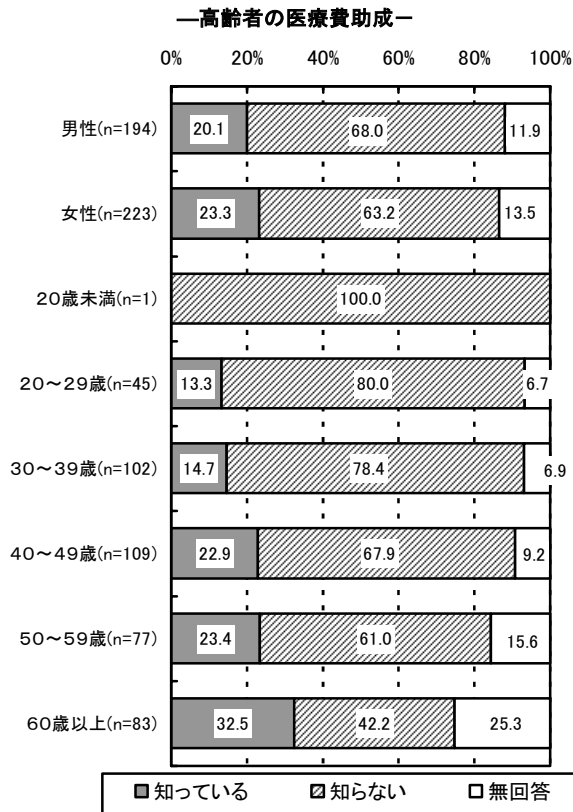
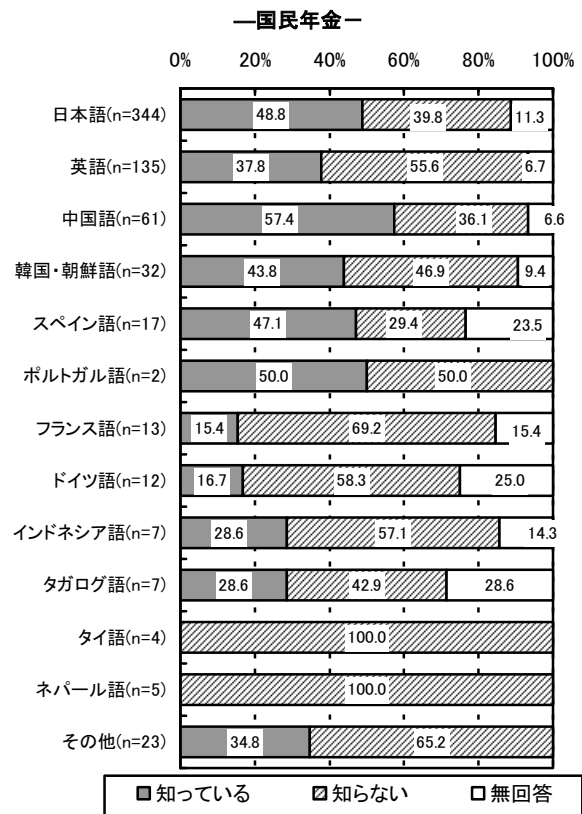
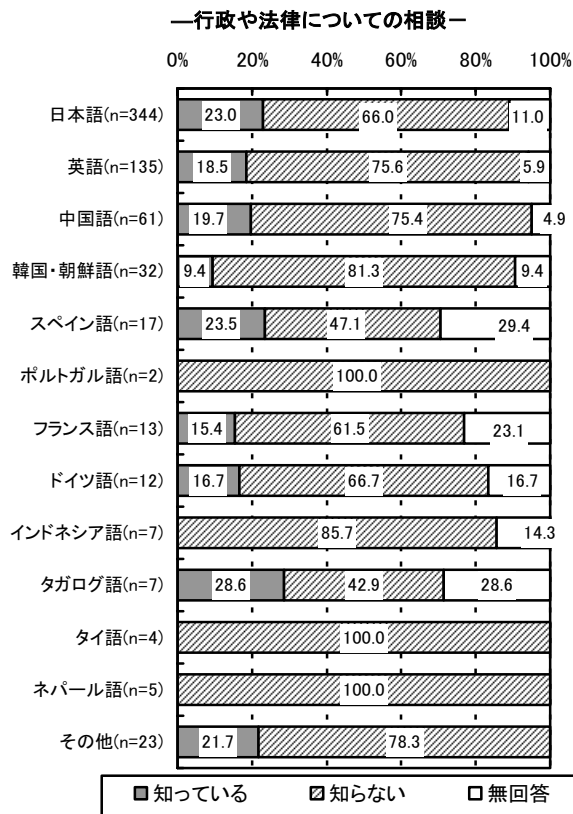
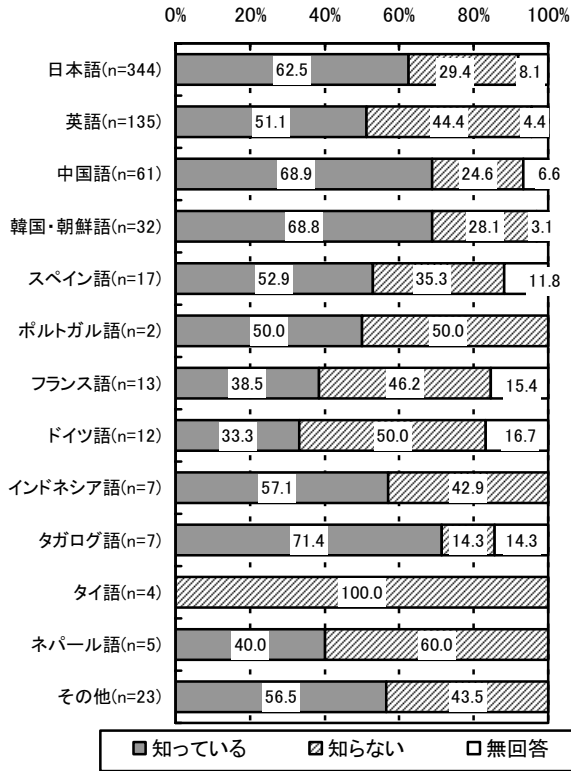


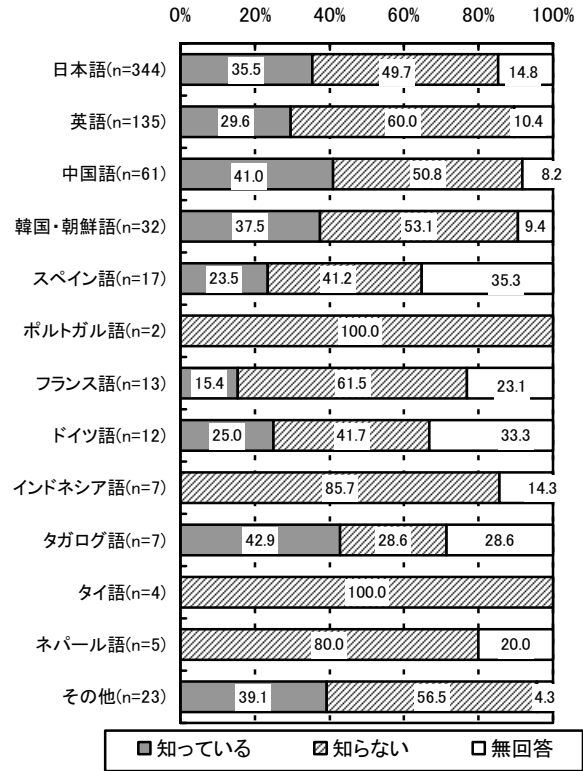
図 4-19 【日常使用言語別】外国人が利用できる市のサービスの認知度



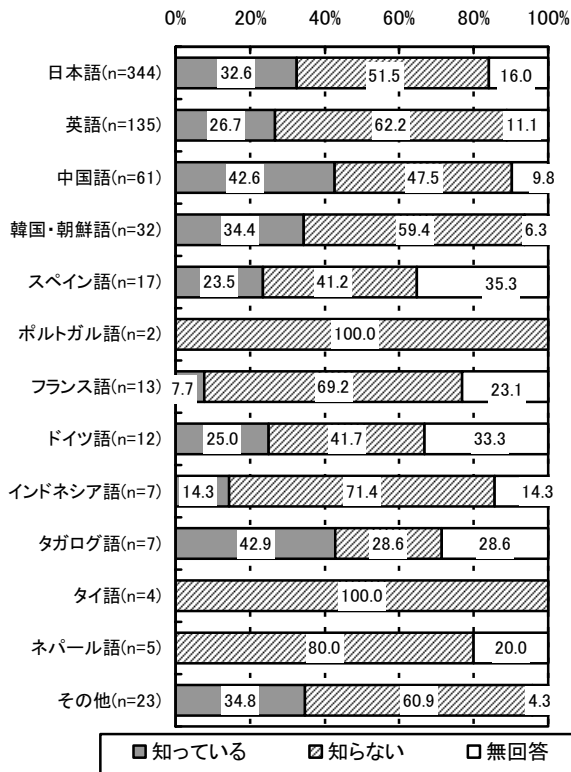
—国民健康保険—



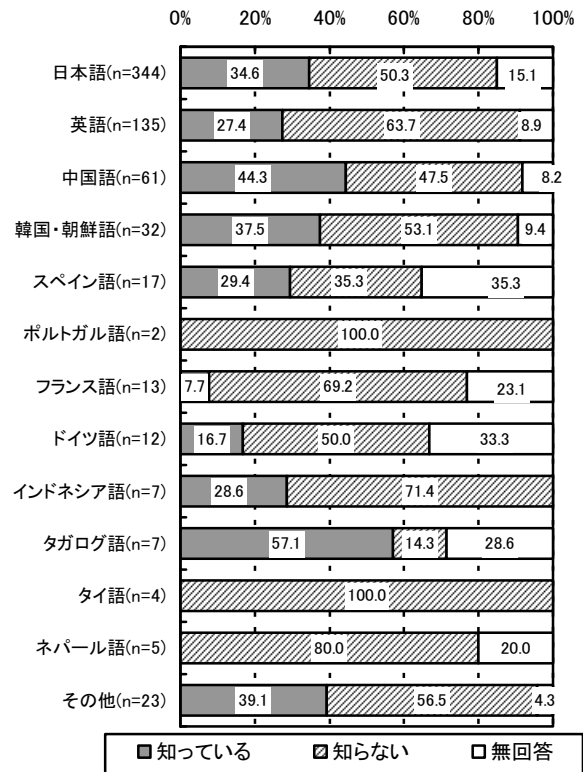
—乳幼児健診—



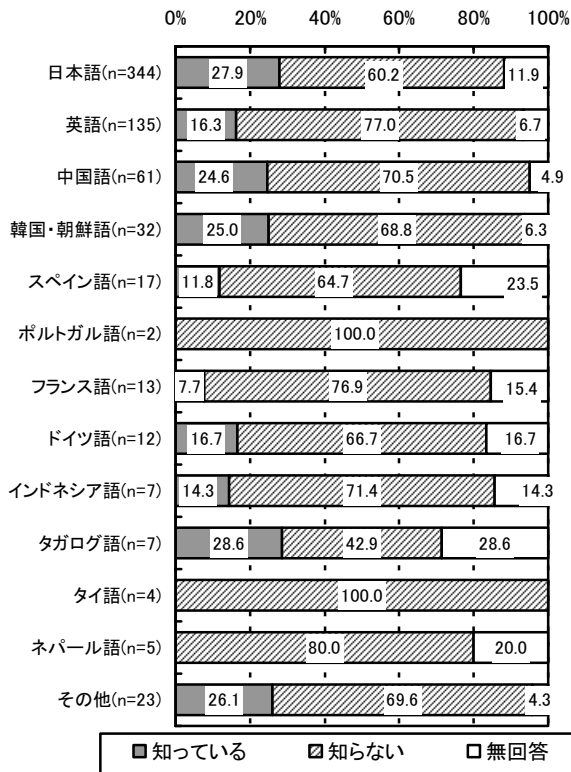
—乳幼児医療費の助成—



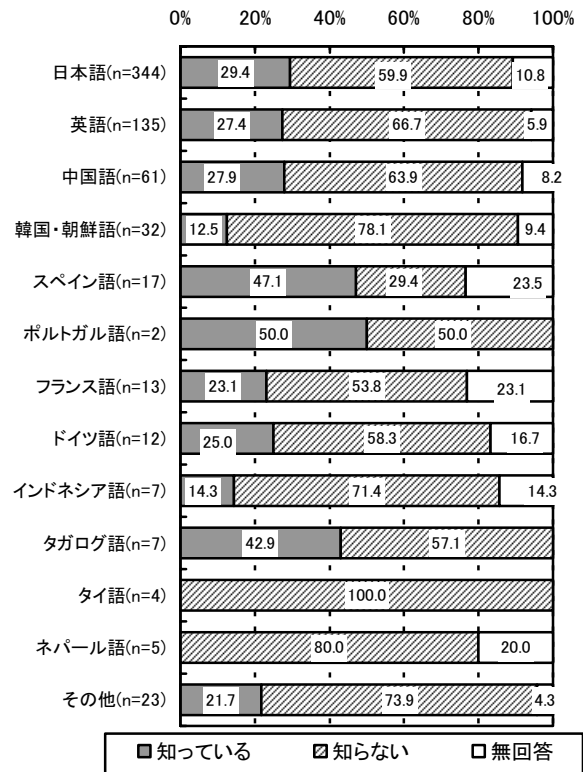
—児童手当—



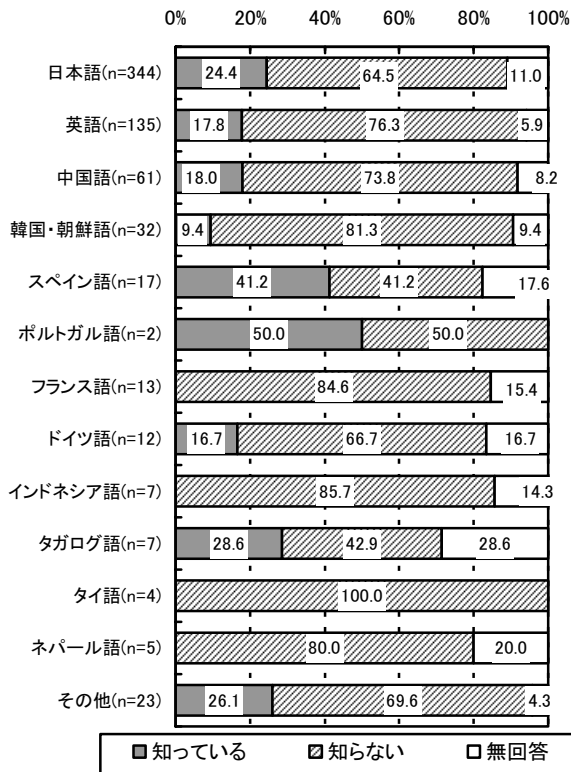
—生活保護—



—健康相談—



—高齢者の医療費助成—

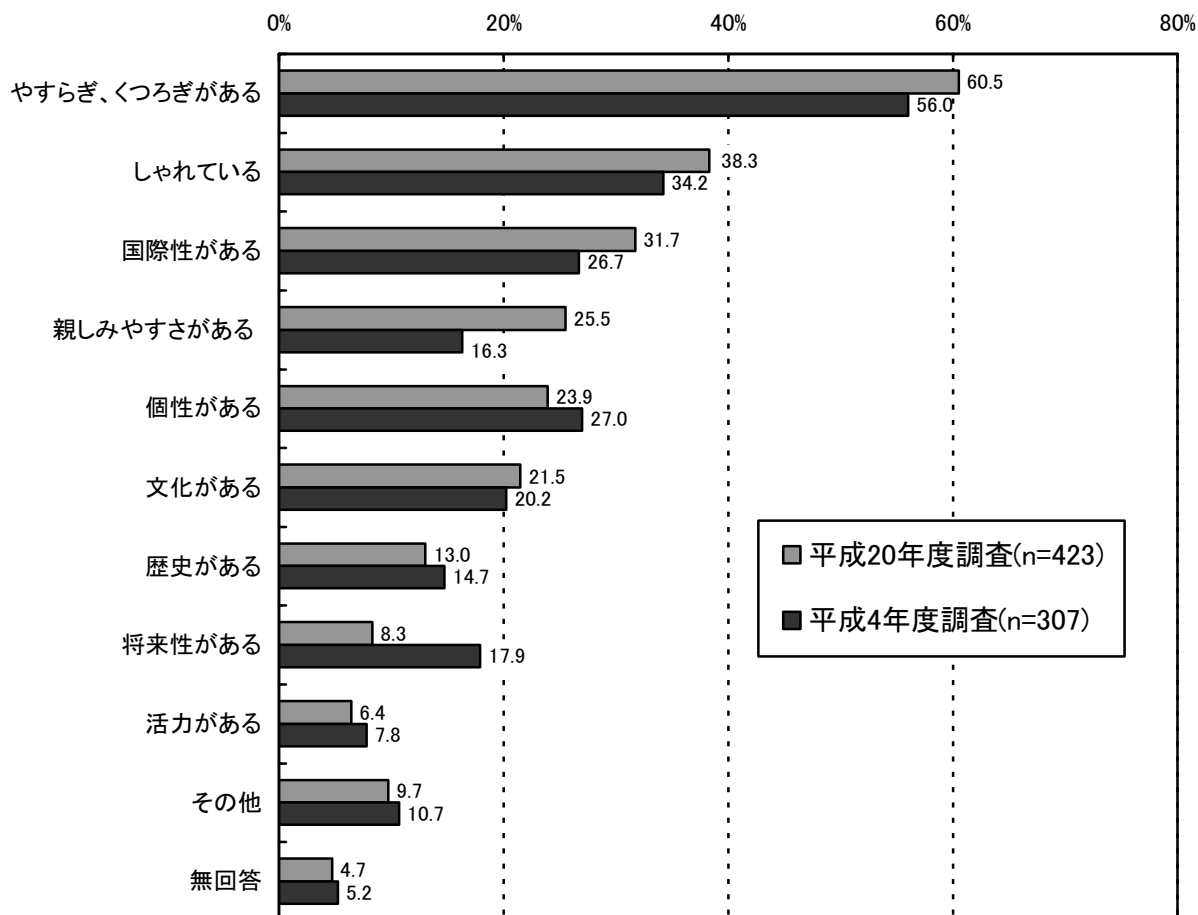


## 5. 芦屋市のイメージについて

### 5-1. 芦屋市のイメージ

Q32 芦屋市のイメージは、次のうちどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 5-1



芦屋市に対するイメージでは、「やすらぎ、くつろぎがある」が60.5%で最も高く、以下「しゃれている」38.3%、「国際性がある」31.7%となっている。また、「その他」として、『自然が豊か』、『お金持ちが多い』や『居住環境がよい』などをあげている。(図5-1)

前回調査との比較で、「やすらぎ、くつろぎがある」、「しゃれている」、「国際性がある」、「親しみやすさがある」などは増加している。また、「個性がある」、「歴史がある」、「将来性がある」などは減少している。特に変化が大きい項目として、「親しみやすさがある」は9.2ポイント増加し、「将来性がある」は9.6ポイント減少している。(図5-1)

国籍別では、いずれの国籍の人も「やすらぎ、くつろぎがある」が最も高く、東南アジアの人は「国際性がある」、中南米や西・南アジア、中近東の人は「親しみやすさがある」が比較的高く、国籍で芦屋市に対して抱いているイメージが違う。(表5-1)

性別では、あまり大きな差はみられない。(表5-2)

通算在住年数別では、いずれの在住年数の人も「やすらぎ、くつろぎがある」の割合が最も高く、「しゃれている」の割合も高くなっている。また、在住年数が「1年未満」の人は「国際性が

ある」、「1年以上5年未満」の人は「親しみやすさがある」、「15年以上30年未満」の人は「国際性がある」や「個性がある」の割合も高い。在住年数が「55年以上」の人は回答率が比較的低い。(表5-3)

住みやすさ評価別では、「親しみやすさがある」、「文化がある」や「やすらぎ、くつろぎがある」は住みやすいと答えた人と住みにくいと答えた人で差が大きくなっており、これらの項目が住みやすさの評価につながっている。(表5-4)

表 5-1 【国籍別】 芦屋市のイメージ

(%)

芦屋市のイメージ 国籍	国際性がある	将来性がある	ある親しみやすさがある	文化がある	個性がある	活力がある	歴史がある	しゃれている	やすらぎ、くつろぎがある	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	33.1	2.6	18.8	18.8	22.7	2.6	14.3	44.8	47.4	8.4	6.5
中国 (n=99)	32.3	15.2	21.2	25.3	23.2	8.1	15.2	36.4	60.6	11.1	5.1
北米 (n=33)	24.2	6.1	30.3	12.1	33.3	9.1	9.1	51.5	69.7	15.2	0.0
ヨーロッパ (n=37)	18.9	8.1	18.9	24.3	18.9	10.8	5.4	32.4	70.3	13.5	2.7
オセアニア (n=8)	25.0	12.5	50.0	12.5	37.5	0.0	0.0	37.5	75.0	0.0	0.0
東南アジア (n=32)	46.9	15.6	21.9	31.3	28.1	12.5	15.6	28.1	75.0	6.3	0.0
中南米 (n=16)	25.0	12.5	56.3	18.8	25.0	12.5	12.5	18.8	81.3	12.5	0.0
西・南アジア、中近東 (n=13)	38.5	0.0	61.5	30.8	15.4	7.7	15.4	38.5	76.9	0.0	0.0
その他 (n=4)	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	25.0	0.0

表 5-2 【性別】 芦屋市のイメージ

(%)

芦屋市のイメージ 性別	国際性がある	将来性がある	ある親しみやすさがある	文化がある	個性がある	活力がある	歴史がある	しゃれている	やすらぎ、くつろぎがある	その他	無回答
男性 (n=194)	29.4	7.7	25.3	23.2	22.7	4.1	10.8	37.6	60.3	10.8	3.1
女性 (n=223)	33.2	8.5	26.0	19.7	24.2	8.1	13.9	38.6	61.0	9.0	5.4

表 5-3 【通算在住年数別】 芦屋市のイメージ

(%)

芦屋市のイメージ 通算在住年数	国際性がある	将来性がある	ある 親しみやすさが	文化がある	個性がある	活力がある	歴史がある	しゃれている	やすらぎ、くつろぎがある	その他	無回答
1 年未満 (n=16)	31.3	12.5	25.0	12.5	12.5	6.3	6.3	18.8	75.0	0.0	0.0
1 年以上 5 年未満 (n=62)	24.2	9.7	38.7	19.4	17.7	4.8	8.1	27.4	72.6	16.1	1.6
5 年以上 1 5 年未満 (n=93)	30.1	10.8	26.9	24.7	24.7	8.6	11.8	39.8	67.7	5.4	0.0
1 5 年以上 3 0 年未満 (n=61)	44.3	9.8	26.2	21.3	32.8	9.8	6.6	44.3	62.3	14.8	4.9
3 0 年以上 5 5 年未満 (n=114)	35.1	7.0	21.9	24.6	28.1	7.0	19.3	45.6	51.8	9.6	3.5
5 5 年以上 (n=72)	23.6	1.4	18.1	15.3	15.3	0.0	13.9	33.3	50.0	8.3	13.9

表 5-4 【住みやすさ評価別】 芦屋市のイメージ

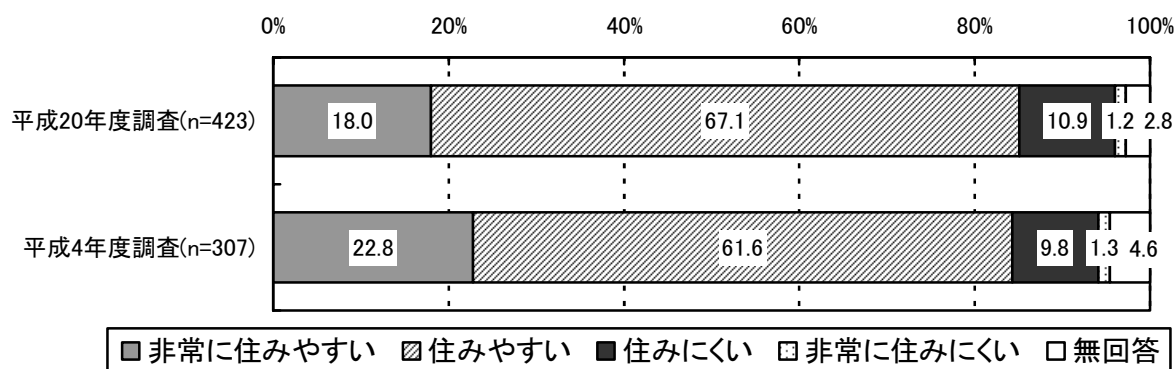
(%)

芦屋市のイメージ 住みやすさ評価	国際性がある	将来性がある	ある 親しみやすさが	文化がある	個性がある	活力がある	歴史がある	しゃれている	やすらぎ、くつろぎがある	その他	無回答
住みやすい (n=360)	33.6	8.9	28.6	23.3	25.0	7.2	12.5	38.9	66.4	8.9	1.9
住みにくい (n=51)	25.5	5.9	7.8	9.8	17.6	2.0	17.6	39.2	29.4	17.6	7.8

## 5-2. 芦屋市の住みやすさ評価

Q33 全般的にみて芦屋市には住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(○は1つだけ)

図 5-2



芦屋市の住みやすさ評価では、「非常に住みやすい」が 18.0%、「住みやすい」が 67.1% であり、これらをあわせた“住みやすい派”は 85.1%となっている。「住みにくい」10.9%、「非常に住みにくい」1.2%をあわせた“住みにくい派”は 12.1%となっている。(図 5-2) 前回調査との比較では、“住みやすい派”では大きな変化はみられないが、内訳をみると「非常に住みやすい」は 4.8 ポイント減少し、「住みやすい」は 5.5 ポイント増加している。また、「住みにくい」も 1.1 ポイント増加している。(図 5-2)

国籍別では、どの国籍の人も“住みやすい派”が 7 割以上と高いが、韓国・朝鮮や東南アジアの人は、“住みにくい派”も 2 割弱ある。(図 5-3)

性別では、“住みやすい派”は女性より男性の方が多い。(図 5-4)

年齢別では、年齢層が高くなるほど“住みやすい派”の割合は低くなっている。(図 5-4)

通算在住年数別では、在住年数が長い人ほど“住みにくい派”の割合は高く、在住年数が「55年以上」の人は 18.1%となっている。(図 5-5)

在住予定期間別では、在住予定が「1年未満」、及び「永住する」と回答した人は、“住みにくい派”の割合が比較的高く、2割弱ある。(図 5-6)

日本語能力別では、「新聞や雑誌が読める」、「漢字を使ってまとめた文章が書ける」、「テレビのニュースやドラマなどがわかる」及び「自分の考えをまとめて発表することができる」といった日本語能力が十分ある人は、日本語能力が不十分な人より“住みやすい派”の割合が低く、出生地が「日本」の人、出生地が「日本以外」の国の人とも、その傾向がある。(図 5-7、図 5-8)

図 5-3 【国籍別】 芦屋市の住みやすさ評価

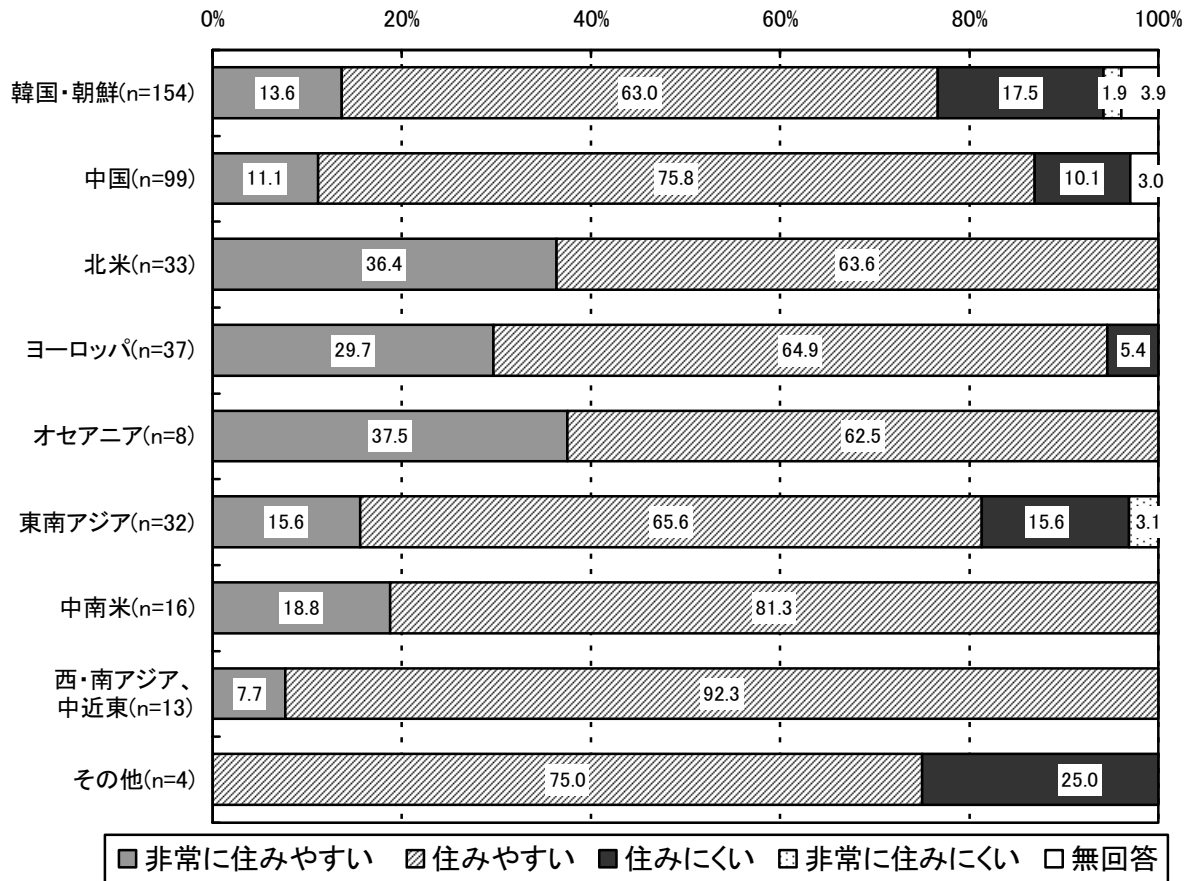


図 5-4 【性別・年齢別】 芦屋市の住みやすさ評価

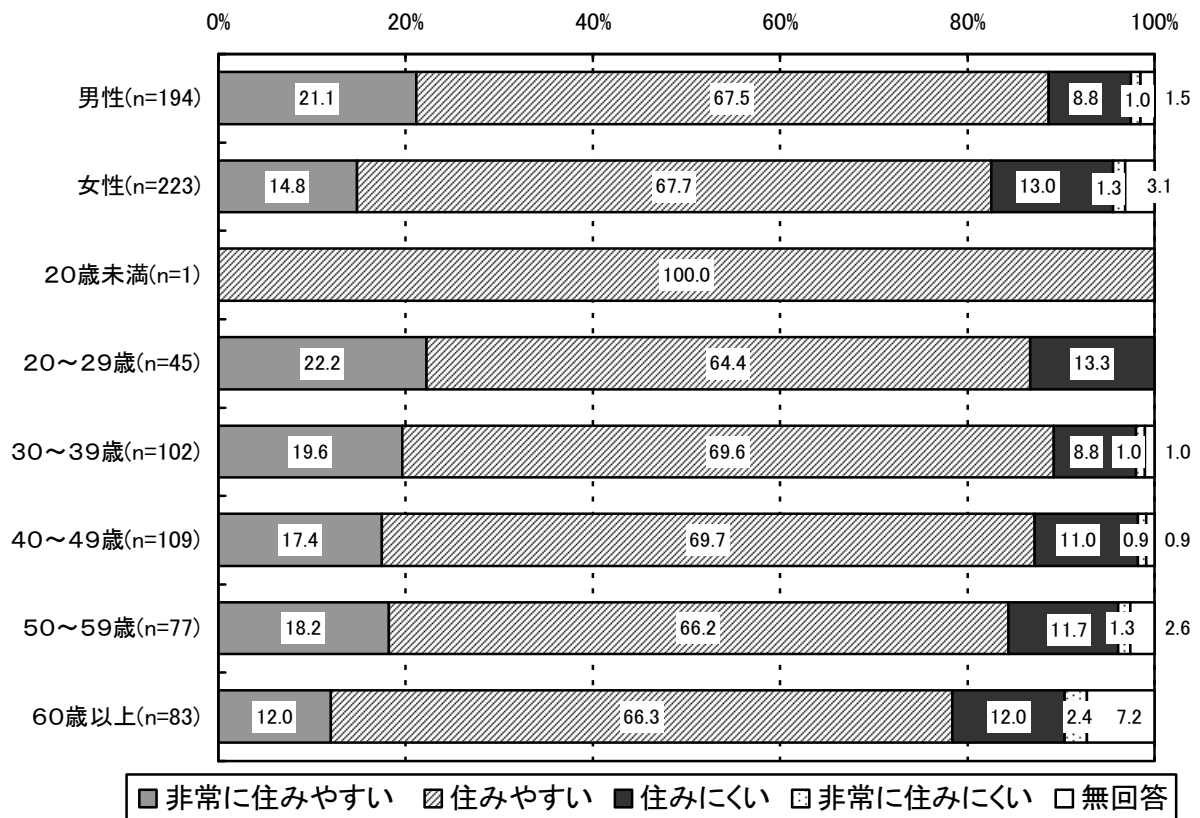




図 5-5 【通算在住年数別】 芦屋市の住みやすさ評価

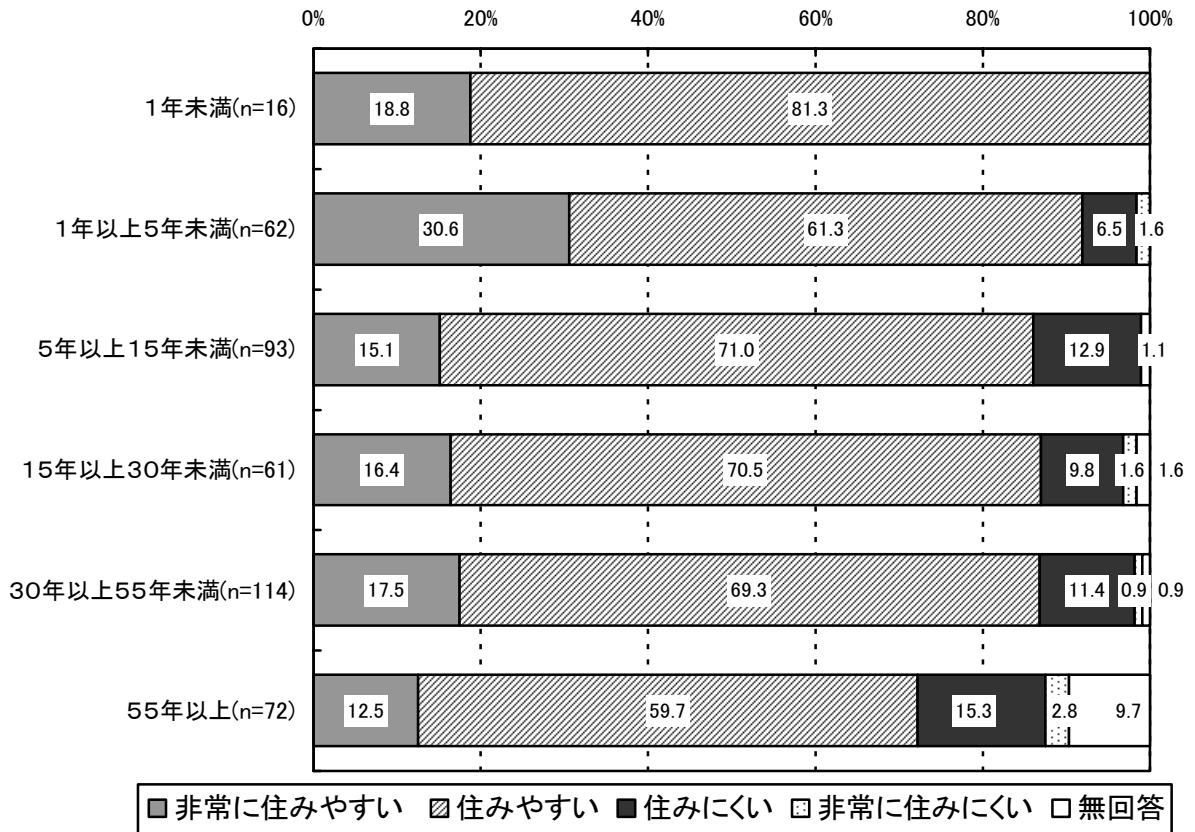


図 5-6 【在住予定期間別】 芦屋市の住みやすさ評価

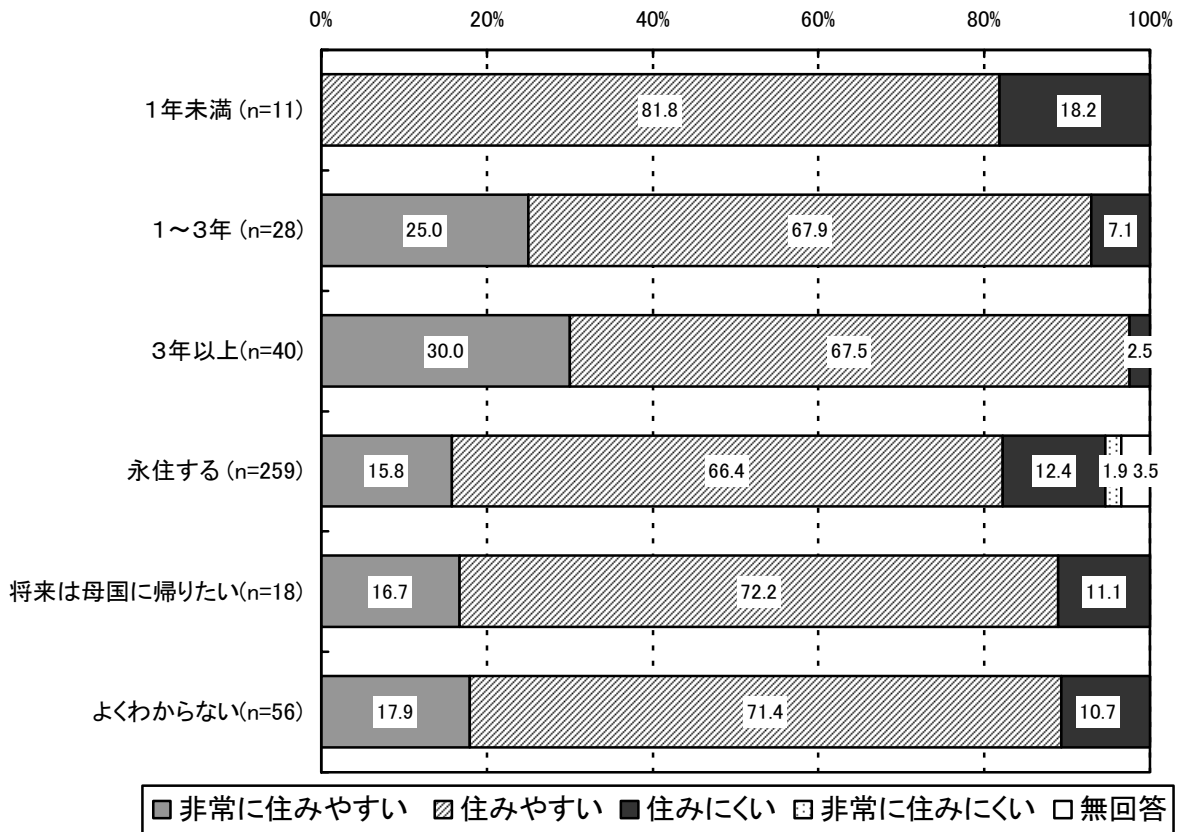


図 5-7 【日本語能力別】芦屋市の住みやすさ評価－出生地が日本人－

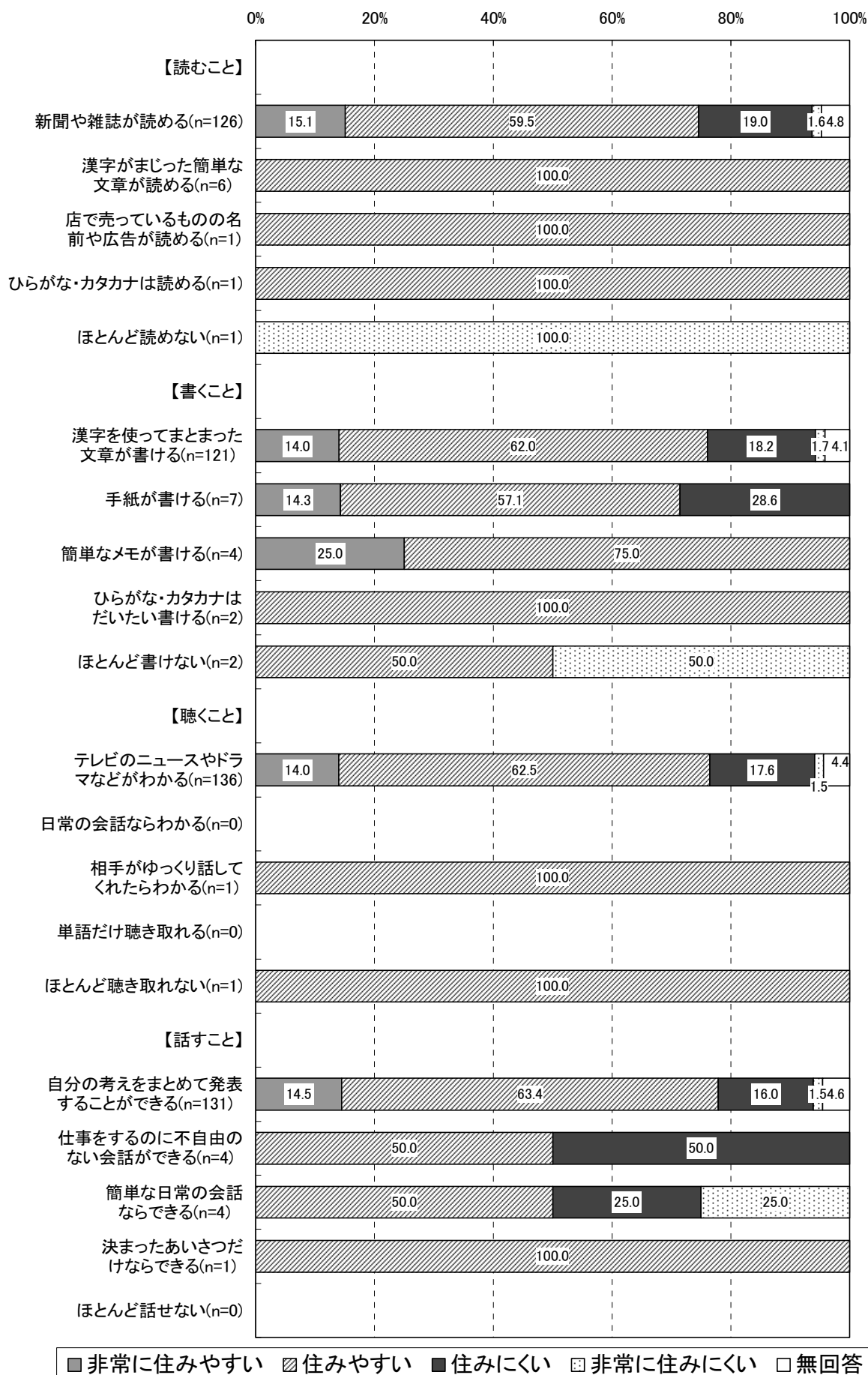
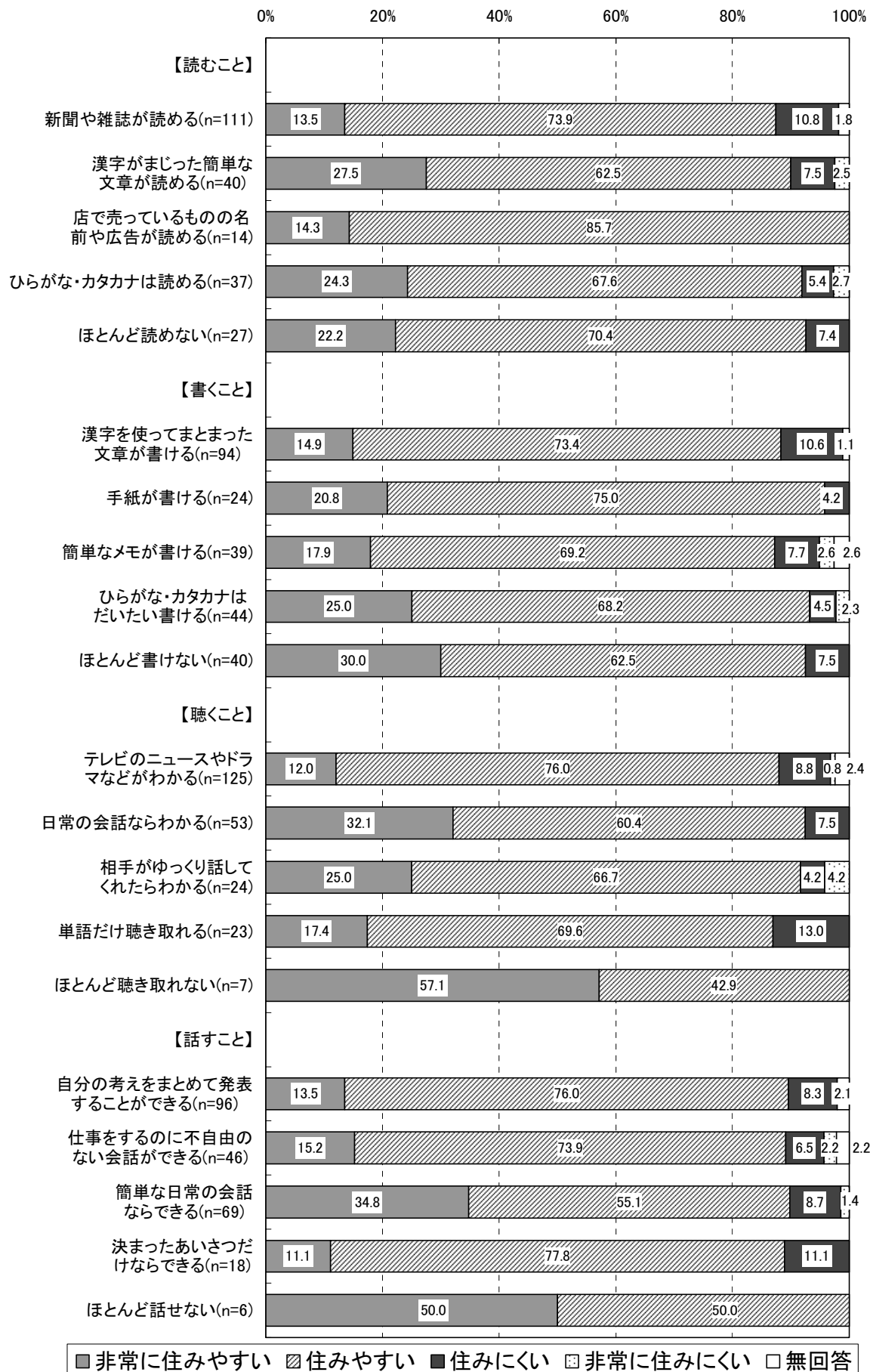


図 5-8 【日本語能力別】芦屋市の住みやすさ評価－出生地が日本以外の国の人－



### 5-3. 住みやすい点・住みにくい点（複数回答）

Q33-1 住みやすいと答えられた方は、どのような点でそのように感じられましたか。（〇はいくつでも）

Q33-2 住みにくいと答えられた方は、どのような点でそのように感じられましたか。（〇はいくつでも）

図 5-9 ー平成 20 年度調査ー

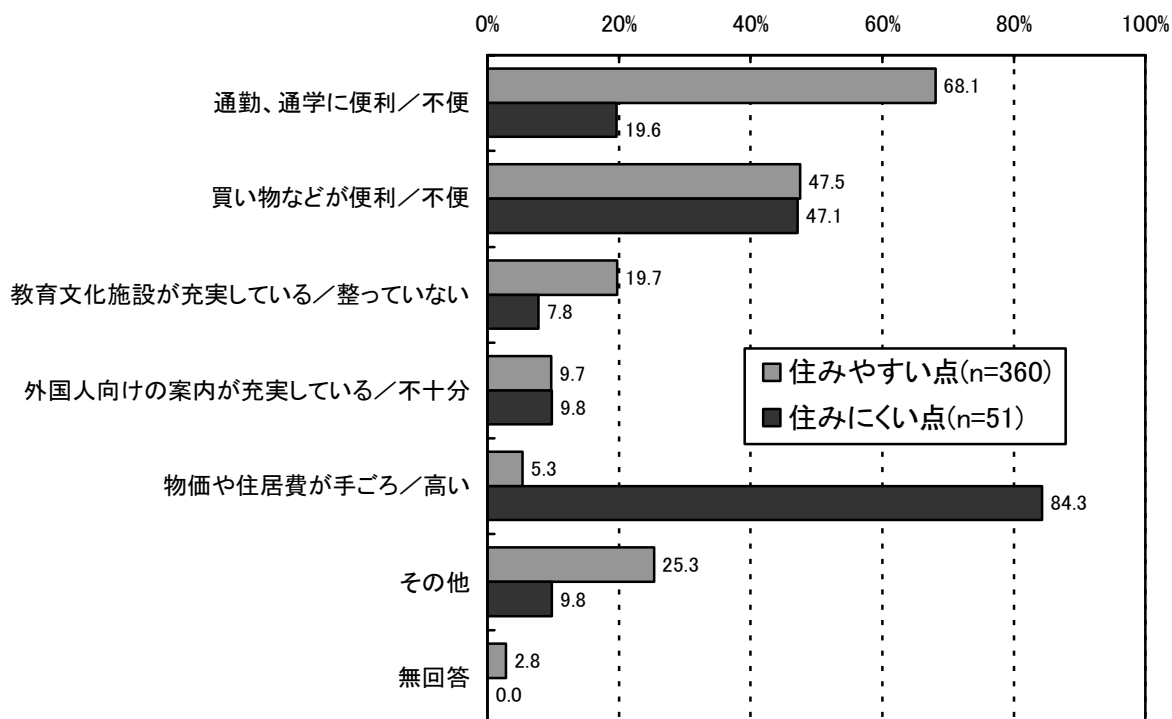
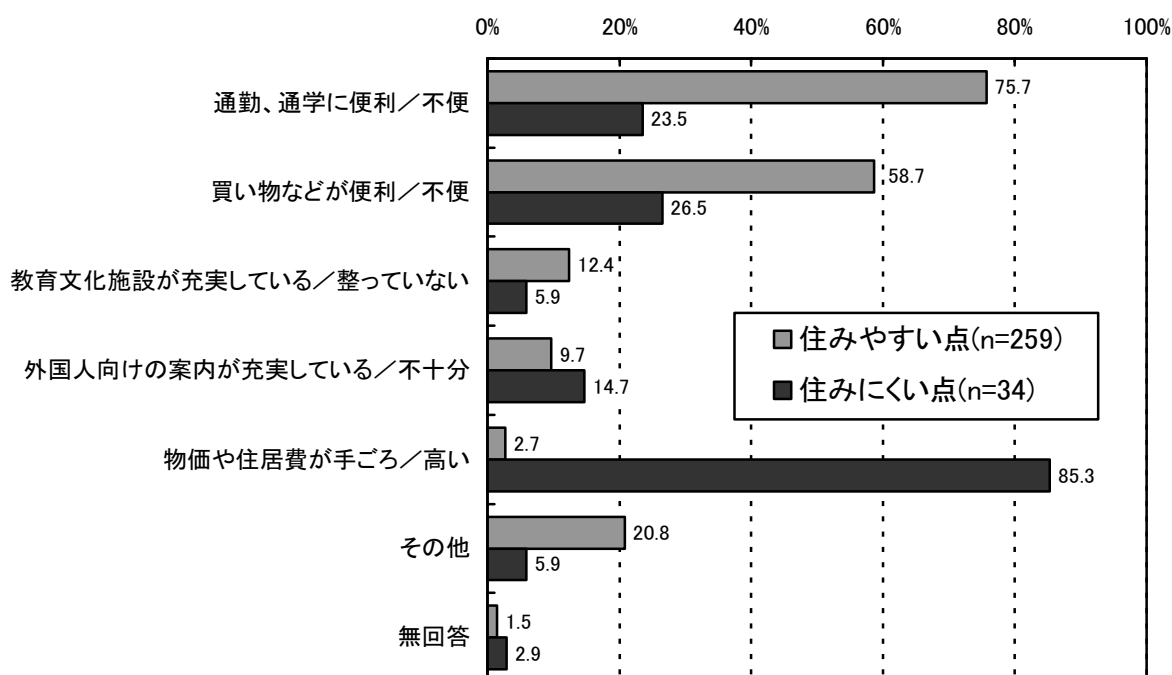


図 5-10 ー平成 4 年度調査ー



住みやすい点としては、「通勤、通学に便利」が 68.1%と最も高く、以下「買い物などが便利」47.5%、「教育文化施設が充実している」19.7%となっている。また、「その他」として、『静か』や『海や山に近い』、『環境がよい』、『街並みや景観が美しい』などがあげられている。(図 5-9)

前回調査との比較では、「通勤、通学に便利」や「買い物などが便利」は前回調査より減少しており、「教育文化施設が充実している」などは増加している。(図 5-9、図 5-10)

住みにくい点としては、「物価や住居費が高い」が 84.3%で最も高く、以下「買い物などが不便」47.1%、「通勤・通学に不便」19.6%となっている。買い物の利便性に関しては、住みやすい点、住みにくい点として、いずれも約 5 割の人があげている。また、「その他」として、『保険や税金が高い』があげられている。(図 5-9)

前回調査との比較では、「買い物などが不便」は前回調査より 20.6 ポイント増加しており、「通勤・通学に不便」や「外国人向けの案内が不十分」は減少している。(図 5-9、図 5-10)

通勤・通学先別では、いずれの通勤・通学先の人でも「物価や住居費が高い」の割合が最も高い。「芦屋市内」に通勤あるいは通学する人は、「買い物などが不便」が 58.3%となっている。(表 5-5)

表 5-5 【通勤・通学先別】住みにくい点

(%)

住みにくい点 通勤・通学先	通勤、 通学に 不便	買 い 物 な ど が 不 便	外 国 人 向 け の 案 内 が 不 十 分	教 育 文 化 施 設 が 整 っ て い な い	物 価 や 住 居 費 が 高 い	そ の 他	無 回 答
芦屋市内 (n=12)	25.0	58.3	0.0	16.7	83.3	16.7	0.0
神戸市 (n=12)	8.3	25.0	0.0	0.0	75.0	16.7	0.0
西宮市 (n=2)	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0
尼崎市 (n=3)	0.0	33.3	33.3	0.0	100.0	0.0	0.0
大阪市 (n=4)	0.0	50.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0
その他 (n=6)	16.7	16.7	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0

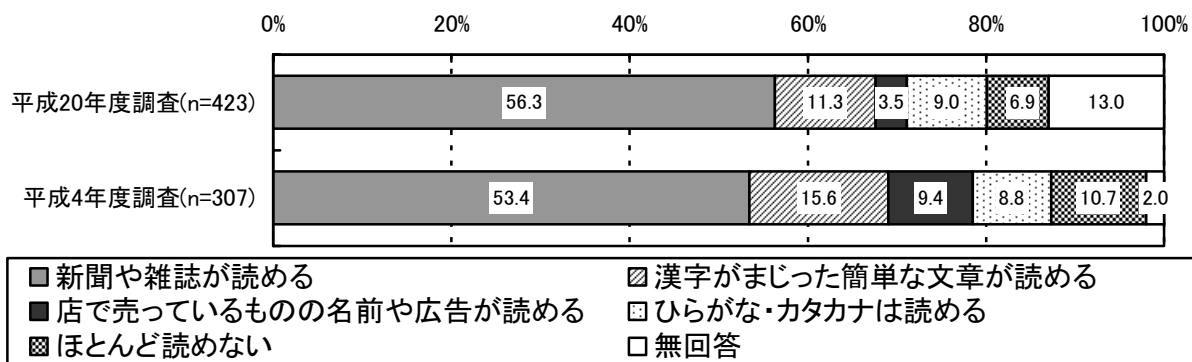
## 6. 日本語の能力について

### 6-1. 日本語の能力

Q34 日本語の能力をご自身で評価するとすれば、次のどれにあたりますか。(1)～(4)それぞれについて、最も近いと思われる項目に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

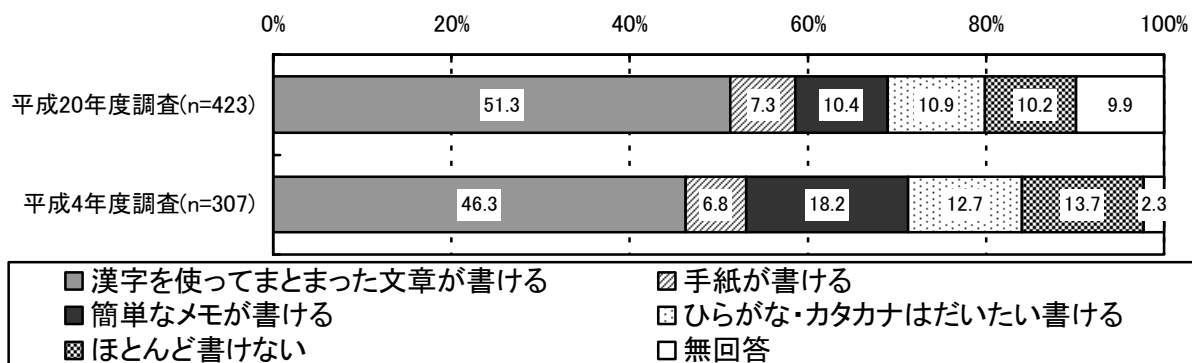
#### (1) 読むこと

図 6-1



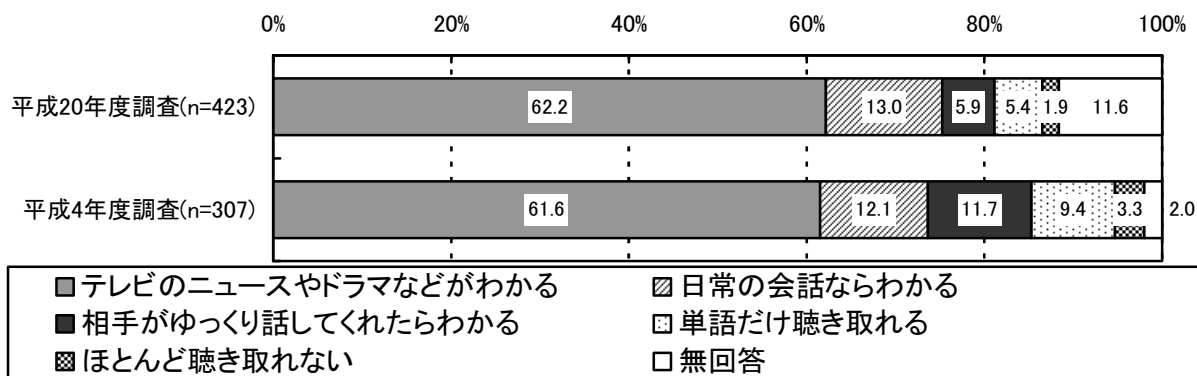
#### (2) 書くこと

図 6-2



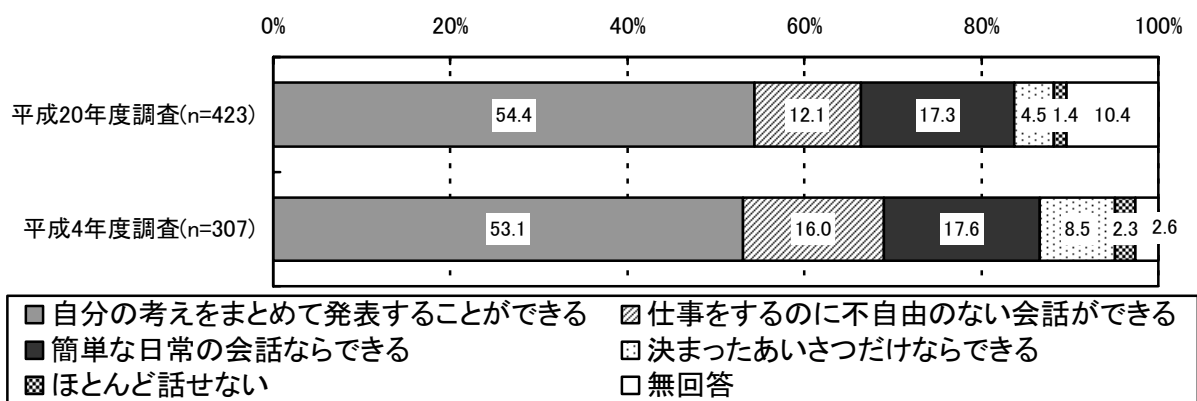
#### (3) 聴くこと

図 6-3



#### (4) 話すこと

図 6-4



日本語能力について、自己評価してもらった。

(1) 読むことでは、「新聞や雑誌が読める」が最も高く 56.3%であり、以下「漢字がまじった簡単な文章が読める」11.3%、「ひらがな・カタカナは読める」9.0%となっている。「新聞や雑誌が読める」、「漢字がまじった簡単な文章が読める」や「店で売っているものの名前や広告が読める」をあわせると、71.1%の外国人が日常生活に不便がない程度の読む能力がある。また、「ひらがな・カタカナは読める」や「ほとんど読めない」をあわせると、15.9%の外国人が日常生活に不便があるとなっている。

前回調査との比較では、「日常生活に不便がない人」は前回調査より 7.3 ポイント減少している。(図 6-1)

(2) 書くことでは、「漢字を使ってまとまった文章が書ける」が最も高く 51.3%であり、以下「ひらがな・カタカナはだいたい書ける」10.9%、「簡単なメモが書ける」10.4%となっている。「漢字を使ってまとまった文章が書ける」、「手紙が書ける」や「簡単なメモが書ける」をあわせると、69.0%の外国人が日常生活に不便がない程度の書く能力がある。また、「ひらがな・カタカナはだいたい書ける」や「ほとんど書けない」をあわせると、21.1%の外国人が書く面で日常生活に不便があるとなっている。

前回調査との比較では、「日常生活に不便がない人」は前回調査より 2.3 ポイント減少している。(図 6-2)

(3) 聴くことでは、「テレビのニュースやドラマなどがわかる」が最も高く 62.2%であり、以下「日常の会話ならわかる」13.0%、「相手がゆっくり話してくれたらわかる」5.9%となっている。「テレビのニュースやドラマなどがわかる」、「日常の会話ならわかる」や「相手がゆっくり話してくれたらわかる」をあわせると、81.1%の外国人が日常生活に不便がない程度の聴く能力がある。また、「単語だけ聴き取れる」や「ほとんど聴き取れない」をあわせると、7.3%の外国人が日常生活に不便があるとなっている。

前回調査との比較では、「日常生活に不便がない人」は前回調査より 4.3 ポイント減少している。(図 6-3)

(4) 話すことでは、「自分の考えをまとめて発表することができる」が最も高く 54.4%であり、以下「簡単な日常の会話ならできる」17.3%、「仕事をするのに不自由のない会話ができる」12.1%となっている。「自分の考えをまとめて発表することができる」、「仕事をするのに不自由のない会話ができる」や「簡単な日常の会話ならできる」をあわせると、83.8%の外国人が日常生活に不便がない程度の会話能力がある。また、「決まったあいさつだけならできる」や「ほとんど話せない」をあわせると、5.9%の外国人が日常生活に不便があるとなっている。

前回調査との比較では、“日常生活に不便がない人”は前回調査より2.9ポイント減少している。(図6-4)

国籍別では、《読む・書く・聴く・話す》の各能力とも、北米、ヨーロッパ、東南アジア及び西・南アジア、中近東の人と比べて、韓国・朝鮮や中国の人は“日常生活に不便がない程度”に日本語能力がある。また、全体的に《聴く・話す》能力に比べて《読む・書く》能力で不自由を感じている人が多い。特に《書く》能力は、韓国・朝鮮、中国や中南米の人を除く人では、“日常生活に不便がない人”は半数に満たない。(図6-5～図6-8)

通算在住年数別では、全般に在住年数が長い人ほど日本語能力が高いと自己評価している。しかし、《書く》能力に関しては、在住年数が「15年以上30年未満」の人でも「ひらがな・カタカナはだいたい書ける」と「ほとんど書けない」という人は32.8%となっている。(図6-9～図6-12)

図6-5 【国籍別】日本語能力《読むこと》

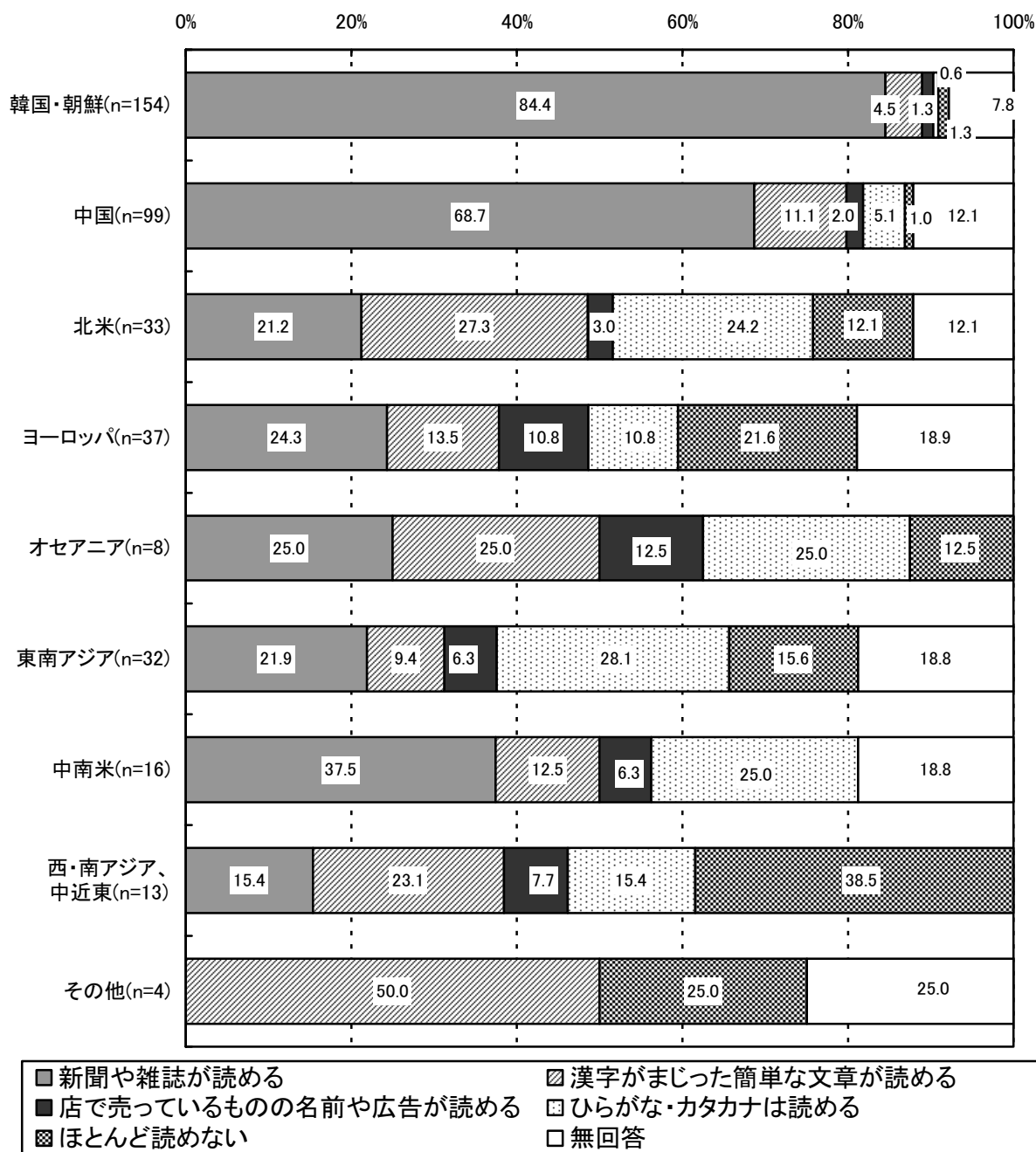
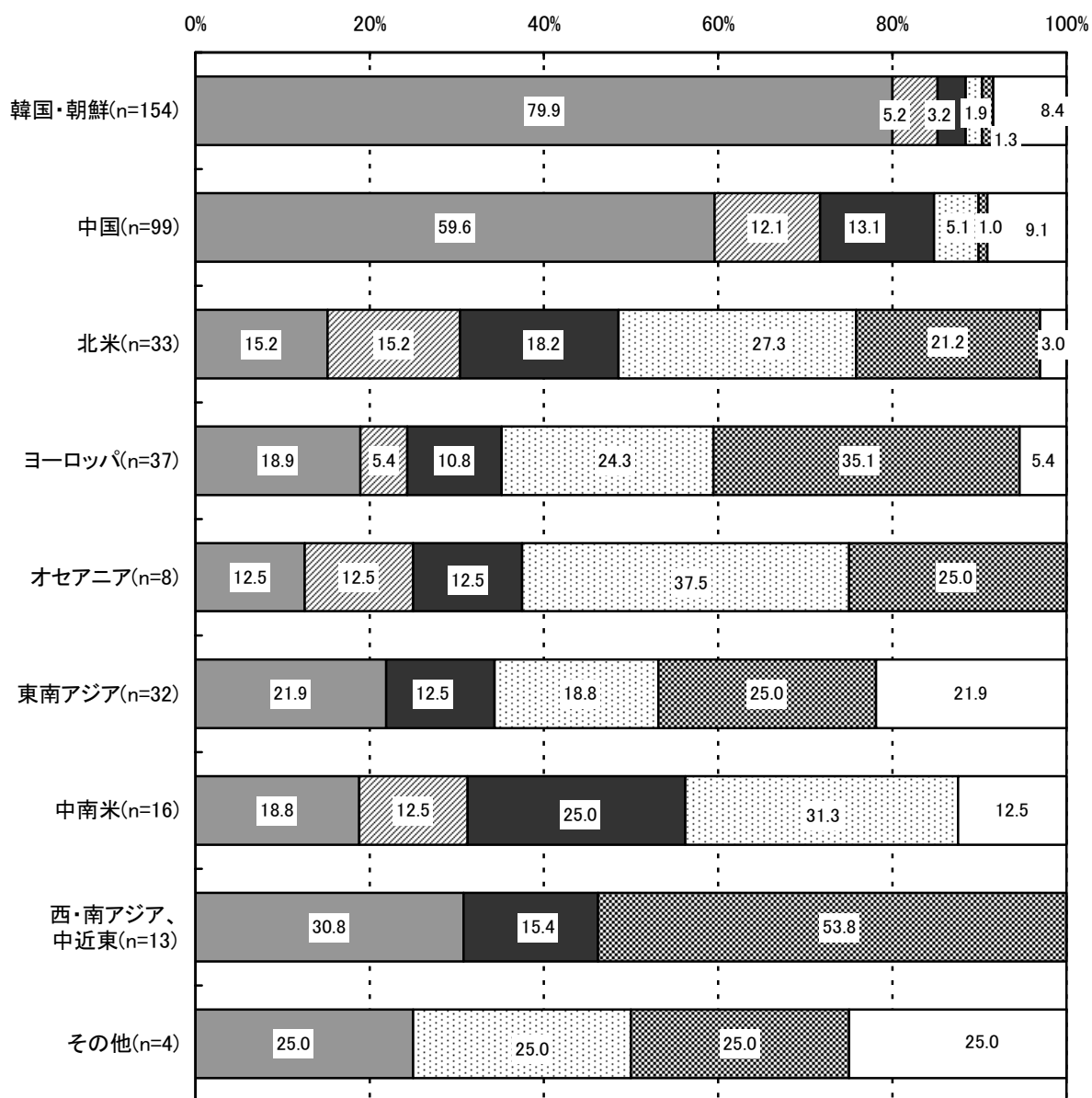


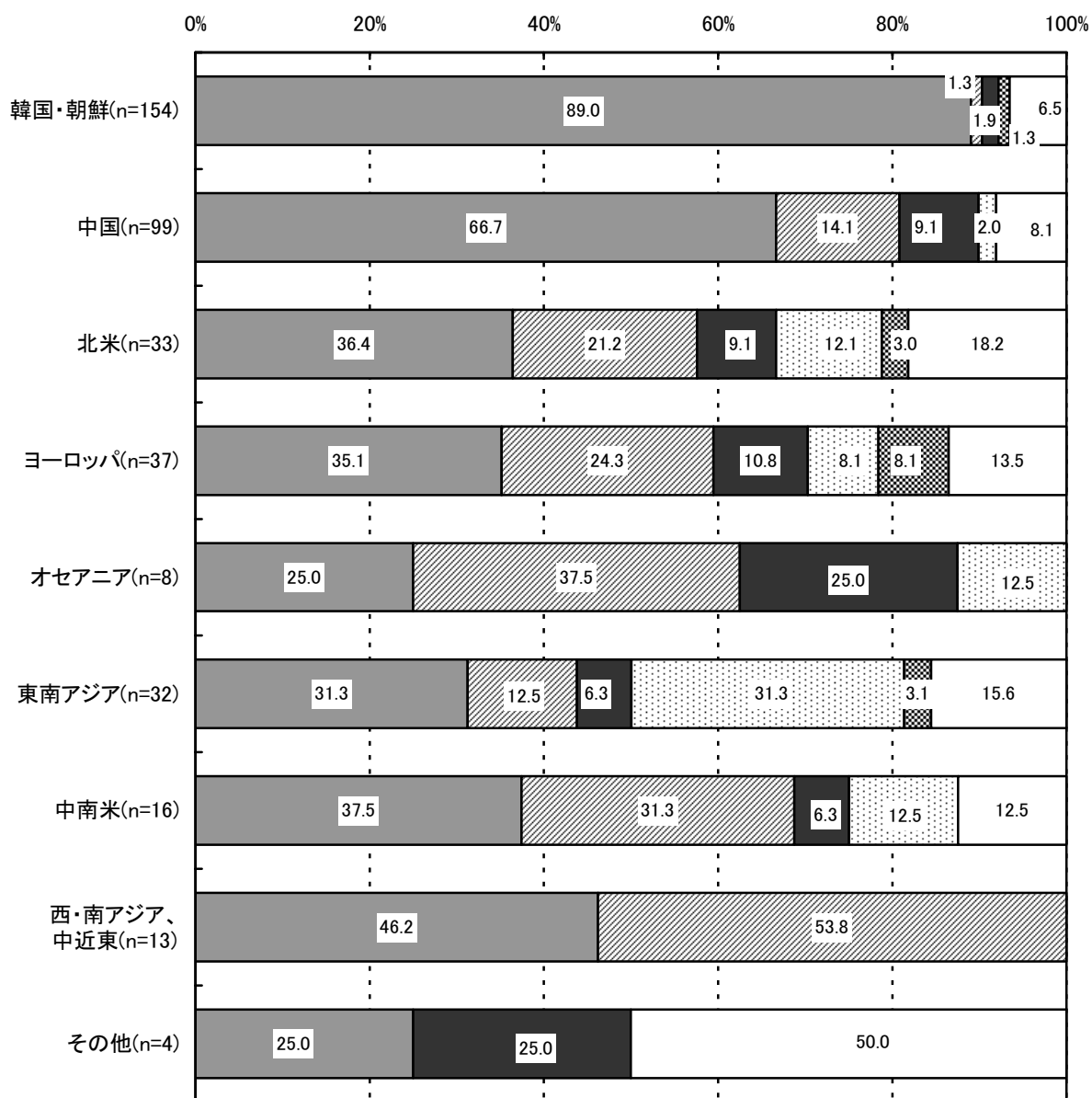


図 6-6 【国籍別】日本語能力《書くこと》



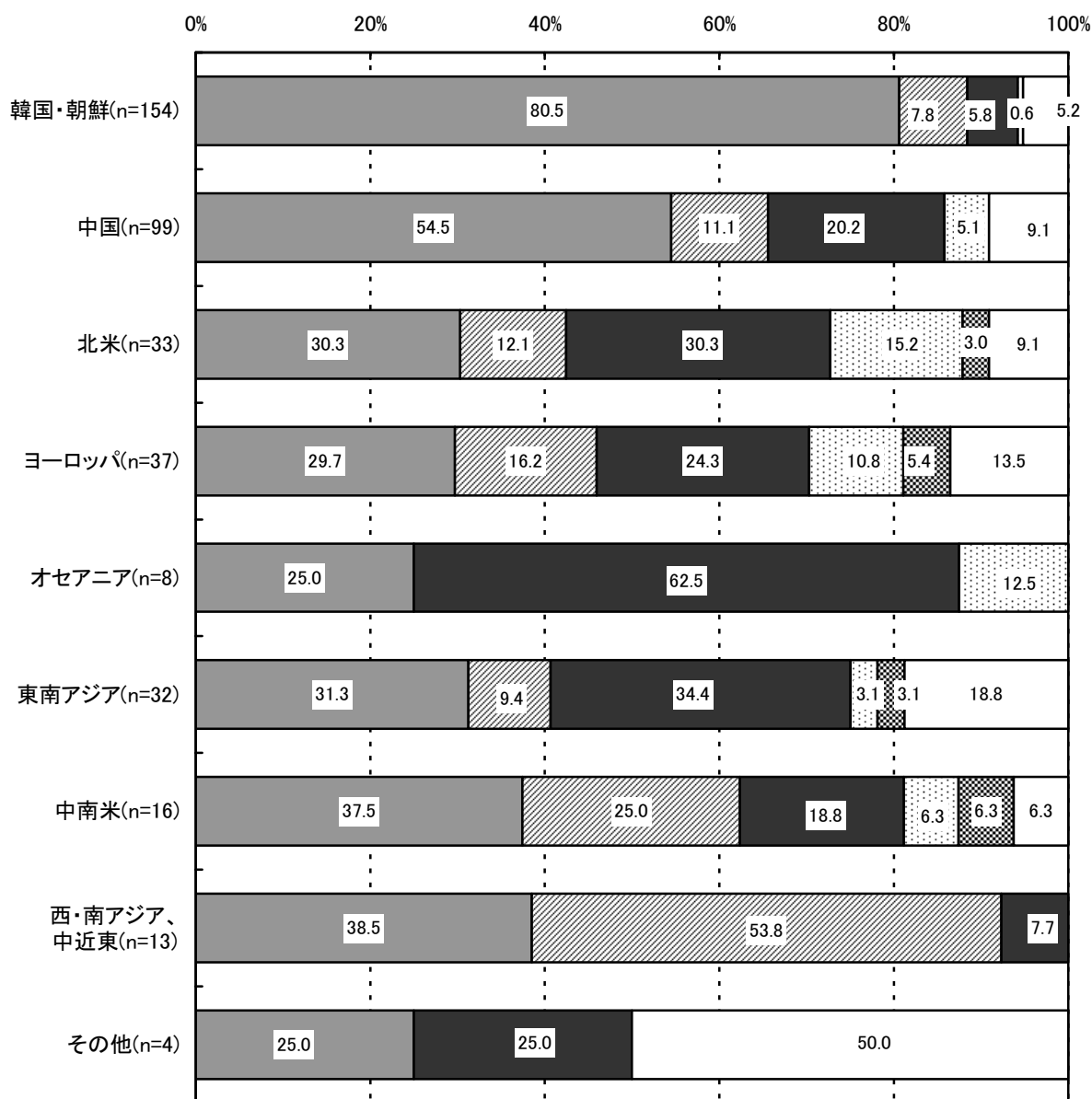
■ 漢字を使ってまとまった文章が書ける      □ 手紙が書ける  
 ■ 簡単なメモが書ける                              □ ひらがな・カタカナはだいたい書ける  
 ■ ほとんど書けない                                   □ 無回答

図 6-7 【国籍別】日本語能力《聴くこと》



■ テレビのニュースやドラマなどがわかる  
 ■ 相手がゆっくり話してくれたらわかる  
 ▨ 日常の会話ならわかる  
 ▩ 単語だけ聞き取れる  
 ▤ ほとんど聞き取れない  
 □ 無回答

図 6-8 【国籍別】日本語能力《話すこと》



■ 自分の考えをまとめて発表することができる    ▨ 仕事をするのに不自由のない会話ができる  
 ■ 簡単な日常の会話ならできる    ▩ 決まったあいさつだけならできる  
 ▨ ほとんど話せない    □ 無回答

図 6-9 【通算在住年数別】日本語能力《読むこと》

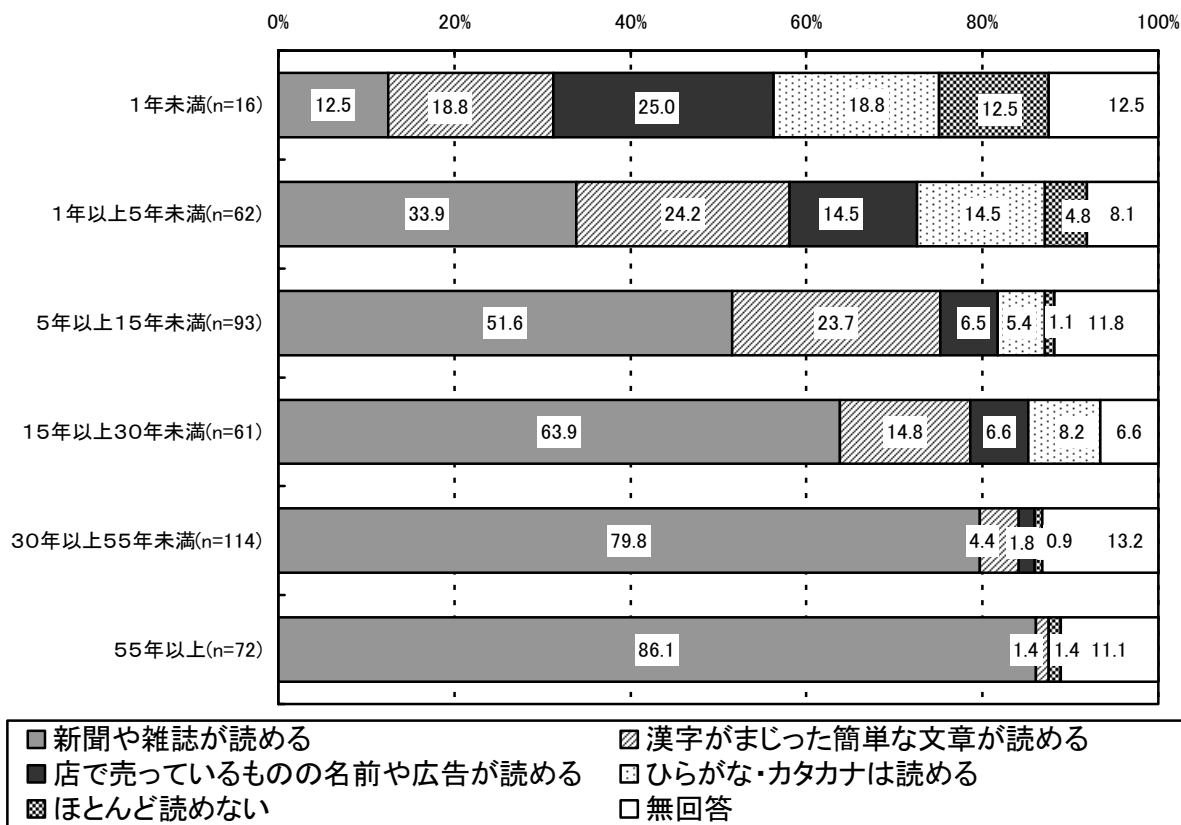


図 6-10 【通算在住年数別】日本語能力《書くこと》

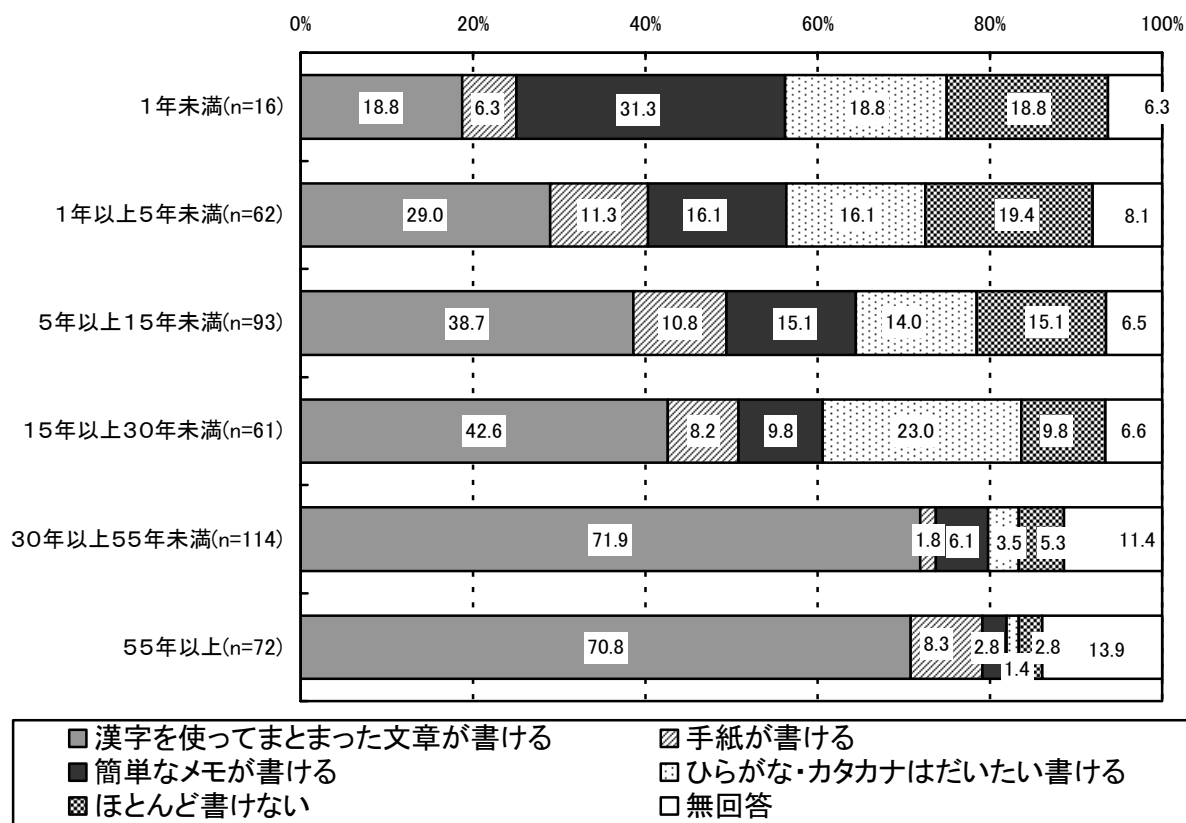


図 6-11 【通算在住年数別】日本語能力《聴くこと》

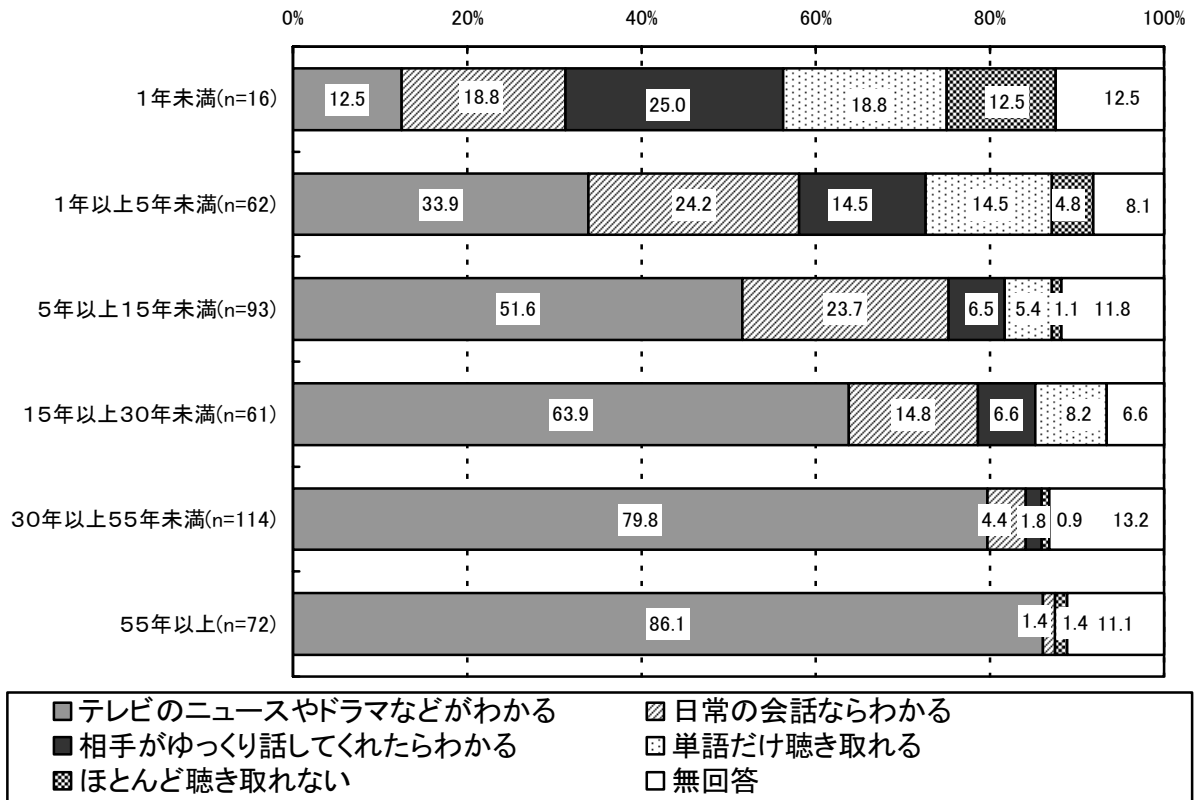
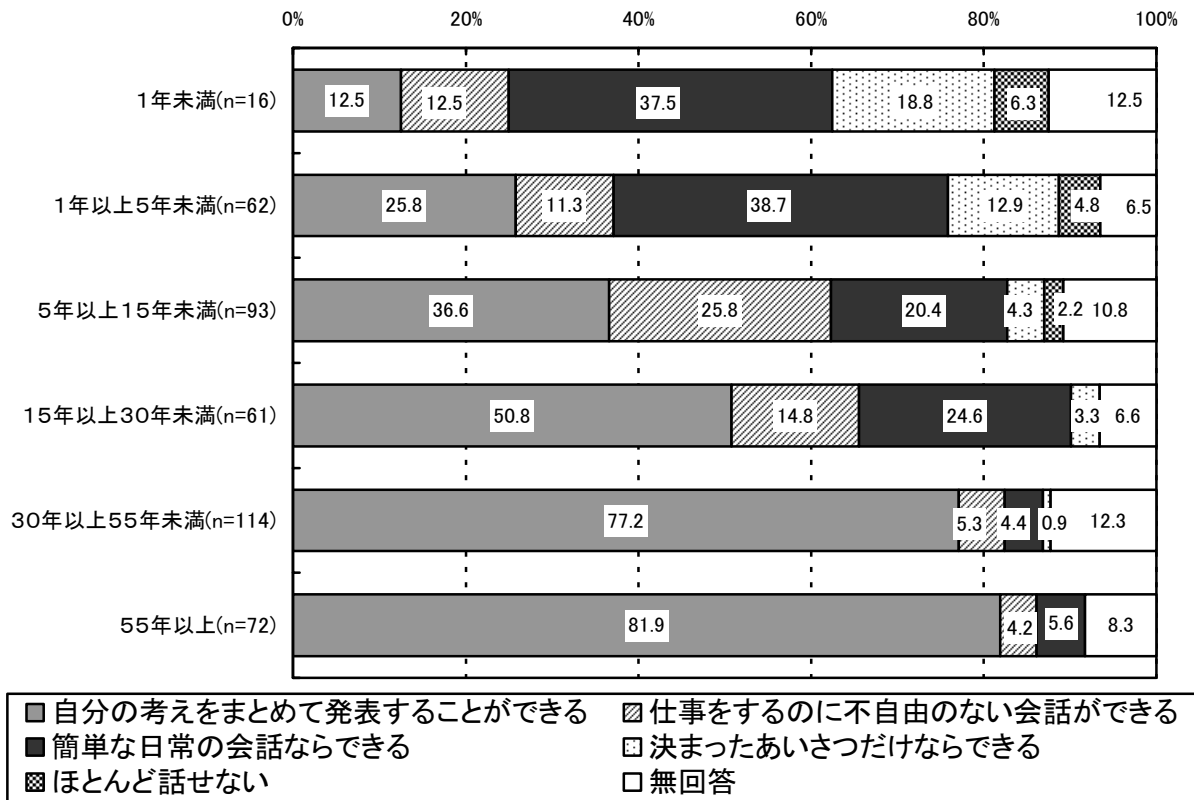


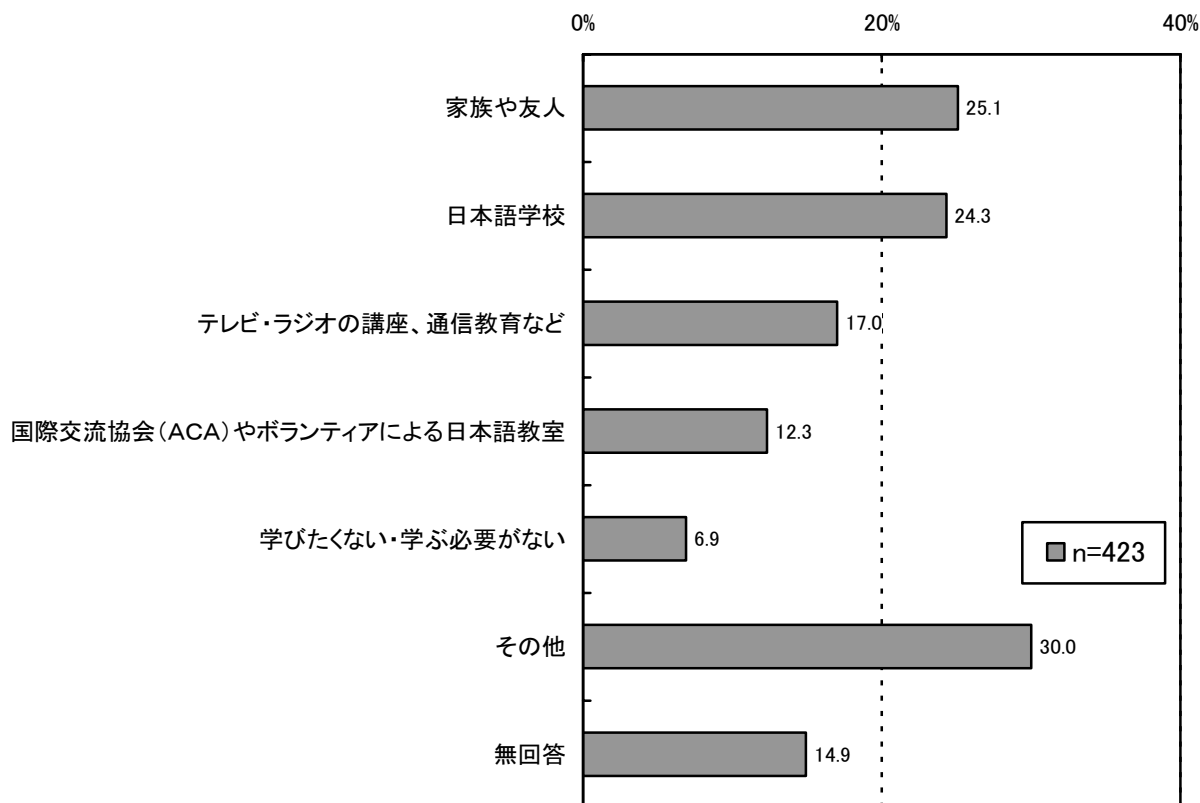
図 6-12 【通算在住年数別】日本語能力《話すこと》



## 6-2. 日本語学習の場所・学習したい方法

Q35 日本語の学習は、どこでしていますか。または、どのような方法で学びたいですか。(〇はいくつでも)

図 6-13



日本語学習の場所・学習したい方法では、「家族や友人」が 25.1%と最も高く、以下「日本語学校」24.3%、「テレビ・ラジオの講座、通信教育など」17.0%となっている。また、「その他」として、『日本で生まれ、日本の教育をうけた』、『大学』や『家庭教師』などをあげている。(図 6-13)

国籍別では、学習の場として、韓国・朝鮮や中国の人は「日本語学校」、北米、ヨーロッパや東南アジアの人は「家族や友人」、中南米や西・南アジア、中近東の人は「国際交流協会(ACA)やボランティアによる日本語教室」の割合がそれぞれ高い。また、韓国・朝鮮の人は「学びたくない・学ぶ必要がない」が他の国籍の人と比べて高い。(表 6-1)

年齢別では、いずれの年齢層も「日本語学校」や「家族や友人」の割合が高く、「20～29歳」は「日本語学校」の割合が 44.4%と特に高くなっている。(表 6-2)

通算在住年数別では、在住年数が短い人ほど「日本語学校」、「国際交流協会(ACA)やボランティアによる日本語教室」の割合が高い。(表 6-3)

出生地別では、出生が「母国」の人は、出生が「日本」の人より回答率が高くなっている。「母国」の人は「家族や友人」(34.3%)、「日本語学校」(30.7%)の割合が高く、「日本」の人は「日本語学校」が 14.6%となっているが「学びたくない・学ぶ必要がない」も 13.2%となっている。(表 6-4)

表 6-1 【国籍別】日本語学習の場所・学習したい方法

(%)

日本語学習方法 国籍	育などの テレビ・ラジ オの講座、通 信教	家族や友人	日本語学校	国際交流協会 (ACCA)やボ ランティアによ る日本語教室	学ばなくても 学ぶ必要がない	その他	無回答
韓国・朝鮮 (n=154)	11.7	9.7	16.9	2.6	13.0	27.9	29.2
中国 (n=99)	20.2	24.2	41.4	14.1	2.0	35.4	4.0
北米 (n=33)	9.1	42.4	27.3	21.2	3.0	15.2	9.1
ヨーロッパ (n=37)	13.5	37.8	10.8	5.4	8.1	29.7	8.1
オセアニア (n=8)	25.0	50.0	25.0	25.0	12.5	37.5	0.0
東南アジア (n=32)	40.6	56.3	37.5	21.9	0.0	37.5	0.0
中南米 (n=16)	12.5	25.0	18.8	37.5	6.3	37.5	6.3
西・南アジア、中近東 (n=13)	7.7	46.2	7.7	46.2	0.0	30.8	0.0
その他 (n=4)	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0

表 6-2 【年齢別】日本語学習の場所・学習したい方法

(%)

日本語学習方法 年齢	育などの テレビ・ラジ オの講座、通 信教	家族や友人	日本語学校	国際交流協会 (ACCA)やボ ランティアによ る日本語教室	学ばなくても 学ぶ必要がない	その他	無回答
20歳未満 (n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
20～29歳 (n=45)	17.8	17.8	44.4	15.6	6.7	37.8	2.2
30～39歳 (n=102)	16.7	32.4	31.4	17.6	6.9	30.4	6.9
40～49歳 (n=109)	21.1	28.4	20.2	15.6	7.3	29.4	17.4
50～59歳 (n=77)	14.3	19.5	14.3	7.8	6.5	39.0	13.0
60歳以上 (n=83)	13.3	20.5	20.5	4.8	7.2	19.3	26.5

表 6-3 【通算在住年数別】日本語学習の場所・学習したい方法

(%)

日本語学習方法 通算在住年数	育などの講座、テレビ・ラジオ通信教	家族や友人	日本語学校	国際交流協会（ACCA）やボランティアによる日本語教室	学ばなければならない・学びたくない	その他	無回答
1年未満 (n=16)	12.5	12.5	43.8	31.3	0.0	43.8	0.0
1年以上5年未満 (n=62)	30.6	29.0	33.9	22.6	4.8	30.6	1.6
5年以上15年未満 (n=93)	19.4	40.9	37.6	20.4	3.2	23.7	2.2
15年以上30年未満 (n=61)	21.3	36.1	21.3	16.4	6.6	32.8	11.5
30年以上55年未満 (n=114)	13.2	16.7	9.6	2.6	11.4	32.5	24.6
55年以上 (n=72)	5.6	8.3	20.8	0.0	8.3	30.6	30.6

表 6-4 【出生地別】日本語学習の場所・学習したい方法

(%)

日本語学習方法 出生地	育などの講座、テレビ・ラジオ通信教	家族や友人	日本語学校	国際交流協会（ACCA）やボランティアによる日本語教室	学ばなければならない・学びたくない	その他	無回答
日本 (n=151)	9.3	7.9	14.6	0.0	13.2	33.1	29.1
母国 (n=251)	20.3	34.3	30.7	19.5	3.6	29.5	5.6
その他の国 (n=13)	38.5	53.8	23.1	15.4	0.0	23.1	0.0



## 7. 自由意見

最後に、質問の締めくくりとして回答者の方から意見・要望などについて具体的に記入してもらった。135人（全体の31.9%）の回答者から様々な意見・要望などが寄せられ、意見総数は延べ191件であった。主だった項目別に整理すると、次の通りである。

(1) 日常生活について	57件
① 日本に関する学習活動、文化・教育、交流に関する意見・要望……	16件
② 生活環境の改善、環境美化に関する意見・要望……	12件
③ 市の情報提供に関する意見・要望……	9件
④ 案内標識や表示の改善に関する意見・要望……	5件
⑤ 緑化、公園の整備に関する意見・要望……	8件
⑥ 交通安全・取締りに関する意見・要望……	5件
⑦ 住居に関する意見・要望……	2件
(2) 子どもについて	2件
(3) 医療・保険について	6件
(4) 市役所のサービスについて	26件
① 行政サービス全般に関する意見・要望……	18件
② 市民への意識啓発に関する意見・要望……	3件
③ 公共施設の整備・改善に関する意見・要望……	3件
④ 図書館の利用に関する意見・要望……	2件
(5) 市内開発、その他施設の整備について	11件
(6) 芦屋市の住みごころについて	33件
(7) 外国籍住民に対する差別や制度上の不平等について	17件
(8) 今回このような調査が行われたことについて	28件
(9) その他意見・要望	11件
合 計	191件

## 【具体的記述】

※（ ）内は意見数

### (1)日常生活について

#### ①日本に関する学習活動、文化・教育、交流に関する意見・要望

- ・日本人と外国人の国際交流活動を増やしてほしい（4）
- ・日本語を学べる場をつくってほしい（2）
- ・友人を見つける時間や機会がない（2）
- ・健康指導に関する活動をしてほしい（健康体操、ウォーキングなど）（2）
- ・自分の文化や自国の料理、言葉などを教えたい
- ・市主催ではない地域活動にたくさん参加している
- ・日本人のホストが日本での生活を快適にすべくしてくれる心配りに敬意を表したい
- ・芦屋市の為に私の知識と語学力を活かして頂きたいです。活用する機会を与えてください
- ・もっとボランティア活動に参加したい
- ・外国人を助けてくれるボランティアを増やしてください

#### ②生活環境の改善、環境美化に関する意見・要望

- ・芦屋川などの川をきれいにしてほしい（2）
- ・カラスなどの動物を管理してほしい（2）
- ・南芦屋浜などきれいな浜をもっと清掃しなければならない（2）
- ・地下コンテナを用意してそこにゴミを入れたらいいと思います
- ・ゴミ収集に従事する人が、よく教育されており、注意深い
- ・ごみの収集が個々でほぼ月一ペースでは非常に不便で、不衛生です。もっと改善の余地はあると思います
- ・芦屋市が「国際文化景観都市」と言うのなら、これまで建てられた建物の「景観」や「色彩」にも、もっと気をくばるべきであったと思う。もっと「勧告」などするなどして、「都市景観法」に基づいて、忠告（色彩など）していくべきだと思う
- ・治安と環境をこのまま維持して欲しいです
- ・なぜ芦屋には環境に配慮した近代都市としての方向性がないのだろうか

#### ③市の情報提供に関する意見・要望

- ・国際交流協会（ACA）の情報がほしい（2）
- ・税金や健康保険についてのパンフレットは全部日本語なので英語版も用意していただければと思います（2）
- ・市役所で市営住宅、県営住宅関連情報の獲得・申請方法を知りたい
- ・芦屋市で行われているイベントや交流活動などについてお知らせしてほしいです
- ・芦屋市の公園都市としてのイメージを維持するために、住民が積極的に参加できる体制を情報公開することにより構築する必要があると思います
- ・新住民が芦屋市民の自覚をもって生活するために、市のモットーを理解しやすい広報活動に積極的にとりくむべきだと思います
- ・名古屋やその周辺のように、街中、病院、クリニック、学校、市役所などにもっと外国人向けの情報があっても良いと思う

#### ④案内標識や表示の改善に関する意見・要望

- ・ ゴミの分別方法、ゴミの出す時間（週、曜日）をもっと解りやすくしてほしい
- ・ 粗大ゴミの廃棄方法について、より詳細な英語の案内がほしい
- ・ 交通機関の時刻表をもっと解りやすいようにしてほしいです。例えばバスの始発や最終の発車時刻など
- ・ JRのアナウンスはほかの言語でも行われるべきだ。少なくとも英語でも
- ・ 英語、日本語併記の標識をつくってください

#### ⑤緑化、公園の整備に関する意見・要望

- ・ 花や木をもっと植えてほしい (2)
- ・ 中央公園の空いている所に卓球台を作してほしい
- ・ 公園の遊具を新しくしてくれたら本当にうれしいです
- ・ 子供のための遊び場が少ないし公園施設（子供のための施設）が多くないと思います
- ・ 犬を連れてこない子どもの遊び場があればよい
- ・ 緑を破壊しないでほしい。土地固有の自然な緑を保ってほしい
- ・ 比較的あたらしい地区（南浜など）の枯れている街路樹を植え替えるべきだし新しく植えた木は少なくとも1年は世話をすべきだ

#### ⑥交通安全・取締りに関する意見・要望

- ・ 夜の歩道が暗い (2)
- ・ 自転車用のレーンや歩きやすい歩道を作るべきだ (2)
- ・ 海岸部でのバイク禁止を強化してほしい

#### ⑦住居に関する意見・要望

- ・ もう少し広い部屋がほしい
- ・ 単身者でもあり市営住宅に入れるようにしてほしい

### (2)子どもについて

- ・ 毎日毎日、ただ子供たちを、どう育てていこうかばかり考えています。毎日たのしく、幸せに、そして穏やかに暮らせるように
- ・ 日本の将来のためにもボランティアなどのサポートが必要です。特に子供たちに。以前サポートしていただいたことがあります、とても助かりました

### (3)医療・保険について

- ・ 一人暮らしの高齢者（低所得の日本人、外国人）に対する問題の解決や、福利施設を増やしてほしい (2)
- ・ 健康な町、健康な人、健康な海辺をつくってほしい
- ・ 緊急時に病院を探す場合に備えて、改善を考えていただければと思います
- ・ 芦屋市がもっと病院に力を入れてくれたらと思います
- ・ 毎々無年金（高齢者）受給頂きありがたく心より感謝しています。また入院・入居（各施設）助成金頂き、重ね重ね御礼申し上げます

#### (4) 市役所のサービスについて

##### ①行政サービス全般に関する意見・要望

- ・ 芦屋市の（外国人に対する）サービスに感謝・満足している（8）
- ・ 芦屋市役所で働く人々は英語を学ぶべきだ（2）
- ・ もっと外国語でのサポートが必要です
- ・ 芦屋市内の外国人向けインターナショナルスクールへのサポートがあれば芦屋市に住む外国人の財政の助けとなる
- ・ ごみの収集日を生ゴミは4月～9月まで週3回に！！10月～3月まで週2回に！！色々なサービスをもっと工夫して下さることをお願いします
- ・ 税金を安くしてほしい。水の料金を引下げしてほしい（2）
- ・ 市民一人一人のことに責任をもってほしい
- ・ 市役所等よりの、送付物の宛名（書類等も）に通称名（日本名）ではなく本名で表記してほしい
- ・ “市民の皆様へ”との案内が来ました。国が何と云おうと、選挙・被選挙権等の基本的人権を断固承認する芦屋市に成長してからもの申して下さい

##### ②市民への意識啓発に関する意見・要望

- ・ 芦屋市職員に、全ての市民（特に外国人）に対しての言葉のマナーを教育する必要があることを強調したい
- ・ 銀行や郵便局、電話、生活に欠かせないサービスの提供業者がもっと英語でのサービスを実施するよう推奨したい
- ・ 多くの住人がペットを飼っているが、飼い主の「不始末」を取り締まる法律を作る必要がある

##### ③公共施設の整備・改善に関する意見・要望

- ・ 美術館を閉鎖しないで！
- ・ 芦屋がキリスト教宣教師に倫理的なことを公立学校で教えるのを許可してほしい。キリスト教教会が、偉大なる神をたたえることができるよう公共の施設を使わせていただきたい
- ・ 芦屋に法律問題、労働問題を取り扱う相談所があればいいと思う

##### ④図書館の利用に関する意見・要望

- ・ 図書館に英字の本をもっとおいてほしい（2）

#### (5) 市内開発、その他施設の整備について

- ・ できれば無料で、駐輪場を増やしてほしい（JR芦屋駅の北口など）（2）
- ・ 芦屋駅にエスカレータを備え付けるべきだ
- ・ 芦屋をもっとアピールして芦屋エリア（ショッピングモール）を活性化すべきだ
- ・ 空家、空地をもっと整備すべき
- ・ なぜ芦屋は醜く、安っぽいアパートの建築を許可するのか
- ・ 中央郵便局を別の場所に移すべきだ。市の中心部から遠すぎてとても不便
- ・ 週末に川のそばをあるけるように、芦屋川のそばの工事ははやく終わらせてほしい
- ・ もっと生活をよくするために、うるさくない電車をつくってください

- ・ JR が芦屋駅をもっと近代的で魅力あるものにしてほしい
- ・ ネームバリューがある町なのでそれにふさわしい町作りをして頂きたいです

#### (6) 芦屋市の住みごこちについて

- ・ 芦屋はとても住みやすい街である (11)
- ・ 芦屋が好き、暮らしが気に入っている (10)
- ・ 通勤や買い物に便利 (4)
- ・ 芦屋市を住みやすい町にしてほしい (2)
- ・ 芦屋市は日本でももっとも立派な市のひとつだ
- ・ 芦屋は非常に住みやすいところだが金持ちの街という印象があるため、そこに住んでいる人がみな金持ちと思われたがっている。そのためいわゆる成金がたくさん集まっており、彼らのせいで芦屋の良さが少し損なわれている
- ・ 芦屋は平和な町だと思うので、この平和と安全性を維持するよう努めて下さい
- ・ もう高齢ですので大好きなこの町の自然を満喫しながら最後の余生を送られたら幸せだと思っております
- ・ 芦屋に住んでいる外国人がもっと自分が持っている能力、実力を発揮できる様になってほしい。それと様々な文化を受け入れて、もっと国際的な街になってほしい
- ・ 住みよい芦屋市、ブランド市、洗練された芦屋市になることを願います

#### (7) 外国籍住民に対する差別や制度上の不平等について

- ・ 選挙権、地方参政権がほしい (8)
- ・ 私にはいつも日本人は中国人に対する態度が良くないように感じる。これは変えられないことかもしれません。或いは私の勘違いでもあるかもしれません
- ・ 外的、内的に差別のない国際的に成熟した交流の場になってほしい（差別のない、人格を尊重できる生活を望みます）
- ・ 日本の制度では家族は当人、配偶者、そして子供たちだ。そのため当人の両親が日本に移り住むのが難しくなっている。でも、祖父母は家族の一員ではないのだろうか。日本政府は祖父母も家族と認め、彼らが日本人でない場合、移民ビザを発行して孫たちと暮らせるようにするべきだ。孫たちは（日本人でなくても）祖父母を必要としている！
- ・ 外国人にとってより優しい街とするには、違いを理解すること、差別を減らすことだ。差別（積極的なものではないが）は公共の場所や地元のレストランでしばしばみられる
- ・ 外国人といってもいろいろで、私は日本で生まれ育ってきている 3 世ですので特別な思いはありません。永住権を持っている者とそうでない者とは、いっしょにならないと思いますが…
- ・ 国内には在日 2 世や 3 世の外国人が多くいます。疎外感を感じます
- ・ 人種差別のないグローバルな芦屋市を目指してほしい
- ・ 今一つ要望は日本の国にお願いしたい。弱い者に強がらずアジア人をみくびらず、日本が豊かなのは貧しい国からも稼いだ金なのです。人権も豊かな国民になって下

さい

- ・ 国籍ということできたアンケートだと思いますが、生まれも育ちも日本なので内容に多少違和感がありました。ただ途中で日本に来られた方には有益なものかと存じます

#### **(8) 今回このような調査が行われたことについて**

- ・ このようなアンケートは、永住権がある人には意味がなく、戸惑いがあり、不愉快なアンケートである (9)
- ・ このようなアンケートをしてくれることで、外国人に関心を示してくれていることは、とてもありがたい (6)
- ・ アンケート自身は良いことだが、何か国語分も送付するのは無駄使いと思う (5)
- ・ 可能な場合はパソコンで回答 (ホームページで回答) できるようにするのもよいと思います (2)
- ・ アンケートの結果をぜひ市政に反映させてほしい (2)
- ・ 結果を教えてください
- ・ 私は韓国人 3 世です。日本で生まれ育ちましたが母国の学校に行ったため日本の文化・読み書きが充分ではありません。見た目は日本人に見え、またこの年になりますと人から学ぶ事は少し恥ずかしく思えたりします。今日のアンケートのようにふりがながついていたりすると、とても助かります
- ・ 質問の回答の仕方が不明瞭である。例えば、(○は1つだけ) とか、(○はそれぞれ1つずつ) など、外国人で日本語がわからない人は意味が取れないと思います
- ・ まずはがきで協力を求めて、返信のはがきにアンケートの言語を示すのがよいと思います

#### **(9) その他意見・要望**

- ・ 特になし (7)
- ・ この数年拉致問題で本当に悩んでいる。謝り方がみつけれない程である。しかし、解決の方法は明確である。その反面それ以外で何も解決されない事と、歴史的な事に何ら触れられない。同じ位話しがされないで、私達在日が「なぜ日本にいるのか」知られていない。拉致問題が解決される事を心より願うが、それ以外何も問題がないかのように言われるのは又大きな問題である
- ・ 愛する私の妻、海ぞい、海岸、山々、日本の人々、すべてに感謝します
- ・ 本当にごめんなさい、アンケートの期限を忘れてしまいました。遅くても出したいです
- ・ 日本人になりたいのですが、かなりむずかしいですね！もう少し簡単にできませんか

## V. 調査結果の考察

## 芦屋市在住外国人意識調査の背景

芦屋市では、平成4(1992)年に初めての在住外国人意識調査(以下、1992年調査)が実施され、芦屋市に在住する外国籍の人々がどのような日常生活をおくり、また市の行政サービスをいかに評価しているのか、などが明らかにされました。そして平成5(1993)年12月には、この調査結果も踏まえながら、芦屋市国際交流推進懇話会から「芦屋市の国際交流のあり方について」と題した答申が市長に提出されました。

その後、平成7(1995)年1月に起こった阪神・淡路大震災が、芦屋市の市民生活と市政に対して大きな打撃を与えたために、この答申に盛り込まれた各種提言をはじめ、国際化や国際交流のさらなる進展に向けた取り組みはきわめて困難な状況に直面しました。しかしその後も芦屋市の国際化は進み、今回の2回目の調査(以下、2008年調査)を通じて芦屋市在住外国人をとりまく現状とその意識をあらためて把握し、今後の市政に反映させようということになったわけです。

最初の調査が行われた平成4(1992)年の8月末時点で、芦屋市の外国人登録者数は1,591人(42か国)で、その国籍別内訳は、韓国・朝鮮46.6%、中国15.9%、北米13.1%、ヨーロッパ9.8%となっており、中南米は1.8%でした。それが平成20(2008)年8月末時点では、外国人登録者の総数は1,796人(55か国)で、国籍別内訳は韓国・朝鮮42.1%、中国19.0%、北米7.2%、ヨーロッパ7.9%、中南米5.7%となっています。この16年間で、芦屋市在住外国人の総数は約13%の増加にとどまっていますが、その出身国や地域がかなり多様化したこと(42か国→55か国)またとくに中南米出身者の比率が3倍に増加したことがわかります。このように、芦屋市内における「足元の国際化」の様相はかなり変化してきています。

この傾向を兵庫県全体、および日本社会全体と比較すると、まず兵庫県においては、平成4(1992)年12月末時点の外国人登録者数は96,716人であったのに対して、平成19年(2007)年12月末時点では101,527人と約5%の増加ですが、日本社会全体でみると、同じ時期に1,281,644人から2,152,973人に増えており、外国人登録者数が実に68%も増加していることがわかります。ちなみに、1990年から2006年にかけて、山形県、茨城県、山梨県、静岡県、長野県、富山県、岐阜県、三重県、徳島県においては、在住外国人が実に4倍以上に増えています。中部地方に位置している県が多く含まれていますが、これは製造業分野を中心に数多くの外国人労働力が流入したためです。

日本の外国人登録者数が100万人を超えたのは平成2(1990)年、200万人を超えたのは平成17(2005)年のことでした。平成2(1990)年の出入国管理・難民認定法の改正により、ブラジルやペルーからの日系外国人が「定住者」の在留資格で就労できるようになったことや、ビジネス、結婚、研修、留学などの多様な目的で、新たに日本にやってくる外国人が増えたことなどがその背景にあります。それ以前は、日本の外国人登録者の大半は在日韓国・朝鮮人の人々でしたが、90年代以降、外国人の出身地域や国はきわめて多様になりました。平成17(2005)年末時点で国籍別にみると、数が多い順に、韓国・朝鮮30%、中国26%、ブラジル15%、フィリピン9%、ペルー3%となっています。日本の総人口に占める外国人の割合は約1.6%ですから、欧米諸国に比べればまだまだ少ないとも言えますが、日本の外国人登録者数は平成7(1995)年からの10年間で約50%も増えており、職場や地域社会において、「最近、外国人がずいぶん増えた」という実感を持っている方が多くなっています。また、日本の学校教育においては、特別な日本語指導を必要とする児童・生徒の数が2万人を超えており、保育所や幼稚園も含めると、日本全国の多くの学校



園において異文化を背景にもつ子どもたちやその保護者とどのように関わるのかが重要な教育課題となっており、さまざまな取り組みが行われています。

## 2008年調査の概要

前回の1992年調査と同じように、芦屋市内在住の外国人登録者のうち、世帯主にあたる人々を対象に調査票が郵送されました。1992年調査では日本語、英語、中国語、ハングルの4か国語で作成されましたが、2008年調査では日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語の6か国語で作成されました。いずれも、日本語（漢字）にはすべてルビがふられています。

1992年調査では、発送総数638件に対して307件の有効回答があり、有効回収率は49.8%でしたが、2008年調査では発送総数1,143件に対して423件と、有効回収率は42.4%でした。少し回収率は低下しましたが、この種の調査では比較的高い数値といえます。ちなみに、平成19(2007)年に京都市で実施された京都市外国籍市民意識・実態調査では、発送総数3,700件に対して979件の有効回答があり、有効回収率は26.5%でした。

この分析においては、いくつかの特徴的な点に限定し、とくにオールドカマー（古くから在住する外国人）とニューカマー（新しく在住するようになった外国人）の比較に重点をおいて考察したいと思います。なお、便宜上「55年以上日本に在住、あるいは日本生まれの人」をオールドカマー、「外国生まれで日本在住歴が55年未満の人」をニューカマーとして分類し、必要に応じてこの区分に言及することにします。ちなみに有効回答423件の内訳では、ニューカマーが250人、オールドカマーが164人となっています。性別、年齢別、国籍別、通算在住年数別などに関して、各設問ごとの回答内容とその主な特徴については、本報告書ですでに詳しく紹介されていますので、そちらを参照していただきたいと思います。

### ① 日常の主たる使用言語（Q36）

2008年調査では、日本語81.3%、英語31.9%、中国語14.4%、韓国・朝鮮語7.6%、スペイン語4.0%の順になっています。1992年調査では、日本語48.9%、英語26.4%、中国語5.5%、韓国・朝鮮語2.6%でしたから、日本語使用者が大幅に増える一方で、中国語や韓国・朝鮮語の使用者もかなり増加し、英語使用者もやや増加しています。そして、スペイン語が新たに登場しています。2008年調査で日本語以外に5か国語で調査票が作成されたのは、このような背景があるためです。

オールドカマーの93.3%、ニューカマーの74.8%が日本語使用者ですが、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、インドネシア語、タガログ語、タイ語、ネパール語の使用者はすべてニューカマーです。また、英語、中国語の使用者の9割以上がニューカマーとなっています。（表①）

韓国・朝鮮籍の154人についてみると、オールドカマー128人、ニューカマー26人となっていますが、日常的に韓国・朝鮮語を使用している人は、オールドカマー11人、ニューカマー21人となっており、オールドカマーの91.4%、ニューカマーの19.2%が日本語使用者ということになります。日本に在住するようになった歴史的経緯が、両者の間でかなり異なっていることがわかります。（表②）

## ② 日本語能力 (Q34)

「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」の4つの技能ごとに、どの程度の日本語能力を持っているのかを5段階に分けてみたところ、「不自由を感じるレベル」(下位2段階まで)に分類される割合は、オールドカマーの場合、「読む」1.8%、「書く」3.0%、「聴く」0.6%、「話す」0.6%であるのに対し、ニューカマーの場合は、それぞれ24.8%、32.8%、11.6%、9.2%となっています。なお「不自由を感じるレベル」というのは、調査票に示された「ほとんど読めない、あるいはひらがな・カタカナが読める程度」、「ほとんど書けない、あるいはひらがな・カタカナが書ける程度」、「ほとんど聞き取れない、あるいは単語だけ聞き取れる程度」「ほとんど話せない、あるいは決まったあいさつだけならできる程度」をさしています。このことから、増加しているニューカマーの人々を対象に日本語学習の機会を提供することが必要であることがわかります。(表③)

## ③ 日本人とのつきあい (Q3)

「隣近所に住む日本人とどのくらいのつきあいがありますか。」という問いに対する回答をみると、1992年調査と比べて回答項目の順番そのものは変化していませんが、1992年調査と2008年調査の数字を比較すると、「あいさつをする程度」(51.5% 65.2%)、「立ち話をする程度」(37.5% 40.7%)、「お茶や食事に招いたり、招かれたりする」(32.2% 18.2%)、「困ったことがあったとき相談にのってもらえる」(26.1% 17.7%)、「一緒にスポーツをしたり、買い物や映画などに出かける」(20.5% 8.3%)、となっており、つきあいの親密度が全体に薄れてきていることがうかがえます。

なお、興味深いのは、オールドカマーとニューカマーを比較した場合に、「日本人とのつきあいにおける親密度は、オールドカマーの方が高い」と言えるほど明確な違いが見られないことです。むしろ、「困ったことがあったとき相談にのってもらえる」と答えた割合は、ニューカマー19.2%、オールドカマー15.2%となっており、ニューカマーの5人に1人が、日本人との親密なつきあいをしていることが示唆されています。(表④)ただ、オールドカマーの場合は「同じ国籍どうしのつきあいが多い」や「外国人とのつきあいが多い」とする割合が合わせて4.3%であるのに対して、ニューカマーの場合は18.8%となっており、日本人以外とのつきあいがかなり多い点をふまえる必要があります。(表⑤)

## ④ 日常で不便なこと、困っていること (Q7)

「あなたが日常の暮らしの中で不便を感じていることや困っていることは次のうちどれですか」という問いに対する回答を、1992年調査と2008年調査で比較してみると、「物価や生活費のこと」をあげる人はいずれも3割強と最も多くなっています。ただ、「住まいや近所の自然環境」が27.0% 11.1%、「住宅のこと」が20.2% 9.0%と減少しており、他方「特にない」が31.3% 36.4%とやや増えるなど、日常生活の満足度が全体に改善しているようにみえます。

オールドカマーとニューカマーで比較すると、「病院・診療所などのこと」をあげる割合がそれぞれ4.9%と15.6%、「風習や習慣のちがいは3.0%と13.2%となっており、かなりの違いが見られるので、このような違いに対応した施策を考える必要があると思われます。また「(不便なこと、困ったことは)特にない」と回答した割合が、それぞれ48.2%と29.6%になっており、ニューカマーの方が日常生活上の不便をより多く感じていることがわかります。(表⑥)

#### ⑤ 日本で知りたい情報（Q4）

「あなたは日本に住んでいて、特にどういうことをもっと知りたいと思いますか」という問いに対する回答を見ると、1992年調査と2008年調査を比較した場合、「市の施設の利用に関すること」が38.8% 25.5%となっている一方、「就職に関すること」12.4% 17.7%、「水害や火事など防災に関すること」が9.8% 15.1%、「子どもの教育に関すること」が19.9% 23.2%となっており、仕事・防災・教育などの日常生活に関わる具体的な情報が必要とされていることがわかります。

国籍別では、「中国」と「東南アジア」の場合、「日本の習慣や日本人のものの考え方」が一位にあげられています。これはニューカマーの比率が高いためと考えられます。ちなみに、ニューカマーの場合は42.4%が同じ項目をあげていて、もっとも高い比率になっています。ニューカマーが増加するとともに、異文化理解を促進する取り組みの必要性が高まっているといえるでしょう。（表⑦）

#### ⑥ 緊急時の連絡電話番号認知率（Q12）（Q13）

1992年調査において、110番（警察）や119番（消防署）などの電話番号を「知らない」と答えた人の割合が、いずれも20%近い数字であったため、認知率の低さが大きな課題として指摘されました。2008年調査では、この数字がいずれも8.7%となり、認知率が高まったことがうかがえます。

ただ、ニューカマーの場合をみると、これらの電話番号を知らない人がそれぞれ14.0%、13.6%となっており、さらに「119番で救急車を呼べる」ことを「知らない」人が23.6%となっていることから、今後も緊急時の電話連絡番号に関する周知策を工夫する必要があります。（表⑧・⑨）

#### ⑦ 日本の学校、外国人学校を選んだ理由（Q18）

回答者のうち、「小・中学生がいる」としたのは95人ということで、全体の414人の2割強ですが、「全員、日本の学校（国公立、私立とも）」が61.9%、「全員、外国人学校」が23.7%となっています。オールドカマーとニューカマーを比較すると、「全員、日本の学校（国公立）」がそれぞれ55.2%、57.6%とあまり変わらない一方、「全員日本の学校（私立）」は17.2%と1.5%、「全員、外国人学校」は6.9%と31.8%となっており、明確な違いが見られます。（表⑩）

日本の学校を選んだ理由としては、「日本語や日本の習慣を覚えさせるため」がもっとも多く、1992年調査の48.1%から2008年調査では53.8%に増加しています。また外国人学校を選んだ理由としては、「母（国）語や母国の習慣を忘れないため」が多いものの、比率は1992年調査の60.6%から2008年調査の39.3%へと、かなり減少しています。他方、「本人（子ども）の希望」や「日本人以外の友人ができる」と回答した割合は、それぞれ27.3% 35.7%、18.2% 28.6%と増加しました。なお、「日本の学校を希望したが入れなかった」という回答が7.1%もあったことに留意する必要があります。

#### ⑧ 市役所のサービス（Q25）

「市の窓口を利用した感想はいかがでしたか」という問いに対して、「非常に満足」と「満足」の割合を合わせた比率を1992年調査と2008年調査で比較すると、92.5%から87.5%へとやや減

少しています。他方、「不満」と「非常に不満」を合わせると、6.8%から8.8%にやや増加しています。

オールドカマーとニューカマーの回答を2008年調査と比較すると、「不満」と「非常に不満」を合わせた比率は、それぞれ11.6%と6.8%となっており、オールドカマーの方がむしろ高くなっています。(表⑬) 国籍別で見ても、「韓国・朝鮮」が11.6%、「ヨーロッパ」が10.8%となっている一方、「中南米」や「オセアニア」は0%となっています。

「不満だった理由」としては、「手続きが面倒だった」が20ポイント以上増えている一方、「窓口の職員が不親切」は逆に20ポイント近く減少しており、「言葉が通じなかった」が5.0%から10.8%に増えています。なお、これらの点の解釈にあたっては、回答数が非常に少なかったこと(1992年調査で20件、2008年調査では37件)ことに留意しておく必要があるでしょう。

#### ⑨ 外国語による情報提供 (Q30)

「芦屋市ガイドマップ」「広報紙ニューズレター」など、8つの項目があげられていますが、「知っている」割合がすべて3割未満となっていることは課題と思われます。「ごみ収集」や「災害時の避難場所」に関わる項目も含まれており、広報等の取り組みを強める必要があるでしょう。なお、ほとんどの項目に関して、ニューカマーの方が高い認知度になっていますが、これは芦屋市に転入した際に、各種の情報が市役所等から提供されたためと思われます。ただ、「災害時の避難場所」だけニューカマーの方が低い認知度になっており、「知らない」が68.0%もあることは要注意です。(表⑮)

#### ⑩ 外国人が利用できるサービス (Q31)

外国籍の人でも利用できるサービスのうち、国民健康保険(59.3%)と国民年金(44.0%)以外は、乳幼児健診(32.9%)、児童手当(31.4%)、生活保護(24.3%)、行政や法律についての相談(21.0%)と、全体的にあまり認知されていない状況があります。

Q30の「外国語による情報提供」の場合は、ニューカマーの方が高い認知度だったのですが、「利用できるサービス」に関してはニューカマーの方がすべての項目において低い認知度になっており、今後周知をはかるための取り組みが必要と思われます。(表⑯)

ちなみに『京都市外国籍市民意識・実態調査報告書』(2007年12月)に示された数字と比較すると、各種サービスの認知度(ニューカマーの場合)は、以下のようになっています。

	京都市	芦屋市 (*ニューカマーで比較)
国民健康保険	89.8%	57.6%
国民年金	58.7%	38.4%
乳幼児健診	39.2%	29.2%
児童手当	37.8%	27.6%
生活保護	24.9%	14.8%

## 今後の課題

以上、2008年調査の結果を概観してきましたが、1992年時点に比べて進展が見られる部分と、今後さらに取り組みを強化する必要があることを示す部分が混じっています。京都市の調査結果と一部比較を試みてみましたが、他の自治体の取り組みや全国的な動向も参考にしながら、在住外国人に対する施策の企画・推進にあたるのが大切です。なお、施策の企画や推進にあたっては、当事者である在住外国人の人々の声に耳を傾け、その現実をふまえて取り組む姿勢が重要です。近年、行政施策の推進にあたっては「市民の参画」や「官民の協働」が基調となっており、同じ視点を在住外国人施策にも当てはめる必要があるからです。

最後に、芦屋市における多文化共生が今後もさらに発展し、「多文化共生」や「違いを豊かさに」という考え方が芦屋市の市民生活全般に定着するために必要と思われることを、2点にしぼって指摘しておきたいと思います。

まず、芦屋市在住の外国人の人々が、「芦屋市に住んでよかった」「人権や多様性が尊重されている」と思える状況を地域社会の日常の中に具体的につくり出すことです。何か困ったことがあったときに、気軽に相談できるような相談窓口を拡充したり、異文化理解をすすめるための活動をさまざまな形で展開したりすることが大切です。

もうひとつは、在住外国人の人々の願いや要望を、行政施策やまちづくりの取り組みに効果的に反映させるような仕組みをつくりあげることです。すでに芦屋市においては、さまざまなNPOや市民組織が、国際交流や外国人支援の活動を活発に行っていますが、「行政と市民の協働」がキーワードとなった現在、在住外国人向けの施策や「足元の国際化」を推進する取り組みにおいて、当事者とその支援者の声が有効に反映される仕組みをつくるのが大切です。例えば神奈川県のカ崎市においては、全国に先駆けて「外国人市民代表者会議」が条例によって位置づけられていますが、芦屋市在住外国人の人々が積極的に参画できるような仕組みを工夫することは、芦屋市をいっそう魅力的で人権文化豊かな国際都市に築きあげるうえで重要な意味をもつと思われます。

### (参考)

芦屋市 『芦屋市在住外国人意識調査報告書』(1992年12月)

京都市 『京都市外国籍市民意識・実態調査報告書』(2007年12月)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/somu/page/0000030960.html>

川崎市外国人市民代表者会議 (HP)

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25zinken/home/gaikoku/kaigi/index.htm>

東京入国管理局の資料 (都道府県別外国人登録数・平成2(1990)年12月末)

文部科学省、法務省、山形県・茨城県各国際交流協会、山梨・長野・富山・三重・徳島各県のホームページ

(注) オールドカマーとニューカマーの合計基数は、414 件である。これは、有効回収票 423 件のうち、9 件は「出生地」あるいは「通算在住年数」で無回答であったため、オールドカマー、ニューカマーのいずれにも分類していないことによる。

表① 【オールドカマー・ニューカマー別】 日常の主たる使用言語（3つまで回答可）

上段（人）／下段（％）

日常使用言語 オールドカマー ・ニューカマー	全体	日本語	英語	中国語	韓国・朝鮮語	スペイン語	ポルトガル語	フランス語
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	153 93.3	13 7.9	4 2.4	11 6.7	0 0.0
ニューカマー (n=250)	250 100.0	187 74.8	118 47.2	57 22.8	21 8.4	16 6.4	2 0.8	10 4.0

日常使用言語 オールドカマー ・ニューカマー	全体	ドイツ語	インドネシア語	タガログ語	タイ語	ネパール語	その他	無回答
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ニューカマー (n=250)	250 100.0	12 4.8	7 2.8	7 2.8	4 1.6	5 2.0	19 7.6	24 9.6

表② 【オールドカマー・ニューカマー別】 国籍

上段（人）／下段（％）

国籍 オールドカマー ・ニューカマー	全体	韓国・朝鮮	中国	北米	ヨーロッパ	オセアニア	東南アジア	中南米	東・西・南アジア、中近	その他	無回答
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	128 78.0	23 14.0	2 1.2	5 3.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6	2 1.2
ニューカマー (n=250)	250 100.0	26 10.4	75 30.0	31 12.4	31 12.4	8 3.2	32 12.8	14 5.6	10 4.0	4 1.6	19 7.6

表③ 【オールドカマー・ニューカマー別】日本語の能力

－日本語能力《読むこと》－

上段（人）／下段（％）

日本語能力 （読むこと） オールドカマー ・ニューカマー	全体	新聞や雑誌が読める	漢字がまじった簡単な文章が読める	店で売っているものの名前や広告が読める	ひらがな・カタカナは読める	ほとんど読めない	無回答
オールドカマー （n=164）	164	137	6	1	1	2	17
	100.0	83.5	3.7	0.6	0.6	1.2	10.4
ニューカマー （n=250）	250	100	40	14	36	26	34
	100.0	40.0	16.0	5.6	14.4	10.4	13.6

－日本語能力《書くこと》－

上段（人）／下段（％）

日本語能力 （書くこと） オールドカマー ・ニューカマー	全体	漢字を使ってまとめた文章が書ける	手紙が書ける	簡単なメモが書ける	ひらがな・カタカナはだいたい書ける	ほとんど書けない	無回答
オールドカマー （n=164）	164	130	8	5	2	3	16
	100.0	79.3	4.9	3.0	1.2	1.8	9.8
ニューカマー （n=250）	250	85	23	38	43	39	22
	100.0	34.0	9.2	15.2	17.2	15.6	8.8

－日本語能力《聴くこと》－

上段（人）／下段（％）

日本語能力 （聴くこと） オールドカマー ・ニューカマー	全体	テレビのニュースやドラマなどがわかる	日常の会話ならわかる	話してくれたらわかる	相手がゆっくり話してくれれば	単語だけ聞き取れる	ほとんど聞き取れない	無回答
オールドカマー （n=164）	164	147	1	1	0	1	14	
	100.0	89.6	0.6	0.6	0.0	0.6	8.5	
ニューカマー （n=250）	250	114	52	24	22	7	31	
	100.0	45.6	20.8	9.6	8.8	2.8	12.4	

－日本語能力《話すこと》－

上段（人）／下段（％）

日本語能力 （話すこと） オールドカマー ・ニューカマー	全体	自分の考えをまとめて発表することができる	仕事をするのに不自由のない会話ができる	簡単な日常の会話ならできる	決まったあいさつだけならできる	ほとんど話せない	無回答
オールドカマー （n=164）	164	141	5	5	1	0	12
	100.0	86.0	3.0	3.0	0.6	0.0	7.3
ニューカマー （n=250）	250	86	45	68	17	6	28
	100.0	34.4	18.0	27.2	6.8	2.4	11.2

表④ 【オールドカマー・ニューカマー別】日本人とのつきあい程度（複数回答）

上段（人）／下段（％）

つきあい程度 オールドカマー ・ニューカマー	全体	あいさつをする程度	立ち話をする程度	お茶や食事に招いたり、 招かれたりする	一緒にスポーツをしたり、 買い物や映画などに 出かける	困ったことがあったと き相談ののつてもらえ る	まったくつきあいがな い	無回答
オールドカマー (n=164)	100.0	66.5	50.6	16.5	11.6	15.2	3.7	0.6
ニューカマー (n=250)	100.0	63.6	34.0	18.8	6.0	19.2	12.8	0.0

表⑤ 【オールドカマー・ニューカマー別】日常のつきあいの相手

上段（人）／下段（％）

つきあいの相手 オールドカマー ・ニューカマー	全体	日本人とのつ きあいが多い	同じ国籍ど うのつきあ が多い	外国人とのつ きあいが多 い	同じくらい	無回答
オールドカマー (n=164)	100.0	84.1	4.3	0.0	11.0	0.6
ニューカマー (n=250)	100.0	38.4	12.4	6.4	42.4	0.4

表⑥ 【オールドカマー・ニューカマー別】日常生活上の不便点や困っていること（複数回答）

上段（人）／下段（％）

困っていること （日常生活） オールドカマー ・ニューカマー	全体	住まいや近所の 自然環境（騒音・ 振動など）	住宅のこと	物価や生活費の こと	隣近所との付き 合い	仕事のこと	ごみの収集など 身近な生活のこ と	子どもの教育の こと	公園や遊び場の こと	交通機関のこと
オールドカマー (n=164)	100.0	9.1	9.8	26.8	3.7	13.4	4.3	9.1	3.0	5.5
ニューカマー (n=250)	100.0	12.0	8.4	31.6	10.0	12.0	10.0	12.4	5.6	4.0

困っていること （日常生活） オールドカマー ・ニューカマー	全体	病院・診療所など のこと	買い物のこと	映画や音楽、また 自分の趣味のこ と	食事のこと	風習や習慣の違 い	その他	特にな い	無回答
オールドカマー (n=164)	100.0	4.9	5.5	0.0	3.0	3.0	4.3	48.2	3.7
ニューカマー (n=250)	100.0	15.6	4.0	6.4	4.0	13.2	8.4	29.6	0.4



表⑦ 【オールドカマー・ニューカマー別】日本で知りたい情報（複数回答）

上段（人）／下段（％）

日本で知りたい情報 オールドカマー ・ニューカマー	全体	文化・芸術活動に関する こと	子どもの教育に関する こと	スポーツに関するこ と	サークルやボランテ ィア活動に関するこ と	市のイベントの計画 やお知らせ	市の施設の利用に関 すること	福祉の施設や病院、診 療所について	地域の歴史や自然に 関すること	買い物のこと
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	38 23.2	33 20.1	17 10.4	10 6.1	30 18.3	31 18.9	46 28.0
ニューカマー (n=250)	250 100.0	78 31.2	64 25.6	31 12.4	39 15.6	47 18.8	73 29.2	57 22.8	66 26.4	24 9.6

日本で知りたい情報 オールドカマー ・ニューカマー	全体	外国人どうしの交 流に関すること	日本の習慣や日本 人のものの考え方 に関すること	水害や火事など防 災に関すること	ごみの収集など、身 近な生活に関する こと	新しい仕事につく など就職に関する こと	住居に関すること	その他	特 に な い	無 回 答
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	15 9.1	17 10.4	26 15.9	20 12.2	16 9.8	24 14.6	4 2.4
ニューカマー (n=250)	250 100.0	55 22.0	106 42.4	37 14.8	26 10.4	58 23.2	30 12.0	8 3.2	31 12.4	2 0.8

表⑧ 【オールドカマー・ニューカマー別】緊急時の連絡電話番号（110番・119番）認知度

警察署（110番）

上段（人）／下段（％）

認知度 (110番)	全体	知っている	知らない	無 回 答
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	159 97.0
ニューカマー (n=250)	250 100.0	211 84.4	35 14.0	4 1.6

消防署（119番）

上段（人）／下段（％）

認知度 (119番)	全体	知っている	知らない	無 回 答
		オールドカマー (n=164)	164 100.0	157 95.7
ニューカマー (n=250)	250 100.0	208 83.2	34 13.6	8 3.2

表⑨ 【オールドカマー・ニューカマー別】救急車の呼び方の認知度

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (救急車の呼び方)	全体	はい	いいえ	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	160 97.6	2 1.2	2 1.2
ニューカマー (n=250)	250 100.0	190 76.0	59 23.6	1 0.4

表⑩ 【オールドカマー・ニューカマー別】小・中学生の通っている学校

上段 (人) / 下段 (%)

通っている学校	全体	全員、日本の学校 (国公立)	全員、日本の学校 (私立)	全員、外国人学校	日本人の学校と外 国人学校	その他	無回答
オールドカマー ・ニューカマー							
オールドカマー (n=29)	29 100.0	16 55.2	5 17.2	2 6.9	1 3.4	1 3.4	4 13.8
ニューカマー (n=66)	66 100.0	38 57.6	1 1.5	21 31.8	3 4.5	3 4.5	0 0.0

表⑪ 【オールドカマー・ニューカマー別】日本の学校を選んだ理由 (複数回答)

上段 (人) / 下段 (%)

学校を選んだ理由 (日本の学校)	全体	望本人 (子ども)の希	め慣日本 を覚えさせるた	きる日本 人の友人がで	通学に便利	た外国人 学校を希望 したが入れなかつ	その他	無回答
オールドカマー ・ニューカマー								
オールドカマー (n=22)	22 100.0	2 9.1	6 27.3	6 27.3	7 31.8	0 0.0	9 40.9	3 13.6
ニューカマー (n=42)	42 100.0	12 28.6	28 66.7	15 35.7	15 35.7	2 4.8	7 16.7	1 2.4

表⑫ 【オールドカマー・ニューカマー別】外国人学校を選んだ理由（複数回答）

上段（人）／下段（％）

学校を選んだ理由 （外国人学校）	全体	本人（子ども）の希望	慣を覚えさせる（忘れない）ため	母（国）語や母国の習慣を覚えさせる（忘れない）ため	日本人以外の友人がで きる	通学に便利	日本の学校を希望したが入れなかった	その他	無回答
オールドカマー ・ニューカマー	3	0	2	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
オールドカマー （n=3）	24	9	8	7	0	1	10	0	
	100.0	37.5	33.3	29.2	0.0	4.2	41.7	0.0	
ニューカマー （n=24）									

表⑬ 【オールドカマー・ニューカマー別】市の窓口を利用した時の感想

上段（人）／下段（％）

市の窓口利用の感想	全体	非常に満足した	満足した	不満だった	非常に不満だった	無回答
オールドカマー ・ニューカマー	164	17	120	16	3	8
	100.0	10.4	73.2	9.8	1.8	4.9
オールドカマー （n=164）	250	47	180	14	3	6
	100.0	18.8	72.0	5.6	1.2	2.4
ニューカマー （n=250）						

表⑭ 【オールドカマー・ニューカマー別】市の窓口に対する不満点（複数回答）

上段（人）／下段（％）

不満点 （市の窓口）	全体	言葉が通じなかった	手続きが面倒だった	時間がかかった	窓口の職員が親切だった	市役所内の表示が不十分だった	その他	無回答
オールドカマー ・ニューカマー	19	0	9	9	10	1	4	0
	100.0	0.0	47.4	47.4	52.6	5.3	21.1	0.0
オールドカマー （n=19）	17	4	10	5	5	1	3	0
	100.0	23.5	58.8	29.4	29.4	5.9	17.6	0.0
ニューカマー （n=17）								

表⑮ 【オールドカマー・ニューカマー別】外国語による情報提供の認知度

ー芦屋市ガイドマップー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	23 14.0	104 63.4	37 22.6
ニューカマー (n=250)	250 100.0	85 34.0	145 58.0	20 8.0

ー広報紙ニューズレターー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	18 11.0	105 64.0	41 25.0
ニューカマー (n=250)	250 100.0	75 30.0	151 60.4	24 9.6

ー多言語生活ガイドー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	18 11.0	107 65.2	39 23.8
ニューカマー (n=250)	250 100.0	48 19.2	178 71.2	24 9.6

ーごみ収集日日程表・分別表ー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	28 17.1	101 61.6	35 21.3
ニューカマー (n=250)	250 100.0	88 35.2	143 57.2	19 7.6

ー災害時の避難場所ー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	57 34.8	78 47.6	29 17.7
ニューカマー (n=250)	250 100.0	54 21.6	170 68.0	26 10.4

ー日本語教室や文化教室ー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	18 11.0	107 65.2	39 23.8
ニューカマー (n=250)	250 100.0	72 28.8	159 63.6	19 7.6

ーACA主催イベントー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	18 11.0	111 67.7	35 21.3
ニューカマー (n=250)	250 100.0	69 27.6	154 61.6	27 10.8

ーボランティアによる通訳・翻訳ー

上段 (人) / 下段 (%)

認知度 (情報提供)	上段 (人) / 下段 (%)			
	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー ・ニューカマー				
オールドカマー (n=164)	164 100.0	10 6.1	115 70.1	39 23.8
ニューカマー (n=250)	250 100.0	28 11.2	193 77.2	29 11.6

表⑩ 【オールドカマー・ニューカマー別】外国人が利用できる市のサービスの認知度

－行政や法律についての相談－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス)	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	51	84	29
	100.0	31.1	51.2	17.7
ニューカマー (n=250)	250	37	190	23
	100.0	14.8	76.0	9.2

－国民年金－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス)	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	87	49	28
	100.0	53.0	29.9	17.1
ニューカマー (n=250)	250	96	130	24
	100.0	38.4	52.0	9.6

－国民健康保険－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス)	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	103	40	21
	100.0	62.8	24.4	12.8
ニューカマー (n=250)	250	144	92	14
	100.0	57.6	36.8	5.6

－乳幼児健診－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス)	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	64	63	37
	100.0	39.0	38.4	22.6
ニューカマー (n=250)	250	73	145	32
	100.0	29.2	58.0	12.8

－乳幼児医療費の助成－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス)	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	58	68	38
	100.0	35.4	41.5	23.2
ニューカマー (n=250)	250	67	149	34
	100.0	26.8	59.6	13.6

－児童手当－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス)	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	63	64	37
	100.0	38.4	39.0	22.6
ニューカマー (n=250)	250	69	149	32
	100.0	27.6	59.6	12.8

－生活保護－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス) オールドカマー ・ニューカマー	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	65	67	32
	100.0	39.6	40.9	19.5
ニューカマー (n=250)	250	37	187	26
	100.0	14.8	74.8	10.4

－健康相談－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス) オールドカマー ・ニューカマー	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	56	79	29
	100.0	34.1	48.2	17.7
ニューカマー (n=250)	250	60	169	21
	100.0	24.0	67.6	8.4

－高齢者の医療費の助成－

上段（人）／下段（％）

認知度 (市のサービス) オールドカマー ・ニューカマー	全体	知っている	知らない	無回答
オールドカマー (n=164)	164	56	80	28
	100.0	34.1	48.8	17.1
ニューカマー (n=250)	250	35	191	24
	100.0	14.0	76.4	9.6